



セキュリティ

- [aaa accounting](#) (5 ページ)
- [aaa accounting dot1x](#) (9 ページ)
- [aaa accounting identity](#) (11 ページ)
- [aaa authentication dot1x](#) (13 ページ)
- [aaa authorization](#) (14 ページ)
- [aaa new-model](#) (19 ページ)
- [access-session mac-move deny](#) (21 ページ)
- [action](#) (23 ページ)
- [authentication host-mode](#) (24 ページ)
- [authentication logging verbose](#) (26 ページ)
- [authentication mac-move permit](#) (27 ページ)
- [authentication priority](#) (29 ページ)
- [authentication violation](#) (32 ページ)
- [cisp enable](#) (34 ページ)
- [cisp enable](#) (36 ページ)
- [clear device-tracking database](#) (38 ページ)
- [clear errdisable interface vlan](#) (42 ページ)
- [clear mac address-table](#) (43 ページ)
- [confidentiality-offset](#) (45 ページ)
- [debug aaa dead-criteria transaction](#) (46 ページ)
- [delay-protection](#) (48 ページ)
- [deny \(MAC アクセス リスト コンフィギュレーション\)](#) (49 ページ)
- [device-role \(IPv6 スヌーピング\)](#) (53 ページ)
- [device-role \(IPv6 ND インспекション\)](#) (54 ページ)
- [device-tracking \(インターフェイス コンフィギュレーション\)](#) (55 ページ)
- [device-tracking \(VLAN コンフィギュレーション\)](#) (59 ページ)
- [device-tracking binding](#) (62 ページ)
- [device-tracking logging](#) (86 ページ)
- [device-tracking policy](#) (90 ページ)

- device-tracking tracking (106 ページ)
- device-tracking upgrade-cli (112 ページ)
- dot1x critical (グローバル コンフィギュレーション) (115 ページ)
- dot1x logging verbose (116 ページ)
- dot1x max-start (117 ページ)
- dot1x pae (118 ページ)
- dot1x supplicant controlled transient (119 ページ)
- dot1x supplicant force-multicast (120 ページ)
- dot1x test eapol-capable (121 ページ)
- dot1x test timeout (122 ページ)
- dot1x timeout (123 ページ)
- dtls (126 ページ)
- 有効化パスワード (128 ページ)
- enable secret (131 ページ)
- epm access-control open (135 ページ)
- include-icv-indicator (136 ページ)
- ip access-list (137 ページ)
- ip access-list role-based (140 ページ)
- ip admission (141 ページ)
- ip admission name (142 ページ)
- ip dhcp snooping database (145 ページ)
- ip dhcp snooping information option format remote-id (147 ページ)
- ip dhcp snooping verify no-relay-agent-address (148 ページ)
- ip http access-class (149 ページ)
- ip radius source-interface (151 ページ)
- ip source binding (153 ページ)
- ip ssh source-interface (155 ページ)
- ip verify source (156 ページ)
- ipv6 access-list (158 ページ)
- ipv6 snooping policy (161 ページ)
- key chain macsec (163 ページ)
- key config-key password-encrypt (164 ページ)
- key-server (167 ページ)
- limit address-count (169 ページ)
- mab logging verbose (170 ページ)
- mab request format attribute 32 (171 ページ)
- macsec-cipher-suite (173 ページ)
- macsec network-link (175 ページ)
- match (アクセス マップ コンフィギュレーション) (176 ページ)
- mka pre-shared-key (178 ページ)
- mka suppress syslogs sak-rekey (179 ページ)

- password encryption aes (180 ページ)
- permit (MAC アクセス リスト コンフィギュレーション) (183 ページ)
- protocol (IPv6 スヌーピング) (187 ページ)
- radius server (189 ページ)
- radius-server dead-criteria (191 ページ)
- radius-server deadtime (193 ページ)
- radius-server directed-request (195 ページ)
- radius-server domain-stripping (198 ページ)
- sak-rekey (202 ページ)
- security level (IPv6 スヌーピング) (204 ページ)
- security passthru (205 ページ)
- send-secure-announcements (206 ページ)
- server-private (RADIUS) (208 ページ)
- server-private (TACACS+) (211 ページ)
- show aaa clients (213 ページ)
- show aaa command handler (214 ページ)
- show aaa dead-criteria (215 ページ)
- **show aaa local** (217 ページ)
- show aaa servers (219 ページ)
- show aaa sessions (220 ページ)
- show authentication brief (221 ページ)
- show authentication history (224 ページ)
- show authentication sessions (225 ページ)
- show cisp (228 ページ)
- show device-tracking capture-policy (230 ページ)
- show device-tracking counters (232 ページ)
- show device-tracking database (234 ページ)
- show device-tracking events (240 ページ)
- show device-tracking features (242 ページ)
- show device-tracking messages (243 ページ)
- show device-tracking policies (244 ページ)
- show device-tracking policy (245 ページ)
- show dot1x (246 ページ)
- show eap pac peer (248 ページ)
- show ip access-lists (249 ページ)
- show ip dhcp snooping statistics (253 ページ)
- show radius server-group (256 ページ)
- show storm-control (258 ページ)
- show tech-support acl (260 ページ)
- show tech-support identity (265 ページ)
- show vlan access-map (274 ページ)

- [show vlan filter \(275 ページ\)](#)
- [show vlan group \(276 ページ\)](#)
- [ssci-based-on-sci \(277 ページ\)](#)
- [storm-control \(279 ページ\)](#)
- [switchport port-security aging \(283 ページ\)](#)
- [switchport port-security mac-address \(285 ページ\)](#)
- [switchport port-security maximum \(288 ページ\)](#)
- [switchport port-security violation \(290 ページ\)](#)
- [tacacs server \(292 ページ\)](#)
- [tls \(294 ページ\)](#)
- [tracking \(IPv6 スヌーピング\) \(296 ページ\)](#)
- [trusted-port \(298 ページ\)](#)
- [use-updated-eth-header \(299 ページ\)](#)
- [username \(301 ページ\)](#)
- [vlan access-map \(307 ページ\)](#)
- [vlan dot1Q tag native \(309 ページ\)](#)
- [vlan filter \(310 ページ\)](#)
- [vlan group \(311 ページ\)](#)

aaa accounting

RADIUS または TACACS+ を使用する場合に、課金やセキュリティ目的で、要求されたサービスの認証、許可、およびアカウントिंग (AAA) アカウントिंगをイネーブルにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **aaa accounting** コマンドを使用します。AAA アカウントINGをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
aaa accounting {auth-proxy | system | network | exec | connections | commands level}
{default | list-name} {start-stop | stop-only | none} [broadcast] group group-name
no aaa accounting {auth-proxy | system | network | exec | connections | commands
level} {default | list-name} {start-stop | stop-only | none} [broadcast] group group-name
```

構文の説明

auth-proxy	すべての認証済みプロキシユーザイベントに関する情報を出力します。
system	リロードなどのユーザに関連付けられていないシステムレベルのすべてのイベントのアカウントINGを実行します。
network	ネットワークに関連するあらゆるサービス要求にアカウントINGを実行します。
exec	EXEC シェルセッションのアカウントINGを実行します。このキーワードは、 autocommand コマンドによって生成される情報などのユーザプロファイル情報を返すことができます。
connection	ネットワーク アクセス サーバから確立されたすべてのアウトバウンド接続に関する情報を提供します。
commands level	指定した特権レベルですべてのコマンドのアカウントINGを実行します。有効な特権レベルエントリは 0 ~ 15 の整数です。
default	この引数のあとにリストされるアカウントING方式を、アカウントINGサービスのデフォルトリストとして使用します。
list-name	次に記載されているアカウントING方式のうち、少なくとも 1 つを含むリストの名前を付けるために使用する文字列です：
start-stop	プロセスの開始時に "start" accounting 通知を送信し、プロセスの終了時に "stop" accounting 通知を送信します。"start" アカウントINGレコードはバックグラウンドで送信されます。要求されたユーザプロセスは、"start" accounting 通知がアカウントINGサーバで受信されたかどうかに関係なく開始されます。
stop-only	要求されたユーザ プロセスの終了時に、"stop" アカウントING通知を送信します。
none	この回線またはインターフェイスでアカウントINGサービスをディセーブルにします。

broadcast	(任意) 複数の AAA サーバへのアカウントングレコードの送信をイネーブルにします。各グループの最初のサーバに対し、アカウントングレコードを同時に送信します。最初のサーバが使用できない場合、そのグループ内で定義されたバックアップサーバを使用してフェールオーバーが発生します。
<i>group</i> <i>groupname</i>	「AAA アカウンティングの方式」に記述されているキーワードの1つ以上を使用します。

コマンド デフォルト AAA アカウンティングはディセーブルです。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン アカウンティングを有効にし、回線別またはインターフェイス別に特定のアカウントング方式を定義する名前付き方法リストを作成するには、**aaa accounting** コマンドを使用します。

表 1: AAA アカウンティング方式

キーワード	説明
group radius	aaa group server radius コマンドで定義されるすべての RADIUS サーバのリストを認証に使用します。
group tacacs+	aaa group server tacacs+ コマンドで定義されるすべての TACACS+ サーバのリストを認証に使用します。
group group-name	group-name サーバグループで定義したように、アカウントングのための RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバのサブセットを使用します。

「AAA アカウンティングの方式」の表では、**group radius** 方式および **group tacacs+** 方式は、以前に定義した一連の RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバを参照します。ホストサーバを設定するには、**radius server** および **tacacs server** コマンドを使用します。特定のサーバグループを作成するには、**aaa group server radius** および **aaa group server tacacs+** コマンドを使用します。

Cisco IOS XE ソフトウェアは次の 2 つのアカウントング方式をサポートします。

- **RADIUS** : ネットワークアクセスサーバは、アカウントングレコードの形式で RADIUS セキュリティサーバに対してユーザアクティビティを報告します。各アカウントングレ

コードにはアカウントिंगの Attribute-Value (AV) ペアが含まれ、レコードはセキュリティサーバに格納されます。

- TACACS+ : ネットワークアクセスサーバは、アカウントングレコードの形式でTACACS+セキュリティサーバに対してユーザアクティビティを報告します。各アカウントングレコードにはアカウントングの Attribute-Value (AV) ペアが含まれ、レコードはセキュリティサーバに格納されます。

アカウントングの方式リストは、アカウントングの実行方法を定義します。名前付きアカウントング方式リストにより、特定の回線またはインターフェイスで、特定の種類のアカウントングサービスに使用する特定のセキュリティプロトコルを指定できます。*list-name* および *method* を入力してリストを作成します。*list-name* にはこのリストの名前として使用する任意の文字列 (*radius* や *tacacs+* などの方式名を除く) を指定し、*method* には指定されたシーケンスで試行する方式を指定します。

特定のアカウントングの種類の **aaa accounting** コマンドを、名前付き方式リストを指定しないで発行した場合、名前付き方式リストが明示的に定義されているものを除いて、すべてのインターフェイスまたは回線 (このアカウントングの種類が適用される) にデフォルトの方式リストが自動的に適用されます (定義済みの方式リストは、デフォルトの方式リストに優先します)。デフォルトの方式リストが定義されていない場合、アカウントングは実行されません。



-
- (注) システムアカウントングでは名前付きアカウントングリストは使用されず、システムアカウントングのためのデフォルトのリストだけを定義できます。
-

最小のアカウントングの場合、**stop-only** キーワードを指定して、要求されたユーザプロセスの終了時に **stop** レコードアカウントング通知を送信します。詳細なアカウントングの場合、**start-stop** キーワードを指定することで、**RADIUS** または **TACACS+** が要求されたプロセスの開始時に **start** アカウントング通知を送信し、プロセスの終了時に **stop** アカウントング通知を送信するようにできます。アカウントングは **RADIUS** または **TACACS+** サーバにだけ保存されます。**none** キーワードは、指定した回線またはインターフェイスのアカウントングサービスをディセーブルにします。

AAA アカウントングがアクティブにされると、ネットワークアクセスサーバは、ユーザが実装したセキュリティ方式に応じて、接続に関する **RADIUS** アカウントング属性または **TACACS+ AV** ペアをモニタします。ネットワークアクセスサーバはこれらの属性をアカウントングレコードとしてレポートし、アカウントングレコードはその後セキュリティサーバのアカウントングログに保存されます。



-
- (注) このコマンドは、**TACACS** または拡張 **TACACS** には使用できません。
-

次の例では、デフォルトのコマンドアカウンティング方式リストを定義しています。この例のアカウントサービスはTACACS+セキュリティサーバによって提供され、**stop-only** 制限で特権レベル 15 コマンドに設定されています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa accounting commands 15 default stop-only group TACACS+
Device(config)# exit
```

次の例では、アカウントサービスがTACACS+セキュリティサーバで提供され、**stop-only** 制限があるデフォルトの **auth-proxy** アカウンティング方式リストの定義を示します。**aaa accounting** コマンドは認証プロキシアカウンティングをアクティブにします。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new model
Device(config)# aaa authentication login default group TACACS+
Device(config)# aaa authorization auth-proxy default group TACACS+
Device(config)# aaa accounting auth-proxy default start-stop group TACACS+
Device(config)# exit
```


aaa accounting dot1x

認証、認可、およびアカウントティング (AAA) アカウントティングをイネーブルにして、IEEE 802.1Xセッションの特定のアカウントティング方式を、回線単位またはインターフェイス単位で定義する方式リストを作成するには **aaa accounting dot1x** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用します。IEEE 802.1X アカウントティングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
aaa accounting dot1x {name | default} start-stop {broadcast group {name | radius |
tacacs+} [group {name | radius | tacacs+} ... ] | group {name | radius | tacacs+}
[group {name | radius | tacacs+}... ]}
no aaa accounting dot1x {name | default}
```

構文の説明

name	サーバグループ名。これは、 broadcast group および group キーワードの後に入力する場合に使用するオプションです。
default	デフォルトリストにあるアカウントティング方式を、アカウントティングサービス用に指定します。
start-stop	プロセスの開始時に start accounting 通知を送信し、プロセスの終了時に stop accounting 通知を送信します。start アカウントティングレコードはバックグラウンドで送信されます。アカウントティングサーバが start accounting 通知を受け取ったかどうかには関係なく、要求されたユーザプロセスが開始されます。
broadcast	複数の AAA サーバに送信されるアカウントティングレコードをイネーブルにして、アカウントティングレコードを各グループの最初のサーバに送信します。最初のサーバが使用できない場合、スイッチはバックアップサーバのリストを使用して最初のサーバを識別します。
group	アカウントティングサービスに使用するサーバグループを指定します。有効なサーバグループ名は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • name : サーバグループの名前。 • radius : すべての RADIUS ホストのリスト。 • tacacs+ : すべての TACACS+ ホストのリスト。 broadcast group および group キーワードの後に入力する場合、 group キーワードはオプションです。オプションの group キーワードより多くの値を入力できます。
radius	(任意) RADIUS アカウントティングをイネーブルにします。
tacacs+	(任意) TACACS+ アカウントティングをイネーブルにします。

コマンドデフォルト

AAA アカウントティングはディセーブルです。

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、RADIUS サーバへのアクセスが必要です。
 インターフェイスに IEEE 802.1X RADIUS アカウンティングを設定する前に、**dot1x reauthentication** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力することを推奨します。

次の例では、IEEE 802.1X アカウンティングを設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# aaa accounting dot1x default start-stop group radius
Device(config)# exit
```

aaa accounting identity

IEEE 802.1X、MAC 認証バイパス (MAB)、および Web 認証セッションの認証、認可、およびアカウントリング (AAA) アカウントリングをイネーブルにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで、**aaa accounting identity** コマンドを使用します。IEEE 802.1X アカウントリングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
aaa accounting identity {name | default} start-stop {broadcast group {name | radius | tacacs+} [group {name | radius | tacacs+} ... ] | group {name | radius | tacacs+} [group {name | radius | tacacs+} ... ]}
no aaa accounting identity {name | default}
```

構文の説明

name	サーバグループ名。これは、 broadcast group および group キーワードの後に入力する場合に使用するオプションです。
default	デフォルトリストにあるアカウントリング方式を、アカウントリングサービス用に使用します。
start-stop	プロセスの開始時に start accounting 通知を送信し、プロセスの終了時に stop accounting 通知を送信します。 start アカウントリングレコードはバックグラウンドで送信されます。アカウントリングサーバが start アカウントリング通知を受け取ったかどうかには関係なく、要求されたユーザプロセスが開始されます。
broadcast	複数の AAA サーバに送信されるアカウントリングレコードをイネーブルにして、アカウントリングレコードを各グループの最初のサーバに送信します。最初のサーバが利用できない場合、スイッチはバックアップサーバのリストを使用して最初のサーバを識別します。
group	アカウントリングサービスに使用するサーバグループを指定します。有効なサーバグループ名は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • name : サーバグループの名前。 • radius : すべての RADIUS ホストのリスト。 • tacacs+ : すべての TACACS+ ホストのリスト。 broadcast group および group キーワードの後に入力する場合、 group キーワードはオプションです。オプションの group キーワードより多くの値を入力できます。
radius	(任意) RADIUS 認証をイネーブルにします。
tacacs+	(任意) TACACS+ アカウントリングをイネーブルにします。

コマンドデフォルト AAA アカウントリングはディセーブルです。

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン AAA アカウンティングアイデンティティをイネーブルにするには、ポリシーモードをイネーブルにする必要があります。ポリシーモードを有効にするには、特権 EXEC モードで **authentication display new-style** コマンドを入力します。

次の例では、IEEE 802.1X アカウンティングアイデンティティを設定する方法を示します。

```
Device# authentication display new-style
```

```
Please note that while you can revert to legacy style
configuration at any time unless you have explicitly
entered new-style configuration, the following caveats
should be carefully read and understood.
```

- (1) If you save the config in this mode, it will be written to NVRAM in NEW-style config, and if you subsequently reload the router without reverting to legacy config and saving that, you will no longer be able to revert.
- (2) In this and legacy mode, Webauth is not IPv6-capable. It will only become IPv6-capable once you have entered new-style config manually, or have reloaded with config saved in 'authentication display new' mode.

```
Device# configure terminal
```

```
Device(config)# aaa accounting identity default start-stop group radius
```

```
Device(config)# exit
```

aaa authentication dot1x

IEEE 802.1X 認証に準拠するポートで使用する認証、許可、およびアカウントリング (AAA) 方式を指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **aaa authentication dot1x** コマンドを使用します。認証を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
aaa authentication dot1x {default} method1
no aaa authentication dot1x {default} method1
```

構文の説明

default ユーザがログインするときのデフォルトの方法。この引数に続いてリストされた認証方式が使用されます。

method1 サーバ認証を指定します。認証用にすべての RADIUS サーバの一覧を使用するには、**group radius** キーワードを入力します。

(注) コマンドラインのヘルプストリングには他のキーワードも表示されますが、サポートされるのは **default** および **group radius** キーワードのみです。

コマンド デフォルト

認証は実行されません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

method 引数には、認証アルゴリズムがクライアントからのパスワードを確認するために特定の順序で試みる方式を指定します。IEEE 802.1X に準拠している唯一の方式は、クライアントデータが RADIUS 認証サーバに対して確認される **group radius** 方式です。

group radius を指定した場合、**radius-server host** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力して RADIUS サーバを設定する必要があります。

設定された認証方式の一覧を表示するには、**show running-config** 特権 EXEC コマンドを使用します。

次の例では AAA をイネーブルにして IEEE 802.1X 準拠の認証リストを作成する方法を示します。この認証は、最初に RADIUS サーバとの交信を試みます。この動作でエラーが返信された場合、ユーザはネットワークへのアクセスが許可されません。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# aaa authentication dot1x default group radius
Device(config)# exit
```

aaa authorization

ネットワークへのユーザアクセスを制限するパラメータを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **aaa authorization** コマンドを使用します。パラメータを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
aaa authorization { auth-proxy | cache | commands level | config-commands | configuration
| console | credential-download | exec | multicast | network | reverse-access | template }
{ default | list_name } [method1 [ method2 ...]]
no aaa authorization { auth-proxy | cache | commands level | config-commands |
configuration | console | credential-download | exec | multicast | network | reverse-access
| template } { default | list_name } [method1 [ method2 ...]]
```

構文の説明

auth-proxy	認証プロキシサービスに許可を実行します。
cache	認証、許可、アカウントिंग (AAA) サーバを設定します。
commands	指定した特権レベルですべてのコマンドの許可を実行します。
<i>level</i>	許可が必要な特定のコマンドレベル。有効な値は 0 ~ 15 です。
config-commands	コンフィギュレーションモードで入力されたコマンドを許可するかどうかを決定する許可を実行します。
configuration	AAA サーバから設定をダウンロードします。
console	AAA サーバのコンソール許可をイネーブルにします。
credential-download	Local/RADIUS/LDAP から EAP クレデンシャルをダウンロードします。
exec	AAA サーバのコンソール許可をイネーブルにします。
multicast	AAA サーバからマルチキャスト設定をダウンロードします。
network	シリアルラインインターネットプロトコル (SLIP)、PPP (ポイントツーポイントプロトコル)、PPP ネットワークコントロールプログラム (NCP)、AppleTalk Remote Access (ARA) など、すべてのネットワーク関連サービス要求について許可を実行します。
reverse-access	リバース Telnet などの逆アクセス接続の許可を実行します。

template	AAA サーバのテンプレート許可をイネーブルにします。
default	このキーワードに続く許可方式のリストを許可のデフォルト方式リストとして使用します。
<i>list_name</i>	許可方式リストの名前の指定に使用する文字列です。
<i>method1</i> [<i>method2...</i>]	(任意) 許可に使用する1つまたは複数の許可方式を指定します。方式には、次の表に示すキーワードのどれでも指定できます。

コマンドデフォルト すべてのアクションに対する許可がディセーブルになります (方式キーワード **none** と同等)。

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **aaa authorization** コマンドを使用して、許可をイネーブルにし、名前付きの方式リストを作成します。このリストにはユーザが特定の機能にアクセスするときを使用できる許可方式が定義されます。許可方式リストによって、許可の実行方法とこれらの方式の実行順序が定義されます。方式リストは、一定順序で使用する必要がある許可方式 (RADIUS、TACACS+ など) を示す名前付きリストです。方式リストを使用すると、許可に使用するセキュリティプロトコルを1つ以上指定できるため、最初の方式が失敗した場合のバックアップシステムを確保できます。Cisco IOS XE ソフトウェアでは、特定のネットワークサービスについてユーザを許可するために最初の方式が使用されます。その方式が応答しない場合、方式リストの次の方式が選択されます。このプロセスは、リスト内の許可方式による通信が成功するか、定義された方式をすべて試し終わるまで繰り返されます。



(注) Cisco IOS XE ソフトウェアでは、前の方式からの応答がない場合にのみ、リストの次の許可方式が試行されます。このサイクルの任意の時点で許可が失敗した場合 (つまり、セキュリティサーバまたはローカルユーザ名データベースからユーザサービスの拒否応答が返される場合)、許可プロセスは停止し、その他の許可方式は試行されません。

特定の許可の種類 **aaa authorization** コマンドを、名前付き方式リストを指定しないで発行した場合、名前付き方式リストが明示的に定義されているものを除いて、すべてのインターフェイスまたは回線 (この許可の種類が適用される) にデフォルトの方式リストが自動的に適用されます (定義済みの方式リストは、デフォルトの方式リストに優先します)。デフォルトの方式リストが定義されていない場合、許可は実行されません。RADIUS サーバからの IP プールのダウンロードを許可するなどの発信許可は、デフォルトの許可方式リストを使用して実行する必要があります。

aaa authorization コマンドを使用して、*list-name* 引数および *method* 引数に値を入力してリストを作成します。*list-name* にはこのリストの名前として使用する任意の文字列（すべての方式名を除く）を指定し、*method* には特定の順序で試行される許可方式のリストを指定します。



- (注) 次の表に、以前定義済みの RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバのセットを参照する **group group-name** 方式、**group ldap** 方式、**group radius** 方式、および **group tacacs+** 方式を示します。ホストサーバを設定するには、**radius server** および **tacacs server** コマンドを使用します。特定のサーバグループを作成するには、**aaa group server radius**、**aaa group server ldap**、**aaa group server tacacs+** コマンドを使用します。

この表では、*method* キーワードについて説明します。

表 2: AAA 許可方式

キーワード	説明
cache group-name	キャッシュサーバグループを許可に使用します。
group group-name	アカウントिंगに、 server group group-name コマンドで定義される RADIUS または TACACS+サーバのサブセットを使用します。
group ldap	許可にすべての Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバのリストを使用します。
group radius	aaa group server radius コマンドで定義されるすべての RADIUS サーバのリストを認証に使用します。
group tacacs+	aaa group server tacacs+ コマンドで定義されるすべての TACACS+ サーバのリストを認証に使用します。
if-authenticated	許可された場合、ユーザは要求した機能にアクセスできます。 (注) if-authenticated 方式は終端の方式です。したがって、方式としてリストされている場合、その後にリストされたどの方式も評価されません。
local	許可にローカルデータベースを使用します。
none	許可が行われないことを示します。

Cisco IOS XE ソフトウェアは、許可について次の方式をサポートします。

- **Cache Server Groups** : デバイスはキャッシュサーバグループを調べて、特定の権限をユーザに許可します。
- **If-Authenticated** : ユーザが認証に成功した場合、ユーザは要求した機能にアクセスできます。
- **Local** : デバイスは、**username** コマンドの定義に従ってローカルデータベースに問い合わせ、特定の権限をユーザに許可します。ローカルデータベースでは制御できるのは、一部の機能だけです。
- **None** : ネットワークアクセスサーバは、認可情報を要求しません。認可は、この回線またはインターフェイスで実行されません。
- **RADIUS** : ネットワークアクセスサーバは RADIUS セキュリティサーバグループからの認可情報を要求します。RADIUS 認可では、属性を関連付けることでユーザに固有の権限を定義します。属性は適切なユーザとともに RADIUS サーバ上のデータベースに保存されます。
- **TACACS+** : ネットワークアクセスサーバは、TACACS+セキュリティデーモンと認可情報を交換します。TACACS+ 許可は、属性値 (AV) ペアを関連付けることでユーザに特定の権限を定義します。属性ペアは適切なユーザとともに TACACS+ セキュリティサーバのデータベースに保存されます。

方式リストは、要求されている許可のタイプによって異なります。AAA は 5 種類の許可方式をサポートしています。

- **Commands** : ユーザが実行する EXEC モードコマンドに適用されます。コマンドの認可は、特定の特権レベルに関連付けられた、グローバル コンフィギュレーション コマンドなどのすべての EXEC モードコマンドについて、認可を試行します。
- **EXEC** : ユーザ EXEC ターミナルセッションに関連付けられた属性に適用されます。
- **Network** : ネットワーク接続に適用されます。ネットワーク接続には、PPP、SLIP、または ARA 接続が含まれます。
- **Reverse Access** : リバース Telnet セッションに適用されます。
- **Configuration** : AAA サーバからダウンロードされた設定に適用されます。

名前付き方式リストを作成すると、指定した許可タイプに対して特定の許可方式リストが定義されます。

定義されると、方式リストを特定の回線またはインターフェイスに適用してから、定義済み方式のいずれかを実行する必要があります。

authorization コマンドにより、許可プロセスの一環として、一連の AV のペアを含む要求パケットが RADIUS または TACACS+ デーモンに送信されます。デーモンは、次のいずれかのアクションを実行できます。

- 要求をそのまま受け入れます。

- 要求を変更します。
- 要求および許可を拒否します。

サポートされる RADIUS 属性のリストについては、RADIUS 属性のモジュールを参照してください。サポートされる TACACS+ の AV ペアのリストについては、TACACS+ 属性値ペアのモジュールを参照してください。



(注) **disable**、**enable**、**exit**、**help**、**logout** の 5 つのコマンドは特権レベル 0 と関連付けられています。特権レベルの AAA 認証を 0 より大きい値に設定した場合、これらの 5 個のコマンドは特権レベルコマンドセットに含まれません。

次に、PPP を使用するシリアル回線に RADIUS の許可を使用するように指定する **mygroup** というネットワーク許可方式リストを定義する例を示します。RADIUS サーバが応答しない場合、ローカルネットワークの許可が実行されます。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa authorization network mygroup group radius local
Device(config)# exit
```

aaa new-model

認証、認可、およびアカウントリング（AAA）アクセス制御モデルを有効にするには、グローバル コンフィギュレーションモードで **aaa new-model** コマンドを使用します。AAA アクセス制御モデルを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

aaa new-model
no aaa new-model

構文の説明 このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト AAA が有効になっていません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにより、AAA アクセス制御システムが有効になります。

仮想端末回線（VTY）に関して **login local** コマンドが設定されている場合、**aaa new-model** コマンドを削除するときは、スイッチをリロードしてデフォルト設定または **login** コマンドを取得する必要があります。スイッチをリロードしない場合、スイッチは、VTY ではデフォルトで **login local** コマンドに設定されます。



(注) **aaa new-model** コマンドを削除することは推奨されません。

例

次に、AAA を初期化する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# exit
```

次に、VTY が設定済みで **aaa new-model** コマンドが削除された例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# line vty 0 15
Device(config-line)# login local
Device(config-line)# exit
Device(config)# no aaa new-model
Device(config)# exit
Device# show running-config | b line vty

line vty 0 4
```

```
login local !<=== Login local instead of "login"
line vty 5 15
login local
!
```

関連コマンド

Command	Description
aaa accounting	課金またはセキュリティ目的のために、要求されたサービスの AAA アカウンティングをイネーブルにします。
aaa authentication arap	TACACS+ を使用する ARAP の AAA 認証方式を有効にします。
aaa authentication enable default	ユーザが特権コマンドレベルにアクセスできるかどうかを決定する AAA 認証を有効にします。
aaa authentication login	ログイン時の AAA 認証を設定します。
aaa authentication ppp	PPP を実行しているシリアルインターフェイス上で使用する 1 つまたは複数の AAA 認証方式を指定します。
aaa authorization	ネットワークへのユーザアクセスを制限するパラメータを設定します。

access-session mac-move deny

デバイス上での MAC 移動をディセーブルにするには、**access-session mac-move deny** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

access-session mac-move deny
no access-session mac-move deny

構文の説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト MAC 移動はイネーブルです。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドの **no** 形式を使用すると、認証済みホストをデバイス上の認証対応ポート (MAC 認証バイパス (MAB)、802.1X、または Web-auth) 間で移動することができます。たとえば、認証されたホストとポートの間にデバイスがあり、そのホストが別のポートに移動した場合、認証セッションは最初のポートから削除され、ホストは新しいポート上で再認証されます。

MAC 移動がディセーブルで、認証されたホストが別のポートに移動した場合、そのホストは再認証されず、違反エラーが発生します。

次の例では、デバイス上で MAC 移動をイネーブルにする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# no access-session mac-move deny
Device(config)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
authentication event	特定の認証イベントのアクションを設定します。
authentication fallback	IEEE 802.1X 認証をサポートしないクライアントとなるようポートを設定します。
authentication host-mode	ポートで認証マネージャモードを設定します。
authentication open	ポートでオープンアクセスをイネーブルまたはデフォルトに設定します。
authentication order	ポートで使用する認証方式の順序を設定します。

コマンド	説明
authentication periodic	ポートで再認証をイネーブ爾またはディセーブ爾に
authentication port-control	ポートの認証ステートの手動制御をイネーブ爾にし
authentication priority	ポートプライオリティリストに認証方式を追加しま
authentication timer	802.1X 対応ポートのタイムアウトパラメータと再認
authentication violation	新しいデバイスがポートに接続するか、ポートにす 新しいデバイスがポートに接続した場合に発生する
show authentication	デバイスの認証マネージャイベントに関する情報を

action

VLAN アクセスマップエントリのアクションを設定するには、アクセスマップ コンフィギュレーション モードで **action** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action {drop | forward}
no action

構文の説明	drop	指定された条件に一致する場合に、パケットをドロップします。
	forward	指定された条件に一致する場合に、パケットを転送します。
コマンド デフォルト	デフォルトのアクションは、パケットの転送です。	
コマンド モード	アクセスマップ コンフィギュレーション (config-access-map)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **vlan access-map** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、アクセスマップ コンフィギュレーション モードを開始します。

アクションが **drop** の場合は、一致条件でのアクセスコントロールリスト (ACL) 名の設定など、アクセスマップを定義した後に、そのマップを VLAN に適用する必要があります。定義しない場合、すべてのパケットがドロップされることがあります。

アクセスマップ コンフィギュレーション モードでは、**match access-map** コンフィギュレーション コマンドを使用して、VLAN マップの一致条件を定義します。**action** コマンドを使用すると、パケットが条件に一致したときに実行するアクションを設定できます。

drop パラメータおよび **forward** パラメータは、このコマンドの **no** 形式では使用されません。

設定を確認するには、**show vlan access-map** 特権 EXEC コマンドを入力します。

例

次の例では、VLAN アクセスマップ **vmap4** を指定し VLAN 5 と VLAN 6 に適用する方法を示します。このアクセスマップは、パケットがアクセスリスト **al2** に定義された条件に一致する場合に、VLAN がその IP パケットを転送するように指定します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# vlan access-map vmap4
Device(config-access-map)# match ip address al2
Device(config-access-map)# action forward
Device(config-access-map)# exit
Device(config)# vlan filter vmap4 vlan-list 5-6
Device(config)# exit
```

authentication host-mode

ポートで認証マネージャモードを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **authentication host-mode** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

authentication host-mode { **multi-auth** | **multi-domain** | **multi-host** | **single-host** }
no authentication host-mode

構文の説明	multi-auth	multi-domain	multi-host	single-host
	ポートのマルチ認証モード (multi-auth モード) をイネーブルにします。	ポートのマルチドメインモードをイネーブルにします。	ポートのマルチホストモードをイネーブルにします。	ポートのシングルホストモードをイネーブルにします。

コマンド デフォルト シングルホストモードがイネーブルにされています。

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 接続されているデータホストが1つだけの場合は、シングルホストモードを設定する必要があります。シングルホストポートでの認証のために音声デバイスを接続しないでください。ポートで音声 VLAN が設定されていないと、音声デバイスの許可が失敗します。

データホストが IP フォン経由でポートに接続されている場合は、マルチドメインモードを設定する必要があります。音声デバイスを認証する必要がある場合は、マルチドメインモードを設定する必要があります。

ハブの背後にデバイスを配置し、それぞれを認証してポートアクセスのセキュリティを確保できるようにするには、マルチ認証モードに設定する必要があります。音声 VLAN が設定されている場合は、このモードで認証できる音声デバイスは1つだけです。

マルチホストモードでも、ハブ越しの複数ホストのためのポートアクセスが提供されますが、マルチホストモードでは、最初のユーザが認証された後でデバイスに対して無制限のポートアクセスが与えられます。

次の例では、ポートのマルチ認証モードをイネーブルにする方法を示します。


```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 2/0/1
Device(config-if)# authentication host-mode multi-auth
Device(config-if)# end
```

次の例では、ポートのマルチドメインモードをイネーブルにする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 2/0/1
Device(config-if)# authentication host-mode multi-domain
Device(config-if)# end
```

次の例では、ポートのマルチホストモードをイネーブルにする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 2/0/1
Device(config-if)# authentication host-mode multi-host
Device(config-if)# end
```

次の例では、ポートのシングルホストモードをイネーブルにする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 2/0/1
Device(config-if)# authentication host-mode single-host
Device(config-if)# end
```

設定を確認するには、**show authentication sessions interface *interface* details** 特権 EXEC コマンドを入力します。

authentication logging verbose

認証システムメッセージから詳細情報をフィルタリングするには、スイッチスタックまたはスタンドアロンスイッチ上で **authentication logging verbose** コマンドをグローバルコンフィギュレーションモードで使用します。

authentication logging verbose
no authentication logging verbose

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

システムメッセージの詳細ログは有効になっていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにより、認証システムメッセージから、予測される成功などの詳細情報がフィルタリングされます。失敗メッセージはフィルタリングされません。

verbose 認証システムメッセージをフィルタリングするには、次の手順に従います。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# authentication logging verbose
Device(config)# exit
```

設定を確認するには、**show running-config** 特権 EXEC コマンドを入力します。

関連コマンド

コマンド	説明
authentication logging verbose	認証システムメッセージのログ出力を有効にする
dot1x logging verbose	802.1X システムメッセージのログ出力を有効にする
mab logging verbose	MAC 認証システムメッセージのログ出力を有効にする

authentication mac-move permit

デバイス上でのMAC移動をイネーブルにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **authentication mac-move permit** コマンドを使用します。MAC 移動をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

authentication mac-move permit
no authentication mac-move permit

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

MAC 移動は無効になっています。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、認証済みホストをデバイス上の認証対応ポート (MAC 認証バイパス (MAB)、802.1X、または Web-auth) 間で移動することができます。たとえば、認証されたホストとポートの間にデバイスがあり、そのホストが別のポートに移動した場合、認証セッションは最初のポートから削除され、ホストは新しいポート上で再認証されます。

MAC 移動がディセーブルで、認証されたホストが別のポートに移動した場合、そのホストは再認証されず、違反エラーが発生します。

次の例では、デバイス上で MAC 移動をイネーブルにする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# authentication mac-move permit
Device(config)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
access-session mac-move deny	デバイスで MAC 移動をディセーブルにする
authentication event	特定の認証イベントのアクションを設定
authentication fallback	IEEE 802.1X 認証をサポートしないクライアントを使用するようポートを設定します。
authentication host-mode	ポートで認証マネージャモードを設定し
authentication open	ポートでオープンアクセスをイネーブル

コマンド	説明
authentication order	ポートで使用する認証方式の順序を設定し
authentication periodic	ポートの再認証をイネーブ爾またはディセー
authentication port-control	ポートの認証ステートの手動制御をイネー
authentication priority	ポートプライオリティリストに認証方式を
authentication timer	802.1X 対応ポートのタイムアウトパラメー
authentication violation	新しいデバイスがポートに接続するか、ポ るときに、新しいデバイスがポートに接続し
show authentication	デバイスの認証マネージャイベントに関する

authentication priority

プライオリティリストに認証方式を追加するには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで **authentication priority** コマンドを使用します。デフォルトに戻るには、**no** 形式のコマンドを使用します。

```
authentication priority [dot1x | mab] {webauth}
no authentication priority [dot1x | mab] {webauth}
```

構文の説明	dot1x	(任意) 認証方式の順序に 802.1X を追加します。
	mab	(任意) 認証方式の順序に MAC 認証バイパス (MAB) を追加します。
	webauth	認証方式の順序に Web 認証を追加します。
コマンド デフォルト	デフォルトのプライオリティは、802.1X 認証、MAC 認証バイパス、Web 認証の順です。	
コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 順序付けでは、デバイスがポートに接続された新しいデバイスを認証しようとするときに試行する方式の順序を設定します。

ポートにフォールバック方式を複数設定するときは、Web 認証 (webauth) を最後に設定してください。

異なる認証方式にプライオリティを割り当てることにより、プライオリティの高い方式を、プライオリティの低い進行中の認証方式に割り込ませることができます。



(注) クライアントがすでに認証されている場合に、プライオリティの高い方式の割り込みが発生すると、再認証されることがあります。

認証方式のデフォルトのプライオリティは、実行リストの順序におけるその位置と同じで、802.1X 認証、MAC 認証バイパス (MAB)、Web 認証の順です。このデフォルトの順序を変更するには、キーワード **dot1x**、**mab**、および **webauth** を使用します。

次の例では、802.1X を最初の認証方式、Web 認証を 2 番目の認証方式として設定する方法を示します。

```
Device(config-if)# authentication priority dot1x webauth
```

次の例では、MAB を最初の認証方式、Web 認証を 2 番目の認証方式として設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/2
Device(config-if)# authentication priority mab webauth
Device(config-if)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
authentication control-direction	ポート モードを単一方向または双方向に設定します。
authentication event fail	認証マネージャが認証エラーを認識されないユーザクレデンシャルを再試行する間隔を設定します。
authentication event no-response action	認証マネージャが認証エラーを応答のないホストの結果として処理するアクションを設定します。
authentication event server alive action reinitialize	以前に到達不能であった認証、許可、アカウントिंगサーバが再び到達可能になると、認証マネージャセッションを再初期化します。
authentication event server dead action authorize	認証、許可、アカウントिंगサーバが到達不能になったときに、認証マネージャがクライアントに許可するかどうかを設定します。
authentication fallback	Web 認証のフォールバック方式をイネーブルにします。
authentication host-mode	ホストの制御ポートへのアクセスを許可します。
authentication open	ポートでオープンアクセスをイネーブルにします。
authentication order	認証マネージャがポート上のクライアントの認証を試みる順序を設定します。
authentication periodic	ポートの自動再認証をイネーブルにします。
authentication port-control	制御ポートの許可ステータスを設定します。
authentication timer inactivity	機能しない認証マネージャセッションを強制終了するまでの時間を設定します。
authentication timer reauthenticate	認証マネージャが許可ポートの再認証を試みる間隔を設定します。
authentication timer restart	認証マネージャが無許可ポートの認証を試みる間隔を設定します。
authentication violation	ポート上でセキュリティ違反が生じた場合に取りうるアクションを設定します。
mab	ポートの MAC 認証バイパスをイネーブルにします。
show authentication registrations	認証マネージャに登録されている認証方式に関する情報を表示します。
show authentication sessions	現在の認証マネージャセッションに関する情報を表示します。

コマンド	説明
show authentication sessions interface	特定のインターフェイスの認証マネージャに関する情報

authentication violation

新しいデバイスがポートに接続されたとき、または最大数のデバイスがポートに接続されている状態で新しいデバイスがポートに接続されたときに発生する違反モードを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **authentication violation** コマンドを使用します。

```
authentication violation { protect | replace | restrict | shutdown }
no authentication violation { protect | replace | restrict | shutdown }
```

構文の説明

protect	予期しない着信 MAC アドレスをドロップします。syslog エラーは生成されません。
replace	現在のセッションを削除し、新しいホストによる認証を開始します。
restrict	違反エラーの発生時に Syslog エラーを生成します。
shutdown	エラーによって、予期しない MAC アドレスが発生するポートまたは仮想ポートがディセーブルになります。

コマンド デフォルト

Authentication violation shutdown モードがイネーブルにされています。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ポート上でセキュリティ違反が発生したときに実行するアクションを指定するには、**authentication violation** コマンドを使用します。

次の例では、新しいデバイスがポートに接続する場合に、errdisable になり、シャットダウンするように IEEE 802.1X 対応ポートを設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 2/0/1
Device(config-if)# authentication violation shutdown
Device(config-if)# end
```

次の例では、新しいデバイスがポートに接続する場合に、システムエラーメッセージを生成して、ポートを制限モードに変更するように 802.1X 対応ポートを設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
```



```
Device(config)# interface gigabitethernet 2/0/1
Device(config-if)# authentication violation restrict
Device(config-if)# end
```

次の例では、新しいデバイスがポートに接続するときに、そのデバイスを無視するように 802.1X 対応ポートを設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 2/0/1
Device(config-if)# authentication violation protect
Device(config-if)# end
```

次の例では、新しいデバイスがポートに接続するときに、現在のセッションを削除し、新しいデバイスによる認証を開始するように 802.1X 対応ポートを設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 2/0/1
Device(config-if)# authentication violation replace
Device(config-if)# end
```

設定を確認するには、**show authentication** コマンドを入力します。

cisp enable

デバイス上で Client Information Signalling Protocol (CISP) をイネーブルにして、サブリカントデバイスのオーセンティケータとして機能し、オーセンティケータデバイスのサブリカントとして機能するようにするには、**cisp enable** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

cisp enable
no cisp enable

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

オーセンティケータとサブリカントデバイス間のリンクはトランクです。両方のデバイスで VTP をイネーブルにする場合は、VTP ドメイン名が同一であり、VTP モードがサーバである必要があります。

VTP モードを設定する場合に MD5 チェックサムの一一致エラーにならないようにするために、次の点を確認してください。

- VLAN が異なる 2 台のデバイスに設定されていないこと。同じドメインに VTP サーバが 2 台存在することがこの状態の原因になることがあります。
- 両方のデバイスで、設定のリビジョン番号が異なっていること。

次の例では、CISP をイネーブルにする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# cisp enable
Device(config)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
dot1x credentials プロファイル	プロファイルをサブリカントデバイスに設
dot1x supplicant force-multicast	802.1X サブリカントがマルチキャストパケットに強制します。
dot1x supplicant controlled transient	802.1X サブリカントによる制御アクセスを

コマンド	説明
show cisp	指定されたインターフェイスの CISP 情報

cisp enable

デバイス上で Client Information Signalling Protocol (CISP) をイネーブルにして、サブリカントデバイスのオーセンティケータとして機能し、オーセンティケータデバイスのサブリカントとして機能するようにするには、**cisp enable** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

cisp enable
no cisp enable

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

オーセンティケータとサブリカントデバイス間のリンクはトランクです。両方のデバイスで VTP をイネーブルにする場合は、VTP ドメイン名が同一であり、VTP モードがサーバである必要があります。

VTP モードを設定する場合に MD5 チェックサムの一一致エラーにならないようにするために、次の点を確認してください。

- VLAN が異なる 2 台のデバイスに設定されていないこと。同じドメインに VTP サーバが 2 台存在することがこの状態の原因になることがあります。
- 両方のデバイスで、設定のリビジョン番号が異なっていること。

次の例では、CISP をイネーブルにする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# cisp enable
Device(config)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
dot1x credentials プロファイル	プロファイルをサブリカントデバイスに設
dot1x supplicant force-multicast	802.1X サブリカントがマルチキャストパケットに強制します。
dot1x supplicant controlled transient	802.1X サブリカントによる制御アクセスを

コマンド	説明
show cisp	指定されたインターフェイスの CISP 情報

clear device-tracking database

デバイストラッキング データベース (バインディングテーブル) エントリを削除し、カウンタ、イベント、およびメッセージをクリアするには、特権 EXEC モードで **clear device-tracking** コマンドを入力します。

```
clear device-tracking { counters [ interface interface_type_no | vlan vlan_id ] | database [ address { hostname | all } [ interface interface_type_no | policy policy_name | vlan vlan_id ] | interface interface_type_no [ vlan vlan_id ] | mac mac_address [ interface interface_type_no | policy policy_name | vlan vlan_id ] | policy policy_name | prefix { prefix | all } [ interface interface_type_no | policy policy_name | vlan vlan_id ] | vlanid vlan_id ] | events | messages }
```

構文の説明

counters	指定されたインターフェイスまたは VLAN のデバイストラッキングカウンタをクリアします。 カウンタは、特権 EXEC コマンドの show device-tracking counters all で表示されます。
interface <i>interface_type_no</i>	インターフェイスのタイプと番号を入力します。疑問符 (?) のオンラインヘルプ機能を使用して、デバイスで使用可能なインターフェイスのタイプを表示します。 指定したインターフェイスに対してクリアアクションが実行されます。
vlan <i>vlan_id</i>	VLAN ID を入力します。指定した VLAN ID に対してクリアアクションが実行されます。 有効な値の範囲は 1 ~ 4095 です。
database	バインディングテーブルのダイナミックエントリをクリアします。 (注) device-tracking binding vlan vlan_id コマンドを使用して設定されたスタティックエントリは削除されません。 テーブル内のすべてのダイナミックエントリを削除するか、必要に応じて、特定のインターフェイスまたは VLAN かポリシーの 1 つ以上の IP アドレス、MAC アドレス、IPv6 プレフィックス、エントリを指定できます。
<i>hostname</i>	クリアアクションを実行するホスト名または IP アドレスを入力します。
all	すべての IP アドレスまたは IPv6 プレフィックスに対してクリアアクションを実行します。
policy <i>policy_name</i>	指定されたポリシーに対してクリアアクションを実行します。ポリシー名を入力します。
mac <i>mac_address</i>	指定された MAC アドレスに対してクリアアクションを実行します。MAC アドレスを入力します。

prefix prefix	指定された IPv6 プレフィックスに対してクリアアクションを実行します。プレフィックスを入力するか、 all を入力してすべてのプレフィックスを示します。
events	デバイストラッキング イベントの履歴をクリアします。 イベントは、特権 EXEC コマンドの show device-tracking events で表示されます。
messages	デバイストラッキング メッセージの履歴をクリアします。 イベントは、特権 EXEC コマンドの show device-tracking messages で表示されます。

コマンド デフォルト

データベースエントリは、バインディングエントリのライフサイクルを通過します。
 カウンタ：各カウンタは、32ビットの負ではない整数であり、制限に達するとラップアラウンドします。
 イベントおよびメッセージ：255 の制限に達すると、古いものから順に、イベントおよびメッセージが上書きされます。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、バインディングテーブルからすべてのエントリをクリアする例を示します。

```
Device# show device-tracking database Binding Table has 25 entries, 25 dynamic (limit 200000)
Codes: L - Local, S - Static, ND - Neighbor Discovery, ARP - Address Resolution Protocol,
DH4 - IPv4 DHCP, DH6 - IPv6 DHCP, PKT - Other Packet, API - API created
Preflevel flags (prlvl):
0001:MAC and LLA match      0002:Orig trunk          0004:Orig access
0008:Orig trusted trunk    0010:Orig trusted access 0020:DHCP assigned
0040:Cga authenticated     0080:Cert authenticated  0100:Statically assigned
```

Network Layer Address	Link Layer Address	Interface	vlan
prlvl age state Time left			
ARP 192.0.9.49 00FF 22s	001d.4411.3ab7	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.48 00FF 22s	001d.4411.3ab7	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.47 00FF 22s	001d.4411.3ab7	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.46 00FF 22s	001d.4411.3ab7	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.45 00FF 22s	001d.4411.3ab7	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.44	001d.4411.3ab7	Te1/0/4	200

clear device-tracking database

```

00FF      22s      REACHABLE  702 s
ARP 192.0.9.43      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  680 s
ARP 192.0.9.42      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  708 s
ARP 192.0.9.41      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  683 s
ARP 192.0.9.40      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  708 s
ARP 192.0.9.39      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  710 s
ARP 192.0.9.38      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  697 s
ARP 192.0.9.37      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  707 s
ARP 192.0.9.36      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  695 s
ARP 192.0.9.35      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  708 s
ARP 192.0.9.34      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  706 s
ARP 192.0.9.33      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  683 s
ARP 192.0.9.32      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  697 s
ARP 192.0.9.31      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  683 s
ARP 192.0.9.30      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  678 s
ARP 192.0.9.29      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  696 s
ARP 192.0.9.28      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  704 s
ARP 192.0.9.27      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  713 s
ARP 192.0.9.26      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  695 s
ARP 192.0.9.25      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  686 s

```

Device# **clear device-tracking database**

```

*Dec 13 15:10:22.837: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.49 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.838: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.48 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.838: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.47 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.838: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.46 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.839: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.45 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.839: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.44 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.839: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.43 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.839: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.42 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.840: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.41 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.840: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.40 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.840: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.39 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF

```



```
*Dec 13 15:10:22.841: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.38 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.841: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.37 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.841: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.36 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.842: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.35 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.842: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.34 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.842: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.33 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.842: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.32 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.843: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.31 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.843: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.30 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.843: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.29 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.844: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.28 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.844: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.27 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.844: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.26 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.844: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.25 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
```

```
Device# show device-tracking database
<no output; binding table cleared>
```

clear errdisable interface vlan

error-disabled 状態になっていた VLAN を再びイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **clear errdisable interface** コマンドを使用します。

```
clear errdisable interface interface-id vlan [vlan-list]
```

構文の説明	<i>interface-id</i>	インターフェイスを指定します。
	<i>vlan list</i>	(任意) 再びイネーブルにする VLAN のリストを の VLAN が再びイネーブルになります。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **shutdown** および **no shutdown** のインターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用してポートを再びイネーブルにするか、**clear errdisable** インターフェイスコマンドを使用して VLAN の error-disabled をクリアできます。

例

次の例では、ギガビットイーサネットポート 4/0/2 で errdisable になっているすべての VLAN を再びイネーブルにする方法を示します。

```
Device# clear errdisable interface gigabitethernet4/0/2 vlan
```

関連コマンド	コマンド	説明
	errdisable detect cause	特定の原因、またはすべての原因を示します。
	errdisable recovery	回復メカニズム変数を設定します。
	show errdisable detect	errdisable 検出ステータスを表示します。
	show errdisable recovery	errdisable 回復タイマーの情報を表示します。
	show interfaces status err-disabled	errdisable ステートになっているインターフェイスのステータスを表示します。

clear mac address-table

特定のダイナミックアドレス、特定のインターフェイス上のすべてのダイナミックアドレス、スタックメンバ上のすべてのダイナミックアドレス、または特定の VLAN 上のすべてのダイナミックアドレスを MAC アドレステーブルから削除するには、**clear mac address-table** コマンドを特権 EXEC モードで使用します。このコマンドはまた MAC アドレス通知グローバルカウンタもクリアします。

clear mac address-table {**dynamic** [**address** *mac-addr* | **interface** *interface-id* | **vlan** *vlan-id*] | **move update** | **notification**}

構文の説明	構文	説明
	dynamic	すべてのダイナミック MAC アドレスを削除します。
	address <i>mac-addr</i>	(任意) 指定されたダイナミック MAC アドレスを削除します。
	interface <i>interface-id</i>	(任意) 指定された物理ポートまたはポートチャンネル上のすべてのダイナミック MAC アドレスを削除します。
	vlan <i>vlan-id</i>	(任意) 指定された VLAN のすべてのダイナミック MAC アドレスを削除します。
	move update	MAC アドレステーブルの move-update カウンタをクリアします。
	notification	履歴テーブルの通知をクリアし、カウンタをリセットします。

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 情報が削除されたことを確認するには、**show mac address-table** コマンドを入力します。

次の例では、ダイナミック アドレス テーブルから特定の MAC アドレスを削除する方法を示します。

```
Device> enable
Device# clear mac address-table dynamic address 0008.0070.0007
```

関連コマンド	コマンド	説明
	mac address-table notification	MAC アドレス通知機能をイネーブルにします。

コマンド	説明
mac address-table move update {receive transmit}	デバイスの MAC アドレステーブル移動更新を設定します。
show mac address-table	MAC アドレステーブルのスタティックエントリおよびダイナミックエントリを表示します。
show mac address-table move update	デバイスに関する MAC アドレステーブル移動更新情報を表示します。
show mac address-table notification	interface キーワードが追加されると、すべてのインターフェイスまたは指定されたインターフェイスに対する MAC アドレス通知設定を表示します。
snmp trap mac-notification change	特定のインターフェイスの SNMP MAC アドレス通知トラップをイネーブルにします。

confidentiality-offset

MACsec Key Agreement (MKA) プロトコルを有効にして MACsec 動作の機密性オフセットを設定するには、MKA ポリシー コンフィギュレーション モードで **confidentiality-offset** コマンドを使用します。機密性オフセットを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

confidentiality-offset
no confidentiality-offset

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

機密性オフセットが無効になっています。

コマンド モード

MKA ポリシー コンフィギュレーション (config-mka-policy)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、機密性オフセットを有効にする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mka policy 2
Device(config-mka-policy)# confidentiality-offset
```

関連コマンド

Command	Description
mka policy	MKA ポリシーを設定します。
delay-protection	MKPDUの送信で遅延保護を使用するようにMKAを設定します。
include-icv-indicator	MKPDUにICVインジケータを含めます。
key-server	MKA キーサーバオプションを設定します。
macsec-cipher-suite	SAK を取得するための暗号スイートを設定します。
sak-rekey	SAK キー再生成間隔を設定します。
send-secure-announcements	MKPDU の送信でセキュアなアナウンスを送信するように MKA を設定します。
ssci-based-on-sci	SCI に基づいて SSCI を計算します。
use-updated-eth-header	ICV 計算には更新されたイーサネットヘッダーを使用します。

debug aaa dead-criteria transaction

認証、許可、およびアカウントिंग（AAA）の dead-criteria トランザクション値を表示するには、**debugaaadead-criteriatransaction** コマンドを特権 EXEC モードで使用します。dead-criteria のデバッグを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug aaa dead-criteria transaction
no debug aaa dead-criteria transaction

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

コマンドが設定されていない場合、デバッグはオンになりません。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

dead-criteria トランザクションの値は、AAA トランザクションごとに異なる場合があります。表示される可能性のある値の一部は、推定される未処理のトランザクション、再送信の試行、および dead 検出間隔です。これらの値については、次の表で説明します。

例

次に、特定のサーバグループの dead-criteria トランザクションの情報の例を示します。

```
Device> enable
Device# debug aaa dead-criteria transaction

AAA Transaction debugs debugging is on
*Nov 14 23:44:17.403: AAA/SG/TRANSAC: Computed Retransmit Tries: 10, Current Tries: 3,
Current Max Tries: 10
*Nov 14 23:44:17.403: AAA/SG/TRANSAC: Computed Dead Detect Interval: 10s, Elapsed Time:
317s, Current Max Interval: 10s
*Nov 14 23:44:17.403: AAA/SG/TRANSAC: Estimated Outstanding Transaction: 6, Current Max
Transaction: 6
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 3: debug aaa dead-criteria transaction フィールドの説明

フィールド	説明
AAA/SG/TRANSAC	AAA サーバグループ トランザクション。
Computed Retransmit Tries	サーバが dead としてマークされるまでの、現在計算されている再送信回数。
Current Tries	最後の有効な応答以降の連続失敗回数。

フィールド	説明
Current Max Tries	最後に成功したトランザクション以降の最大試行回数。
Computed Dead Detect Interval	サーバが dead としてマークされる前に経過する可能性がある非アクティブ期間（最後の正常なトランザクションからの秒数）。非アクティブ期間は、 live と見なされるサーバにランザクションが送信されたときに開始されます。 dead 検出間隔は、デバイスがサーバを dead としてマークする前に、サーバからの応答をデバイスが待機する期間です。
経過時間 (Elapsed Time)	最後の有効な応答以降に経過した時間。
Current Max Interval	最後に成功したトランザクション以降の非アクティブ期間の最大値。
Estimated Outstanding Transaction	サーバに関連付けられているトランザクションの推定数。
Current Max Transaction	最後に成功したトランザクション以降の最大トランザクション。

関連コマンド

コマンド	説明
radius-server dead-criteria	RADIUS サーバをデッド状態と指定するための条件のいずれかまたは両方を、指定した定数で適用します。
show aaa dead-criteria	AAA サーバの dead-criteria 検出情報を表示します。

delay-protection

MACsec Key Agreement Protocol Data Unit (MKPDU) の送信に遅延保護を使用するように MKA を設定するには、MKA ポリシー コンフィギュレーション モードで **delay-protection** コマンドを使用します。遅延保護を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

delay-protection
no delay-protection

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

MKPDU の送信に対する遅延保護は無効になっています。

コマンド モード

MKA ポリシー コンフィギュレーション (config-mka-policy)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、MKPDU の送信で遅延保護を使用するように MKA を設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mka policy 2
Device(config-mka-policy)# delay-protection
```

関連コマンド

Command	Description
mka policy	MKA ポリシーを設定します。
confidentiality-offset	機密性オフセットを設定して MACsec を動作させます。
include-icv-indicator	MKPDU に ICV インジケータを含めます。
key-server	MKA キーサーバオプションを設定します。
macsec-cipher-suite	SAK を取得するための暗号スイートを設定します。
sak-rekey	SAK キー再生成間隔を設定します。
send-secure-announcements	MKPDU の送信でセキュアなアナウンスを送信するように MKA を設定します。
ssci-based-on-sci	SCI に基づいて SSCI を計算します。
use-updated-eth-header	ICV 計算には更新されたイーサネットヘッダーを使用します。

deny (MAC アクセス リスト コンフィギュレーション)

条件が一致した場合に非 IP トラフィックが転送されないようにするには、MAC アクセスリスト拡張コンフィギュレーションモードで **deny** コマンドを使用します。名前付き MAC アクセスリストから拒否条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
deny {any | host src-MAC-addr | src-MAC-addr mask} {any | host dst-MAC-addr |
dst-MAC-addr mask} [type mask | aarp | amber | appletalk | dec-spanning | decnet-iv
| diagnostic | dsm | etype-6000 | etype-8042 | lat | larc-sca | lsap lsap mask |
mop-console | mop-dump | msdos | mumps | netbios | vines-echo | vines-ip |
xns-idp] [cos cos]
no deny {any | host src-MAC-addr | src-MAC-addr mask} {any | host dst-MAC-addr |
dst-MAC-addr mask} [type mask | aarp | amber | appletalk | dec-spanning | decnet-iv
| diagnostic | dsm | etype-6000 | etype-8042 | lat | larc-sca | lsap lsap mask |
mop-console | mop-dump | msdos | mumps | netbios | vines-echo | vines-ip |
xns-idp] [cos cos]
```

構文の説明

any	すべての送信元または宛先 MAC アドレス
host src-MAC-addr src-MAC-addr mask	ホスト MAC アドレスと任意のサブネットワークアドレスが定義されたアドレスに一致するトラフィックは拒否されます。
host dst-MAC-addr dst-MAC-addr mask	宛先 MAC アドレスと任意のサブネットワークアドレスが定義されたアドレスに一致するトラフィックは拒否されます。
<i>type mask</i>	(任意) パケットの EtherType 番号と mask を指定して、パケットのプロトコルを識別します。 type には、0 ~ 65535 の 16 進数を指定します。 mask は、一致をテストする前に EtherType と一致させる必要があります。
aarp	(任意) データリンクアドレスをネットワークアドレス解決プロトコル (AppleTalk Address Resolution Protocol) を使用して解決します。
amber	(任意) EtherType DEC-Amber を指定します。
appletalk	(任意) EtherType AppleTalk/EtherTalk を指定します。
dec-spanning	(任意) EtherType Digital Equipment Corporation (DEC) Spanning を指定します。
decnet-iv	(任意) EtherType DECnet Phase IV Protocol を指定します。
diagnostic	(任意) EtherType DEC-Diagnostic を指定します。

dsm	(任意) EtherType DEC-DSM を指定します。
etype-6000	(任意) EtherType 0x6000 を指定します。
etype-8042	(任意) EtherType 0x8042 を指定します。
lat	(任意) EtherType DEC-LAT を指定します。
lavc-sca	(任意) EtherType DEC-LAVC-SCA を指定します。
lsap <i>lsap-number mask</i>	(任意) パケットの LSAP 番号 (0 ~ 65535) と、パケットの プロトコルを指定します。 <i>mask</i> は、一致をテストする前に LSAP 番号を マスクする必要があります。
mop-console	(任意) EtherType DEC-MOP Remote Console を指定します。
mop-dump	(任意) EtherType DEC-MOP Dump を指定します。
msdos	(任意) EtherType DEC-MSDOS を指定します。
mumps	(任意) EtherType DEC-MUMPS を指定します。
netbios	(任意) EtherType DEC-Network Basic Input/Output Protocol を指定します。
vines-echo	(任意) Banyan Systems による EtherType VINES Echo を指定します。
vines-ip	(任意) EtherType VINES IP を指定します。
xns-idp	(任意) 10 進数、16 進数、または 8 進数の XNS IDP Network Systems (XNS) プロトコル スイッチを指定します。
cos <i>cos</i>	(任意) プライオリティを設定するために、CoS 値を指定します。CoS に基づくフィルタリングが有効 です。 cos オプションが設定されているかどうかを 確認する必要があります。

コマンド デフォルト

このコマンドには、デフォルトはありません。ただし、名前付き MAC ACL のデフォルトアクションは拒否です。

コマンド モード

MAC アクセスリスト拡張コンフィギュレーション (config-ext-macl)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン MAC アクセスリスト拡張コンフィギュレーション モードを開始するには、**mac access-list extended** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

host キーワードを使用した場合、アドレスマスクは入力できません。**host** キーワードを使用しない場合は、アドレスマスクを入力する必要があります。

アクセス コントロール エントリ (ACE) がアクセスコントロールリストに追加された場合、リストの最後には暗黙の **deny-any-any** 条件が存在します。つまり、一致がない場合にはパケットは拒否されます。ただし、最初の ACE が追加される前に、リストはすべてのパケットを許可します。

IPX トラフィックをフィルタリングするには、使用されている IPX カプセル化のタイプに応じて、*type mask* または **lsap lsap mask** キーワードを使用します。Novell 用語と Cisco IOS XE 用語での IPX カプセル化タイプに対応するフィルタ条件を表に一覧表示します。

表 4: IPX フィルタ基準

IPX カプセル化タイプ		フィルタ基準
Cisco IOS XE 名	Novel 名	
arpa	Ethernet II	EtherType 0x8137
snap	Ethernet-snap	EtherType 0x8137
sap	Ethernet 802.2	LSAP 0xE0E0
novell-ether	Ethernet 802.3	LSAP 0xFFFF

次の例では、すべての送信元から MAC アドレス 00c0.00a0.03fa への NETBIOS トラフィックを拒否する名前付き MAC 拡張アクセス リストを定義する方法を示します。このリストに一致するトラフィックは拒否されます。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mac access-list extended mac_layer
Device(config-ext-macl)# deny any host 00c0.00a0.03fa netbios.
Device(config-ext-macl)# end
```

次の例では、名前付き MAC 拡張アクセス リストから拒否条件を削除する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mac access-list extended mac_layer
Device(config-ext-macl)# no deny any 00c0.00a0.03fa 0000.0000.0000 netbios.
Device(config-ext-macl)# end
```

次に、EtherType 0x4321 のすべてのパケットを拒否する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mac access-list extended mac_layer
Device(config-ext-macl)# deny any any 0x4321 0
Device(config-ext-macl)# end
```

設定を確認するには、**show access-lists** 特権 EXEC コマンドを入力します。

関連コマンド

コマンド	説明
mac access-list extended	非 IP トラフィック用に MAC アドレス ベー
permit	MAC アクセスリスト コンフィギュレーシ 条件が一致した場合に非 IP トラフィックが
show access-lists	デバイスに設定されたアクセス制御リスト

device-role (IPv6 スヌーピング)

ポートに接続されているデバイスのロールを指定するには、IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション モードで **device-role** コマンドを使用します。この指定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
device-role {node | switch}
no device-role {node | switch}
```

構文の説明

node 接続されたデバイスのロールをノードに設定します。

switch 接続されたデバイスのロールをデバイスに設定します。

コマンド デフォルト

デバイスのロールはノードです。

コマンド モード

IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション (config-ipv6-snooping)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

device-role コマンドは、ポートに接続されているデバイスのロールを指定します。デフォルトでは、デバイスのロールはノードです。

switch キーワードは、リモートデバイスがスイッチであり、ローカルスイッチがマルチスイッチ モードで動作していることを示します。ポートで学習したバインディング エントリは、**trunk_port** プリファレンス レベルでマークされます。ポートが **trusted** ポートに設定されている場合、バインディング エントリは **trunk_trusted_port** プリファレンス レベルでマークされます。

次に、IPv6 スヌーピング ポリシー名を **policy1** と定義し、デバイスを IPv6 スヌーピング コンフィギュレーションモードにし、デバイスをノードとして設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 snooping policy policy1
Device(config-ipv6-snooping)# device-role node
Device(config-ipv6-snooping)# end
```

device-role (IPv6 ND インспекション)

ポートに接続されているデバイスのロールを指定するには、ネイバー探索 (ND) インспекション ポリシー コンフィギュレーション モードで **device-role** コマンドを使用します。

device-role {host | switch}

構文の説明	host	接続されたデバイスのロールをホストに設定します。
	switch	接続されたデバイスのロールをスイッチに設定します。
コマンド デフォルト	デバイスのロールはホストです。	
コマンド モード	ND インспекション ポリシー コンフィギュレーション (config-nd-inspection)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

device-role コマンドは、ポートに接続されているデバイスのロールを指定します。デフォルトでは、デバイスのロールはホストであるため、すべての着信ルータアドバタイズメントとリダイレクトメッセージはブロックされます。

switch キーワードは、リモートデバイスがスイッチであり、ローカルスイッチがマルチスイッチ モードで動作していることを示します。ポートで学習したバインディング エントリは、**trunk_port** プリファレンス レベルでマークされます。ポートが **trusted** ポートに設定されている場合、バインディング エントリは **trunk_trusted_port** プリファレンス レベルでマークされます。

次に、Neighbor Discovery Protocol (NDP) ポリシー名を **policy1** と定義し、デバイスを ND インспекション ポリシー コンフィギュレーション モードにして、デバイスをホストとして設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 nd inspection policy policy1
Device(config-nd-inspection)# device-role host
Device(config-nd-inspection)# end
```

device-tracking (インターフェイス コンフィギュレーション)

SISF ベースのデバイストラッキングをイネーブルにしてデフォルトポリシーをインターフェイスまたは VLAN にアタッチするか、その機能をイネーブルにしてカスタムポリシーをアタッチするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **device-tracking** コマンドを入力します。ポリシーをインターフェイスまたは VLAN からデタッチしてデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
device-tracking [ attach-policy policy-name ] [ vlan { vlan-id | add vlan-id | all | except vlan-id | none | remove vlan-id } ]
no device-tracking [ attach-policy policy-name ] [ vlan { vlan-id | add vlan-id | all | except vlan-id | none | remove vlan-id } ]
```

構文の説明

attach-policy policy-name 指定したカスタムポリシーをインターフェイスおよびすべての VLAN にアタッチします。

vlan { vlan-id | add vlan-id | all | except vlan-id | none | remove vlan-id } ポリシーの VLAN リストを設定し、指定された VLAN にカスタムポリシーをアタッチします。次の項目を指定できます。

- **vlan-id** : 1 つ以上の VLAN ID を入力します。カスタムポリシーは、すべての VLAN ID にアタッチされます。
- **addvlan-id** : 指定された VLAN を既存の VLAN ID リストに追加します。カスタムポリシーは、すべての VLAN ID にアタッチされます。
- **all** : カスタムポリシーをすべての VLAN ID にアタッチします。これがデフォルトのオプションです。
- **exceptvlan-id** : ここで指定したものを除くすべての VLAN ID にカスタムポリシーをアタッチします。
- **none** : どの VLAN にもカスタムポリシーをアタッチしません。

removevlan-id : 指定された VLAN を既存の VLAN ID リストから削除します。カスタムポリシーは、リスト内の VLAN ID にのみアタッチされます。

コマンド デフォルト

SISF ベースのデバイストラッキングはディセーブルになっており、ポリシーはインターフェイスにアタッチされません。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (Device((config-if)#))

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン インターフェイス コンフィギュレーション モードで、他のキーワードを指定せずに **device-tracking** コマンドを入力すると、システムはデフォルトポリシーをインターフェイスまたは VLAN にアタッチします。デフォルトポリシーは、デフォルト設定の組み込みポリシーで、デフォルトポリシーの属性は変更できません。

インターフェイス コンフィギュレーション モードで **device-tracking attach-policy** *policy-name* コマンドを設定すると、カスタムポリシー名を指定できます。グローバル コンフィギュレーション モードでカスタムポリシーをすでに作成している必要があります。ポリシーは、指定されたインターフェイスにアタッチされます。その後、アタッチする VLAN を指定することもできます。

ターゲットにアタッチされるカスタムポリシーを変更する場合は、**device-tracking attach-policy** *policy-name* コマンドを再設定します。

特定のターゲットで機能をディセーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **no device-tracking** コマンドを使用します。

例

- [例：SISF ベースのデバイストラッキングのイネーブルにして、デフォルトポリシーをアタッチする \(56 ページ\)](#)
- [カスタムポリシーのアタッチ \(57 ページ\)](#)
- [例：SISF ベースのデバイストラッキングをディセーブルにする \(57 ページ\)](#)

例

次に、SISF ベースのデバイストラッキングをイネーブルにして、デフォルトポリシーをインターフェイスにアタッチする例を示します。デフォルトポリシーにはデフォルト ポリシー パラメータがあり、変更することはできません。

```
Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)# interface tengigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# device-tracking
Device(config-if)# end

Device# show device-tracking policies detail
Target          Type Policy          Feature          Target range
Tel/0/1         PORT default        Device-tracking vlan all
Tel/0/2         PORT default        Device-tracking vlan all

Device-tracking policy default configuration:
security-level guard
device-role node
gleaning from Neighbor Discovery
gleaning from DHCP6
gleaning from ARP
gleaning from DHCP4
```



```

NOT gleaning from protocol unkn
Policy default is applied on the following targets:
Target      Type  Policy      Feature      Target range
Te1/0/1     PORT default    Device-tracking vlan all
Te1/0/2     PORT default    Device-tracking vlan all

```

例

次に、SISF ベースのデバイストラッキングをイネーブルにして、sisf-01 というカスタムポリシーを上記の例と同じインターフェイス (Te1/0/1) にアタッチする例を示します。これにより、Te1/0/1 の既存のデフォルトポリシーがカスタムポリシー sisf-01 に置き換えられます。

```

Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)# interface tengigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# device-tracking attach-policy sisf-01
Device(config-if)# end

Device# show device-tracking policies detail
Target      Type  Policy      Feature      Target range
Te1/0/1     PORT sisf-01     Device-tracking vlan all
Te1/0/2     PORT default    Device-tracking vlan all

Device-tracking policy default configuration:
security-level guard
device-role node
gleaning from Neighbor Discovery
gleaning from DHCP6
gleaning from ARP
gleaning from DHCP4
NOT gleaning from protocol unkn
Policy default is applied on the following targets:
Target      Type  Policy      Feature      Target range
Te1/0/2     PORT default    Device-tracking vlan all
Device-tracking policy sisf-01 configuration:
security-level guard
device-role node
gleaning from Neighbor Discovery
gleaning from DHCP6
gleaning from ARP
gleaning from DHCP4
NOT gleaning from protocol unkn
limit address-count 3000
Policy sisf-01 is applied on the following targets:
Target      Type  Policy      Feature      Target range
Te1/0/1     PORT sisf-01     Device-tracking vlan all

```

例

次に、ターゲットでSISFベースのデバイストラッキングをディセーブルにする例を示します。この機能はターゲット Te1/0/1 でディセーブルになります。これは、前の例でカスタムポリシーが適用されるものと同じインターフェイスです。デフォルトポリシーは、機能がイネーブルになっている他のインターフェイス (Te1/0/2) で引き続き使用できます。

```

Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)# interface tengigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# no device-tracking attach-policy sisf-01
Device(config-if)# end

```

```
Device# show device-tracking policies detail
Target          Type Policy          Feature          Target range
Tel/0/2         PORT default        Device-tracking vlan all

Device-tracking policy default configuration:
security-level guard
device-role node
gleaning from Neighbor Discovery
gleaning from DHCP6
gleaning from ARP
gleaning from DHCP4
NOT gleaning from protocol unkn
Policy default is applied on the following targets:
Target          Type Policy          Feature          Target range
Tel/0/2         PORT default        Device-tracking vlan all
```

device-tracking (VLAN コンフィギュレーション)

スイッチ統合型セキュリティ機能 (SISF) ベースのデバイストラッキングをイネーブルにしてデフォルトポリシーを VLAN にアタッチするか、その機能をイネーブルにしてカスタムポリシーを VLAN にアタッチし、ポリシーの優先順位を指定するには、VLAN コンフィギュレーションモードで **device-tracking** コマンドを入力します。ポリシーを VLAN からデタッチしてデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

device-tracking [**attach-policy** *policy-name*] [**priority** *priority-value*]

構文の説明

attach-policy *policy-name* 指定されたカスタムポリシーを VLAN にアタッチします。

priority *priority-value* (注) このコマンドは、CLI のヘルプに表示されますが、設定しても効果はありません。ポリシーの優先順位はシステムによって決定されます。これは変更できません。

コマンド デフォルト

SISF ベースのデバイストラッキングはディセーブルになっています。

コマンド モード

VLAN コンフィギュレーション モード (Device((config-vlan-config)#))

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

VLAN コンフィギュレーションモードで、他のキーワードを指定せずに **device-tracking** コマンドを入力すると、システムはデフォルトポリシーを VLAN にアタッチします。デフォルトポリシーは、デフォルト設定の組み込みポリシーで、デフォルトポリシーの属性はパラメータできません。

VLAN コンフィギュレーションモードで **device-tracking attach-policy** *policy-name* コマンドを設定すると、指定されたカスタムポリシーが VLAN にアタッチされます。カスタムポリシーを使用すると、カスタムポリシーの特定のパラメータを設定できます。

この機能をイネーブルにして、ポリシー (カスタムまたはデフォルト) を 1 つ以上の VLAN または VLAN 範囲にアタッチできます。

例

- 例 : SISF ベースのデバイストラッキングのイネーブルにして、デフォルトポリシーをアタッチする (60 ページ)
- 例 : カスタムポリシーを VLAN にアタッチする (60 ページ)
- 例 : カスタムポリシーを VLAN 範囲にアタッチする (60 ページ)

例

次に、SISF ベースのデバイストラッキングをイネーブルにして、デフォルトポリシーを VLAN 500 にアタッチする例を示します。

```
Device# show device-tracking policies
Target          Type Policy          Feature          Target range
Tel/0/1         PORT sisf-03       Device-tracking  vlan all
Tel/0/1         PORT default      Address Resolution Relay vlan all
Tel/0/2         PORT default      Device-tracking  vlan all
vlan 333        VLAN sisf-01     Device-tracking  vlan all
```

```
Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
Device(config)#vlan configuration 500
Device(config-vlan-config)# device-tracking
Device(config-vlan-config)# end
```

```
Device#show device-tracking policies
Target          Type Policy          Feature          Target range
Tel/0/1         PORT sisf-03       Device-tracking  vlan all
Tel/0/1         PORT default      Address Resolution Relay vlan all
Tel/0/2         PORT default      Device-tracking  vlan all
vlan 333        VLAN sisf-01     Device-tracking  vlan all
VLAN default          Device-tracking vlan all
```

例

次に、sisf-03 というカスタムポリシーを上記の例と同じ VLAN (VLAN 500) にアタッチする例を示します。これにより、VLAN 上の既存のデフォルトポリシーがカスタムポリシー sisf-03 に置き換えられます。

```
Device# show device-tracking policies
Target          Type Policy          Feature          Target range
Tel/0/1         PORT sisf-03       Device-tracking  vlan all
Tel/0/1         PORT default      Address Resolution Relay vlan all
Tel/0/2         PORT default      Device-tracking  vlan all
vlan 333        VLAN sisf-01     Device-tracking  vlan all
vlan 500        VLAN default      Device-tracking  vlan all
```

```
Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
Device(config)# vlan configuration 500
Device(config-vlan-config)# device-tracking attach-policy sisf-03
Device(config-vlan-config)# end
```

```
Device# show device-tracking policies
Target          Type Policy          Feature          Target range
Tel/0/1         PORT sisf-03       Device-tracking  vlan all
Tel/0/1         PORT default      Address Resolution Relay vlan all
Tel/0/2         PORT default      Device-tracking  vlan all
vlan 333        VLAN sisf-01     Device-tracking  vlan all
VLAN sisf-03          Device-tracking vlan all
```

例

次に、カスタムポリシーを VLAN 範囲 (VLAN 10 ~ 15) にアタッチする例を示します。

```
Device(config)# vlan configuration 10-15
Device(config-vlan-config)#device-tracking attach-policy sisf-01
Device(config-vlan-config)#end
```

```
Device# show device-tracking policies
Target      Type Policy      Feature      Target range
Tel/0/2     PORT default    Device-tracking vlan all
vlan 10     VLAN sifs-01    Device-tracking vlan all
vlan 11     VLAN sifs-01    Device-tracking vlan all
vlan 12     VLAN sifs-01    Device-tracking vlan all
vlan 13     VLAN sifs-01    Device-tracking vlan all
vlan 14     VLAN sifs-01    Device-tracking vlan all
vlan 15     VLAN sifs-01    Device-tracking vlan all
```

device-tracking binding

バインディングテーブルでバインディングエントリを維持する方法を指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **device-tracking binding** コマンドを入力します。このコマンドを使用すると、各状態のライフタイム、バインディングテーブルで許可されるエントリの最大数、およびバインディングエントリイベントをログに記録するかどうかを設定できます。このコマンドを使用して、スタティックバインディングエントリを設定することもできます。デフォルト値に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

device-tracking binding { **down-lifetime** | **logging** | **max-entries** | **reachable-lifetime** | **stale-lifetime** | **vlan** }

わかりやすくするために、上記の各オプションについて、その後続く残りのコマンド文字列を個別に示します。

- **device-tracking binding down-lifetime** { *seconds* | **infinite** }

no device-tracking binding down-lifetime

- **device-tracking binding logging**

no device-tracking binding logging

- **device-tracking binding max-entries** *no_of_entries* [**mac-limit** *no_of_entries* | **port-limit** *no_of_entries* [**mac-limit** *no_of_entries*] | **vlan-limit** *no_of_entries* [**mac-limit** *no_of_entries*]]]

no device-tracking binding max-entries

- **device-tracking binding reachable-lifetime** { *seconds* | **infinite** } [**down-lifetime** { *seconds* | **infinite** } | **stale-lifetime** { *seconds* | **infinite** } [**down-lifetime** { *seconds* | **infinite** }]]

no device-tracking binding reachable-lifetime

- **device-tracking binding stale-lifetime** { *seconds* | **infinite** } [**down-lifetime** { *seconds* | **infinite** }]]

no device-tracking binding stale-lifetime

- **device-tracking binding vlan** *vlan_id* { *ipv4_add* *ipv6_add* *ipv6_prefix* } [**interface** *interface_type_no*] [*48-bit-hardware-address*] [**reachable-lifetime** { *seconds* | **default** | **infinite** } **tracking** { **default** | **disable** | **enable** } **reachable-lifetime** { *seconds* | **default** | **infinite** }]]

no device-tracking binding vlan *vlan_id* { *ipv4_add* *ipv6_add* *ipv6_prefix* } [**interface** *interface_type_no*] [*48-bit-hardware-address*] [**reachable-lifetime** { *seconds* | **default** | **infinite** } **tracking** { **default** | **disable** | **enable** } **reachable-lifetime** { *seconds* | **default** | **infinite** }]]

構文の説明

```
down-lifetime {  
seconds | infinite }
```

DOWN状態のバインディングエントリのカウントダウンタイマーを設定するか、タイマーをディセーブルにするオプションを提供します。

ホストの接続インターフェイスが管理目的によってダウンしている場合、バインディングエントリはDOWN状態になります。タイマーが設定されている場合、タイマーが切れる前にインターフェイスが再び稼働状態になる場合とエントリのDOWN状態が維持される場合があります。タイマーが切れる前にインターフェイスが稼働状態になると、タイマーは停止し、エントリの状態が変化します。タイマーが切れた後もエントリのDOWN状態が維持されると、そのエントリはバインディングテーブルから削除されます。タイマーがディセーブルまたはオフになっている場合、エントリはバインディングテーブルから削除されず、無期限に、またはインターフェイスが再び稼働状態になるまで、DOWN状態が維持される可能性があります。

次のいずれかのオプションを設定します。

- **seconds** : ダウンライフタイムタイマーの値を設定します。1～86400秒の値を入力します。デフォルト値は86400秒（24時間）です。
- **infinite** : DOWN状態のタイマーをディセーブルにします。これは、エントリがDOWN状態になったときにタイマーが開始されないことを意味します。

logging

バインディング エントリ イベントのログの生成をイネーブルにします。

device-tracking binding max-entries バインディングテーブルのエントリの最大数を設定します。1～200000の値を入力します。デフォルト値は 200000 です。

no_of_entries [**mac-limit** *no_of_entries* (注) この制限は、ダイナミックエントリにのみ適用され、スタティック バインディング エントリには適用されません。

| **port-limit** *no_of_entries* | **vlan-limit** *no_of_entries* 必要に応じて、次の制限を設定することもできます。

]

- **mac-limit** *no_of_entries* : 許可されるエントリの MAC アドレスあたりの最大数を設定します。1～100000 の値を入力します。デフォルトでは、制限は設定されていません。
- **port-limit** *no_of_entries* : 許可されるエントリのインターフェイスあたりの最大数を設定します。1～100000 の値を入力します。デフォルトでは、制限は設定されていません。
- **vlan-limit** *no_of_entries* : 許可されるエントリの VLAN あたりの最大数を設定します。1～100000 の値を入力します。デフォルトでは、制限は設定されていません。

このコマンドの **no** 形式を使用すると、**max-entries** 値が 200000 にリセットされ、**mac-limit**、**port-limit**、**vlan-limit** が「no limit」に設定されます。

reachable-lifetime { *seconds* | **infinite** } REACHABLE 状態のバインディングエントリのカウントダウンタイマーを設定するか、タイマーをディセーブルにするオプションを提供します。

タイマーが設定されている場合、タイマーが切れる前にホストから着信パケットを受信する場合とホストからの着信パケットがない場合があります。ホストから着信パケットを受信するたびに、タイマーがリセットされます。着信パケットを受信されずにタイマーが切れると、エントリの状態は、ホストの到達可能性に基づいて変化します。タイマーがディセーブルまたはオフになっている場合、エントリは無期限に REACHABLE 状態が維持される可能性があります。

次のいずれかのオプションを設定します。

- **seconds** : 到達可能ライフタイムタイマーの値を設定します。1～86400 秒の値を入力します。デフォルトは 300 秒 (5 分) です。
- **infinite** : REACHABLE 状態のタイマーをディセーブルにします。これは、エントリが REACHABLE 状態になったときにタイマーが開始されないことを意味します。

stale-lifetime { *seconds* STALE 状態のバインディングエントリのカウントダウンタイマーを設定するか、タイマーをディセーブルにするオプションを提供します。
| **infinite** }

タイマーが設定されている場合、タイマーが切れる前にホストから着信パケットを受信する場合とホストからの着信パケットがない場合があります。着信パケットを受信すると、タイマーが停止し、エントリは新しい状態に移行します。着信パケットを受信されずにタイマーが切れると、エントリはバインディングテーブルから削除されます。タイマーがディセーブルまたはオフになっている場合、エントリは無期限に STALE 状態が維持される可能性があります。

ポーリングがイネーブルになっている場合、ステイルタイマーが切れると、ホストをプローブする最後の試みが行われます。

(注) ポーリングがイネーブルになっている場合、到達可能ライフタイムタイマーが切れるとポーリングが実行され (3 回)、その後、ステイルタイマーが切れると最後の試行も行われます。到達可能ライフタイムが切れた後のエントリのポーリングに必要な時間は、ステイルライフタイムから差し引かれます。

次のいずれかのオプションを設定します。

- **seconds** : ステイルライフタイムタイマーの値を設定します。1 ~ 86400 秒の値を入力します。デフォルト値は 86400 秒 (24 時間) です。
- **infinite** : STALE 状態のタイマーをディセーブルにします。これは、エントリが STALE 状態になったときにタイマーが開始されないことを意味します。

```
device-tracking  
binding vlan vlan_id {  
  ipv4_add ipv6_add  
  ipv6_prefix } {  
interface  
  inteface_type_no }  
  [  
    48-bit-hardware-address  
  ] [  
    reachable-lifetime {  
      seconds | default |  
      infinite } tracking {  
      default | disable |  
      enable }  
      reachable-lifetime {  
      seconds | default |  
      infinite } ]
```

バインディングテーブルのスタティックバインディングエントリを作成します。バインディングテーブルでスタティックバインディングエントリを維持する方法を指定することもできます。

(注) 上記の **max-entries no_of_entries** オプションに設定する制限は、スタティックバインディング全体には適用されません。作成できるスタティックエントリの数に制限はありません。

- IP アドレスまたはプレフィックスを入力します。
 - *ipv4_add* : IPv4 アドレスを入力します。
 - *ipv6_add* : IPv6 アドレスを入力します。
 - *ipv6_prefix* : IPv6 プレフィックスを入力します。
- **interface interface_type_no** : インターフェイスのタイプと番号を入力します。疑問符 (?) のオンラインヘルプ機能を使用して、デバイスで使用可能なインターフェイスのタイプを表示します。
- (任意) **48-bit-hardware-address** : MAC アドレスを入力します。バインディングエントリの MAC アドレスを設定しない場合、任意の MAC アドレスが許可されます。

- (任意) **reachable-lifetime {seconds | default | infinite}** : REACHABLE 状態のスタティックバインディングエントリの到達可能ライフタイム設定を指定します。スタティックバインディングエントリに到達可能ライフタイムを設定する場合は、エントリの MAC アドレスを指定する必要があります。

値を設定しない場合は、**device-tracking binding reachable-lifetime** に設定されている値が適用されます。

seconds : 到達可能ライフタイムタイマーの値を設定します。1 ~ 86400 秒の値を入力します。デフォルトは 300 秒 (5 分) です。

default : バインディングテーブルのダイナミックエントリに設定されている値を使用します。

infinite : REACHABLE 状態のタイマーをディセーブルにします。これは、スタティックバインディングエントリが REACHABLE 状態になったときにタイマーが開始されないことを意味します。

- (任意) **tracking {default | disable | enable}** : スタティックバインディングエントリのポーリング関連設定を指定します。

default : ポーリングはディセーブルになっています。

disable : スタティックバインディングエントリのポーリングをディセーブルにします。

enable : スタティック バインディング エントリのポーリングをイネーブルにします。

コマンド デフォルト 値を設定しない場合、ポリシーレベルの値が設定されていないかぎり、ダウン、到達可能、およびステイルライフタイムのデフォルト値と、バインディングテーブルで許可されるバインディングエントリの最大数が適用されます。詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (Device(config)#)

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **device-tracking binding** コマンドを使用すると、バインディングテーブルにおいてグローバルレベルでエントリを維持する方法を指定できます。これにより、設定は、SISF ベースのデバイスストラッキングがイネーブルになっているすべてのインターフェイスおよび VLAN に適用されます。ただし、システムが、ネットワークに入るパケットからのバインディング情報の抽出を開始し、ここで指定した設定が適用されるバインディングエントリを作成するには、インターフェイスまたは VLAN にアタッチされたポリシーが存在する必要があります。

インターフェイスまたは VLAN にポリシーがない場合、バインディングテーブルに存在できるエントリは、作成したスタティック バインディング エントリだけです。

バインディングエントリ設定の変更

device-tracking binding コマンドを使用して値または設定を再指定すると、その変更は、その後で作成されたバインディングエントリにのみ適用されます。変更された設定は、既存のエントリには適用されません。古い設定は、古いエントリに適用されます。

現在の設定を表示するには、特権 EXEC モードで **show device-tracking database** コマンドを入力します。

グローバル設定とポリシーレベル設定

このコマンドで指定する設定の一部については、対応するものがポリシーレベルにもあります（ポリシーレベルのパラメータは、デバイスストラッキング コンフィギュレーション モードで設定され、そのポリシーにのみ適用されます）。次の表に、グローバルに設定された値が優先される場合と、ポリシーレベルの値が優先される場合を示します。

グローバル コンフィギュレーション コマンドの device-tracking binding のオプション	デバイスストラッキング コンフィギュレーション モードでのポリシーレベルの対応物
device-tracking binding reachable-lifetime { <i>seconds</i> infinite }	tracking enable [reachable-lifetime [<i>seconds</i> infinite]]

<p>グローバル コンフィギュレーション コマンドの device-tracking binding のオプション</p>	<p>デバイストラッキングコンフィギュレーションモードでのポリシーレベルの対応物</p>
<pre>Device(config)# device-tracking binding reachable-lifetime 2000</pre>	<pre>Device(config)# device-tracking policy sisf-01 Device(config-device-tracking)# Device(config-device-tracking)# tracking enable reachable-lifetime 250</pre>
<p>ポリシーレベルの値とグローバルに設定された値が存在する場合は、ポリシーレベルの値が適用されます。</p> <p>グローバルに設定された値のみが存在する場合、グローバルに設定された値が適用されます。</p> <p>ポリシーレベルの値のみが存在する場合、ポリシーレベルの値が適用されます。</p> <p>例：グローバルレベルとポリシーレベルで到達可能、ステイル、およびダウンライフタイムを設定する (74 ページ) を参照してください。</p>	
<p>グローバル コンフィギュレーション コマンドの device-tracking binding のオプション</p>	<p>デバイストラッキングコンフィギュレーションモードでのポリシーレベルの対応物</p>
<p>device-tracking binding stale-lifetime { <i>seconds</i> infinite }</p>	<p>tracking disable [<i>stale-lifetime</i> [<i>seconds</i> infinite]]</p>
<pre>Device(config)# device-tracking binding stale-lifetime 2000</pre>	<pre>Device(config)# device-tracking policy sisf-01 Device(config-device-tracking)# Device(config-device-tracking)# tracking enable stale-lifetime 500</pre>
<p>ポリシーレベルの値とグローバルに設定された値が存在する場合は、ポリシーレベルの値が適用されます。</p> <p>グローバルに設定された値のみが存在する場合、グローバルに設定された値が適用されます。</p> <p>ポリシーレベルの値のみが存在する場合、ポリシーレベルの値が適用されます。</p> <p>例：グローバルレベルとポリシーレベルで到達可能、ステイル、およびダウンライフタイムを設定する (74 ページ) を参照してください。</p>	
<p>グローバル コンフィギュレーション コマンドの device-tracking binding のオプション</p>	<p>デバイストラッキングコンフィギュレーションモードでのポリシーレベルの対応物</p>
<p>device-tracking binding max-entries <i>no_of_entries</i> [mac-limit <i>no_of_entries</i> port-limit <i>no_of_entries</i> vlan-limit <i>no_of_entries</i>]</p>	<p>limit address-count<i>tip-per-port</i></p>
<pre>Device(config)# device-tracking binding max-entries 30 vlan-limit 25 port-limit 20 mac-limit 19</pre>	<pre>Device(config)# device-tracking policy sisf-01 Device(config-device-tracking)# Device(config-device-tracking)# limit address-count 30</pre>

グローバルコンフィギュレーションコマンドの device-tracking binding のオプション	デバイストラッキングコンフィギュレーションモードでのポリシーレベルの対応物
<p>ポリシーレベルの値とグローバルに設定された値が存在する場合は、1つの制限（グローバル値またはポリシーレベルの値のいずれか）に達するとバインディングエントリの作成が停止します。</p> <p>グローバルに設定された値のみが存在する場合、1つの制限に達すると、バインディングエントリの作成が停止します。</p> <p>ポリシーレベルの値のみが存在する場合、ポリシーレベルの制限に達すると、バインディングエントリの作成が停止します。</p> <p>例：グローバルレベルのアドレス制限とポリシーレベルのアドレス制限（77 ページ）。</p>	
グローバルコンフィギュレーションコマンドの device-tracking binding のオプション	デバイストラッキングコンフィギュレーションモードでのポリシーレベルの対応物
device-tracking binding max-entries <i>no_of_entries</i> [mac-limit <i>no_of_entries</i>]	MAC あたりの IPv4 および MAC あたりの IPv6 ポリシーでは上記の制限のどちらも設定できませんが、プログラムで作成されたポリシーでは、制限のいずれかまたは両方を設定することも、どちらも設定しないことも可能です。
Device(config)# device-tracking binding max-entries 300 mac-limit 3	Device# show device-tracking policy LISP-DT-GLEAN-VLAN Policy LISP-DT-GLEAN-VLAN configuration: security-level glean (*) device-role node gleaning from Neighbor Discovery gleaning from DHCP gleaning from ARP gleaning from DHCP4 NOT gleaning from protocol unkn limit address-count for IPv4 per mac 4 (*) limit address-count for IPv6 per mac 12 (*) tracking enable <output truncated>
<p>ポリシーレベルの値とグローバルに設定された値が存在する場合は、1つの制限（グローバル値またはポリシーレベルの値のいずれか）に達するとバインディングエントリの作成が停止します。</p> <p>グローバルに設定された値のみが存在する場合、1つの制限に達すると、バインディングエントリの作成が停止します。</p> <p>ポリシーレベルの値のみが存在する場合、ポリシーレベルの制限に達すると、バインディングエントリの作成が停止します。</p>	

ダウン、到達可能、およびスタイルライフタイムの設定

down-lifetime、**reachable-lifetime**、または **stale-lifetime** キーワードにデフォルト以外の値を設定する場合、設定しないライフタイムはデフォルト値に戻されます。例：到達可能、ステイブル、およびダウンライフタイムにデフォルト以外の値を設定する（73 ページ）は、この動作が明確に示されている例です。

現在設定されているライフタイム値を表示するには、特権 EXEC モードで **show running-config | include device-tracking** コマンドを入力します。

MAC、ポート、および VLAN の制限の設定

mac-limit、**port-limit**、または **vlan-limit** キーワードにデフォルト以外の値を設定する場合、設定しない制限はデフォルト値に戻されます。

同じコマンドラインで 3 つの制限をすべて設定するには、最初に VLAN の制限、次にポートの制限、最後に MAC の制限を設定します。

```
Device(config)# device-tracking binding max-entries 15 vlan-limit 2 port-limit 20 mac-limit 5
```

このシステムの動作は、1 つ以上（すべてではない）の制限をデフォルト値にリセットする場合にも使用できます。3 つのキーワードはすべて、デフォルトが「制限なし」ですが、数値「0」を入力して制限をデフォルト値に設定することはできません。0 は、どの制限でも、有効な値の範囲に含まれていません。1 つ以上の制限をデフォルト値にリセットするには、対応するキーワードを省略します。例：VLAN、ポート、および MAC の制限をデフォルト値に設定する（82 ページ）は、この動作が明確に示されている例です。

バインディング エントリ イベントのログिंगのイネーブル化

バインディング エントリ イベントのログを生成するようにグローバル コンフィギュレーション コマンドの **device-tracking binding logging** を設定する場合は、要件に応じて、いくつかの一般的なログング設定も指定する必要がある場合があります。

- （必須）グローバル コンフィギュレーション モードで **logging buffered informational** コマンドを使用します。

このコマンドを使用して、デバイスレベルでメッセージログングをイネーブルにし、シビラティ（重大度）レベルを指定します。このコマンドの設定により、ログをコピーしてローカルの内部バッファに保存できます。シビラティレベルを指定すると、そのレベルのメッセージと、それより数値的に低いレベルのメッセージがログに記録されます。

バインディング エントリ イベントに関して生成されるログのシビラティレベルは 6（つまり、情報）です。次に例を示します。

```
%SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.2.24 VLAN=200 MAC=001b.4411.4ab6  
I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
```

- （任意）グローバル コンフィギュレーション モードで **logging console** コマンドを使用します。

このコマンドを使用して、ログをコンソール（使用可能なすべての TTY 回線）に送信します。



注意 シビラティレベルが低いと、コンソールに表示されるメッセージの数が大幅に増加する可能性があります。さらに、コンソールは表示が遅いデバイスです。メッセージストームでは、コンソールキューがいっぱいになると、一部のロギングメッセージがサイレント削除される場合があります。適切にシビラティレベルを設定してください。

このコマンドを設定しない場合は、特権 EXEC モードで **show logging** コマンドを入力することにより、必要に応じてログを表示できます。

logging console コマンドがイネーブルになっていない場合、ログはデバイスコンソールに表示されませんが、**device-tracking binding logging** および **logging buffered informational** が設定されている場合は、ログが生成され、ローカルバッファで使用できます。

ログが生成されるバインディング エントリ イベントの種類については、対応するリリースの [システムメッセージガイド](#) を参照してください。「SISF-6」を検索してください。

device-tracking binding logging コマンドはバインディング エントリ イベントをログに記録しますが、スヌーピングセキュリティ ロギングをイネーブルにする **device-tracking logging** コマンドもあります。2つのコマンドは異なる種類のイベントをログに記録し、生成されるログは異なるシビラティレベルを持ちます。

スタティック バインディング エントリの作成

レイヤ2 ドメインにサイレントでも到達可能なホストがある場合、それらのサイレントホストのバインディング情報を保持するには、スタティック バインディング エントリを作成します。

作成できるスタティック エントリの数に制限はありませんが、これらのエントリはバインディング テーブルのサイズにも影響します。作成する前に、そのようなエントリの必要な数を考慮してください。

スタティック バインディング エントリで指定されたインターフェイスまたは VLAN にポリシーがアタッチされていない場合でも、スタティック バインディング エントリを作成できます。

スタティック バインディング エントリを設定するときに、その後に設定（たとえば、到達可能 ライフタイム）を指定すると、その設定はそのスタティック バインディング エントリにのみ適用され、他のスタティック または ダイナミック エントリには適用されません。例：[スタティック バインディング エントリを作成する \(77 ページ\)](#) は、スタティック バインディング エントリを作成する例を示します。

例

- 例：到達可能、ステイル、およびダウンライフタイムにデフォルト以外の値を設定する ([73 ページ](#))
- 例：グローバルレベルとポリシーレベルで到達可能、ステイル、およびダウンライフタイムを設定する ([74 ページ](#))

- 例：スタティック バインディング エントリを作成する (77 ページ)
- 例：グローバルレベルのアドレス制限とポリシーレベルのアドレス制限 (77 ページ)
- 例：VLAN、ポート、および MAC の制限をデフォルト値に設定する (82 ページ)
- 例：MAC アドレスに関連するグローバルレベルの制限とポリシーレベルの制限 (82 ページ)

例：到達可能、ステイル、およびダウンライフタイムにデフォルト以外の値を設定する

次の例には、到達可能、ステイル、およびダウンライフタイムの値を個別に設定した場合のシステムの動作が明確に示されています（影響は累積されません）。また、設定がすべてのライフタイムにわたって保持されるように値を設定する方法も示されています。

この例の最初のステップでは、到達可能ライフタイムのみが設定されます。**stale-lifetime** キーワードと **down-lifetime** キーワードが省略されているため、ダウンライフタイムとステイルライフタイムはデフォルトに設定されます。

```
Device(config)# device-tracking binding reachable-lifetime 700
Device(config)# exit
Device# show running-config | include device-tracking
device-tracking policy sisf-01
  device-tracking attach-policy sisf-01
  device-tracking attach-policy sisf-01 vlan 200device-tracking binding reachable-lifetime
  700
device-tracking binding logging
```

この例の次のステップでは、ステイルライフタイムが 1500 秒、ダウンライフタイムが 1000 秒に設定されます。これにより、前のステップで設定された到達可能ライフタイムはデフォルトになります。

```
Device(config)# device-tracking binding stale-lifetime 1500 down-lifetime 1000
Device(config)# exit
Device# show running-config | include device-tracking
device-tracking policy sisf-01
  device-tracking attach-policy sisf-01
  device-tracking attach-policy sisf-01 vlan 200device-tracking binding stale-lifetime
  1500 down-lifetime 1000
device-tracking binding logging
```

この例の次のステップでは、到達可能、ダウン、およびステイルライフタイムがそれぞれ 700、1000、および 200 に設定されます。これにより、ステイルライフタイムの値が 1500 秒から 1000 秒に変更されます。また、ダウンライフタイムが 1000 から 200 に変更されます。到達可能ライフタイムは 700 秒に設定されます。

```
Device(config)# device-tracking binding reachable-lifetime 700 stale-lifetime 1000
down-lifetime 200
Device(config)# exit
Device# show running-config | include device-tracking
device-tracking policy sisf-01
  device-tracking attach-policy sisf-01
  device-tracking attach-policy sisf-01 vlan 200device-tracking binding reachable-lifetime
```

```
700 stale-lifetime 1000 down-lifetime 200
device-tracking binding logging
```

いずれかのライフタイムを変更する必要があり、他のライフタイムの値を保持する必要がある場合は、毎回、同じコマンドラインを使用して、3つのキーワードすべてを必要な値で再設定する必要があります。

例：グローバルレベルとポリシーレベルで到達可能、ステイル、およびダウンライフタイムを設定する

次に、グローバルレベルでバインディングエントリの到達可能、ステイル、およびダウンライフタイムを設定する例を示します。この例では、その後、ポリシーレベルの設定を指定することにより、グローバル設定を上書きし、特定のインターフェイスまたはVLANで学習されたエントリに異なるライフタイムを設定する方法も示しています。

この例の最初の部分において、**show device-tracking policy policy-name** コマンドの出力は、ポリシーレベルの値が設定されておらず、デフォルトのバインディングテーブル設定が既存のエントリに適用されることを示しています。グローバル コンフィギュレーション モードで **device-tracking binding** コマンドを使用して到達可能、ステイル、およびダウンライフタイムを設定すると、新しい値が有効になり、テーブルに追加された4つの新しいエントリにのみ適用されます。



(注) **show device-tracking database** コマンドの出力のバインディングエントリに関する `Time left` 列に注意してください。各エントリの到達可能ライフタイムが、わずかに異なっています。これは、バインディングテーブルに多数のエントリが追加されるときにシステムパフォーマンスが低下しないようにシステムが課すジッター（設定値の +/-5%）です。バインディングエントリは時間をずらしてライフサイクルを通過するため、輻輳の発生が回避されます。

ポリシーレベルの到達可能ライフタイムが設定されていないことを示している、現在の設定です。バインディングテーブルエントリは、現在の到達可能ライフタイムが500秒（`Time left + age`）であることを示しています。

```
Device# show device-tracking policy sisf-01
Device-tracking policy sisf-01 configuration:
  security-level guard
  device-role node
  gleaning from Neighbor Discovery
  gleaning from DHCP6
  gleaning from ARP
  gleaning from DHCP4
  NOT gleaning from protocol unkn
Policy sisf-01 is applied on the following targets:
Target      Type  Policy      Feature      Target range
Tel/0/4     PORT  sisf-01     Device-tracking vlan 200
```

```
Device# show device-tracking database
Binding Table has 4 entries, 4 dynamic (limit 200000)
Codes: L - Local, S - Static, ND - Neighbor Discovery, ARP - Address Resolution Protocol,
DH4 - IPv4 DHCP, DH6 - IPv6 DHCP, PKT - Other Packet, API - API created
Preflevel flags (prlvl):
0001:MAC and LLA match      0002:Orig trunk      0004:Orig access
0008:Orig trusted trunk    0010:Orig trusted access  0020:DHCP assigned
0040:Cga authenticated     0080:Cert authenticated  0100:Statically assigned
```

```

Network Layer Address          Link Layer Address  Interface  vlan
  prlvl      age      state      Time left      <<<<
ARP 192.0.9.9          000a.959d.6816    Tel1/0/4   200
  0064      40s      REACHABLE  466 s
ARP 192.0.9.8          000a.959d.6816    Tel1/0/4   200
  0064      40s      REACHABLE  472 s
ARP 192.0.9.7          000a.959d.6816    Tel1/0/4   200
  0064      40s      REACHABLE  470 s
ARP 192.0.9.6          000a.959d.6816    Tel1/0/4   200
  0064      40s      REACHABLE  469 s

```

グローバルレベルでの到達可能、ステイル、およびダウンライフタイムの設定です。新しい値は、この後に作成されたバインディングエントリにのみ適用されます。

```

Device(config)# device-tracking binding reachable-lifetime 700 stale-lifetime 1000
down-lifetime 200

```

```

Device # show device-tracking database

```

```

Binding Table has 8 entries, 8 dynamic (limit 200000)

```

```

Codes: L - Local, S - Static, ND - Neighbor Discovery, ARP - Address Resolution Protocol,
DH4 - IPv4 DHCP, DH6 - IPv6 DHCP, PKT - Other Packet, API - API created

```

```

Preflevel flags (prlvl):

```

```

0001:MAC and LLA match      0002:Orig trunk      0004:Orig access
0008:Orig trusted trunk    0010:Orig trusted access  0020:DHCP assigned
0040:Cga authenticated     0080:Cert authenticated  0100:Statically assigned

```

```

Network Layer Address          Link Layer Address  Interface  vlan
  prlvl      age      state      Time left      <<<<
ARP 192.0.9.13          000a.959d.6816    Tel1/0/4   200
  00C8      4s      REACHABLE  699 s          <<<< new global value applied
ARP 192.0.9.12          000a.959d.6816    Tel1/0/4   200
  00C8      4s      REACHABLE  719 s          <<<< new global value applied
ARP 192.0.9.11          000a.959d.6816    Tel1/0/4   200
  00C8      4s      REACHABLE  728 s          <<<< new global value applied
ARP 192.0.9.10          000a.959d.6816    Tel1/0/4   200
  00C8      4s      REACHABLE  712 s          <<<< new global value applied
ARP 192.0.9.9           000a.959d.6816    Tel1/0/4   200
  0064      9mn     STALE      try 0 1209 s
ARP 192.0.9.8           000a.959d.6816    Tel1/0/4   200
  0064      9mn     VERIFY     5 s try 3
ARP 192.0.9.7           000a.959d.6816    Tel1/0/4   200
  0064      9mn     VERIFY     2816 ms try 3
ARP 192.0.9.6           000a.959d.6816    Tel1/0/4   200
  0064      9mn     VERIFY     1792 ms try 3

```

この例の2つ目の部分では、ポリシーレベルの値が設定されており、到達可能ライフタイムが50秒に設定されています。この新しい到達可能ライフタイムは、この後に作成されたエントリにのみ適用されます。

ポリシーレベルでは到達可能ライフタイムのみが設定され、ステイルライフタイムとダウンライフタイムは設定されません。これは、2つの新しいエントリの到達可能ライフタイムが切れ、STALE 状態または DOWN 状態に移行した場合に適用されるのが依然としてグローバル値であることを意味します。

```

Device(config)# device-tracking policy sisf-01

```

```

Device(config-device-tracking)# tracking enable reachable-lifetime 50

```

```

Device# show device-tracking policy sisf-01

```

```

Device-tracking policy sisf-01 configuration:

```

```

  security-level guard
  device-role node

```

```

gleaning from Neighbor Discovery
gleaning from DHCP6
gleaning from ARP
gleaning from DHCP4
NOT gleaning from protocol unkn
tracking enable reachable-lifetime 50 <<<< new value applies only to binding entries
created after this and on interfaces and VLANs where this policy is attached.
Policy sisf-01 is applied on the following targets:
Target      Type  Policy      Feature      Target range
Tel/0/4     PORT  sisf-01     Device-tracking vlan 200

```

```

Device# show device-tracking database
Binding Table has 10 entries, 10 dynamic (limit 200000)
Codes: L - Local, S - Static, ND - Neighbor Discovery, ARP - Address Resolution Protocol,
DH4 - IPv4 DHCP, DH6 - IPv6 DHCP, PKT - Other Packet, API - API created
Preflevel flags (prlvl):
0001:MAC and LLA match      0002:Orig trunk      0004:Orig access
0008:Orig trusted trunk    0010:Orig trusted access  0020:DHCP assigned
0040:Cga authenticated     0080:Cert authenticated  0100:Statically assigned

```

Network Layer Address	prlvl	age	state	Time left	Link Layer Address	Interface	vlan
ARP 192.0.9.21	0064	5s	REACHABLE	45 s	000a.959d.6816	Tel/0/4	200
					<<<< new policy-level value applied		
ARP 192.0.9.20	0064	5s	REACHABLE	46 s	000a.959d.6816	Tel/0/4	200
					<<<< new policy-level value applied		
ARP 192.0.9.13	00C8	14mn	STALE	try 0 865 s	000a.959d.6816	Tel/0/4	200
ARP 192.0.9.12	00C8	14mn	STALE	try 0 183 s	000a.959d.6816	Tel/0/4	200
ARP 192.0.9.11	00C8	14mn	STALE	try 0 178 s	000a.959d.6816	Tel/0/4	200
ARP 192.0.9.10	00C8	14mn	STALE	try 0 165 s	000a.959d.6816	Tel/0/4	200
ARP 192.0.9.9	0064	23mn	STALE	try 0 327 s	000a.959d.6816	Tel/0/4	200
ARP 192.0.9.8	0064	23mn	STALE	try 0 286 s	000a.959d.6816	Tel/0/4	200
ARP 192.0.9.7	0064	23mn	STALE	try 0 303 s	000a.959d.6816	Tel/0/4	200
ARP 192.0.9.6	0064	23mn	STALE	try 0 306 s	000a.959d.6816	Tel/0/4	200

```

Device# show device-tracking database <<<< checking binding table again after new
policy-level reachable-lifetime expires
Binding Table has 7 entries, 7 dynamic (limit 200000)
Codes: L - Local, S - Static, ND - Neighbor Discovery, ARP - Address Resolution Protocol,
DH4 - IPv4 DHCP, DH6 - IPv6 DHCP, PKT - Other Packet, API - API created
Preflevel flags (prlvl):
0001:MAC and LLA match      0002:Orig trunk      0004:Orig access
0008:Orig trusted trunk    0010:Orig trusted access  0020:DHCP assigned
0040:Cga authenticated     0080:Cert authenticated  0100:Statically assigned

```

Network Layer Address	prlvl	age	state	Time left	Link Layer Address	Interface	vlan
ARP 192.0.9.21	0064	3mn	STALE	try 0 887 s	000a.959d.6816	Tel/0/4	200
					<<<< global value applies for stale-lifetime; policy-level value was not configured		
ARP 192.0.9.20	0064	3mn	STALE	try 0 884 s	000a.959d.6816	Tel/0/4	200
					<<<< global value applies for stale-lifetime; policy-level value was not configured		
ARP 192.0.9.13	00C8	17mn	STALE	try 0 664 s	000a.959d.6816	Tel/0/4	200

```

ARP 192.0.9.9          000a.959d.6816      Te1/0/4      200
  0064      27mn      STALE      try 0 136 s
ARP 192.0.9.8          000a.959d.6816      Te1/0/4      200
  0064      27mn      STALE      try 0 96 s
ARP 192.0.9.7          000a.959d.6816      Te1/0/4      200
  0064      27mn      STALE      try 0 108 s
ARP 192.0.9.6          000a.959d.6816      Te1/0/4      200
  0064      27mn      STALE      try 0 111 s

```

例：スタティック バインディング エントリを作成する

次に、スタティック バインディング エントリを作成する例を示します。エントリ先頭の「S」は、スタティック バインディング エントリであることを示します。

```

Device(config)# device-tracking binding vlan 100 192.0.2.1 interface
tengigabitethernet1/0/1 00:00:5e:00:53:af reachable-lifetime infinite
Device(config)# exit
Device# show device-tracking database
Binding Table has 2 entries, 0 dynamic (limit 200000)
Codes: L - Local, S - Static, ND - Neighbor Discovery, ARP - Address Resolution Protocol,
DH4 - IPv4 DHCP, DH6 - IPv6 DHCP, PKT - Other Packet, API - API created
Preflevel flags (prlvl):
0001:MAC and LLA match      0002:Orig trunk      0004:Orig access
0008:Orig trusted trunk    0010:Orig trusted access  0020:DHCP assigned
0040:Cga authenticated     0080:Cert authenticated  0100:Statically assigned

```

prlvl	age	state	Time left	Link Layer Address	Interface	vlan
		0000.5e00.53af		Te1/0/1 100	S 0100	192.0.2.1 14s
REACHABLE	N/A					

例：グローバルレベルのアドレス制限とポリシーレベルのアドレス制限

次に、グローバルレベルとポリシーレベルでアドレス制限を設定するとき、どちらのアドレス制限に達したのかを評価する例を示します。

グローバルレベルの設定は、次のコマンド文字列で設定された値を参照します：**device-tracking binding max-entries no_of_entries [mac-limit no_of_entries | port-limit no_of_entries | vlan-limit no_of_entries]**

ポリシーレベルのパラメータは、デバイストラッキング コンフィギュレーションモードの **limit address-count** オプションを参照します。

この例の最初の部分では、次のように設定されています。

- グローバルレベルの設定：max-entries（最大エントリ数）= 30、vlan-limit（VLAN 制限）= 25、port-limit（ポート制限）= 20、mac-limit（MAC 制限）= 19
- ポリシーレベルの設定：limit address-count（アドレス数制限）= 45

特権 EXEC コマンドの **show device-tracking database details** の出力は、最初にポート制限（max/port）に到達したことを示しています。ポートまたはインターフェイスでは、最大 20 のエントリが許可されます。これ以降、バインディングエントリは作成されません。MAC 制限に設定されている絶対値（19）の方が低いですが、特権 EXEC コマンドの **show device-tracking database mac** の出力は、テーブルのバインディングエントリのリストに一意的な MAC アドレスが 3 つしかないことを示しています。したがって、この制限には達していません。

```

Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)# device-tracking binding max-entries 30 vlan-limit 25 port-limit 20 mac-limit 19
Device(config)# device-tracking policy sisf-01
Device(config-device-tracking)# limit address-count 45
Device(config-device-tracking)# end
Device# show device-tracking policy sisf-01
Device-tracking policy sisf-01 configuration:
  security-level guard
  device-role node
  gleaning from Neighbor Discovery
  gleaning from DHCP6
  gleaning from ARP
  gleaning from DHCP4
  NOT gleaning from protocol unkn
  limit address-count 45
Policy sisf-01 is applied on the following targets:
Target          Type Policy          Feature          Target range
Tel/0/4         PORT  sisf-01         Device-tracking  vlan 200

Device# show device-tracking database details
Binding table configuration:
-----
max/box   : 30
max/vlan  : 25
max/port  : 20
max/mac   : 19

Binding table current counters:
-----
dynamic   : 20
local     : 0
total     : 20   <<<< no further entries created after this.

Binding table counters by state:
-----
REACHABLE : 20
total     : 20
<output truncated>

Device# show device-tracking database
Binding Table has 20 entries, 20 dynamic (limit 30)
Codes: L - Local, S - Static, ND - Neighbor Discovery, ARP - Address Resolution Protocol,
DH4 - IPv4 DHCP, DH6 - IPv6 DHCP, PKT - Other Packet, API - API created
Preflevel flags (prlvl):
0001:MAC and LLA match      0002:Orig trunk           0004:Orig access
0008:Orig trusted trunk     0010:Orig trusted access  0020:DHCP assigned
0040:Cga authenticated     0080:Cert authenticated  0100:Statically assigned

Network Layer Address      Link Layer Address      Interface  vlan
  prlvl      age      state      Time left
ARP 192.0.9.39
  0064      14s      REACHABLE  37 s      000c.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.38
  0064      14s      REACHABLE  37 s      000b.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.37
  0064      14s      REACHABLE  36 s      000b.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.36
  0064      14s      REACHABLE  39 s      000b.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.35
  0064      14s      REACHABLE  38 s      000b.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.34
  0064      14s      REACHABLE  37 s      000b.959d.6816      Te1/0/4      200

```

```

ARP 192.0.9.33
  0064      15s      REACHABLE  36 s      000b.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.32
  0064      15s      REACHABLE  37 s      000b.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.31
  0064      15s      REACHABLE  36 s      000b.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.30
  0064      15s      REACHABLE  36 s      000b.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.29
  0064      15s      REACHABLE  35 s      000b.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.28
  0064      15s      REACHABLE  36 s      000a.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.27
  0064      16s      REACHABLE  35 s      000a.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.26
  0064      16s      REACHABLE  36 s      000a.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.25
  0064      16s      REACHABLE  34 s      000a.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.24
  0064      16s      REACHABLE  35 s      000a.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.23
  0064      16s      REACHABLE  34 s      000a.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.22
  0064      16s      REACHABLE  36 s      000a.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.21
  0064      17s      REACHABLE  33 s      000a.959d.6816      Te1/0/4      200
ARP 192.0.9.20
  0064      17s      REACHABLE  33 s      000a.959d.6816      Te1/0/4      200

```

```
Device# show device-tracking database mac
```

MAC	Interface	vlan	prlvl	state	Time left
Policy	Input_index				
000c.959d.6816	Te1/0/4	200	NO TRUST	MAC-REACHABLE	27 s
sisf-01	12				
000b.959d.6816	Te1/0/4	200	NO TRUST	MAC-REACHABLE	27 s
sisf-01	12				
000a.959d.6816	Te1/0/4	200	NO TRUST	MAC-REACHABLE	27 s
sisf-01	12				

この例の2つ目の部分では、次のように設定されています。

- グローバルレベルの設定：max-entries（最大エン트리数）=30、vlan-limit（VLAN制限）=25、port-limit（ポート制限）=20、mac-limit（MAC制限）=19
- ポリシーレベルの設定：limit address-count（アドレス数制限）=14

最初に到達するのは、ポリシーレベルのアドレス数制限（**limit address-count**）です。ポリシー「sisf-01」が適用されるポートまたはインターフェイスでは、最大14のIPアドレス（IPv4およびIPv6）が許可されます。これ以降、バインディングエント리는作成されません。MAC制限に設定されている絶対値（19）の方が低いですが、テーブルのバインディングエント리의リストには一意のMACアドレスが3つしかありません。したがって、この制限には達していません。

```
Device# configure terminal
```

```
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
```

```
Device(config)# device-tracking policy sisf-01
```

```
Device(config-device-tracking)# limit address-count 14
```

```
Device(config-device-tracking)# end
```

```
Device# show device-tracking policy sisf-01
```

```
Device-tracking policy sisf-01 configuration:
```

```

security-level guard
device-role node
gleaning from Neighbor Discovery
gleaning from DHCP6
gleaning from ARP
gleaning from DHCP4
NOT gleaning from protocol unkn
limit address-count 14
Policy sisf-01 is applied on the following targets:
Target      Type Policy      Feature      Target range
Tel/0/4     PORT  sisf-01     Device-tracking vlan 200

```

すべての既存エントリのステイルライフタイムが切れ、エントリがバインディングテーブルから削除された後、再設定された値に従って新しいエントリが追加されています。

```

Device# show device-tracking database <<<<checking time left for stale-lifetime to
expire for existing entries.
Binding Table has 20 entries, 20 dynamic (limit 30)
Codes: L - Local, S - Static, ND - Neighbor Discovery, ARP - Address Resolution Protocol,
DH4 - IPv4 DHCP, DH6 - IPv6 DHCP, PKT - Other Packet, API - API created
Preflevel flags (prlvl):
0001:MAC and LLA match      0002:Orig trunk      0004:Orig access
0008:Orig trusted trunk    0010:Orig trusted access  0020:DHCP assigned
0040:Cga authenticated     0080:Cert authenticated  0100:Statically assigned

```

Network Layer	Address	prlvl	age	state	Time left	Link Layer Address	Interface	vlan
ARP	192.0.9.39	0064	13mn	STALE	try 0 316 s	000c.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.38	0064	13mn	STALE	try 0 279 s	000b.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.37	0064	13mn	STALE	try 0 308 s	000b.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.36	0064	13mn	STALE	try 0 274 s	000b.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.35	0064	13mn	STALE	try 0 279 s	000b.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.34	0064	13mn	STALE	try 0 261 s	000b.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.33	0064	13mn	STALE	try 0 258 s	000b.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.32	0064	13mn	STALE	try 0 263 s	000b.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.31	0064	13mn	STALE	try 0 266 s	000b.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.30	0064	13mn	STALE	try 0 273 s	000b.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.29	0064	13mn	STALE	try 0 277 s	000b.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.28	0064	13mn	STALE	try 0 282 s	000a.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.27	0064	13mn	STALE	try 0 272 s	000a.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.26	0064	13mn	STALE	try 0 268 s	000a.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.25	0064	13mn	STALE	try 0 244 s	000a.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.24	0064	13mn	STALE	try 0 248 s	000a.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.23	0064	13mn	STALE	try 0 284 s	000a.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.22	0064	13mn	STALE	try 0 241 s	000a.959d.6816	Te1/0/4	200


```

ARP 192.0.9.21          000a.959d.6816      Te1/0/4    200
   0064          13mn      STALE      try 0 256 s
ARP 192.0.9.20          000a.959d.6816      Te1/0/4    200
   0064          13mn      STALE      try 0 243 s
    
```

Device# **show device-tracking database** <<<no output indicates no entries in the database

Device# **show device-tracking database details**

```

Binding table configuration:
-----
max/box   : 30
max/vlan  : 25
max/port  : 20
max/mac   : 19

Binding table current counters:
-----
dynamic   : 14
local     : 0
total     : 14

Binding table counters by state:
-----
REACHABLE : 14
total      : 14
<output truncated>
    
```

Device# **show device-tracking database**

```

Binding Table has 14 entries, 14 dynamic (limit 30)
Codes: L - Local, S - Static, ND - Neighbor Discovery, ARP - Address Resolution Protocol,
      DH4 - IPv4 DHCP, DH6 - IPv6 DHCP, PKT - Other Packet, API - API created
Preflevel flags (prlvl):
0001:MAC and LLA match      0002:Orig trunk          0004:Orig access
0008:Orig trusted trunk    0010:Orig trusted access 0020:DHCP assigned
0040:Cga authenticated     0080:Cert authenticated  0100:Statically assigned
    
```

Network Layer Address prlvl age	state	Time left	Link Layer Address	Interface	vlan
ARP 192.0.9.68 0064 4s	REACHABLE	48 s	0001.5e00.53af	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.67 0064 4s	REACHABLE	48 s	0001.5e00.53af	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.66 0064 4s	REACHABLE	47 s	0001.5e00.53af	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.65 0064 4s	REACHABLE	48 s	0001.5e00.53af	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.64 0064 4s	REACHABLE	46 s	0001.5e00.53af	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.63 0064 7s	REACHABLE	44 s	0000.5e00.53af	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.62 0064 7s	REACHABLE	45 s	0000.5e00.53af	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.61 0064 7s	REACHABLE	43 s	0000.5e00.53af	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.60 0064 7s	REACHABLE	44 s	0000.5e00.53af	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.59 0064 7s	REACHABLE	44 s	0000.5e00.53af	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.58 0064 8s	REACHABLE	44 s	0000.5e00.53af	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.57 0064 8s	REACHABLE	44 s	0000.5e00.53af	Te1/0/4	200

```

ARP 192.0.9.56          0000.5e00.53af      Te1/0/4      200
    0064          10s          REACHABLE    41 s
ARP 192.0.9.55          0000.5e00.53af      Te1/0/4      200
    0064          10s          REACHABLE    40 s

Device# show device-tracking database mac
MAC          Interface  vlan      prlvl      state      Time left
Policy      Input_index
0001.5e00.53af  Tel/0/4    200      NO TRUST   MAC-REACHABLE  30 s
sisf-01      12
0000.5e00.53af  Tel/0/4    200      NO TRUST   MAC-REACHABLE  30 s
sisf-01      12

```

例：VLAN、ポート、および MAC の制限をデフォルト値に設定する

次に、1 つ以上の制限をデフォルト値にリセットする例を示します。

```

Device(config)# device-tracking binding max-entries 30 vlan-limit 25 port-limit 20
mac-limit 19 <<<< all three limits configured.
Device(config)#exit
Device# show device-tracking database details

Binding table configuration:
-----
max/box   : 30
max/vlan  : 25
max/port  : 20
max/mac   : 19
<output truncated>

Device# configure terminal
Device(config)# device-tracking binding max-entries 30 vlan-limit 25 <<<< only VLAN limit
configured; port-limit and mac-limit keywords leftout.
Device(config)# exit
Device# show device-tracking database details

Binding table configuration:
-----
max/box   : 30
max/vlan  : 25
max/port  : no limit    <<<reset to default
max/mac   : no limit    <<<reset to default

```

例：MAC アドレスに関連するグローバルレベルの制限とポリシーレベルの制限

次の例は、グローバルレベルの MAC 制限とポリシーレベルの MAC 制限の優先順位がどのように決定されるのかを示しています。グローバル値は、許可される MAC アドレスあたりのエントリの最大数を指定します。プログラムポリシーでのみ設定可能なポリシーレベルの「MAC アドレスあたりの IPv4 制限」および「MAC アドレスあたりの IPv6 制限」により、許可される MAC アドレスあたりの IPv4 アドレス数および IPv6 アドレス数が指定されます。

この例の最初の部分では、グローバル値（MAC アドレスあたり 10 のエントリが許可される）が、ポリシーレベルの設定（MAC アドレスあたり 3 つの IPv4 アドレスが許可される）よりも高くなっています。特権 EXEC コマンドの **show device-tracking database details** の出力にある「Binding table current counters」（バインディングテーブルの現在のカウンタ）に、それが示されています。つまり、最初に到達するのはポリシーレベルの制限です。



- (注) どのポリシーでも、手動では「MAC アドレスあたりの IPv4 制限」や「MAC アドレスあたりの IPv6 制限」を設定できないため、ポリシーレベルの設定についての設定項目は表示されません。この例では、グローバル コンフィギュレーション モードで **ip dhcp snooping vlan *vlan*** コマンドを設定することにより、DT-PROGRAMMATIC ポリシーがターゲットに適用されます。プログラムで作成されるポリシーには、このパラメータに関する制限があるため、MAC アドレスあたりの IPv4 制限が存在します。

```

Device# configure terminal
Device(config)# ip dhcp snooping vlan 200
Device(config)# end
Device# show device-tracking policy DT-PROGRAMMATIC
Policy DT-PROGRAMMATIC configuration:
  security-level glean (*)
  device-role node
  gleaning from Neighbor Discovery
  gleaning from DHCP
  gleaning from ARP
  gleaning from DHCP4
  NOT gleaning from protocol unkn
  limit address-count for IPv4 per mac 3 (*)
  tracking enable
Policy DT-PROGRAMMATIC is applied on the following targets:
Target      Type      Policy      Feature      Target range
Tel1/0/4    PORT     DT-PROGRAMMATIC  Device-tracking  vlan 200

note:
Binding entry Down timer: 24 hours (*)
Binding entry Stale timer: 24 hours (*)

Device(config)# device-tracking binding max-entries 50 mac-limit 10
Device# show device-tracking database details
Binding table configuration:
-----
max/box    : 50
max/vlan   : no limit
max/port   : no limit
max/mac    : 10

Binding table current counters:
-----
dynamic    : 3
local      : 0
total      : 3

Binding table counters by state:
-----
REACHABLE  : 2
total      : 3

Device# show device-tracking database
Binding Table has 3 entries, 3 dynamic (limit 50)
Codes: L - Local, S - Static, ND - Neighbor Discovery, ARP - Address Resolution Protocol,
DH4 - IPv4 DHCP, DH6 - IPv6 DHCP, PKT - Other Packet, API - API created
Preflevel flags (prlvl):
0001:MAC and LLA match      0002:Orig trunk          0004:Orig access
0008:Orig trusted trunk    0010:Orig trusted access 0020:DHCP assigned
0040:Cga authenticated     0080:Cert authenticated  0100:Statically assigned

```

```

Network Layer Address          Link Layer Address  Interface  vlan
prlvl      age      state      Time left
ARP 192.0.9.8          000a.959d.6816    Tel1/0/4   200
0064      4s      REACHABLE  25 s
ARP 192.0.9.7          000a.959d.6816    Tel1/0/4   200
0064      4s      REACHABLE  27 s
ARP 192.0.9.6          000a.959d.6816    Tel1/0/4   200
0064      55s     VERIFY    5s try 2
<<<<<<policy-level limit reached; only up to 3 IPv4 addresses per MAC address are
allowed.

```

```

Device# show device-tracking database mac
MAC          Interface  vlan      prlvl      state      Time left
Policy      Input_index
000a.959d.6816  Tel1/0/4  200      NO TRUST   MAC-STALE  93585 s
DT-PROGRAMMATIC      12

```

この例の2つ目の部分では、グローバル値（MACアドレスあたり2つのエントリが許可される）が、ポリシーレベルの設定（MACアドレスあたり3つのIPv4アドレスが許可される）よりも低くなっています。特権 EXEC コマンドの **show device-tracking database details** の出力にある「Binding table current counters」（バインディングテーブルの現在のカウンタ）に、それが示されています。つまり、最初に到達するのはポリシーレベルの制限です。

```

Device# show device-tracking policy DT-PROGRAMMATIC

```

```

Policy DT-PROGRAMMATIC configuration:
 security-level glean (*)
 device-role node
 gleaning from Neighbor Discovery
 gleaning from DHCP
 gleaning from ARP
 gleaning from DHCP4
 NOT gleaning from protocol unkn
 limit address-count for IPv4 per mac 3 (*)
 tracking enable
Policy DT-PROGRAMMATIC is applied on the following targets:
Target      Type      Policy      Feature      Target range
Tel1/0/4    PORT     DT-PROGRAMMATIC  Device-tracking  vlan 200

note:
Binding entry Down timer: 24 hours (*)
Binding entry Stale timer: 24 hours (*)

```

```

Device(config)# device-tracking binding max-entries 50 mac-limit 2

```

```

Device# show device-tracking database details

```

```

Binding table configuration:
-----
max/box    : 50
max/vlan   : no limit
max/port   : no limit
max/mac    : 2

Binding table current counters:
-----
dynamic    : 2
local      : 0
total      : 2

Binding table counters by state:
-----

```

```
REACHABLE : 2
total     : 2
```

Device# **show device-tracking database**

Binding Table has 3 entries, 3 dynamic (limit 50)

Codes: L - Local, S - Static, ND - Neighbor Discovery, ARP - Address Resolution Protocol, DH4 - IPv4 DHCP, DH6 - IPv6 DHCP, PKT - Other Packet, API - API created

Preflevel flags (prlvl):

```
0001:MAC and LLA match      0002:Orig trunk          0004:Orig access
0008:Orig trusted trunk    0010:Orig trusted access 0020:DHCP assigned
0040:Cga authenticated     0080:Cert authenticated  0100:Statically assigned
```

Network Layer	Address	prlvl	age	state	Time left	Link Layer Address	Interface	vlan
ARP	192.0.9.3	0064	5s	REACHABLE	27 s	000a.959d.6816	Te1/0/4	200
ARP	192.0.9.4	0064	6s	REACHABLE	20 s	000a.959d.6816	Te1/0/4	200

<<<<<global limit reached; only up to 2 binding entries per MAC address is allowed.

Device# **show device-tracking database mac**

MAC	Policy	Input_index	Interface	vlan	prlvl	state	Time left
000a.959d.6816	DT-PROGRAMMATIC	12	Te1/0/4	200	NO TRUST	MAC-STALE	93585 s

device-tracking logging

パケットドロップ、未解決パケット、MACまたはIP盗難の疑いなどのスヌーピングセキュリティイベントをログに記録するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **device-tracking logging** コマンドを設定します。ロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を入力します。

device-tracking logging [**packet drop** | **resolution-veto** | **theft**]

no device-tracking logging [**packet drop** | **resolution-veto** | **theft**]

構文の説明

packet drop	パケットドロップイベントをログに記録します。
resolution-veto	未解決パケットイベントをログに記録します。
theft	IPおよびMAC盗難イベントをログに記録します。

コマンド デフォルト

イベントはログに記録されません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (Device(config)#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

スヌーピングセキュリティ イベントに関して生成されるログのシビラティ（重大度）レベルは4（つまり、警告）です。次に例を示します。

```
%SISF-4-PAK_DROP: Message dropped A=FE80::20D:FF:FE0E:F G=- V=10 I=Tu0 P=NDP::RA
Reason=Packet not authorized on port
```

特権 EXEC モードで **show logging | include SISF-4** コマンドを入力すると、スヌーピングセキュリティ ログを表示できます。

ログが生成されるスヌーピングイベントの詳細については、対応するリリースの [システムメッセージガイド](#) を参照してください。「SISF-4」を検索してください。

パケットドロップイベント

packet drop キーワードを設定すると、パケットがドロップされるたびにログが生成されます。ログには、パケットドロップの理由も含まれます。この理由には次のものが含まれます（これらだけではありません）。

- Packet not authorized on port（ポートで認可されていないパケット）：これは、設定に基づいて、この種類のパケットがポートで予期されないため、セキュリティ機能によりパケットがドロップされたことを意味します。このようなセキュリティ機能とパケットがドロップされる状況の例としては、「ルータ アドバタイズメント ガード機能は、ルータ側ポートとして設定されていないポートで IPv6 ルータ アドバタイズメント パケットを受信

した場合、そのパケットのドロップを決定することがある」や「DHCP ガード機能は、サーバー側ポートとして設定されていないポートでDHCPサーバーからのパケット（DHCP OFFERまたはDHCPREPLY）を受信した場合、そのパケットをドロップすることがある」などがあります（もちろん、これらだけではありません）。

- **Packet accepted but not forwarded**（受信されるが転送されないパケット）：これは、パケットは転送されないが、バインディング情報を収集するためにそのパケットが依然として有効であると見なされることを意味します。これは、通常、検証フェーズ中（バインディングが過渡的な状態にあるとき）にホストからのパケットが SISF によって認識されたときに見られます。
- **Malformed Packet dropped in Guard mode**（ガードモードでドロップされる不正な形式のパケット）：これは、着信パケットの形式が不正であり、正しく解析できないことを意味します。
- **Packet is throttled**（パケットがスロットルされる）：これは、時間間隔内にパケットのスロットリング制限を超えたためにパケットがドロップされたことを意味します。システムは、5 秒間に最大 50 パケットを許可します。
- **Silent drop**（サイレントドロップ）：これは、デバイストラッキング インスタンスが、複数のスイッチにまたがる異なるインスタンス間で通信するために生成されたパケットか、デバイストラッキングによってトリガーされたアクションへの応答として生成されたパケットに対して発生します。たとえば、ホストの到達可能性のステータスを判断するためにデバイストラッキングによって開始されたプローブでの応答です。
- **Martian packet**（Martian パケット）：これは、着信パケットが Martian 送信元 IP アドレス（マルチキャスト、ループバック、または未指定のアドレスなど）を持っているためにドロップされたことを意味します。
- **Martian mac**（Martian MAC）：これは、着信パケットが Martian MAC またはリンク層の送信元アドレスを持っているためにドロップされたことを意味します。
- **Address limit per box reached**（ボックスあたりのアドレス制限に達した）：これは、グローバル コンフィギュレーション コマンドの **device-tracking binding max-entries no_of_entries** で設定された制限に達したために着信パケットがドロップされたことを意味します。現在の制限を表示するには、特権 EXEC コマンドの **show device-tracking database details** を入力します。
- **Address limit per vlan reached**（VLAN あたりのアドレス制限に達した）：これは、グローバル コンフィギュレーション コマンドの **device-tracking binding max-entries no_of_entries vlan-limit no_of_entries** で設定された制限に達したために着信パケットがドロップされたことを意味します。現在の制限を表示するには、特権 EXEC コマンドの **show device-tracking database details** を入力します。
- **Address limit per port reached**（ポートあたりのアドレス制限に達した）：これは、グローバル コンフィギュレーション コマンドの **device-tracking binding max-entries no_of_entries port-limit no_of_entries** で設定された制限に達したために着信パケットがドロップされたことを意味します。現在の制限を表示するには、特権 EXEC コマンドの **show device-tracking database details** を入力します。

- Address limit per policy reached (ポリシーごとのアドレス制限に達した) : これは、デバイストラッキングコンフィギュレーションモードで **limit address-count ip-per-port** キーワードを使用して設定された制限に達したために着信パケットがドロップされたことを意味します。これはポリシーレベルで設定されます。現在の制限を表示するには、特権 EXEC コマンドの **show device-tracking policypolicy-name** を入力します。
- Address limit per mac reached (MACあたりのアドレス制限に達した) : これは、グローバルコンフィギュレーションコマンドの **device-tracking binding max-entries no_of_entries mac-limit no_of_entries** で設定された制限に達したために着信パケットがドロップされたことを意味します。現在の制限を表示するには、特権 EXEC コマンドの **show device-tracking database details** を入力します。
- Address Family limit per mac reached (MACあたりのアドレスファミリー制限に達した) : これは、プログラムポリシーで指定された MAC あたりの IPv4 制限または MAC あたりの IPv6 制限に達したために着信パケットがドロップされたことを意味します。このポリシーパラメータは設定できません。プログラムで作成されたポリシーには、MAC あたりの IPv4 制限と MAC あたりの IPv6 制限のいずれかまたはその両方が含まれる場合およびその両方が含まれない場合があります。制限が存在する場合、制限を表示するには、特権 EXEC コマンドの **show device-tracking policypolicy-name** を入力します。

解決拒否イベント

resolution-veto キーワードを設定すると、未解決パケットごとにログが生成されます。このロギングオプションは、IPv6宛先ガード機能もイネーブルになっている場合にのみ使用することが意図されています。

IPv6 宛先ガード機能は、リンク上でアクティブであると認識されているアドレスについてのみ、デバイスがアドレス解決を行うようにします。リンク上でアクティブなすべての宛先がバインディングテーブルに入力されます。バインディングテーブルに宛先が見つからない場合、アドレス解決は行われません。**resolution-veto** ロギングを設定することにより、このような未解決パケットを追跡できます。

resolution-veto キーワードが設定されており、IPv6 宛先ガード機能が設定されていない場合、ログは生成されません。

盗難イベント

theft キーワードを設定すると、SISF が IP 盗難と MAC 盗難のいずれかまたは両方を検出したときにログが生成されます。

ログでは、検証されたバインディング情報 (IP、MAC アドレス、インターフェイス、または VLAN) の前に「Known」という用語が付加されます。不審な IP アドレスおよび MAC アドレスの前には「New」または「Cand」という用語が付加されます。不審な IP アドレスまたは MAC アドレスとともにインターフェイスおよび VLAN 情報も提供されます。これは、不審なトラフィックがどこに現れたのかを特定するために役立ちます。

たとえば、次の MAC 盗難ログを参照してください。

```
%SISF-4-MAC_THEFT: MAC Theft Cand IP=2001::12B VLAN=70 MAC=9cfc.e85e.139d Cand I/F=Gil/0/4
Known IP=71.0.0.96 Known I/F=Ac0
```


このログに含まれる「Cand IP=2001::12B」、「VLAN=70」、および「Cand I/F=G11/0/4」は、不審なホストの IP アドレスとそれが現れたインターフェイスを示しています。

このログに含まれる「MAC=9cfc.e85e.139d」は、不審なホストが使用している既知の MAC アドレスを示しています。

このログに含まれる「Known IP=71.0.0.96」および「Known I/F=Ac0」は、既存の検証済みエントリの IP アドレスおよびインターフェイスを示しています。

例

- 例：パケットドロップログ (89 ページ)
- 例：盗難ログ (89 ページ)

例：パケットドロップログ

次に、パケットドロップイベントに関して生成されるログの例を示します。

```
%SISF-4-PAK_DROP: Message dropped A=FE80::20D:FF:FE0E:F G=- V=10 I=Tu0 P=NDP::RA  
Reason=Packet not authorized on port
```

```
%SISF-4-PAK_DROP: Message dropped A=20.0.0.1 M=dead.beef.0001 V=20 I=G11/0/23 P=ARP  
Reason=Packet accepted but not forwarded
```

例：盗難ログ

次に、IP 盗難イベントおよび MAC 盗難イベントに関して生成されるログの例を示します。

```
%SISF-4-MAC_AND_IP_THEFT: MAC_AND_IP Theft A=FE80::EE1D:8BFF:FE9B:102 V=102 I=V1102  
M=ec1d.8b9b.0102 New=Tu0
```

```
%SISF-4-MAC_THEFT: MAC Theft IP=192.2.1.2 VLAN=102 MAC=cafe.cafe.cafe I/F=G11/0/3 New  
I/F over fabric
```

```
%SISF-4-IP_THEFT: IP Theft IP=FE80::9873:1D5E:E6E9:1F7E VLAN=20 MAC=2079.18d5.13ad IF=Ac0  
New I/F over fabric
```

```
%SISF-4-IP_THEFT: IP Theft IP=10.0.187.5 VLAN=10 Cand-MAC=0069.0000.0001 Cand-I/F=G11/0/23  
Known MAC over-fabric Known I/F over-fabric
```

```
%SISF-4-MAC_THEFT: MAC Theft Cand IP=2001::12B VLAN=70 MAC=9cfc.e85e.139d Cand I/F=G11/0/4  
Known IP=71.0.0.96 Known I/F=Ac0
```

device-tracking policy

カスタム デバイストラッキング ポリシーを作成し、デバイストラッキング コンフィギュレーション モードを開始してポリシーのさまざまなパラメータを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **device-tracking policy** コマンドを入力します。デバイストラッキング ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

device-tracking policy *policy-name*
no device-tracking policy *policy-name*

構文の説明

policy-name 指定された名前で作成されたデバイストラッキング ポリシーを作成します（まだ存在しない場合）。プログラムで作成されたポリシーの名前を指定することもできます。

ポリシー名を設定すると、デバイスはデバイストラッキング コンフィギュレーション モードを開始し、ポリシーパラメータを設定できるようになります。設定可能なポリシーパラメータのリストを表示するには、システムプロンプトで疑問符 (?) を入力します。

コマンド デフォルト

SISF ベースのデバイストラッキングはディセーブルになっています。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (Device(config)#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	プログラムポリシー DT_PROGRAMMATIC の特定のパラメータを変更するオプションが導入されました。
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	任意のプログラムで作成されるポリシーのパラメータを変更するオプションは廃止されました。

使用上のガイドライン

グローバル コンフィギュレーション モードで **device-tracking policy***policy-name* コマンドを入力すると、システムは指定された名前で作成されたカスタムポリシーを作成し（まだ存在しない場合）、デバイストラッキング コンフィギュレーション モードを開始します。このモードでは、ポリシーパラメータを設定できます。

ポリシーを作成してそのパラメータを設定したら、それをインターフェイスまたは VLAN にアタッチする必要があります。その後のみ、ネットワークに入るパケットからバインディング情報 (IP および MAC アドレス) を抽出するアクティビティとバインディングエントリの作成が実際に開始されます。ポリシーのアタッチの詳細については、[device-tracking \(インターフェイス コンフィギュレーション\) \(55 ページ\)](#) [device-tracking \(VLAN コンフィギュレーション\) \(59 ページ\)](#) を参照してください。

デバイスで使用可能なすべてのポリシーとそれらがアタッチされているターゲットに関する詳細情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show device-tracking policies detail** コマンドを入力します。

ポリシーパラメータの設定

ポリシーのパラメーターを設定できるのは、それがカスタムポリシーの場合のみです。プログラムポリシーのパラメータは変更できません。また、デフォルトポリシーのパラメータも変更できません。

ポリシーのパラメータのリストを表示するには、デバイストラッキングコンフィギュレーションモードのシステムプロンプトで疑問符 (?) を入力します。

```
Device(config)# device-tracking policy sisf-01
Device(config-device-tracking)# ?
device-tracking policy configuration mode:
  data-glean          binding recovery by data traffic source address
                    gleaning
  default             Set a command to its defaults
  destination-glean  binding recovery by data traffic destination address
                    gleaning
  device-role        Sets the role of the device attached to the port
  distribution-switch Distribution switch to sync with
  exit               Exit from device-tracking policy configuration mode
  limit              Specifies a limit
  medium-type-wireless Force medium type to wireless
  no                 Negate a command or set its defaults
  prefix-glean       Glean prefixes in RA and DHCP-PD traffic
  protocol           Sets the protocol to glean (default all)
  security-level     setup security level
  tracking           Override default tracking behavior
  trusted-port       setup trusted port
  vpc                setup vpc port
```

キーワード	説明
data-glean	<p>ネットワーク内の送信元からスヌーピングされたデータパケットからのアドレスの学習をイネーブルにして、データトラフィックの送信元アドレスとともにバインディングテーブルを読み込みます。次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • log-only : データパケット通知時に syslog メッセージを生成します。 • recovery : プロトコルを使用してバインディングテーブルの回復をイネーブルにします。 NDP または DHCP を入力します。

キーワード	説明
default	<p>ポリシーパラメータをデフォルト値に設定します。次のポリシー属性をデフォルト値に設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • data-glean : 送信元アドレスは学習または収集されていません。 • destination-glean : 宛先アドレスは学習または収集されていません。 • device-role : ノード。 • distribution-switch : サポートされていません。 • limit : アドレス数の制限は設定されていません。 • medium-type-wireless : <tb> • prefix-glean : プレフィックスは学習されていません。 • protocol : すべてのプロトコル (ARP、DHCP4、DHCP6、NDP、およびUDP) のアドレスが収集されます。 • security-level : ガード。 • tracking : ポーリングはディセーブルになっています。 • trusted-port : ディセーブル、つまり、設定されたターゲットでガード機能がイネーブルになっています。 • vpc : サポートされていません。
destination-glean	<p>データトラフィックの宛先アドレスを収集して、バインディングテーブルの読み込みをイネーブルにします。次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • log-only : データパケット通知時に syslog メッセージを生成します。 • recovery : プロトコルを使用してバインディングテーブルの回復をイネーブルにします。NDP または DHCP を入力します。

キーワード	説明
device-role	<p>ポートに面するデバイスのタイプを示します。これは次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • node : ポートのバインディングエントリの作成を許可します。 • switch : ポートのバインディングエントリの作成を停止します。このオプションは、大規模なデバイストラッキングテーブルの可能性が非常に高いマルチスイッチセットアップに適しています。ここで、デバイスに面するポート（アップリンクトランクポート）は、バインディングエントリの作成を停止するように設定できます。トランクポートの反対側のスイッチではデバイストラッキングがイネーブルにされ、バインディングエントリの有効性がチェックされるため、このようなポートに到着するトラフィックは信頼できます。 <p>このオプションは、通常、trusted-port キーワードとともに使用されます。アップリンクトランクポートで device-role オプションと trusted-port オプションの両方を設定すると、効率的で拡張可能な「セキュアゾーン」の構築に役立ちます。バインディングテーブルエントリの作成を効率的に分散させる（したがって、より小さなバインディングテーブルを保つ）ように、両方のパラメータを設定する必要があります。</p>
distribution-switch	<p>このキーワードは、CLI のヘルプに表示されますが、サポートされていません。どの設定も有効になりません。</p>
exit	<p>デバイストラッキングコンフィギュレーションモードを終了して、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。</p>
limit address-count	<p>ポートごとに許可される IPv4 アドレスおよび IPv6 アドレスの最大数を設定します。この制限の目的は、バインディングエントリが既知のホストおよび予期されるホストのみに制限されるようにすることです。</p> <p><i>ip-per-port</i> : ポートで許可する IP アドレスの最大数を入力します。この制限は、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの全体に適用されます。制限に達すると、バインディングテーブルに IP アドレスを追加できなくなり、新しいホストからのトラフィックはドロップされます。</p> <p>1 ~ 32000 の値を入力します。</p>

キーワード	説明
medium-type-wireless	このキーワードは、CLI のヘルプに表示されますが、サポートされていません。どの設定も有効になりません。
no	<p>コマンドを無効にします。つまり、ポリシーパラメータをデフォルト値に戻します。</p> <p>デフォルト値については、default キーワードを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • data-glean • destination-glean • device-role • distribution-switch : サポートされていません。 • limit address-count • medium-type-wireless • prefix-glean • protocol • security-level • tracking • trusted-port • vpc : サポートされていません。
prefix-glean only	<p>IPv6 ルータアドバタイズメントまたは DHCP-PD のどちらかからのプレフィックスの学習をイネーブルにします。次のオプションがあります。</p> <p>(任意) only : プレフィックスのみを収集し、ホストアドレスは収集しません。</p>

キーワード	説明
protocol	<p>指定されたプロトコルのアドレスを収集します。デフォルトでは、すべてが収集されます。次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none">• arp [prefix-list name] : ARP パケットのアドレスを収集します。必要に応じて、照合するプレフィックスリストの名前を入力します。• dhcp4 [prefix-list name] : DHCPv4 パケットのアドレスを収集します。必要に応じて、照合するプレフィックスリストの名前を入力します。• dhcp6 [prefix-list name] : DHCPv6 パケットのアドレスを収集します。必要に応じて、照合するプレフィックスリストの名前を入力します。• ndp [prefix-list name] : NDP パケットのアドレスを収集します。必要に応じて、照合するプレフィックスリストの名前を入力します。• udp [prefix-list name] : このオプションは、CLI のヘルプに表示されますが、サポートされていません。どの設定も有効になりません。

キーワード	説明
security-level	<p>適用されるセキュリティのレベルを指定します。パケットがネットワークに入ると、SISFがIPアドレスとMACアドレス（パケットの送信元）を抽出し、後続のアクションは、ポリシーで設定されているセキュリティレベルによって決まります。</p> <p>次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • glean : IPアドレスとMACアドレスを抽出し、検証なしでバインディングテーブルに入力します。ホストについてのみ学習し、バインディングエントリの認証に関してSISFに依存しない場合は、このオプションを使用します。 • guard : IPアドレスとMACアドレスを抽出し、この情報をバインディングテーブルと照合します。検証の結果により、バインディングエントリが追加または更新されるか、またはパケットがドロップされてクライアントが拒否されるかが決まります。 <p>これは、セキュリティレベルパラメータのデフォルト値です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • inspect : このキーワードはCLIで使用できますが、使用しないことをお勧めします。上記の glean および guard オプションは、ほぼすべての使用例とネットワーク要件に対応します。

キーワード	説明
tracking	<p>到達可能ライフタイムが切れた後にエントリがポーリングされるかどうかを決定します。ポーリングは、ホストの状態、まだ接続されているかどうか、および通信しているかどうかを確認するための、ホストの定期的な条件付きチェックです。ポーリングの詳細については、この後の「使用上のガイドライン」を参照してください。</p> <p>デフォルトでは、ポーリングはイネーブルになっていません。次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • disable : ポーリングアクションをオフにします。 <p>[stale-lifetime {seconds infinite}] : 必要に応じて、ステイルライフタイムを設定することもできます。その場合は、ステイルライフタイムタイマーに関して次のいずれかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • seconds : ステイルライフタイムタイマーの値を設定します。1～86400秒の値を入力します。デフォルト値は86400秒（24時間）です。 • infinite : STALE状態のタイマーをディセーブルにします。これは、エントリがSTALE状態になったときにタイマーが開始されず、エントリが無期限にSTALE状態のままになることを意味します。 <ul style="list-style-type: none"> • enable : ポーリングアクションをオンにします。 <p>[reachable-lifetime [seconds infinite]] : 必要に応じて、到達可能ライフタイムを設定することもできます。その場合は、到達可能ライフタイムタイマーに関して次のいずれかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • seconds : 到達可能ライフタイムタイマーの値を設定します。1～86400秒の値を入力します。デフォルトは300秒（5分）です。 • infinite : REACHABLE状態のタイマーをディセーブルにします。これは、エントリがREACHABLE状態になったときにタイマーが開始されず、エントリが無期限にREACHABLE状態のままになることを意味します。

キーワード	説明
trusted-port	<p>このオプションにより、設定されたターゲットでガード機能がディセーブルになります。trusted-port を経由して学習されたバインディングは、他のどのポートを経由して学習されたバインディングよりも優先されます。また、テーブル内にエントリを作成しているときに衝突が発生した場合も、信頼できるポートが優先されます。</p> <p>このオプションは、通常、device-role キーワードとともに使用されます。アップリンクトランクポートで device-role オプションと trusted-port オプションの両方を設定すると、バインディングテーブルエントリの作成を効率的に分散させる（したがって、より小さなバインディングテーブルを保つ）ために役立ちます。</p>
vpc	このオプションは、CLI のヘルプに表示されますが、サポートされていません。どの設定も有効になりません。

グローバル設定とポリシーレベル設定

デバイストラッキング コンフィギュレーション モードでポリシーパラメータを設定します。ポリシーに関して設定した内容は、そのポリシーにのみ適用されます。一部のポリシーパラメータについては、対応するものがグローバルコンフィギュレーションモードにもあります。グローバルレベルの対応するパラメータの詳細と、優先される値（グローバルに設定された値かポリシーレベルの値か）については、[device-tracking binding \(62 ページ\)](#) を参照してください。

ホストのポーリング

tracking ポリシーパラメータを設定する場合、到達可能ライフタイムが切れると、スイッチがポーリング要求を送信します。スイッチは、システムが決定した固定の間隔で、最大3回ホストをポーリングします。また、グローバル コンフィギュレーション モードで **device-tracking tracking retry-interval seconds** コマンドを使用して間隔を指定することもできます。ポーリング要求は、Address Resolution Protocol (ARP) プローブまたはネイバー送信要求メッセージの形式です。この間、エントリの状態は VERIFY に変わります。

ポーリング応答が受信されると（ホストの到達可能性が確認されると）、エントリの状態は REACHABLE に戻ります。スイッチが3回試行してもポーリング応答を受信しない場合、エントリは STALE 状態に変わります。



(注) **tracking** ポリシーパラメータを使用すると、ポーリングがグローバルコンフィギュレーションレベルでイネーブルにされているかディセーブルにされているか（グローバル コンフィギュレーションモードの **device-tracking tracking** コマンド）に関係なく、ポリシーレベルでポーリングをイネーブルまたはディセーブルにできます。例：[ポリシーレベルでポーリングをディセーブルにする \(99 ページ\)](#) および [device-tracking tracking \(106 ページ\)](#) を参照してください。

アドレス数の制限の変更

limit address-count ポリシーパラメータを使用して制限を設定してから変更した場合、新しい制限は変更後に学習されたエントリにのみ適用されます。さらに、新しい制限が以前の制限より高いか低いかに関係なく、既存のエントリは影響を受けず、バインディングエントリのライフサイクルを通過できます。

バインディングテーブルがいっぱいになっている（以前の制限に従って）場合、既存のエントリがライフサイクルを完了するまで、新しいエントリは追加されません。SISFは、非アクティブエントリのみを識別して削除することにより、新しいエントリのためのスペースを作成しようとしています。ただし、エントリがアクティブである場合、それらのエントリは削除されず、バインディングエントリのライフサイクルを通過できます。

低くした新しい制限をすぐに有効にするには、次のいずれかのオプションを使用できます。

- 特権 EXEC モードで **clear device-tracking database** コマンドを入力し、インターフェイスまたは VLAN を指定します。これにより、指定されたターゲットのデータベースのみから既存のすべてのエントリが削除されます。その後、新しいエントリが学習され、現在のアドレス数制限設定に従って追加されます。例：[アドレス数の制限を変更する（100ページ）](#) を参照してください。
- 必要なターゲットでポリシーを削除して再アタッチします。ポリシーを削除するには、インターフェイスまたは VLAN コンフィギュレーションモードで **no device-tracking policypolicy-name** コマンドを入力します。インターフェイスまたは VLAN からポリシーを削除すると、ターゲットにアタッチされているバインディングが削除されます。それを再アタッチするには、インターフェイスまたは VLAN コンフィギュレーションモードで **device-tracking policypolicy-name** コマンドを入力します。ポリシーを再アタッチすると、新しい制限に従ってすべてのバインディングエントリが学習されます。

例

- 例：[ポリシーレベルでポーリングをディセーブルにする（99ページ）](#)
- 例：[アドレス数の制限を変更する（100ページ）](#)

例：ポリシーレベルでポーリングをディセーブルにする

次に、ポーリングがグローバルレベルでイネーブルになっている場合でも、ポリシーレベルでポーリングをディセーブルにする例を示します。ここでは、ポリシー `sisf-01` が適用されるすべてのインターフェイスおよび VLAN についてポーリングがディセーブルになっています。

```
Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)# device-tracking tracking
Device(config)# exit
Device# show running-config | include device-tracking device-tracking tracking
device-tracking policy sif-01
  device-tracking attach-policy sif-01
  device-tracking attach-policy sif-01 vlan 200
```

```
device-tracking binding reachable-lifetime 700 stale-lifetime 1000 down-lifetime 200
device-tracking binding logging
```

```
Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)# device-tracking policy sifs-01
Device(config-device-tracking)# tracking disable
Device(config-device-tracking)# end
Device# show device-tracking policy sifs-01
Device-tracking policy sifs-01 configuration:
```

```
security-level guard
device-role node
gleaning from Neighbor Discovery
gleaning from DHCP6
gleaning from ARP
gleaning from DHCP4
NOT gleaning from protocol unkn
limit address-count 5
tracking disable
```

Policy sifs-01 is applied on the following targets:

Target	Type	Policy	Feature	Target range
Tel/0/4	PORT	sifs-01	Device-tracking	vlan 200
vlan 200	VLAN	sifs-01	Device-tracking	vlan all

例：アドレス数の制限を変更する

次に、**limit address-count** ポリシーパラメータ設定の変更をすぐに有効にする例を示します。この例では、変更した設定をすぐに有効にするために、**clear** コマンドを使用して、バインディングテーブルからすべてのエントリを削除します。

```
Device# show device-tracking policy sifs-01
Device-tracking policy sifs-01 configuration:
```

```
security-level guard
device-role node
gleaning from Neighbor Discovery
gleaning from DHCP6
gleaning from ARP
gleaning from DHCP4
NOT gleaning from protocol unkn
limit address-count 25
```

Policy sifs-01 is applied on the following targets:

Target	Type	Policy	Feature	Target range
Tel/0/4	PORT	sifs-01	Device-tracking	vlan 200
vlan 200	VLAN	sifs-01	Device-tracking	vlan all

```
Device# show running-config | include device-tracking
```

```
device-tracking policy sifs-01
device-tracking attach-policy sifs-01
device-tracking attach-policy sifs-01 vlan 200
device-tracking binding reachable-lifetime 700 stale-lifetime 1000 down-lifetime 200
device-tracking binding logging
```

```
*Dec 13 15:08:50.723: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.25 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Tel/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.723: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.26 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Tel/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.724: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.27 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Tel/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.724: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.28 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Tel/0/4 Preflevel=00FF
```

```
*Dec 13 15:08:50.724: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.29 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.724: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.30 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.725: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.31 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.725: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.32 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.725: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.33 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.725: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.34 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.726: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.35 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.726: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.36 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.726: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.37 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.726: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.38 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.727: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.39 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.727: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.40 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.727: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.41 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.727: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.42 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.728: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.43 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.728: %SISF-6-ENTRY_MAX_ORANGE: Reaching 80% of max adr allowed per
policy (25) V=200 I=Te1/0/4 M=001d.4411.3ab7
*Dec 13 15:08:50.728: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.44 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.728: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.45 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.728: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.46 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.729: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.47 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.729: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.48 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:08:50.729: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.49 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
```

```
Device# show device-tracking database Binding Table has 25 entries, 25 dynamic (limit
200000)
Codes: L - Local, S - Static, ND - Neighbor Discovery, ARP - Address Resolution Protocol,
DH4 - IPv4 DHCP, DH6 - IPv6 DHCP, PKT - Other Packet, API - API created
Preflevel flags (prlvl):
0001:MAC and LLA match      0002:Orig trunk           0004:Orig access
0008:Orig trusted trunk    0010:Orig trusted access  0020:DHCP assigned
0040:Cga authenticated    0080:Cert authenticated  0100:Statically assigned
```

Network Layer Address	Link Layer Address	Interface	vlan
ARP 192.0.9.49 00FF 22s	001d.4411.3ab7	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.48 00FF 22s	001d.4411.3ab7	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.47 00FF 22s	001d.4411.3ab7	Te1/0/4	200
ARP 192.0.9.46	001d.4411.3ab7	Te1/0/4	200

```

00FF      22s      REACHABLE  714 s
ARP 192.0.9.45      001d.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  692 s
ARP 192.0.9.44      001d.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  702 s
ARP 192.0.9.43      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  680 s
ARP 192.0.9.42      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  708 s
ARP 192.0.9.41      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  683 s
ARP 192.0.9.40      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  708 s
ARP 192.0.9.39      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  710 s
ARP 192.0.9.38      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  697 s
ARP 192.0.9.37      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  707 s
ARP 192.0.9.36      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  695 s
ARP 192.0.9.35      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  708 s
ARP 192.0.9.34      001c.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  706 s
ARP 192.0.9.33      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  683 s
ARP 192.0.9.32      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  697 s
ARP 192.0.9.31      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  683 s
ARP 192.0.9.30      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  678 s
ARP 192.0.9.29      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  696 s
ARP 192.0.9.28      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  704 s
ARP 192.0.9.27      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  713 s
ARP 192.0.9.26      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  695 s
ARP 192.0.9.25      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      22s      REACHABLE  686 s

```

アドレス数の制限は、25 から、より制限の低い5に変更されます。ただし、既存のエントリは、バインディングエントリのライフサイクルを完了していないため、バインディングテーブルから削除されません。新しいアドレス数の制限（5）をすぐに有効にするには、**clear device-tracking database** コマンドを使用して既存のエントリをすべて削除します。その後、新しいエントリが学習され、現在のアドレス数制限設定に従って追加されます。

```

Device# configure terminal
Device(config)# device-tracking policy sisf-01
Device(config-device-tracking)# limit address-count 5
Device(config-device-tracking)# end
Device# show device-tracking policy sisf-01
Device-tracking policy sisf-01 configuration:
  security-level guard
  device-role node
  gleaning from Neighbor Discovery
  gleaning from DHCP6

```

```

gleaning from ARP
gleaning from DHCP4
NOT gleaning from protocol unkn
limit address-count 5
Policy sisf-01 is applied on the following targets:
Target          Type  Policy          Feature          Target range
Tel1/0/4        PORT  sisf-01         Device-tracking  vlan 200
vlan 200        VLAN  sisf-01         Device-tracking  vlan all

Device# show device-tracking database
Binding Table has 25 entries, 25 dynamic (limit 200000)
Codes: L - Local, S - Static, ND - Neighbor Discovery, ARP - Address Resolution Protocol,
DH4 - IPv4 DHCP, DH6 - IPv6 DHCP, PKT - Other Packet, API - API created
Preflevel flags (prlvl):
0001:MAC and LLA match      0002:Orig trunk          0004:Orig access
0008:Orig trusted trunk    0010:Orig trusted access 0020:DHCP assigned
0040:Cga authenticated     0080:Cert authenticated  0100:Statically assigned

      Network Layer Address          Link Layer Address  Interface  vlan
      prlvl   age      state      Time left
ARP 192.0.9.49 00FF 67s    REACHABLE  654 s    001d.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.48 00FF 67s    REACHABLE  646 s    001d.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.47 00FF 67s    REACHABLE  642 s    001d.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.46 00FF 67s    REACHABLE  669 s    001d.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.45 00FF 67s    REACHABLE  647 s    001d.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.44 00FF 67s    REACHABLE  657 s    001d.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.43 00FF 67s    REACHABLE  635 s    001c.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.42 00FF 67s    REACHABLE  663 s    001c.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.41 00FF 67s    REACHABLE  638 s    001c.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.40 00FF 67s    REACHABLE  663 s    001c.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.39 00FF 67s    REACHABLE  665 s    001c.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.38 00FF 67s    REACHABLE  652 s    001c.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.37 00FF 67s    REACHABLE  662 s    001c.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.36 00FF 67s    REACHABLE  650 s    001c.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.35 00FF 67s    REACHABLE  663 s    001c.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.34 00FF 67s    REACHABLE  661 s    001c.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.33 00FF 67s    REACHABLE  637 s    001b.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.32 00FF 67s    REACHABLE  652 s    001b.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.31 00FF 67s    REACHABLE  638 s    001b.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.30 00FF 67s    REACHABLE  633 s    001b.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.29 00FF 67s    REACHABLE  651 s    001b.4411.3ab7    Tel1/0/4    200
ARP 192.0.9.28 00FF 67s    REACHABLE  651 s    001b.4411.3ab7    Tel1/0/4    200

```

```

00FF      67s      REACHABLE  658 s
ARP 192.0.9.27      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      67s      REACHABLE  668 s
ARP 192.0.9.26      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      67s      REACHABLE  650 s
ARP 192.0.9.25      001b.4411.3ab7      Te1/0/4      200
00FF      67s      REACHABLE  641 s

```

Device# **clear device-tracking database**

```

*Dec 13 15:10:22.837: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.49 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.838: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.48 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.838: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.47 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.838: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.46 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.839: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.45 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.839: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.44 VLAN=200
MAC=001d.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.839: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.43 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.839: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.42 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.840: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.41 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.840: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.40 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.840: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.39 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.841: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.38 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.841: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.37 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.841: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.36 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.842: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.35 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.842: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.34 VLAN=200
MAC=001c.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.842: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.33 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.842: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.32 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.843: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.31 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.843: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.30 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.843: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.29 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.844: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.28 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.844: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.27 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.844: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.26 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:10:22.844: %SISF-6-ENTRY_DELETED: Entry deleted IP=192.0.9.25 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF

```

Device# **show device-tracking database**

<no output; binding table cleared>


```
*Dec 13 15:11:38.346: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.25 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:11:38.346: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.26 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:11:38.347: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.27 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:11:38.347: %SISF-6-ENTRY_MAX_ORANGE: Reaching 80% of max adr allowed per
policy (5) V=200 I=Te1/0/4 M=001b.4411.3ab7
*Dec 13 15:11:38.347: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.28 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
*Dec 13 15:11:38.347: %SISF-6-ENTRY_CREATED: Entry created IP=192.0.9.29 VLAN=200
MAC=001b.4411.3ab7 I/F=Te1/0/4 Preflevel=00FF
```

Device# **show device-tracking database**

Binding Table has 5 entries, 5 dynamic (limit 200000)

Codes: L - Local, S - Static, ND - Neighbor Discovery, ARP - Address Resolution Protocol,
DH4 - IPv4 DHCP, DH6 - IPv6 DHCP, PKT - Other Packet, API - API created

Preflevel flags (prlvl):

```
0001:MAC and LLA match      0002:Orig trunk          0004:Orig access
0008:Orig trusted trunk    0010:Orig trusted access  0020:DHCP assigned
0040:Cga authenticated    0080:Cert authenticated  0100:Statically assigned
```

Network Layer Address	Link Layer Address	Interface	vlan
prlvl	age	state	Time left
ARP 192.0.9.29 00FF	001b.4411.3ab7	Te1/0/4	200
15s	REACHABLE	716 s	
ARP 192.0.9.28 00FF	001b.4411.3ab7	Te1/0/4	200
15s	REACHABLE	702 s	
ARP 192.0.9.27 00FF	001b.4411.3ab7	Te1/0/4	200
15s	REACHABLE	705 s	
ARP 192.0.9.26 00FF	001b.4411.3ab7	Te1/0/4	200
15s	REACHABLE	716 s	
ARP 192.0.9.25 00FF	001b.4411.3ab7	Te1/0/4	200
15s	REACHABLE	718 s	

device-tracking tracking

IPv4 および IPv6 のポーリングをイネーブルにして、ポーリングパラメータを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **device-tracking tracking** コマンドを設定します。ポーリングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を入力します。



(注) このコマンドは、SISF ベースのデバイストラッキング機能をイネーブルにしません。これにより、デバイストラッキング機能がイネーブルになっているデバイスでのポーリングパラメータの設定が可能になります。

```
device-tracking tracking [ auto-source [ fallback ipv4_and_fallback_source_mask ip_prefix_mask
[ override ] | retry-interval seconds ]
```

```
no device-tracking tracking [ auto-source | retry-interval ]
```

構文の説明

auto-source

Address Resolution Protocol (ARP) プロープの送信元アドレスが、次の優先順位で使用されるようにします。

- 第1の優先事項は、SVI が設定されている場合に、送信元アドレスを VLAN SVI に設定することです。
- 第2の優先事項は、同じサブネットからデバイストラッキングテーブル内の IP-MAC バインディングエントリを見つけ、それを送信元アドレスとして使用することです。
- 第3の最後の優先事項は、送信元アドレスとして 0.0.0.0 を使用することです。

fallback <i>ipv4_and_fallback_source_maskip_prefix_mask</i>	<p>ARPプローブの送信元アドレスが、次の優先順位で使用されるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none">• 第1の優先事項は、SVIが設定されている場合に、送信元アドレスをVLAN SVIに設定することです。• 第2の優先事項は、同じサブネットからデバイストラッキングテーブル内のIP-MACバインディングエントリを見つけ、それを送信元アドレスとして使用することです。• 第3の最後の優先事項は、クライアントのIPv4アドレスおよび提供されたマスクから送信元アドレスを計算することです。 <p>送信元MACアドレスは、クライアント側のスイッチポートのMACアドレスから取得されます。</p> <p>fallback キーワードを設定する場合は、IPアドレスとマスクも指定する必要があります。</p>
---	--

override	<p>ARPプローブの送信元アドレスが、次の優先順位で使用されるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none">• 第1の優先事項は、これが設定されている場合に、送信元アドレスをVLAN SVIに設定することです。• 第2の最後の優先事項は、送信元アドレスとして0.0.0.0を使用することです。 <p>(注) このキーワードにより、SISFは、バインディングテーブルから送信元アドレスを選択しないように設定されます。SVIが設定されていない場合、このオプションの使用はお勧めできません。</p>
-----------------	---

retry-interval *seconds*

バックオフアルゴリズムの乗算係数または「基本値」を設定します。バックオフアルゴリズムにより、到達可能ライフタイムが切れた後に3回試行されるポーリングの間の待機時間が決定されます。

1～3600秒の値を入力します。デフォルト値は1です。

ポーリング時には、3回のポーリング試行または再試行の間に、増加する待機時間があります。バックオフアルゴリズムにより、この待機時間が決定されます。再試行間隔に設定した値は、バックオフアルゴリズムの待機時間で乗算されます。

たとえば、バックオフアルゴリズムにより3回の試行の間でそれぞれ2、4、および6秒の待機時間が決定され、再試行間隔を2秒に設定した場合、観測される実際の間隔は、最初のポーリング試行までの待機時間が2 X 2秒、2回目のポーリング試行までの待機時間が2 X 4秒、3回目のポーリング試行までの待機時間が2 X 6秒になります。

ポーリングがイネーブルになっているのに再試行間隔が設定されていない場合、スイッチは、システムによって決定される間隔で最大3回ホストをポーリングします。

この設定は、ARPプロローブとネイバー送信要求メッセージに適用されます。

コマンド デフォルト ポーリングは、デフォルトではディセーブルになっています。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (Device(config)#)

コマンド履歴

リリース **変更内容**

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ポーリングは、ホストの状態、まだ接続されているかどうか、および通信しているかどうかを確認するための、ホストの定期的な条件付きチェックです。ポーリングにより、トラッキング対象デバイスの継続的な存在を評価できます。

ポーリングは、到達可能ライフタイムタイマーが切れた後に3回試行され、ステイルライフタイムが切れるときの最終的に1回試行されます。

- IPv4 ネットワークでは、ポーリングはARPプロローブの形式です。この場合、スイッチは、接続されたホストにユニキャスト ARP プロローブを送信して、ホストの到達可能性ステータスを評価します。

タスを判別します。ARP プローブを送信する場合、システムは、RFC 5227 仕様に従ってパケットを構築します。

- IPv6 ネットワークでは、ポーリングはネイバー送信要求メッセージの形式です。この場合、スイッチは、接続されたホストのユニキャストアドレスを宛先アドレスとして使用して、接続されたホストの到達可能性を検証します。

IPv4 および IPv6 のポーリングをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **device-tracking tracking** コマンドを設定します。

また、到達可能ライフタイムタイマーが切れた後のポーリング間隔を設定するには、**retry-interval seconds** も設定します。



(注) **auto-source** キーワード、**fallback ipv4_and_fallback_source_maskip_prefix_mask** キーワード、および **override** キーワードは、ARP プローブにのみ適用され、ネイバー送信要求メッセージには適用されません。

retry-interval seconds キーワードに設定する値は、IPv4 と IPv6 の両方に適用されます。

現在のポーリング設定を表示するには、**show running-config | include device-tracking** を入力します。次に例を示します。

```
Device# show running-config | include device-tracking
device-tracking tracking retry-interval 2
device-tracking policy sisf-01
  device-tracking attach-policy sisf-01 vlan 200
device-tracking binding reachable-lifetime 50 stale-lifetime 150 down-lifetime 30
device-tracking binding logging
```

エントリのさまざまなライフタイムの期間を表示するには、特権 EXEC モードで **show device-tracking database** コマンドを入力します。ポーリング中に、システムは、エントリの状態を **VERIFY** に変更します。期間を観測するには、出力の **Time left** 列を調べます。

show device-tracking database コマンドを使用してエントリの到達可能ライフタイムとステイルライフタイムをトラッキングし、ポーリングをイネーブルにすると、ステイルライフタイムが設定よりも短い場合があることに気付く可能性があります。これは、ポーリングに必要な時間がステイルライフタイムから差し引かれるためです。

ポーリングのグローバル設定とポリシーレベル設定

グローバル コンフィギュレーション モードで **device-tracking tracking** コマンドを設定した後も、個々のインターフェイスおよび VLAN で、ポーリングを柔軟にオンまたはオフにできます。このためには、ポリシーでポーリングを有効または無効にする必要があります。グローバル設定とポリシーレベル設定がどのように相互作用するのかに注意してください。

グローバル設定	ポリシーレベル設定	結果
ポーリングはグローバルレベルでイネーブルになります。 Device(config)# device-tracking tracking	インターフェイスまたは VLAN でポーリングがイネーブルになります。 Device(config-device-tracking)# tracking enable	インターフェイスまたは VLAN でポーリングが有効になります。
	インターフェイスまたは VLAN でポーリングがディセーブルになります。 Device(config-device-tracking)# tracking disable	インターフェイスまたは VLAN でポーリングが無効になります。
	インターフェイスまたは VLAN でデフォルトポーリングが設定されます。 Device(config-device-tracking)# default tracking	ポーリングがグローバル コンフィギュレーション レベルでイネーブルに なっているため、 ポーリングはインター フェイスまたは VLAN で有効 になります。
	インターフェイスまたは VLAN でこのコマンドの no 形式が設定されます。 Device(config-device-tracking)# no tracking	コマンドの no 形式を使用 すると、コマンドがデ フォルト値に設定さ れます。ただし、 ポーリングがグロー バルコンフィギュ レーションレベル でイネーブルになっ ているため、ポー リングはインター フェイスまたは VLAN で有効 になります。

グローバル設定	ポリシーレベル設定	結果
ポーリングはグローバルレベルでディセーブルになります。 Device (config) # no device-tracking tracking	インターフェイスまたは VLAN でポーリングがイネーブルになります。 Device (config-device-tracking) # tracking enable	インターフェイスまたは VLAN でポーリングが有効になります。
	インターフェイスまたは VLAN でポーリングがディセーブルになります。 Device (config-device-tracking) # tracking disable	インターフェイスまたは VLAN でポーリングが無効になります。
	インターフェイスまたは VLAN でデフォルトポーリングが設定されます。 Device (config-device-tracking) # default tracking	インターフェイスまたは VLAN でポーリングが無効になります。
	インターフェイスまたは VLAN でこのコマンドの no 形式が設定されます。 Device (config-device-tracking) # no tracking	インターフェイスまたは VLAN でポーリングが無効になります。

device-tracking upgrade-cli

レガシー IP デバイストラッキング (IPDT) および IPv6 スヌーピングコマンドを SISF コマンドに変換するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **device-tracking upgrade-cli** コマンドを設定します。レガシーコマンドに戻すには、このコマンドの **no** 形式を入力します。

device-tracking upgrade-cli [**force** | **revert**]

no device-tracking upgrade-cli [**force** | **revert**]

構文の説明

force 確認手順をスキップし、レガシー IPDT および IPv6 スヌーピングコマンドを SISF コマンドに変換します。

revert レガシー IPDT および IPv6 スヌーピングコマンドに戻します。

コマンド デフォルト

レガシー IPDT および IPv6 スヌーピングコマンドは、そのまま残ります。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (Device(config)#)

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a このコマンドが導入されました。

デバイスにあるレガシー設定に基づいて、**device-tracking upgrade-cli** コマンドは CLI を異なる方法でアップグレードします。既存の設定を移行する前に、次の設定シナリオ、および対応する移行結果を検討します。



(注) 古い IPDT と IPv6 スヌーピング CLI を SISF ベースのデバイストラッキング CLI と併用することはできません。

IPDT 設定のみが存在する

デバイスに IPDT 設定のみがある場合は、**device-tracking upgrade-cli** コマンドを実行すると、設定が変換され、新しく作成されてインターフェイスで適用される SISF ポリシーが使用されます。これにより、この SISF ポリシーを更新できます。

引き続きレガシーコマンドを使用する場合、レガシーモードでの操作に制限されます。このモードでは、レガシー IPDT と IPv6 スヌーピングコマンドのみがデバイスで使用可能になります。

IPv6 スヌーピング設定のみが存在する

既存の IPv6 スヌーピング設定があるデバイスで、古い IPv6 スヌーピングコマンドを以降の設定に使用できます。次のオプションを使用できます。

- (推奨) **device-tracking upgrade-cli** コマンドを使用して、レガシー設定をすべて、新しい SISF ベースのデバイストラッキング コマンドに変換します。変換後は、新しいデバイストラッキング コマンドのみがデバイスで動作します。
- レガシー IPv6 スヌーピングコマンドを今後の設定に使用し、**device-tracking upgrade-cli** コマンドは実行しません。このオプションでは、デバイスで使用可能なのはレガシー IPv6 スヌーピングコマンドのみであり、新しい SISF ベースのデバイストラッキング CLI コマンドは使用できません。

IPDT と IPv6 スヌーピングの両方の設定が存在する

レガシー IPDT 設定と IPv6 スヌーピング設定の両方が存在するデバイスでは、レガシーコマンドを SISF ベースのデバイストラッキング CLI コマンドに変換できます。ただし、インターフェイスに適用することができるスヌーピングポリシーは 1 つだけであり、IPv6 スヌーピングポリシーパラメータは IPDT 設定よりも優先される、ということに注意してください。



- (注) 新しい SISF ベースのコマンドに移行しておらず、レガシー IPv6 スヌーピングや IPDT コマンドを使用し続けている場合、IPv4 デバイストラッキング設定情報が IPv6 スヌーピングコマンドに表示される可能性があります。SISF ベースのデバイストラッキング機能では、IPv4 と IPv6 の両方の設定を扱うためです。これを回避するには、レガシー設定を SISF ベースのデバイストラッキング コマンドに変換することを推奨します。

IPDT または IPv6 スヌーピング設定が存在しない

デバイスにレガシー IP デバイストラッキング設定も IPv6 スヌーピング設定もない場合は、今後の設定に使用できるのは新しい SISF ベースのデバイストラッキング コマンドのみです。レガシー IPDT コマンドと IPv6 スヌーピングコマンドは使用できません。

例

次に、IPv6 スヌーピングコマンドを SISF ベースのデバイストラッキング コマンドに変換する例を示します。

```
Device# show ipv6 snooping features
Feature name  priority state
Device-tracking  128  READY
Source guard   32   READY

Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
Device(config)# device-tracking upgrade-cli
 IPv6 Snooping and IPv4 device tracking CLI will be
 converted to the new top level device-tracking CLI
Are you sure ? [yes]: yes
Number of Snooping Policies Upgraded: 2
Device(config)# exit
```

変換後、新しい SISF ベースのデバイストラッキング コマンドのみがデバイスで動作します。

```
Device# show ipv6 snooping features
```

```
      ^  
% Invalid input detected at '^' marker.
```

```
Device# show device-tracking features
```

```
Feature name  priority state  
Device-tracking  128  READY  
Source guard    32   READY
```

```
Device# show device-tracking policies
```

Target	Type	Policy	Feature	Target range
Tel/0/4	PORT	sisf-01	Device-tracking	vlan 200
vlan 200	VLAN	sisf-01	Device-tracking	vlan all

dot1x critical (グローバル コンフィギュレーション)

IEEE 802.1X クリティカル認証パラメータを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dot1x critical** コマンドを使用します。

dot1x critical eapol

構文の説明

eapol デバイスがクリティカルポートを正常に認証すると、スイッチがEAPOL成功メッセージを送信するように指定します。

コマンド デフォルト

eapol はディセーブルです

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、デバイスがクリティカルポートを正常に認証すると、デバイスが EAPOL 成功メッセージを送信するように指定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# dot1x critical eapol
Device(config)# exit
```

dot1x logging verbose

802.1X システムメッセージから詳細情報をフィルタリングするには、デバイススタックまたはスタンドアロンデバイス上で **dot1x logging verbose** コマンドをグローバル コンフィギュレーション モードで使用します。

dot1x logging verbose
no dot1x logging verbose

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

システムメッセージの詳細ログは有効になっていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにより、802.1X システムメッセージから、予測される成功などの詳細情報がフィルタリングされます。失敗メッセージはフィルタリングされません。

次に、verbose 802.1X システムメッセージをフィルタリングする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# dot1x logging verbose
Device(config)# exit
```

関連コマンド

コマンド	Description
authentication logging verbose	認証システムメッセージから詳細情報をフィルタリングする
dot1x logging verbose	802.1X システムメッセージから詳細情報をフィルタリングする
mab logging verbose	MAC 認証バイパス (MAB) システムメッセージから詳細情報をフィルタリングする

dot1x max-start

もう一方の端で 802.1X が認識されないと判断されるまでにサブリカントがクライアントに送信する（応答が受信されないと想定）Extensible Authentication Protocol over LAN（EAPOL）開始フレームの最大数を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **dot1x max-start** コマンドを使用します。最大回数の設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dot1x max-start *number*
no dot1x max-start

構文の説明	<i>number</i> ルータが EAPOL 開始フレームを送信する最大回数を指定します。1 ~ 10 の値を指定できます。デフォルトは 3 です。	
コマンド デフォルト	デフォルトの最大数の設定は 3 です。	
コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	このコマンドを入力する前に、スイッチポートで switchport mode access コマンドを入力する必要があります。	

次に、EAPOL 開始要求の最大数が 5 に設定されている例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 1/0/3
Device(config-if)# dot1x max-start 5
Device(config-if)# end
```

dot1x pae

Port Access Entity (PAE) タイプを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **dot1x pae** コマンドを使用します。設定された PAE タイプをディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を入力します。

```
dot1x pae {supplicant | authenticator}
no dot1x pae {supplicant | authenticator}
```

構文の説明

supplicant インターフェイスはサブリカントとしてだけ機能し、オーセンティケータ向けのメッセージに応答しません。

authenticator インターフェイスはオーセンティケータとしてだけ動作し、サブリカント向けのメッセージに応答しません。

コマンド デフォルト

PAE タイプは設定されていません。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

IEEE 802.1X 認証をポート上でディセーブルにする場合は、**no dot1x pae** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

dot1x port-control インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力するなどしてポート上で IEEE 802.1X 認証を設定した場合、デバイスは自動的にポートを IEEE 802.1X オーセンティケータとして設定します。オーセンティケータの PAE 動作は、**no dot1x pae** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力した後でディセーブルになります。

次に、インターフェイスがサブリカントとして動作するように設定されている例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 1/0/3
Device(config-if)# dot1x pae supplicant
Device(config-if)# end
```

dot1x supplicant controlled transient

認証中に 802.1X サプリカントポートへのアクセスを制御するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dot1x supplicant controlled transient** コマンドを使用します。認証中に サプリカントのポートを開くには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dot1x supplicant controlled transient
no dot1x supplicant controlled transient

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

認証中に 802.1X サプリカントのポートへのアクセスが許可されます。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、BPCU ガードがイネーブルにされたオーセンティケータスイッチにサプリカントのデバイスを接続する場合、オーセンティケータのポートはサプリカントスイッチが認証する前にスパンニングツリープロトコル (STP) のブリッジプロトコルデータユニット (BPDU) を受信した場合、**errdisable** 状態になる可能性があります。認証中にサプリカントのポートから送信されるトラフィックを制御できます。**dot1x supplicant controlled transient** コマンドを入力すると、認証が完了する前にオーセンティケータポートがシャットダウンすることがないように、認証中に一時的にサプリカントのポートがブロックされます。認証に失敗すると、サプリカントのポートが開きます。**no dot1x supplicant controlled transient** コマンドを入力すると、認証期間中にサプリカントポートが開きます。これはデフォルトの動作です。

BPDU ガードが **spanning-tree bpduguard enable** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドによりオーセンティケータ スイッチ ポートでイネーブルになっている場合、サプリカントデバイスで **dot1x supplicant controlled transient** コマンドを使用することを推奨します。

次に、認証の間にデバイスの 802.1X サプリカントのポートへのアクセスを制御する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# dot1x supplicant controlled transient
Device(config)# exit
```

dot1x supplicant force-multicast

サブリカントスイッチでマルチキャストまたはユニキャストの Extensible Authentication Protocol over LAN (EAPOL) パケットを受信した場合に、常にマルチキャスト EAPOL パケットのみを送信するように強制するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **dot1x supplicant force-multicast** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dot1x supplicant force-multicast
no dot1x supplicant force-multicast

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

サブリカントデバイスは、ユニキャスト EAPOL パケットを受信すると、ユニキャスト EAPOL パケットを送信します。同様に、マルチキャスト EAPOL パケットを受信すると、EAPOL パケットを送信します。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Network Edge Access Topology (NEAT) がすべてのホストモードで機能するようにするには、サブリカントデバイス上でこのコマンドをイネーブルにします。

次の例では、サブリカントデバイスがオーセンティケータデバイスにマルチキャスト EAPOL パケットを送信するように設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# dot1x supplicant force-multicast
Device(config)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
cisp enable	デバイス上で CISP をイネーブルタとして機能するようにします。
dot1x credentials	ポートに 802.1X サブリカントの
dot1x pae supplicant	インターフェイスがサブリカント

dot1x test eapol-capable

すべてのスイッチポート上の IEEE 802.1X のアクティビティをモニタリングして、IEEE 802.1X をサポートするポートに接続しているデバイスの情報を表示するには、特権 EXEC モードで **dot1x test eapol-capable** コマンドを使用します。

dot1x test eapol-capable [**interface** *interface-id*]

構文の説明	interface <i>interface-id</i>	(任意) クエリー対象のポートです。
コマンドデフォルト	デフォルト設定はありません。	
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン スイッチ上のすべてのポートまたは特定のポートに接続するデバイスの IEEE 802.1X 機能をテストするには、このコマンドを使用します。

このコマンドには、no 形式はありません。

次の例では、スイッチ上で IEEE 802.1X の準備チェックをイネーブルにして、ポートに対してクエリーを実行する方法を示します。また、ポートに接続しているデバイスを確認するためのクエリーの実行対象ポートから受信した応答が IEEE 802.1X 対応であることを示します。

```
Device> enable
Device# dot1x test eapol-capable interface gigabitethernet1/0/13
```

```
DOT1X_PORT_EAPOL_CAPABLE:DOT1X: MAC 00-01-02-4b-f1-a3 on gigabitethernet1/0/13 is EAPOL capable
```

関連コマンド

コマンド	説明
dot1x test timeout <i>timeout</i>	IEEE 802.1X 準備クエリーされるタイムアウトを記

dot1x test timeout

IEEE 802.1X 準備状態を照会しているポートからの EAPOL 応答の待機に使用されるタイムアウトを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dot1x test timeout** コマンドを使用します。

dot1x test timeout *timeout*

構文の説明	<i>timeout</i>	EAPOL 応答を待機する時間 (秒)。指定できる範囲は 1 ~ 65535 秒です。
-------	----------------	---

コマンド デフォルト	デフォルト設定は 10 秒です。
------------	------------------

コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション (config)
----------	----------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン EAPOL 応答を待機するために使用されるタイムアウトを設定するには、このコマンドを使用します。

このコマンドには、no 形式はありません。

次の例では、EAPOL 応答を 27 秒間待機するようにスイッチを設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# dot1x test timeout 27
```

タイムアウト設定のステータスを確認するには、**show running-config** コマンドを入力します。

関連コマンド	コマンド	説明
	dot1x test eapol-capable [interface interface-id]	すべての、または指定された IEEE 802.1X 対応ポートに接続するデバイスで IEEE 802.1X の準備が整っているかを確認します。

dot1x timeout

再試行タイムアウトの値を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードまたは インターフェイス コンフィギュレーション モードで **dot1x timeout** コマンドを使用します。再試行タイムアウトをデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dot1x timeout { **auth-period** *seconds* | **held-period** *seconds* | **quiet-period** *seconds* | **ratelimit-period** *seconds* | **server-timeout** *seconds* | **start-period** *seconds* | **supp-timeout** *seconds* | **tx-period** *seconds* }

構文の説明

auth-period <i>seconds</i>	<p>サブリカントで保留ステートが維持される秒数（つまり、サブリカントが試行に失敗した場合に再度クレデンシャルを送信するまでに待機する時間）を設定します。</p> <p>有効な範囲は 1 ～ 65535 です。デフォルトは 30 です。</p>
held-period <i>seconds</i>	<p>サブリカントで保留ステートが維持される秒数（つまり、サブリカントが試行に失敗した場合に再度クレデンシャルを送信するまでに待機する時間）を設定します。</p> <p>有効な範囲は 1 ～ 65535 です。デフォルトは 60 です。</p>
quiet-period <i>seconds</i>	<p>認証情報の交換に失敗したあと、クライアントの再認証を試みるまでにオーセンティケーター（サーバ）が待機状態（HELD 状態）を続ける秒数を設定します。</p> <p>有効な範囲は 1 ～ 65535 です。デフォルトは 60 です。</p>
ratelimit-period <i>seconds</i>	<p>動作の不正なクライアント PC（たとえば、デバイス処理電力の無駄につながる、EAP-START パケットを送信する PC）から送信される EAP-START パケットを抑制します。</p> <ul style="list-style-type: none"> オーセンティケーターはレート制限時間中、認証に成功したクライアントからの EAPOL-Start パケットを無視します。 有効な範囲は 1 ～ 65535 です。デフォルトでは、レート制限はディセーブルになっています。
server-timeout <i>seconds</i>	<p>連続して送信される 2 つの EAPOL-Start フレーム間の間隔（秒単位）を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効な範囲は 1 ～ 65535 です。デフォルトは 30 です。 <p>サーバが指定時間内に 802.1X パケットへの応答を送信しない場合、パケットは再度送信されます。</p>

start-period <i>seconds</i>	連続して送信される2つのEAPOL-Startフレーム間の間隔(秒単位)を設定します。 有効な範囲は1～65535です。デフォルトは30です。
supp-timeout <i>seconds</i>	EAP要求ID以外のすべてのEAPメッセージについて、オーセンティケータからホストへの再送信時間を設定します。 有効な範囲は1～65535です。デフォルトは30です。
tx-period <i>seconds</i>	クライアントにEAP要求IDパケットを再送信する間隔を(応答が受信されないものと仮定して)秒数で設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 有効な範囲は1～65535です。デフォルトは30です。 802.1Xパケットがサブリカントに送信され、そのサブリカントが再試行期間後に応答しなかった場合、そのパケットは再度送信されます。

コマンド デフォルト 定期的な再認証と定期的なレート制限が行われます。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)
インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドのデフォルト値は、リンクの信頼性が低下した場合や、特定のクライアントおよび認証サーバの動作に問題がある場合など、異常な状況に対する調整を行う必要があるときに限って変更してください。

dot1x reauthentication インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して定期的な再認証をイネーブルにしただけの場合、**dot1x timeout reauth-period** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは、デバイスの動作に影響します。

待機時間の間、デバイスはどのような認証要求も受け付けず、開始もしません。デフォルトよりも小さい数を入力することによって、ユーザへの応答時間を短縮できます。

ratelimit-period が0 (デフォルト) に設定された場合、デバイスは認証に成功したクライアントからのEAPOLパケットを無視し、それらをRADIUSサーバに転送します。

次に、さまざまな802.1X再送信およびタイムアウト時間が設定されている例を示します。

```
Device> enable
Device(config)# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 1/0/3
Device(config-if)# dot1x port-control auto
Device(config-if)# dot1x timeout auth-period 2000
Device(config-if)# dot1x timeout held-period 2400
Device(config-if)# dot1x timeout quiet-period 600
Device(config-if)# dot1x timeout start-period 90
Device(config-if)# dot1x timeout supp-timeout 300
Device(config-if)# dot1x timeout tx-period 60
Device(config-if)# dot1x timeout server-timeout 60
Device(config-if)# end
```

dtls

Datagram Transport Layer Security (DTLS) のパラメータを設定するには、RADIUS サーバコンフィギュレーションモードで **dtls** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
dtls [{ connectiontimeout connection-timeout-value | idletimeout idle-timeout-value | [ip | ipv6]
} { radius source-interface interface-name | vrf forwarding forwarding-table-name } |
match-server-identity { email-address email-address | hostname hostname | ip-address ip-address
} | port port-number | retries number-of-connection-retries | trustpoint { client trustpoint name |
server trustpoint name } }
```

no dtls

構文の説明

connectiontimeout <i>connection-timeout-value</i>	(任意) DTLS 接続タイムアウト値を設定します。
idletimeout <i>idle-timeout-value</i>	(任意) DTLS アイドルタイムアウト値を設定します。
[ip ipv6] { radius source-interface <i>interface-name</i> vrf forwarding <i>forwarding-table-name</i> }	(任意) IP または IPv6 送信元パラメータを設定します。
match-server-identity { email-address <i>email-address</i> hostname <i>host-name</i> ip-address <i>ip-address</i> }	RadSec 認定検証パラメータを設定します。
port <i>port-number</i>	(任意) DTLS ポート番号を設定します。
retries <i>number-of-connection-retries</i>	(任意) DTLS接続再試行の回数を設定します。
trustpoint { client <i>trustpoint name</i> server <i>trustpoint name</i> }	(任意) クライアントとサーバに DTLS トラストポイントを設定します。

コマンド デフォルト

- DTLS 接続タイムアウトのデフォルト値は 5 秒です。
- DTLS アイドルタイムアウトのデフォルト値は 60 秒です。
- デフォルトの DTLS ポート番号は 2083 です。
- DTLS 接続再試行回数のデフォルト値は 5 です。

コマンド モード

RADIUS サーバ コンフィギュレーション (config-radius-server)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	match-server-identity キーワードが導入されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.1.1	ipv6 キーワードが導入されました。

使用上のガイドライン

認証、許可、およびアカウントティング（AAA）サーバグループでは、すべてで同じサーバタイプを使用し、Transport Layer Security（TLS）のみか DTLS のみにすることを推奨します。

例

次に、DTLS 接続タイムアウト値を 10 秒に設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# radius server R1
Device(config-radius-server)# dtls connectiontimeout 10
Device(config-radius-server)# end
```

関連コマンド

Command	Description
show aaa servers	DTLS サーバに関連する情報を表示します。
clear aaa counters servers radius	RADIUS DTLS 固有の統計情報をクリアします。
debug radius dtls	RADIUS DTLS 固有のデバッグを有効にします。

有効化パスワード

さまざまな権限レベルへのアクセスを制御するローカルパスワードを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **enable password** コマンドを使用します。ローカルパスワードの制御アクセスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

enable password [level level] {[0] *unencrypted-password* | [*encryption-type*] *encrypted-password*]
no enable password [level level]

構文の説明

level level	(任意) パスワードが適用されるレベルを指定します。0～15の数字を権限レベルを指定できます。レベル1が通常のユーザ EXEC モードユーザコマンドまたはコマンドの no 形式で指定されていない場合、権限レベルになります。
0	(任意) 暗号化されていないクリアテキストパスワードを指定します。パスワードは SHA-256 シークレットに変換されてデバイスに保存されます。
<i>unencrypted-password</i>	イネーブルモードを開始するためのパスワードを指定します。
<i>encryption-type</i>	(任意) パスワードの暗号化に使用するシスコ独自のアルゴリズム。encripted-password を指定する場合は、入力する次の引数は暗号化されたパスワード (すでにシスコ独自のアルゴリズムで暗号化されたパスワード) である必要があります。非表示のパスワードが7文字を指定できます。
<i>encrypted-password</i>	別のデバイス設定からコピーした暗号化パスワード。

コマンド デフォルト

パスワードは定義されていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドは、このバージョンで導入されました。

使用上のガイドライン

enable password コマンドと **enable secret** コマンドのいずれも設定されていない場合、コンソールの回線パスワードが設定されていれば、コンソールの回線パスワードがすべての VTY (Telnet およびセキュアシェル (SSH)) セッションのイネーブルパスワードとして機能します。

特定の権限レベルのパスワードを定義する場合は、**level** オプションを指定して **enable password** コマンドを使用します。レベルとパスワードを設定したら、このレベルにアクセスする必要があるユーザとパスワードを共有します。各レベルでアクセスできるコマンドを指定するには、**privilege level** コンフィギュレーション コマンドを使用します。

通常、暗号化タイプは、シスコデバイスによってすでに暗号化されているパスワードをコピーしてこのコマンドに貼り付ける場合にのみ入力します。



注意 暗号化タイプを指定してクリアテキストパスワードを入力した場合は、再び特権 EXEC モードを開始することはできません。以前に暗号化されたパスワードを忘れた場合、回復することはできません。

service password-encryption コマンドが設定されている場合、**more nvram:startup-config** コマンドを実行すると、**enable password** コマンドで作成するパスワードが暗号化された形式で表示されます。

service password-encryption コマンドを使用して、パスワードの暗号化を有効または無効にすることができます。

イネーブルパスワードの定義は次のとおりです。

- 数字、大文字、小文字を組み合わせた 1 ~ 25 文字の英数字を含める必要があります。
- 先頭にスペースを指定できますが、無視されます。ただし、中間および末尾のスペースは認識されます。
- パスワードを作成するときに、**Crtl+V** キーの組み合わせを押してから疑問符 (?) を入力すると、パスワードに疑問符を含めることができます。たとえば、*abc?123* というパスワードを作成するには、次の手順を実行します。

1. **abc** を入力します。
2. **Crtl-v** を押します。
3. **?123** を入力します。



(注) システムから **enable password** コマンドを入力するように求められた場合、疑問符の前に **Crtl+V** を入力する必要はなく、パスワードのプロンプトにそのまま *abc?123* と入力できます。

例

次に、特権レベル 2 のパスワード *pswd2* を有効にする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# enable password level 2 pswd2
```

次に、暗号化タイプ 7 を使用して、デバイスのコンフィギュレーションファイルからコピーした権限レベル 2 の暗号化パスワード *\$1\$i5Rkls3LoyxzS8t9* を設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# enable password level 2 5 $1$i5Rkls3LoyxzS8t9
```

関連コマンド

Command	Description
enable secret	enable password コマンドよりも強化したセキュリティです。
service password-encryption	パスワードを暗号化します。
more nvram:startup-config	NVRAMに保管されている、またはCONFIG_FILEに保存されているスタートアップ コンフィギュレーションを確認します。
privilege level	ユーザの権限レベルを設定します。

enable secret

enable password コマンドよりも強化したセキュリティレイヤを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **enable secret** コマンドを使用します。イネーブルシークレット機能をオフにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

enable secret [**level** *level*] {[**0**] *unencrypted-password* | *encryption-type encrypted-password*}

no enable secret [**level** *level*] [*encryption-type encrypted-password*]

構文の説明	<p>level <i>level</i> (任意) パスワードが適用されるレベルを指定します。1～15の数字で権限レベルを指定できます。レベル1が通常のユーザ EXEC モード権限、レベル15が最高権限です。レベル15またはコマンドの no 形式で指定されていない場合、権限レベルはレベル15です。</p> <p>0 (任意) 暗号化されていないクリアテキストパスワードを指定します。パスワードはハッシュ アルゴリズム (SHA) 256 シークレットに変換されてデバイスに保存されます。</p> <p><i>unencrypted-password</i> ユーザがイネーブルモードを開始するためのパスワードを指定します。このパスワードは enable password コマンドで作成したパスワードとは異なるものにする必要があります。</p> <p><i>encryption-type</i> パスワードのハッシュに使用するシスコ独自のアルゴリズム。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 5: メッセージダイジェストアルゴリズム5 (MD5) で暗号化されます。 • 8: パスワードベースキー派生関数2 (PBKDF2) の SHA-256 でハッシュされます。 • 9: スクリプトでハッシュされたシークレットを指定します。 <p><i>encrypted-password</i> 別のデバイス設定からコピーしたハッシュパスワード。</p>
コマンド デフォルト	パスワードは定義されていません。
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション (config)
コマンド履歴	リリース Cisco IOS XE Everest 16.5.1a
使用上のガイドライン	enable password コマンドと enable secret コマンドのいずれも設定されていない場合、コンソールの回線パスワードが設定されていれば、コンソールの回線パスワードがすべての VTY (Telnet およびセキュアシェル (SSH)) セッションのイネーブルパスワードとして機能します。

enable secret コマンドは、**enable password** パスワードよりも強化したセキュリティレイヤを指定するために使用します。**enable secret** コマンドでは、不可逆的な暗号化機能を使用してパスワードを保存することでセキュリティを向上させます。この追加のセキュリティ暗号化レイヤは、パスワードがネットワークで送信される環境や TFTP サーバに保存される環境において役立ちます。

通常、暗号化タイプは、デバイスのコンフィギュレーションファイルからコピーした暗号化パスワードをこのコマンドに貼り付ける場合にのみ入力します。



注意 暗号化タイプを指定してクリアテキストパスワードを入力した場合は、再び特権 EXEC モードを開始することはできません。以前に暗号化されたパスワードを忘れた場合、回復することはできません。

enable password コマンドと **enable secret** コマンドに同じパスワードを使用した場合、推奨されない方法であることを警告するエラーメッセージが表示されますが、パスワードは受け入れられます。ただし、同じパスワードを使用すると、**enable secret** コマンドによって提供される追加のセキュリティが損なわれます。



(注) **enable secret** コマンドを使用してパスワードを設定した後、**enable password** コマンドを使用して設定したパスワードは、**enable secret** が無効になっている場合にのみ機能します。また、いずれの方法で暗号化したパスワードも、忘れた場合は回復できません。

service password-encryption コマンドが設定されている場合、**more nvram:startup-config** コマンドを実行すると、作成するパスワードが暗号化された形式で表示されます。

service password-encryption コマンドを使用して、パスワードの暗号化を有効または無効にすることができます。

イネーブルパスワードの定義は次のとおりです。

- 数字、大文字、小文字を組み合わせた 1 ~ 25 文字の英数字を含める必要があります。
- 先頭にスペースを指定できますが、無視されます。ただし、中間および末尾のスペースは認識されます。
- パスワードを作成するときに、**Crtl+V** キーの組み合わせを押してから疑問符 (?) を入力すると、パスワードに疑問符を含めることができます。たとえば、*abc?123* というパスワードを作成するには、次の手順を実行します。

1. **abc** を入力します。
2. **Crtl-v** を押します。
3. **?123** を入力します。



- (注) システムから **enable password** コマンドを入力するように求められた場合、疑問符の前に Ctrl+V を入力する必要はなく、パスワードのプロンプトにそのまま **abc?123** と入力できます。

例

次に、**enable secret** コマンドを使用してパスワードを指定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# enable secret password
```

enable secret コマンドを使用してパスワードを指定した後、ユーザはこのパスワードを入力してアクセスする必要があります。**enable password** コマンドを使用して設定されたパスワードは機能しなくなります。

```
Password: password
```

次に、暗号化タイプ 4 を使用して、デバイスのコンフィギュレーションファイルからコピーした権限レベル 2 の暗号化パスワード \$1\$FaD0\$Xyti5Rkls3LoyxzS8 を有効にする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# enable password level 2 4 $1$FaD0$Xyti5Rkls3LoyxzS8
```

次に、ユーザが **enable secret 4 encrypted-password** コマンドを入力したときに表示される警告メッセージの例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# enable secret 4 tnhtc92DXBhelxjYk8LWJrPV36S2i4ntXrpb4RFmfqY

WARNING: Command has been added to the configuration but Type 4 passwords have been
deprecated.
Migrate to a supported password type

Device(config)# end
Device# show running-config | inc secret

enable secret 4 tnhtc92DXBhelxjYk8LWJrPV36S2i4ntXrpb4RFmfqY
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable password	さまざまな権限レベルへのアクセスを制御する設定します。

コマンド	説明
more nvram:startup-config	NVRAMに保管されている、またはCONFIG_FILEで指定されているスタートアップ コンフィギュレーションを読み込みます。
service password-encryption	パスワードを暗号化します。

epm access-control open

アクセスコントロールリスト（ACL）が設定されていないポートにオープンディレクティブを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **epm access-control open** コマンドを使用します。オープンディレクティブをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

epm access-control open
no epm access-control open

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトのディレクティブが適用されます。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション（config）

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

スタティック ACL が設定されたアクセスポートに、認可ポリシーのないホストを許可するオープンディレクティブを設定するには、このコマンドを使用します。このコマンドを設定しない場合、ポートは設定された ACL のポリシーをトラフィックに適用します。ポートにスタティック ACL が設定されていない場合、デフォルトおよびオープン両方のディレクティブがポートへのアクセスを許可します。

設定を確認するには、**show running-config** コマンドを入力します。

次の例では、オープンディレクティブを設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# epm access-control open
Device(config)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config	現在実行されているコンフィギュレーション ファイルの内容を表示します

include-icv-indicator

MKPDUに整合性チェック値 (ICV) インジケータを含めるには、MKA ポリシーコンフィギュレーションモードで **include-icv-indicator** コマンドを使用します。ICV インジケータを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

include-icv-indicator
no include-icv-indicator

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ICV インジケータが含まれています。

コマンド モード

MKA ポリシー コンフィギュレーション (config-mka-policy)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、MKPDU に ICV インジケータを含める例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mka policy 2
Device(config-mka-policy)# include-icv-indicator
```

関連コマンド

Command	Description
mka policy	MKA ポリシーを設定します。
confidentiality-offset	機密性オフセットを設定して MACsec を動作させます。
delay-protection	MKPDU の送信で遅延保護を使用するように MKA を設定します。
key-server	MKA キーサーバオプションを設定します。
macsec-cipher-suite	SAK を取得するための暗号スイートを設定します。
sak-rekey	SAK キー再生成間隔を設定します。
send-secure-announcements	MKPDU の送信でセキュアなアナウンスを送信するように MKA を設定します。
ssci-based-on-sci	SCI に基づいて SSCI を計算します。
use-updated-eth-header	ICV 計算には更新されたイーサネットヘッダーを使用します。

ip access-list

IP アクセスリストまたはオブジェクトグループ アクセス コントロール リスト (ACL) を名前または番号によって定義する場合、または、IP ヘルパーアドレス宛先をもつパケットのフィルタリングを有効にする場合は、グローバル コンフィギュレーション モードで **ip access-list** コマンドを使用します。IP アクセスリストまたはオブジェクトグループ ACL を削除する場合、または、IP ヘルパーアドレス宛先をもつパケットのフィルタリングを無効にする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip access-list {extended | resequence | standard} {access-list-numberaccess-list-name} | helper egress check | log-update threshold threshold-number | logging {hash-generation | interval time} | persistent | role-based access-list-name}
```

```
ip access-list {extended | resequence | standard} {access-list-numberaccess-list-name} | helper egress check | log-update threshold | logging {hash-generation | interval} | persistent | role-based access-list-name}
```

構文の説明

standard	標準 IP アクセスリストを指定します。
resequence	並べ直した IP アクセスリストを指定します。
extended	拡張 IP アクセスリストを指定します。オブジェクトグループ ACL の場合は必須です。
<i>access-list-name</i>	IP アクセスリストまたはオブジェクトグループ ACL の名前。この名前にはスペースまたは引用符を含めることはできず、番号付けされたアクセスリストと紛らわしくならないよう、英文字で始める必要があります。
<i>access-list-number</i>	アクセス リストの番号。 <ul style="list-style-type: none"> 標準 IP アクセスリストの範囲は 1 ～ 99 または 1300 ～ 1999 です。 拡張 IP アクセスリストの範囲は 100 ～ 199 または 2000 ～ 2699 です。
helper egress check	IP ヘルパー機能を介して宛先サーバアドレスにリレーされるトラフィックについて、インターフェイスに適用される発信アクセスリストの許可または拒否の照合機能を有効にします。
log-update	アクセスリストログの更新を制御します。
threshold <i>threshold-number</i>	アクセスリストログのしきい値を設定します。指定できる範囲は 0 ～ 2147483647 です。
logging	アクセスリストのロギングを制御します。
hash-generation	syslog ハッシュコードの生成を有効にします。

interval time	アクセスリストのロギング間隔をミリ秒単位で設定します。指定できる範囲は 0 ～ 2147483647 です。
persistent	アクセス コントロール エントリ (ACE) のシーケンス番号は、リロード後も保持されます。 (注) これはデフォルトで有効であり、無効にすることはできません。
role-based	ロールベースの IP アクセスリストを指定します。

コマンド デフォルト IP アクセスリストまたはオブジェクトグループ ACL が定義されていないため、発信 ACL は IP ヘルパーによってリレーされたトラフィックを照合およびフィルタリングしません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 名前付きまたは番号付き IP アクセスリストまたはオブジェクトグループ ACL を設定するには、このコマンドを使用します。コマンドによって、デバイスはアクセスリストコンフィギュレーションモードを開始します。ここで、**deny** コマンドおよび **permit** コマンドを使用して、拒否アクセス条件または許可アクセス条件を定義しなければなりません。

ip access-list コマンドで **standard** または **extended** のキーワードを指定することで、アクセスリストコンフィギュレーションモードを開始したときに表示されるプロンプトが決定されます。オブジェクトグループ ACL を定義する場合は、**extended** キーワードを使用する必要があります。

オブジェクトグループと IP アクセスリスト、またはオブジェクトグループ ACL を個別に作成できます。つまり、まだ存在しないオブジェクトグループ名を使用できます。

ip access-group コマンドを使用して、アクセスリストをインターフェイスに適用します。

ip access-list helper egress check コマンドは、IP ヘルパーアドレス宛先をもつパケットの許可または拒否機能の発信 ACL マッチングを有効にします。このコマンドで発信拡張 ACL を使用すると、送信元または宛先の User Datagram Protocol (UDP) ポートに基づいて、IP ヘルパーリレートラフィックを許可または拒否できます。**ip access-list helper egress check** コマンドはデフォルトでは無効です。発信 ACL は、IP ヘルパーによってリレーされたトラフィックを照合およびフィルタリングしません。

例

次に、Internetfilter という名前の標準アクセスリストを定義する方法の例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip access-list standard Internetfilter
Device(config-std-nacl)# permit 192.168.255.0 0.0.0.255
```

```
Device(config-std-nacl)# permit 10.88.0.0 0.0.255.255
Device(config-std-nacl)# permit 10.0.0.0 0.255.255.255
```

次に、プロトコル ポートが my_service_object_group で指定されたポートと一致する場合に、my_network_object_group 内のユーザからのパケットを許可するオブジェクトグループ ACL を作成する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip access-list extended my_ogacl_policy
Device(config-ext-nacl)# permit tcp object-group my_network_object_group portgroup
my_service_object_group any
Device(config-ext-nacl)# deny tcp any any
```

次に、ヘルパーアドレスの宛先をもつパケットで発信ACLフィルタリングを有効にする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip access-list helper egress check
```

関連コマンド

Command	Description
deny	パケットを拒否する名前付き IP アクセスリストまたはオブジェクトグループ ACL の条件を設定します。
ip access-group	ACL またはオブジェクトグループ ACL をインターフェイスまたはサービスポリシーマップに適用します。
object-group network	オブジェクトグループ ACL で使用するネットワーク オブジェクトグループを定義します。
object-group service	オブジェクトグループ ACL で使用するサービス オブジェクトグループを定義します。
permit	パケットを許可する名前付き IP アクセスリストまたはオブジェクトグループ ACL の条件を設定します。
show ip access-list	IP アクセスリストまたはオブジェクトグループ ACL の内容を表示します。
show object-group	設定されているオブジェクトグループに関する情報を表示します。

ip access-list role-based

ロールベース（セキュリティグループ）アクセスコントロールリスト（RBACL）を作成して、ロールベース ACL コンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **ip access-list role-based** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip access-list role-based access-list-name
no ip access-list role-based access-list-name
```

構文の説明

access-list-name セキュリティグループアクセスコントロールリスト（SGACL）の名前。

コマンド デフォルト

ロールベースの ACL は設定されていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション（config）

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

SGACL ロギングの場合は、**permit ip log** コマンドを設定する必要があります。また、このコマンドは、ダイナミック SGACL のロギングを有効にするために、Cisco Identity Services Engine（ISE）でも設定する必要があります。

次に、IPv4トラフィックに適用できる SGACL を定義し、ロールベース アクセス リスト コンフィギュレーションモードを開始する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip access-list role-based rbacl1
Device(config-rb-acl)# permit ip log
Device(config-rb-acl)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
permit ip log	設定されたエントリに一致するロギングを許可します。
show ip access-list	現在のすべての IP アクセスリストの内容を表示します。

ip admission

Web 認証を有効にするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードまたはフォールバックプロファイルコンフィギュレーションモードで **ip admission** コマンドを使用します。Web 認証をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip admission rule
no ip admission rule

構文の説明	<i>rule</i> IP アドミッションルールの名前。				
コマンド デフォルト	Web 認証はディセーブルです。				
コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-if) フォールバックプロファイル コンフィギュレーション (config-fallback-profile)				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				

使用上のガイドライン **ip admission** コマンドはスイッチポートに web 認証ルールを適用します。

次の例では、スイッチポートに Web 認証ルールを適用する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# ip admission rule1
Device(config-if)# end
```

次の例では、IEEE 802.1X 対応のスイッチポートで使用するフォールバックプロファイルに Web 認証ルールを適用する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# fallback profile profile1
Device(config-fallback-profile)# ip admission rule1
Device(config-fallback-profile)# end
```

ip admission name

Web 認証をイネーブルにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **ip admission name** コマンドを使用します。Web 認証をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip admission name name {consent | proxy http} [absolute timer minutes | inactivity-time
minutes | list {acl | acl-name} | service-policy type tag service-policy-name]
no ip admission name name {consent | proxy http} [absolute timer minutes | inactivity-time
minutes | list {acl | acl-name} | service-policy type tag service-policy-name]
```

構文の説明

<i>name</i>	ネットワークアドミッション制御ルールの名前。
consent	認証プロキシ同意 Web ページを <i>admission-name</i> 引数で指定された IP アドミッションルールに対応させます。
proxy http	Web 認証のカスタムページを設定します。
absolute-timer 分	(任意) 外部サーバがタイムアウトするまでの経過時間 (分)。
inactivity-time 分	(任意) 外部ファイルサーバが到達不能であると見なされるまでの経過時間 (分)。
list	(任意) 指定されたルールをアクセス コントロール リスト (ACL) に関連付けます。
<i>acl</i>	標準、拡張リストを指定のアドミッション制御ルールに適用します。値の範囲は 1~199、または拡張範囲で 1300 から 2699 です。
<i>acl-name</i>	名前付きのアクセスリストを指定のアドミッション制御ルールに適用します。
service-policy type tag	(任意) コントロール プレーン サービス ポリシーを設定できます。
<i>service-policy-name</i>	policy-map type control tag <i>policyname</i> コマンド、キーワード、および引数を使用して設定されたコントロールプレーンタグのサービスポリシー。このポリシーマップは、タグを受信したときのホストでの処理を適用するために使用されます。

コマンド デフォルト Web 認証はディセーブルです。

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **ip admission name** コマンドにより、スイッチ上で Web 認証がグローバルにイネーブルになります。

スイッチ上で Web 認証をイネーブルにしてから、**ip access-group in** および **ip admission web-rule** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、特定のインターフェイス上で Web 認証をイネーブルにします。

例

次に、スイッチ ポートで Web 認証のみを設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config) ip admission name http-rule proxy http
Device(config) # interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if) # ip access-group 101 in
Device(config-if) # ip admission rule
Device(config-if) # end
```

次の例では、スイッチポートでのフォールバックメカニズムとして、Web 認証とともに IEEE 802.1X 認証を設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config) # ip admission name rule2 proxy http
Device(config) # fallback profile profile1
Device(config) # ip access group 101 in
Device(config) # ip admission name rule2
Device(config) # interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if) # dot1x port-control auto
Device(config-if) # dot1x fallback profile1
Device(config-if) # end
```

関連コマンド

コマンド	説明
dot1x fallback	IEEE 802.1X 認証をサポートしないクライアント用のフォールバック方式として Web 認証を使用するようポートを設定します。
fallback profile	Web 認証のフォールバックプロファイルを作成します。

コマンド	説明
ip admission	ポートで Web 認証をイネーブルにします。
show authentication sessions interface <i>interface</i> detail	Web 認証セッションのステータスに関する情報を表示します。
show ip admission	NAC のキャッシュされたエントリまたは NAC 設定についての情報を表示します。

ip dhcp snooping database

Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) のスヌーピングデータベースを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **ip dhcp snooping database** コマンドを使用します。DHCP スヌーピングサーバをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip dhcp snooping database { crashinfo: url | flash: url | ftp: url | http: url | https: url
| rcp: url | scp: url | tftp: url | timeout seconds | usbflash0: url | write-delay
seconds }
no ip dhcp snooping database [ timeout | write-delay ]
abort
```

構文の説明

crashinfo: url	crashinfo を使用して、エントリーを格納するためのデータベースの URL を指定します。
flash: url	flash を使用して、エントリーを格納するためのデータベースの URL を指定します。
ftp: url	FTP を使用して、エントリーを格納するためのデータベースの URL を指定します。
http: url	HTTP を使用して、エントリーを格納するためのデータベースの URL を指定します。
https: url	セキュア HTTP (HTTPS) を使用して、エントリーを格納するためのデータベースの URL を指定します。
rcp: url	リモートコピー (RCP) を使用して、エントリーを格納するためのデータベースの URL を指定します。
scp: url	セキュアコピー (SCP) を使用して、エントリーを格納するためのデータベースの URL を指定します。
tftp: url	TFTP を使用して、エントリーを格納するためのデータベースの URL を指定します。

timeout <i>seconds</i>	キャンセルタイムアウトインターバルを指定します。有効値は 0 ～ 86,400 秒です。
usbflash0:url	USB flash を使用して、エントリーを格納するためのデータベースの URL を指定します。
write-delay <i>seconds</i>	ローカル DHCP スヌーピングデータベースにデータが追加されてから、DHCP スヌーピングエントリーを外部サーバに書き込みするまでの時間を指定します。有効値は 15 ～ 86,400 秒です。

コマンド デフォルト DHCP スヌーピングデータベースは設定されていません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを入力する前に、インターフェイス上で DHCP スヌーピングをイネーブルにする必要があります。DHCP スヌーピングをイネーブルにするには、**ip dhcp snooping** コマンドを使用します。

次に、TFTP を使用してデータベースの URL を指定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip dhcp snooping database tftp://10.90.90.90/snooping-rp2
Device(config)# exit
```

次に、DHCP スヌーピングエントリーを外部サーバに書き込むまでの時間を指定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip dhcp snooping database write-delay 15
Device(config)# exit
```

ip dhcp snooping information option format remote-id

オプション 82 リモート ID サブオプションを設定するには、デバイスのグローバル コンフィギュレーション モードで **ip dhcp snooping information option format remote-id** コマンドを使用します。デフォルトのリモート ID サブオプションを設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip dhcp snooping information option format remote-id {hostname | string string}
no ip dhcp snooping information option format remote-id {hostname | string string}
```

構文の説明

hostname デバイスのホスト名をリモート ID として指定します。

string string 1～63 の ASCII 文字（スペースなし）を使用して、リモート ID を指定します。

コマンド デフォルト

デバイスの MAC アドレスは、リモート ID です。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

DHCP スヌーピング設定を有効にするには、**ip dhcp snooping** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにする必要があります。

オプション 82 機能がイネーブルの場合、デフォルトのリモート ID サブオプションはデバイスの MAC アドレスです。このコマンドを使用すると、デバイスのホスト名または 63 個の ASCII 文字列（スペースなし）のいずれかをリモート ID として設定できます。



(注) ホスト名が 63 文字を超える場合、リモート ID 設定では 63 文字以降は省略されます。

次の例では、オプション 82 リモート ID サブオプションを設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip dhcp snooping information option format remote-id hostname
Device(config)# exit
```

ip dhcp snooping verify no-relay-agent-address

DHCP クライアントメッセージのリレーエージェントアドレス (giaddr) が信頼できないポート上のクライアントハードウェアアドレスに一致することを確認して、DHCP スヌーピング機能をディセーブルにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **ip dhcp snooping verify no-relay-agent-address** コマンドを使用します。検証をイネーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp snooping verify no-relay-agent-address
no ip dhcp snooping verify no-relay-agent-address

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

DHCP スヌーピング機能では、信頼できないポート上の DHCP クライアントメッセージのリレーエージェント IP アドレス (giaddr) フィールドが 0 であることを確認します。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、DHCP スヌーピング機能では、信頼できないポート上の DHCP クライアントメッセージのリレーエージェントの IP アドレス (giaddr) フィールドが 0 であることを確認します。giaddr フィールドが 0 でない場合、メッセージはドロップされます。検証をディセーブルにするには、**ip dhcp snooping verify no-relay-agent-address** コマンドを使用します。検証を再度イネーブルにするには、**no ip dhcp snooping verify no-relay-agent-address** コマンドを使用します。

次に、DHCP クライアントメッセージの giaddr 検証をイネーブルにする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# no ip dhcp snooping verify no-relay-agent-address
Device(config)# exit
```

ip http access-class

HTTP サーバへのアクセスを制限するために使用するアクセスリストを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **ip http access-class** コマンドを使用します。以前に設定したアクセスリストの関連付けを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip http access-class { access-list-number | ipv4 { access-list-number | access-list-name }
| ipv6 access-list-name }
no ip http access-class { access-list-number | ipv4 { access-list-number | access-list-name
} | ipv6 access-list-name }
```

構文の説明

<i>access-list-number</i>	グローバル コンフィギュレーション コマンド access-list を使用して設定される、0 ~ 99 の標準 IP アクセスリスト番号。
ipv4	セキュア HTTP サーバへのアクセスを制限するように IPv4 アクセス リストを指定します。
<i>access-list-name</i>	ip access-list コマンドで設定された標準 IPv4 アクセスリストの名前。
ipv6	セキュア HTTP サーバへのアクセスを制限するように IPv6 アクセス リストを指定します。

コマンド デフォルト

アクセス リストは、HTTP サーバには適用されません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドが設定されていると、指定されたアクセスリストは HTTP サーバに割り当てられます。HTTP サーバは、接続を受け入れる前にアクセスリストを確認します。確認に失敗すると、HTTP サーバは接続要求を承認しません。

例

次に、アクセス リストを 20 に定義して、HTTP サーバに割り当てる例を示します。

```
Device> enable
Device(config)# ip access-list standard 20
Device(config-std-nacl)# permit 209.165.202.130 0.0.0.255
Device(config-std-nacl)# permit 209.165.201.1 0.0.255.255
Device(config-std-nacl)# permit 209.165.200.225 0.255.255.255
Device(config-std-nacl)# exit
Device(config)# ip http access-class 20
Device(config-std-nacl)# exit
```

次に、IPv4 の指定済みアクセス リストを定義して、HTTP サーバに割り当てる例を示します。

```
Device> enable
Device(config)# ip access-list standard Internet_filter
Device(config-std-nacl)# permit 1.2.3.4
Device(config-std-nacl)# exit
Device(config)# ip http access-class ipv4 Internet_filter
Device(config)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip access-list	IDをアクセスリストに割り当て、アクセスリストのコンフィギュレーションモードを開始します。
ip http server	HTTP 1.1 サーバ (Cisco Web ブラウザ ユーザ インターフェイスを含む) をイネーブルにします。

ip radius source-interface

すべての発信 RADIUS パケットに対して指定されたインターフェイスの IP アドレスを使用するように RADIUS を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **ip radius source-interface** コマンドを使用します。すべての発信 RADIUS パケットに対して指定されたインターフェイスの IP アドレスを使用しないように RADIUS を設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip radius source-interface *interface-name* [**vrf** *vrf-name*]
no ip radius source-interface

構文の説明

<i>interface-name</i>	RADIUS がすべての発信パケットに使用するインターフェイスの名前です。
vrf <i>vrf-name</i>	(任意) Virtual Route Forwarding (VRF) 単位の設定です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、すべての発信 RADIUS パケットの送信元アドレスとして使用するインターフェイスの IP アドレスを設定する場合に使用します。インターフェイスがアップ状態である限り、この IP アドレスが使用されます。RADIUS サーバでは、IP アドレスのリストを保持する代わりに、すべてのネットワーク アクセス クライアントに対して 1 つの IP アドレスエントリを使用できます。インターフェイスがアップ状態であるかダウン状態であるかに関係なく、関連付けられているインターフェイスの IP アドレスが使用されます。

特に、ルータに多数のインターフェイスがあり、特定のルータからのすべての RADIUS パケットに同一の IP アドレスが含まれるようにする場合は、**ip radius source-interface** コマンドが役立ちます。

指定されたインターフェイスに有効な IP アドレスがあり、アップ状態でないと、設定は有効になりません。指定されたインターフェイスに有効な IP アドレスがない場合やダウン状態である場合、RADIUS によって AAA サーバへの最適なルートに対応するローカル IP が選択されます。これを回避するには、インターフェイスに有効な IP アドレスを追加するか、そのインターフェイスをアップ状態にします。

このコマンドを VRF 単位で設定するには、**vrf** *vrf-name* キーワードと引数を使用します。これにより、ユーザのルートに別のユーザのルートとの相互関係がない複数のルーティングテーブルまたは転送テーブルを使用できます。

例

次に、すべての発信 RADIUS パケットに対してインターフェイス s2 の IP アドレスを使用するように RADIUS を設定する例を示します。

```
ip radius source-interface s2
```

次に、VRF の定義に対してインターフェイス Ethernet0 の IP アドレスを使用するように RADIUS を設定する例を示します。

```
ip radius source-interface Ethernet0 vrf vrf1
```


ip source binding

スタティック IP ソース バインディング エントリを追加するには、**ip source binding** コマンドを使用します。スタティック IP ソース バインディング エントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip source binding mac-address vlan vlan-id ip-address interface interface-id
no ip source binding mac-address vlan vlan-id ip-address interface interface-id
```

構文の説明		
	<i>mac-address</i>	バインディング対象MACアドレスです。
	vlan <i>vlan-id</i>	レイヤ 2 VLAN ID を指定します。有効な値は 1~4094 です。
	<i>ip-address</i>	バインディング対象 IP アドレスです。
	interface <i>interface-id</i>	物理インターフェイスの ID です。

コマンドデフォルト IP 送信元バインディングは設定されていません。

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、スタティック IP ソース バインディング エントリだけを追加するために使用できます。

no 形式は、対応する IP ソース バインディング エントリを削除します。削除が正常に実行されるためには、すべての必須パラメータが正確に一致しなければなりません。各スタティック IP バインディング エントリは MAC アドレスと VLAN 番号がキーであることに注意してください。コマンドに既存の MAC アドレスと VLAN 番号が含まれる場合、別のバインディング エントリが作成される代わりに既存のバインディング エントリが新しいパラメータで更新されます。

次の例では、スタティック IP ソース バインディング エントリを追加する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config) ip source binding 0100.0230.0002 vlan 11 10.0.0.4 interface
```

```
gigabitethernet1/0/1  
Device(config)# exit
```

ip ssh source-interface

インターフェイスのIPアドレスをセキュアシェル（SSH）クライアントデバイスの送信元アドレスとして指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **ip ssh source-interface** コマンドを使用します。送信元アドレスとして指定した IP アドレスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip ssh source-interface *interface*
no ip ssh source-interface *interface*

構文の説明

<i>interface</i>	アドレスをSSHクライアントの送信元アドレスとして使用するインターフェイス。
------------------	--

コマンド デフォルト

宛先に最も近いインターフェイスのアドレスが送信元アドレスとして使用されます（最も近いインターフェイスはSSHパケットが送信される出力インターフェイスです）。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	

使用上のガイドライン

このコマンドを指定することにより、SSHクライアントの送信元アドレスとして送信元インターフェイスのIPアドレスを使用するように強制できます。

例

次の例では、GigabitEthernet インターフェイス 1/0/1 に割り当てられた IP アドレスがSSHクライアントの送信元アドレスとして使用されます。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip ssh source-interface GigabitEthernet 1/0/1
Device(config)# exit
```

ip verify source

インターフェイス上の IP ソース ガードを有効にするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ip verify source** コマンドを使用します。IP ソース ガードを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip verify source [mac-check][tracking]
no ip verify source

mac-check	(任意) MAC アドレス検証による IP ソース ガードをイネーブルにします。
tracking	(任意) ポートで静的 IP アドレスを学習するために IP ポートセキュリティをイネーブルにします。

コマンド デフォルト IP 送信元ガードはディセーブルです。

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 送信元 IP アドレス フィルタリングによる IP ソース ガードをイネーブルにするには、**ip verify source** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

送信元 IP アドレス フィルタリングおよび MAC アドレス検証による IP ソース ガードをイネーブルにするには、**ip verify source mac-check** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

例

次の例では、送信元 IP アドレス フィルタリングによる IP ソース ガードをインターフェイス上でイネーブルにする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# ip verify source
Device(config-if)# end
```

次の例では、MAC アドレスの検証による IP ソース ガードをイネーブルにする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# ip verify source mac-check
```

```
Device(config-if)# end
```

設定を確認するには、**show ip verify source** コマンドを入力します。

ipv6 access-list

IPv6 アクセスリストを定義してデバイスを IPv6 アクセスリスト コンフィギュレーション モードに設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **ipv6 access-list** コマンドを使用します。アクセス リストを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ipv6 access-list *access-list-name* | **match-local-traffic** | **log-update threshold** *threshold-in-msgs*
| **role-based** *list-name*
noipv6 access-list *access-list-name* | **client** *permit-control-packets* | **log-update** *threshold* |
role-based *list-name*

構文の説明

ipv6 <i>access-list-name</i>	名前付き IPv6 ACL (最長 64 文字) を作成し、IPv6 ACL コンフィギュレーション モードを開始します。 <i>access-list-name</i> : IPv6 アクセスリストの名前。名前は、スペース、疑問符を含むことができず、また、数字で始めることはできません。
match-local-traffic	ローカルで生成されたトラフィックに対する照合を有効にします。
log-update threshold <i>threshold-in-msgs</i>	最初のパケットの一致後に、syslog メッセージを生成する方法を決定します。 <i>threshold-in-msgs</i> : 生成されるパケット数。
role-based <i>list-name</i>	ロールベースの IPv6 ACL を作成します。

コマンド デフォルト

IPv6 アクセス リストは定義されていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

IPv6 ACL は、グローバル コンフィギュレーション モードで **ipv6 access-list** コマンドを使用することで定義され、その許可と拒否の条件は IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードで **deny** コマンドおよび **permit** コマンドを使用することで設定されます。**ipv6 access-list** コマンドを設定すると、デバイスは IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードになります。IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードから、定義済みの IPv6 ACL に許可および拒否の条件を設定できます。



- (注) IPv6 ACL は一意な名前によって定義されます (IPv6 は番号付けされた ACL をサポートしません)。IPv4 ACL と IPv6 ACL は同じ名前を共有できません。

IPv6 は、グローバル コンフィギュレーション モードから IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードに変換される **permit any any** ステートメントおよび **deny any any** ステートメントでプロトコルタイプとして自動的に設定されます。

IPv6 ACL にはそれぞれ、最後に一致した条件として、暗黙の **permit icmp any any nd-na** ステートメント、**permit icmp any any nd-ns** ステートメント、および **deny ipv6 any any** ステートメントがあります (前の 2 つの一致条件は、ICMPv6 ネイバー探索を許可します)。1 つの IPv6 ACL には、暗黙の **deny ipv6 any any** ステートメントを有効にするために少なくとも 1 つのエントリが含まれている必要があります。IPv6 ネイバー探索プロセスでは、IPv6 ネットワーク層サービスを利用するため、デフォルトで、インターフェイス上での IPv6 ネイバー探索パケットの送受信が IPv6 ACL によって暗黙的に許可されます。IPv4 の場合、IPv6 ネイバー探索プロセスに相当するアドレス解決プロトコル (ARP) では、個別のデータリンク層プロトコルを利用するため、デフォルトで、インターフェイス上での ARP パケットの送受信が IPv4 ACL によって暗黙的に許可されます。

IPv6 ACL を IPv6 インターフェイスに適用するには、*access-list-name* 引数を指定して **ipv6 traffic-filter** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。IPv6 ACL をデバイスとの着信および発信 IPv6 仮想端末接続に適用するには、*access-list-name* 引数を指定して、**ipv6 access-class** ライン コンフィギュレーション コマンドを使用します。

ipv6 traffic-filter コマンドでインターフェイスに適用される IPv6 ACL は、デバイスによって発信されたトラフィックではなく、転送されたトラフィックをフィルタ処理します。

例

次に、list1 という名前の IPv6 ACL を設定し、デバイスを IPv6 アクセス リスト コンフィギュレーション モードにする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 access-list list1
Device(config-ipv6-acl)# end
```

次に、list2 という名前の IPv6 ACL を設定し、その ACL をイーサネット インターフェイス 0 上の発信トラフィックに適用する例を示します。特に、最初の ACL エントリは、ネットワーク FEC0:0:0:2::/64 (送信元 IPv6 アドレスの最初の 64 ビットとして サイトローカルプレフィックス FEC0:0:0:2 を持つパケット) が GigabitEthernet インターフェイス 0/1/2 から出て行くことを拒否します。2 番目の ACL エントリは、その他のすべてのトラフィックがイーサネット インターフェイス 0 から出て行くことを許可します。2 番目のエントリは、各 IPv6 ACL の末尾に暗黙的な deny all 条件があるため、必要となります。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 access-list list2 deny FEC0:0:0:2::/64 any
Device(config)# ipv6 access-list list2 permit any any
Device(config)# interface gigabitethernet 0/1/2
```

```
Device(config-if)# ipv6 traffic-filter list2 out  
Device(config-if)# end
```


ipv6 snooping policy

IPv6 スヌーピング ポリシーを設定し、IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **ipv6 snooping policy** コマンドを使用します。IPv6 スヌーピング ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ipv6 snooping policy *snooping-policy*
no ipv6 snooping policy *snooping-policy*

構文の説明

snooping-policy スヌーピング ポリシーのユーザ定義名。ポリシー名には象徴的な文字列 (Engineering など) または整数 (0 など) を使用できます。

コマンド デフォルト

IPv6 スヌーピング ポリシーは設定されていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

IPv6 スヌーピング ポリシーを作成するには、**ipv6 snooping policy** コマンドを使用します。**ipv6 snooping policy** コマンドがイネーブルの場合、コンフィギュレーション モードが IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション モードに変更されます。このモードでは、管理者が次の IPv6 ファーストホップセキュリティ コマンドを設定できます。

- **device-role** コマンドは、ポートに接続されているデバイスのロールを指定します。
- **limit address-count** *maximum* コマンドは、ポートで使用できる IPv6 アドレスの数を制限します。
- **protocol** コマンドは、アドレスを Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) または Neighbor Discovery Protocol (NDP) で収集する必要があることを指定します。
- **security-level** コマンドは、適用されるセキュリティのレベルを指定します。
- **tracking** コマンドは、ポートのデフォルトのトラッキング ポリシーを上書きします。
- **trusted-port** コマンドは、ポートを信頼できるポートとして設定します。つまり、メッセージを受信したときに検証が限定的に実行されるか、まったく実行されません。

次に、IPv6 スヌーピング ポリシーを設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 snooping policy policy1
```

```
Device(config-ipv6-snooping)# end
```

key chain macsec

事前共有キー（PSK）を取得するためにデバイスインターフェイスの MACsec キーチェーンの名前を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **key chain macsec** コマンドを使用します。CDP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
key chain namemacsec
no key chain name [macsec ]
```

構文の説明	<i>name</i> キーを取得するために使用するキーチェーンの名前。	
コマンド デフォルト	key chain macsec は無効になっています。	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション (config)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、128 ビットの事前共有キー（PSK）を取得するために MACsec キーチェーンを設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# key chain kcl macsec
Device(config-keychain-macsec)# key 1000
Device(config-keychain-macsec)# cryptographic-algorithm aes-128-cmac
Device(config-keychain-macsec-key)# key-string fb63e0269e2768c49bab8ee9a5c2258f
Device(config-keychain-macsec-key)# end
Device#
```

次に、256 ビットの事前共有キー（PSK）を取得するために MACsec キーチェーンを設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# key chain kcl macsec
Device(config-keychain-macsec)# key 2000
Device(config-keychain-macsec)# cryptographic-algorithm aes-256-cmac
Device(config-keychain-macsec-key)# key-string c865632acb269022447c417504a1b
f5db1c296449b52627ba01f2ba2574c2878
Device(config-keychain-macsec-key)# end
Device#
```

key config-key password-encrypt

タイプ 6 の暗号キーをプライベート NVRAM に保存するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **key config-key password-encrypt** コマンドを使用します。暗号化をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

key config-key password-encrypt [*text*]
no key config-key password-encrypt [*text*]

構文の説明

text (任意) Password または master キー。

(注) 事前共有キーがどこにも出力されないようにするために、*text* 引数は使用せず、代わりにインタラクティブモードを使用 (**key config-key password-encrypt** コマンドを入力した後に **Enter** キーを使用) することを推奨します。

コマンド デフォルト

タイプ 6 パスワード暗号キーはプライベート NVRAM に保存されません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

変更

この
した。

使用上のガイドライン

CLI を使用して、プレーンテキストのパスワードをタイプ 6 形式で NVRAM に安全に保存できます。タイプ 6 のパスワードは暗号化されています。暗号化されたパスワード自体を、確認したり取得したりすることは可能ですが、それを復号化して実際のパスワードを特定することは困難です。**key config-key password-encrypt** コマンドを **password encryption aes** コマンドとともに使用すると、パスワードを設定してイネーブルにできます (キーの暗号化には対称キー暗号である高度暗号化規格 (AES) が使用されます)。**key config-key password-encrypt** コマンドを使用して設定されたパスワード (キー) は、デバイス内のその他すべてのキーを暗号化するマスター暗号キーとして使用されます。

password encryption aes コマンドを設定する際、同時に **key config-key password-encrypt** コマンドを設定しないと、**show running-config** コマンドや **copy running-config startup-config** コマンドなどが設定されている起動時や不揮発性生成 (NVGEN) プロセス中に次のようなメッセージが出力されます。

```
"Can not encrypt password. Please configure a configuration-key with 'key config-key'"
```

パスワードの変更

key config-key password-encrypt コマンドを使用してパスワード (マスターキー) が変更された場合、または再暗号化された場合には、リストレジストリから、タイプ 6 暗号が使用されているアプリケーションモジュールへ、変更前のキーと変更後のキーが渡されます。

パスワードの削除

key config-key password-encrypt コマンドを使用して設定されたマスターキーがシステムから削除されると、タイプ6のパスワードすべてが使用不可になるという内容の警告が出力されま
す（同時に、確認用のプロンプトも表示されます）。セキュリティ対策として、暗号化された
パスワードは、Cisco IOS ソフトウェアによって復号化されることはなくなります。ただし、
すでに説明したように、パスワードを再暗号化することはできません。



注意 **key config-key password-encrypt** コマンドを使用して設定されたパスワードは、一度失われる
と回復できません。そのため、パスワードは安全な場所に保存しておくことを推奨します。

パスワード暗号化の設定解除

no password encryption aes コマンドを使用してパスワード暗号化の設定を解除しても、既存の
タイプ6パスワードはすべて変更されずに残されます。**key config-key password-encrypt** コマ
ンドを使用して設定したパスワード（マスターキー）があれば、アプリケーションで必要に応
じてタイプ6パスワードを復号化できます。

パスワードの保存

（**key config-key password-encrypt** コマンドを使用して設定された）パスワードは誰にも「判
読」できないため、デバイスからパスワードを取得する方法はありません。既存の管理ステー
ションでは、その内部にキーが格納されるよう強化されることで初めて、パスワードの内容を
「知る」ことができます。その場合、パスワードは管理ステーション内部に安全に保存する必
要があります。TFTP を使用して保存された設定は、スタンドアロンではないため、デバイス
にはロードできません。設定をデバイスにロードする前後には、（**key config-key**
password-encrypt コマンドを使用して）パスワードを手動で追加する必要があります。このパ
スワードは、保存された設定に手動で追加できます。ただし、それによって設定内のすべての
パスワードを誰もが復号化できるようになるため、手動によるパスワードの追加は行わないこ
とを推奨します。

新規パスワードまたは不明パスワードの設定

入力またはカットアンドペーストした暗号文は、それがマスターキーに適合しない場合やマス
ターキーが存在しない場合でも、受理または保存されます。ただしこの場合にはアラートメッ
セージが表示されます。

```
"ciphertext>[for username bar] is incompatible with the configured master key."
```

マスターキーを新規に設定すると、プレーンテキストのキーはすべて暗号化され、タイプ6の
キーになります。すでにタイプ6であるキーは暗号化されず、現在の状態が維持されます。

既存のマスターキーが失われた場合、またはその内容が不明の場合は、**no key config-key**
password-encrypt コマンドを使用してそのマスターキーを削除できます。マスターキーを削除
しても、既存の暗号化パスワードは、暗号化された状態のままデバイス設定内に保持されま
す。これらのパスワードは復号化できません。

例

次に、タイプ6の暗号キーをNVRAMに保存する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device (config)# key config-key password-encrypt
```

関連コマンド

コマンド	説明
password encryption aes	タイプ 6 の暗号化事前共有 します。

key-server

MKA キーサーバオプションを設定するには、MKA ポリシー コンフィギュレーション モードで **key-server** コマンドを使用します。MKA キーサーバオプションを無効にするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

key-server priority value
no key-server priority

構文の説明	priority value	MKA キーサーバのプライオリティ値を指定します。
-------	-----------------------	---------------------------

コマンドデフォルト	MKA キーサーバは無効になっています。
-----------	----------------------

コマンドモード	MKA ポリシー コンフィギュレーション (config-mka-policy)
---------	--

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、MKA キーサーバを設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mka policy 2
Device(config-mka-policy)# key-server priority 33
```

関連コマンド

Command	Description
mka policy	MKA ポリシーを設定します。
confidentiality-offset	機密性オフセットを設定して MACsec を動作させます。
delay-protection	MKPDU の送信で遅延保護を使用するように MKA を設定します。
include-icv-indicator	MKPDU に ICV インジケータを含めます。
macsec-cipher-suite	SAK を取得するための暗号スイートを設定します。
sak-rekey	SAK キー再生成間隔を設定します。
send-secure-announcements	MKPDU の送信でセキュアなアナウンスを送信するように MKA を設定します。
ssci-based-on-sci	SCI に基づいて SSCI を計算します。

Command	Description
use-updated-eth-header	ICV 計算には更新されたイーサネットヘッダーを使用します。

limit address-count

ポートで使用できる IPv6 アドレスの数を制限するには、Neighbor Discovery Protocol (NDP) インスペクション ポリシー コンフィギュレーション モードまたは IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション モードで **limit address-count** コマンドを使用します。デフォルトに戻するには、**no** 形式のコマンドを使用します。

limit address-count *maximum*
no limit address-count

構文の説明

maximum ポートで許可されているアドレスの数。範囲は 1 ~ 10000 です。

コマンド デフォルト

デフォルト設定は無制限です。

コマンド モード

IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション (config-ipv6-snooping)
 ND インスペクション ポリシー コンフィギュレーション (config-nd-inspection)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

limit address-count コマンドは、ポリシーが適用されているポートで使用できる IPv6 アドレスの数を制限します。ポート上の IPv6 アドレスの数を制限すると、バインディング テーブル サイズの制限に役立ちます。範囲は 1 ~ 10000 です。

次に、NDP ポリシー名を **policy1** と定義し、ポートで使用できる IPv6 アドレスの数を 25 に制限する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 nd inspection policy policy1
Device(config-nd-inspection)# limit address-count 25
Device(config-nd-inspection)# end
```

次に、IPv6 スヌーピングポリシー名を **policy1** と定義し、ポートで使用できる IPv6 アドレスの数を 25 に制限する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 snooping policy policy1
Device(config-ipv6-snooping)# limit address-count 25
Device(config-ipv6-snooping)# end
```

mab logging verbose

MAC 認証バイパス (MAB) のシステムメッセージから詳細情報をフィルタリングするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **mab logging verbose** コマンドを使用します。MAB システムメッセージのログをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mab logging verbose
no mab logging verbose

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

システムメッセージの詳細ログは有効になっていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにより、MAC 認証バイパス (MAB) システムメッセージから、予測される成功などの詳細情報がフィルタリングされます。失敗メッセージはフィルタリングされません。

verbose MAB システム メッセージをフィルタリングするには、次の手順に従います。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mab logging verbose
Device(config)# exit
```

設定を確認するには、**show running-config** コマンドを入力します。

関連コマンド

コマンド	説明
authentication logging verbose	認証システムメッセージから詳細情報をフィルタリングしま
dot1x logging verbose	802.1X システムメッセージから詳細情報をフィルタリングし
mab logging verbose	MAC 認証バイパス (MAB) システムメッセージから詳細情 タリングします。

mab request format attribute 32

デバイス上でVLAN ID ベースのMAC 認証をイネーブルにするには、グローバルコンフィギュレーション モードで **mab request format attribute 32 vlan access-vlan** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mab request format attribute 32 vlan access-vlan
no mab request format attribute 32 vlan access-vlan

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

VLAN-ID ベースの MAC 認証はディセーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

RADIUS サーバがホスト MAC アドレスと VLAN に基づいて新しいユーザを認証できるようにするには、このコマンドを使用します。Microsoft IAS RADIUS サーバを使用したネットワークでこの機能を使用します。Cisco ACS はこのコマンドを無視します。

次に、デバイスで VLAN ID ベースの MAC 認証をイネーブルにする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mab request format attribute 32 vlan access-vlan
Device(config)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
authentication event	特定の認証イベントのアクションを設定します。
authentication fallback	IEEE 802.1X 認証をサポートしないクライアント用のバックアップ方式として Web 認証を使用するようポートを設定します。
authentication host-mode	ポートで認証マネージャモードを設定します。
authentication open	ポートでオープンアクセスをイネーブルまたはディセーブルにします。
authentication order	ポートで使用する認証方式の順序を設定します。
authentication periodic	ポートで再認証をイネーブルまたはディセーブルにします。
authentication port-control	ポートの認証ステータスの手動制御をイネーブルにします。

コマンド	説明
authentication priority	ポートプライオリティリストに認証方式を追加します。
authentication timer	802.1X 対応ポートのタイムアウトパラメータと再認証を設定します。
authentication violation	新しいデバイスがポートに接続するか、ポートにすでにデバイスが接続しているときに、新しいデバイスがポート場合に発生する違反モードを設定します。
mab	ポートの MAC-based 認証をイネーブルにします。
mab eap	Extensible Authentication Protocol (EAP) を使用するよう定めます。
show authentication	デバイスの認証マネージャイベントに関する情報を表示

macsec-cipher-suite

Security Association Key (SAK) を取得するための暗号スイートを設定するには、MKA ポリシー コンフィギュレーション モードで **macsec-cipher-suite** コマンドを使用します。SAK の暗号スイートを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
macsec-cipher-suite {gcm-aes-128 | gcm-aes-256 | gcm-aes-xpn-128 | gcm-aes-xpn-256}
no macsec-cipher-suite {gcm-aes-128 | gcm-aes-256 | gcm-aes-xpn-128 | gcm-aes-xpn-256}
```

構文の説明

gcm-aes-128	128 ビット暗号により SAK を取得するための暗号スイートを設定します。
gcm-aes-256	256 ビット暗号により SAK を取得するための暗号スイートを設定します。
gcm-aes-xpn-128	Extended Packet Numbering (XPN) 用の 128 ビット暗号により SAK を取得するための暗号スイートを設定します。
gcm-aes-xpn-256	XPN 用の 256 ビット暗号により SAK を取得するための暗号スイートを設定します。

コマンド デフォルト

GCM-AES-128 暗号化は有効になっています。

コマンド モード

MKA ポリシー コンフィギュレーション (config-mka-policy)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバイスが GCM-AES-128 および GCM-AES-256 の両方の暗号方式をサポートしている場合は、ユーザ定義の MKA ポリシーを定義して使用し、要件に基づいて、両方の暗号を含めるか、または 256 ビットのみの暗号を含めることを強くお勧めします。

例

次に、256 ビット暗号化で SAK を取得するための MACsec 暗号スイートを設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mka policy 2
Device(config-mka-policy)# macsec-cipher-suite gcm-aes-256
```

関連コマンド

Command	Description
mka policy	MKA ポリシーを設定します。
confidentiality-offset	機密性オフセットを設定して MACsec を動作させます。
delay-protection	MKPDU の送信で遅延保護を使用するように MKA を設定します。

Command	Description
include-icv-indicator	MKPDU に ICV インジケータを含めます。
key-server	MKA キーサーバオプションを設定します。
sak-rekey	SAK キー再生成間隔を設定します。
send-secure-announcements	MKPDU の送信でセキュアなアナウンスを送信するように MKA を設定します。
ssci-based-on-sci	SCI に基づいて SSCI を計算します。
use-updated-eth-header	ICV 計算には更新されたイーサネットヘッダーを使用します。

macsec network-link

アップリンク インターフェイスの MACsec Key Agreement (MKA) プロトコル設定を有効にするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **macsec network-link** コマンドを使用します。CDP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

macsec network-link

no macsec network-link

構文の説明	macsec network-link EAP-TLS 認証プロトコルを使用してデバイス インターフェイスの MKA MACsec 設定を有効にします。	
コマンド デフォルト	macsec network-link は無効になっています。	
コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、EAP-TLS 認証プロトコルを使用して、インターフェイスに MACsec MKA を設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface GigabitEthernet 1/0/20
Device(config-if)# macsec network-link
Device(config-if)# end
Device#
```

match (アクセス マップ コンフィギュレーション)

VLAN マップを1つまたは複数のアクセスリストとパケットを照合するように設定するには、アクセスマップコンフィギュレーションモードで**match** コマンドを使用します。一致パラメータを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match {ip address {namenumber} [{namenumber}] [{namenumber}]... | ipv6 address
{namenumber} [{namenumber}] [{namenumber}]... | mac address {name} [{name}]
[{name}]...}
no match {ip address {namenumber} [{namenumber}] [{namenumber}]... | ipv6 address
{namenumber} [{namenumber}] [{namenumber}]... | mac address {name} [{name}]
[{name}]...}
```

構文の説明

ip address	パケットを IP アドレス アクセス リストと照合するようにアクセス マップを設定します。
ipv6 address	パケットを IPv6 アドレス アクセス リストと照合するようにアクセス マップを設定します。
mac address	パケットを MAC アドレス アクセス リストと照合するようにアクセス マップを設定します。
<i>name</i>	パケットを照合するアクセス リストの名前です。
<i>number</i>	パケットを照合するアクセス リストの番号です。このオプションは、MAC アクセス リストに対しては無効です。

コマンド デフォルト

デフォルトのアクションでは、一致パラメータは VLAN マップに適用されません。

コマンド モード

アクセスマップ コンフィギュレーション (config-access-map)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

vlan access-map グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、アクセスマップ コンフィギュレーション モードを開始します。

1つのアクセスリストの名前または番号を入力する必要があります。その他は任意です。パケットは、1つまたは複数のアクセスリストに対して照合できます。いずれかのリストに一致すると、エントリの一致としてカウントされます。

アクセス マップ コンフィギュレーション モードでは、**match** コマンドを使用して、VLAN に適用される VLAN マップの一致条件を定義できます。**action** コマンドを使用すると、パケットが条件に一致したときに実行するアクションを設定できます。

パケットは、同じプロトコル タイプのアクセス リストに対してだけ照合されます。IP パケットは、IP アクセス リストに対して照合され、IPv6 パケットは IPv6 アクセス リストに対して照合され、その他のパケットはすべて MAC アクセス リストに対して照合されます。

同じマップ エントリに、IP アドレス、IPv6 アドレスおよび MAC アドレスを指定できます。

例

次の例では、VLAN アクセス マップ `vmap4` を定義して VLAN 5 と VLAN 6 に適用する方法を示します。このアクセス マップでは、パケットがアクセス リスト `a12` に定義された条件に一致すると、インターフェイスは IP パケットをドロップします。

```
Device> enable
Device(config)# vlan access-map vmap4
Device(config-access-map)# match ip address a12
Device(config-access-map)# action drop
Device(config-access-map)# exit
Device(config)# vlan filter vmap4 vlan-list 5-6
Device(config)# exit
```

設定を確認するには、`show vlan access-map` コマンドを入力します。

mka pre-shared-key

事前共有キー（PSK）を使用してデバイスインターフェイスのMACsec Key Agreement（MKA）MACsecを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **mka pre-shared-key key-chain *key-chain name*** コマンドを使用します。CDPをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mka pre-shared-key key-chain *key-chain-name*
no mka pre-shared-key key-chain *key-chain-name*

構文の説明

mka pre-shared-key key-chain PSKを使用してデバイスインターフェイスのMACsec MKA設定を有効にします。

コマンド デフォルト

mka pre-shared-key はディセーブルです。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、PSKを使用して、インターフェイスのMKA MACsecを設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface GigabitEthernet 1/0/20
Device(config-if)# mka pre-shared-key key-chain kcl
Device(config-if)# end
Device#
```

mka suppress syslogs sak-rekey

ロギングにおいて MACsec Key Agreement (MKA) セキュアアソシエーションキー (SAK) のキー再生成メッセージを抑制するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **mka suppress syslogs sak-rekey** コマンドを使用します。MKA SAK キー再生成メッセージのロギングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mka suppress syslogs sak-rekey
no mka suppress syslogs sak-rekey

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト すべての MKA SAK syslog メッセージがコンソールに表示されます。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.9.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン MKA SAK syslog はすべてのキー再生成間隔で継続的に生成されるため、複数のインターフェイスで MKA が設定されている場合は生成される syslog の量が非常に多くなります。MKA SAK syslog を抑制するには、このコマンドを使用します。

例

次に、MKA SAK syslog ロギングを抑制する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mka suppress syslogs sak-rekey
```

password encryption aes

タイプ6の暗号化事前共有キーをイネーブルにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **password encryption aes** コマンドを使用します。パスワードの暗号化をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

password encryption aes
no password encryption aes

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

事前共有キーは暗号化されていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

変更

この
した。

使用上のガイドライン

CLIを使用して、プレーンテキストのパスワードをタイプ6形式でNVRAMに安全に保存できます。タイプ6のパスワードは暗号化されています。暗号化されたパスワード自体を、確認したり取得したりすることは可能ですが、それを復号化して実際のパスワードを特定することは困難です。**key config-key password-encrypt** コマンドを **password encryption aes** コマンドとともに使用すると、パスワードを設定してイネーブルにできます（キーの暗号化には対称キー暗号である高度暗号化規格（AES）が使用されます）。**key config-key password-encrypt** コマンドを使用して設定されたパスワード（キー）は、ルータ内のその他すべてのキーを暗号化するマスター暗号キーとして使用されます。

password encryption aes コマンドを設定する際、同時に **key config-key password-encrypt** コマンドを設定しないと、**show running-config** コマンドや **copy running-config startup-config** コマンドなどが実行される起動時や不揮発性生成（NVGEN）プロセス中に次のようなメッセージが出力されます。

```
"Can not encrypt password. Please configure a configuration-key with 'key config-key'"
```

パスワードの変更

key config-key password-encrypt コマンドを使用してパスワード（マスターキー）が変更された場合、または再暗号化された場合には、リストレジストリから、タイプ6暗号が使用されているアプリケーションモジュールへ、変更前のキーと変更後のキーが渡されます。

パスワードの削除

key config-key password-encrypt コマンドを使用して設定されたマスターキーがシステムから削除されると、タイプ6のパスワードすべてが使用不可になるという内容の警告が出力されます（同時に、確認用のプロンプトも表示されます）。セキュリティ対策として、暗号化された

パスワードは、Cisco IOS ソフトウェアによって復号化されることはなくなります。ただし、すでに説明したように、パスワードを再暗号化することはできません。



注意 **key config-key password-encrypt** コマンドを使用して設定されたパスワードは、一度失われると回復できません。そのため、パスワードは安全な場所に保存しておくことを推奨します。

パスワード暗号化の設定解除

no password encryption aes コマンドを使用してパスワード暗号化の設定を解除しても、既存のタイプ 6 パスワードはすべて変更されずに残されます。**key config-key password-encrypt** コマンドを使用して設定したパスワード（マスターキー）があれば、アプリケーションで必要に応じてタイプ 6 パスワードを復号化できます。

パスワードの保存

（**key config-key password-encrypt** コマンドを使用して設定された）パスワードは誰にも「判読」できないため、ルータからパスワードを取得する方法はありません。既存の管理ステーションでは、その内部にキーが格納されるよう強化されることで初めて、パスワードの内容を「知る」ことができます。そのため、パスワードは管理システム内部に安全に保存する必要があります。TFTP を使用して保存された設定は、スタンドアロンではないため、ルータにはロードできません。設定をルータにロードする前後には、（**key config-key password-encrypt** コマンドを使用して）パスワードを手動で追加する必要があります。このパスワードは、保存された設定に手動で追加できますが、それによって設定内のすべてのパスワードを誰もが復号化できるようになるため、手動によるパスワードの追加は行わないことを推奨します。

新規パスワードまたは不明パスワードの設定

入力またはカットアンドペーストした暗号文は、それがマスターキーに適合しない場合やマスターキーが存在しない場合でも、受理または保存されます。ただしこの場合には次のアラートメッセージが表示されます。

```
"ciphertext>[for username bar>] is incompatible with the configured master key."
```

マスターキーを新規に設定すると、プレーンテキストのキーはすべて暗号化され、タイプ 6 のキーに変換されます。すでにタイプ 6 であるキーは暗号化されず、現在の状態が維持されます。

既存のマスターキーが失われた場合、またはその内容が不明の場合は、**no key config-key password-encrypt** コマンドを使用してそのマスターキーを削除できます。既存の暗号化パスワードは、暗号化された状態のままルータ設定内に保持されます。これらのパスワードは復号化されません。

例

次に、タイプ 6 の暗号化事前共有キーをイネーブルにする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device (config)# password encryption aes
```

関連コマンド

コマンド	Description
key config-key password-encrypt	タイプ6の暗号キーをプラットフォームに保存します。

permit (MAC アクセス リスト コンフィギュレーション)

条件が一致した場合に非 IP トラフィックの転送を許可するには、MAC アクセスリスト コンフィギュレーションモードで **permit** コマンドを使用します。拡張 MAC アクセスリストから許可条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
{permit {any | hostsrc-MAC-addr | src-MAC-addr mask} {any | hostdst-MAC-addr |
dst-MAC-addr mask} [type mask | aarp | amber | appletalk | dec-spanning | decnet-iv
| diagnostic | dsm | etype-6000 | etype-8042 | lat | lave-sca | lsaplsap mask |
mop-console | mop-dump | msdos | mumps | netbios | vines-echo | vines-ip |
xns-idp] [coscos]
nopermit {any | host src-MAC-addr | src-MAC-addr mask} {any | host dst-MAC-addr |
dst-MAC-addr mask} [type mask | aarp | amber | appletalk | dec-spanning | decnet-iv
| diagnostic | dsm | etype-6000 | etype-8042 | lat | lave-sca | lsap lsap mask |
mop-console | mop-dump | msdos | mumps | netbios | vines-echo | vines-ip |
xns-idp] [coscos]
```

構文の説明

any	すべての送信元または宛先 MAC アドレスを許可します。
host src-MAC-addr src-MAC-addr mask	ホスト MAC アドレスと任意のサブネットマスクが定義されたアドレスに一致する場合は、そのアドレスを許可します。
host dst-MAC-addr dst-MAC-addr mask	宛先 MAC アドレスと任意のサブネットマスクが定義されたアドレスに一致する場合は、そのアドレスを許可します。
type mask	(任意) パケットの EtherType 番号と、EtherType とパケットのプロトコルを識別します。 <ul style="list-style-type: none"> • type には、0 ~ 65535 の 16 進数を指定します。 • mask は、一致をテストする前に EtherType をマスクします。
aarp	(任意) データリンクアドレスをネットワークアドレス解決プロトコル (Address Resolution Protocol) を指定します。
amber	(任意) EtherType DEC-Amber を指定します。
appletalk	(任意) EtherType AppleTalk/EtherTalk を指定します。
dec-spanning	(任意) EtherType Digital Equipment Corporation Spanning Tree Protocol を指定します。
decnet-iv	(任意) EtherType DECnet Phase IV プロトコルを指定します。
diagnostic	(任意) EtherType DEC-Diagnostic を指定します。
dsm	(任意) EtherType DEC-DSM を指定します。

etype-6000	(任意) EtherType 0x6000 を指定します。
etype-8042	(任意) EtherType 0x8042 を指定します。
lat	(任意) EtherType DEC-LAT を指定します。
lavc-sca	(任意) EtherType DEC-LAVC-SCA を指定します。
lsap <i>lsap-number mask</i>	(任意) パケットの LSAP 番号 (0 ~ 65535) とプロトコルを指定します。 <i>mask</i> は、一致をテストする前に LSAP 番号に適
mop-console	(任意) EtherType DEC-MOP Remote Console を指定します。
mop-dump	(任意) EtherType DEC-MOP Dump を指定します。
msdos	(任意) EtherType DEC-MSDOS を指定します。
mumps	(任意) EtherType DEC-MUMPS を指定します。
netbios	(任意) EtherType DEC-Network Basic Input/Output を指定します。
vines-echo	(任意) Banyan Systems による EtherType Virtual Circuit を指定します。
vines-ip	(任意) EtherType VINES IP を指定します。
xns-idp	(任意) EtherType Xerox Network Systems (XNS) を指定します。
cos <i>cos</i>	(任意) プライオリティを設定するため、0 ~ 7 を指定します。CoS に基づくフィルタリングは、ハードウェアが設定されているかどうかを確認する警告メッセージを生成します。

コマンド デフォルト このコマンドには、デフォルトはありません。ただし、名前付き MAC ACL のデフォルトアクションは拒否です。

コマンド モード MAC アクセス リスト コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **appletalk** は、コマンドラインのヘルプストリングには表示されますが、一致条件としてはサポートされていません。

mac access-list extended グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、MAC アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始します。

host キーワードを使用した場合、アドレスマスクは入力できません。**any** キーワードまたは **host** キーワードを使用しない場合は、アドレスマスクを入力する必要があります。

アクセス コントロール エントリ (ACE) がアクセスコントロールリストに追加された場合、リストの最後には暗黙の **deny-any-any** 条件が存在します。つまり、一致がない場合にはパケットは拒否されます。ただし、最初の ACE が追加される前に、リストはすべてのパケットを許可します。

IPX トラフィックをフィルタリングするには、使用されている IPX カプセル化のタイプに応じて、*type mask* または **lsap lsap mask** キーワードを使用します。Novell 用語と Cisco IOS XE 用語での IPX カプセル化タイプに対応するフィルタ条件を、次の表に一覧表示します。

表 5: IPX フィルタ基準

IPX カプセル化タイプ		フィルタ基準
Cisco IOS 名	Novell 名	
arpa	Ethernet II	EtherType 0x8137
snap	Ethernet-snap	EtherType 0x8137
sap	Ethernet 802.2	LSAP 0xE0E0
novell-ether	Ethernet 802.3	LSAP 0xFFFF

次の例では、あらゆる送信元から MAC アドレス 00c0.00a0.03fa への NetBIOS トラフィックを許可する名前付き MAC 拡張アクセス リストを定義する方法を示します。このリストに一致するトラフィックは許可されます。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mac access-list extended
Device(config-ext-macl)# permit any host 00c0.00a0.03fa netbios
Device(config-ext-macl)# end
```

次の例では、名前付き MAC 拡張アクセス リストから許可条件を削除する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mac access-list extended
Device(config-ext-macl)# no permit any 00c0.00a0.03fa 0000.0000.0000 netbios
Device(config-ext-macl)# end
```

次の例では、EtherType 0x4321 のすべてのパケットを許可します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mac access-list extended
Device(config-ext-macl)# permit any any 0x4321 0
Device(config-ext-macl)# end
```

設定を確認するには、**show access-lists** コマンドを入力します。

関連コマンド	コマンド	Description
	deny	MAC アクセスリ 否します。条件 が転送されるの
	mac access-list extended	非 IP トラフィッ セス リストを作
	show access-lists	デバイスに設定 ます。

protocol (IPv6 スヌーピング)

s

アドレスを Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) または Neighbor Discovery Protocol (NDP) で収集する必要があることを指定するか、プロトコルを IPv6 プレフィックスリストに対応させるには、IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション モードで **protocol** コマンドを使用します。DHCP または NDP によるアドレス収集をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
protocol {dhcp | ndp}
no protocol {dhcp | ndp}
```

構文の説明

dhcp アドレスをダイナミックホストコンフィギュレーションプロトコル (DHCP) パケットで収集する必要があることを指定します。

ndp アドレスをネイバー探索プロトコル (NDP) パケットで収集する必要があることを指定します。

コマンドデフォルト

スヌーピングとリカバリは DHCP および NDP の両方を使用して試行します。

コマンドモード

IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション モード (config-ipv6-snooping)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

アドレスが DHCP または NDP に関連付けられたプレフィックスリストと一致しない場合は、制御パケットがドロップされ、バインディング テーブル エントリのリカバリはそのプロトコルに対しては試行されません。

- **no protocol {dhcp | ndp}** コマンドを使用すると、プロトコルはスヌーピングまたはグリーニングに使用されません。
- **no protocol dhcp** コマンドを使用すると、DHCP は依然としてバインディング テーブルのリカバリに使用できます。
- データ収集は DHCP および NDP でリカバリできますが、宛先ガードは DHCP によるのみリカバリできます。

次に、IPv6 スヌーピングポリシー名を **policy1** と定義し、アドレスの収集に DHCP を使用するようにポートを設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 snooping policy policy1
```

```
Device(config-ipv6-snooping)# protocol dhcp
Device(config-ipv6-snooping)# end
```

radius server

RADIUS アカウンティングと RADIUS 認証を含む RADIUS サーバのパラメータを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **radius server** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
radius server name
address {ipv4 | ipv6} ip{address / hostname} auth-port udp-port acct-port udp-port
key string
automate tester name | retransmit value | timeout seconds
no radius server name
```

構文の説明

address {ipv4 ipv6} ip{address / hostname}	RADIUS サーバの IP アドレスを指定します。
auth-port udp-port	(任意) RADIUS 認証サーバの UDP ポートを指定します。指定できる範囲は 0 ~ 65536 です。
acct-port udp-port	(任意) RADIUS アカウンティングサーバの UDP ポートを指定します。指定できる範囲は 0 ~ 65536 です。
key string	(任意) デバイスと RADIUS デーモン間のすべての RADIUS 通信の認証キーおよび暗号キーを指定します。 (注) キーは、RADIUS サーバで使用する暗号化キーに一致するテキストストリングでなければなりません。必ずこのコマンドの最終項目として key を設定してください。先頭のスペースは無視されますが、キーの中間および末尾のスペースは使用されます。 key にスペースが含まれる場合は、引用符が key の一部でない限り、 key を引用符で囲まないでください。
automate tester name	(任意) RADIUS サーバステータスの自動サーバテストをイネーブルにし、使用されるユーザ名を指定します。
retransmit value	(任意) サーバが応答しない、または応答が遅い場合に、RADIUS 要求をリセットする回数を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 100 です。この設定は、 radius-server retransmit グローバル コンフィギュレーション コマンドによる設定を上書きします。
timeout seconds	(任意) device が要求を再送信する前に RADIUS サーバからの応答を待機する時間間隔を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 1000 です。この設定は radius-server timeout コマンドを上書きします。

コマンド デフォルト

- RADIUS アカウンティング サーバの UDP ポートは 1646 です。
- RADIUS 認証サーバの UDP ポートは 1645 です。

- 自動サーバテストはディセーブルです。
- タイムアウトは 60 分（1 時間）です。
- 自動テストがイネーブルの場合、UDP ポートのアカウントिंगおよび認証時にテストが実行されます。
- 認証キーおよび暗号キー（string）は設定されていません。

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション（config）

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

- RADIUS アカウンティングサーバおよび RADIUS 認証サーバの UDP ポートをデフォルト以外の値に設定することを推奨します。
- RADIUS サーバ コンフィギュレーションモードで **key string** コマンドを使用すると、認証および暗号キーを設定できます。必ずこのコマンドの最終項目として **key** を設定してください。
- RADIUS サーバステータスの自動サーバテストをイネーブルにし、使用されるユーザ名を指定するには、**automate-tester name** キーワードを使用します。

次の例では、認証サーバの UDP ポートを 1645、アカウントिंगサーバの UDP ポートを 1646 に設定し、文字列を設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# radius server ISE
Device(config-radius-server)# address ipv4 10.1.1 auth-port 1645 acct-port 1646
Device(config-radius-server)# key cisco123
Device(config-radius-server)# end
```

radius-server dead-criteria

RADIUS サーバを dead としてマークするために使用する基準のいずれかまたは両方を示されている定数に強制的に設定するには、**radius-server dead-criteria** コマンドをグローバル コンフィギュレーションモードで使用します。設定されていた基準を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

radius-server dead-criteria [**time** *seconds*] [**tries** *number-of-tries*]

no radius-server dead-criteria [{**time** *seconds* | **tries** *number-of-tries*}]

構文の説明

time <i>seconds</i>	<p>(任意) デバイスが RADIUS サーバから有効なパケットを最後に受信してから、サーバが dead としてマークされるまでに経過する必要がある最小時間 (秒単位)。デバイスの起動後にパケットを受信せずにタイムアウトになった場合は、この時間の条件は満たされたものとして処理されます。この時間は 1 ~ 120 秒に設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>seconds</i> 引数を設定しない場合、この秒数はサーバのトランザクションレートに応じて 10 ~ 60 秒になります。 <p>(注) 時間の条件と試行回数の条件の両方を満たしていないと、サーバはデッド状態と指定されません。</p>
tries <i>number-of-tries</i>	<p>(任意) RADIUS サーバが dead としてマークされるまでにデバイスで発生する必要がある連続タイムアウト回数。サーバが認証とアカウントの両方を実行する場合、両方の種類のパケットがこの回数に含まれます。正しく作成されていないパケットは、タイムアウトになっているものとしてカウントされません。最初の送信と再送信を含むすべての送信がカウントされます。タイムアウト回数は 1 ~ 100 に設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>number-of-tries</i> 引数を設定しない場合、連続タイムアウト回数はサーバのトランザクションレートと設定されている再送信回数に基づいて 10 ~ 100 となります。 <p>(注) 時間の条件と試行回数の条件の両方を満たしていないと、サーバはデッド状態と指定されません。</p>

コマンド デフォルト

RADIUS サーバがデッド状態としてマークされるまでに発生する連続タイムアウトの回数と秒数は、サーバのトランザクション レートと設定されている再送信回数に応じて異なります。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (**config**)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン



(注) 時間の条件と試行回数の条件の両方を満たしていないと、サーバはデッド状態と指定されません。

このコマンドの **no** 形式では、次のようになります。

- *number-of-tries* 引数も *number-of-tries* 引数も **no radius-server dead-criteria** コマンドに指定されていない場合は、時間と試行回数の両方がそれらのデフォルトにリセットされます。
- 最初に設定されていた値を使用して *seconds* 引数が指定された場合、時間はデフォルトの値範囲 (10 ~ 60) にリセットされます。
- 最初に設定されていた値を使用して *number-of-tries* 引数が指定された場合、時間はデフォルトの値範囲 (10 ~ 100) にリセットされます。

例

次に、5 秒が経過して 4 回の試行後にデバイスが **dead** と見なされるようにデバイスを設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# radius-server dead-criteria time 5 tries 4
```

次に、**radius-server dead-criteria** コマンドに設定されていた時間と試行回数の基準を無効にする例を示します。

```
Device(config)# no radius-server dead-criteria
```

次に、**radius-server dead-criteria** コマンドに設定されていた時間の基準を無効にする例を示します。

```
Device(config)# no radius-server dead-criteria time 5
```

次に、**radius-server dead-criteria** コマンドに設定されていた試行回数の基準を無効にする例を示します。

```
Device(config)# no radius-server dead-criteria tries 4
```

関連コマンド

Command	Description
debug aaa dead-criteria transactions	デッド条件の AAA トランザクションの値を表示します。
show aaa dead-criteria	AAA サーバのデッド条件に関する情報を表示します。
show aaa server-private	すべてのプライベート RADIUS サーバのステータスを表示します。
show aaa servers	AAA サーバとの間で送受信されたパケットの数に関する情報を表示します。

radius-server deadtime

一部のサーバが使用不能な場合の RADIUS 応答時間を改善し、使用不能なサーバを即時にスキップするには、**radius-server deadtime** コマンドをグローバル コンフィギュレーション モードで使用します。deadtime を 0 に設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

radius-server deadtime minutes
no radius-server deadtime

構文の説明	<i>minutes</i>	トランザクション要求が RADIUS サーバをスキップする期間（分単位、最大 1440 分（24 時間））。
-------	----------------	--

コマンド デフォルト デッドタイムは 0 に設定されます。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション（config）

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Cisco IOS ソフトウェアが認証要求に応答しない RADIUS サーバを *dead* としてマークできるようにします。これにより、設定されている次のサーバを試行する前に要求の待機がタイムアウトになることが防止されます。*dead* としてマークされた RADIUS サーバは、指定された期間（分単位）、その他の要求でスキップされます。ただし、*dead* としてマークされていないサーバが他にない場合を除きます。



(注) *dead* としてマークされた RADIUS サーバが誘導要求を受信する場合、その誘導要求は RADIUS サーバで除外されません。ダイレクト要求は RADIUS サーバに直接送信されるため、RADIUS サーバはダイレクト要求の処理を続行します。

次の両方の条件を満たした場合に RADIUS サーバが *dead* としてマークされます。

1. サーバへ再送信するかどうかを決定するために使用される最小限のタイムアウト期間内に、未処理のトランザクションに対する有効な応答を RADIUS サーバから受信しなかった。
2. 最小限必要な再送信回数に 1（初回送信分）を加算した回数だけ、パケットがすべてのトランザクションで連続して RADIUS サーバに送信されたが、必要なタイムアウト期間内にサーバから有効な応答を受信しなかった。

例

次に、認証要求への応答に失敗した RADIUS サーバのデッドタイムを 5 分に指定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# radius-server deadline 5
```

関連コマンド

Command	Description
deadline (server-group configuration)	RADIUS サーバ グループのコンテキスト内でデッドタイムを設定します。
radius-server host	RADIUS サーバ ホストを指定します。
radius-server retransmit	Cisco IOS ソフトウェアが RADIUS サーバ ホストのリストを検索する回数の最大値を指定します。
radius-server timeout	サーバホストが応答するまでデバイスが待機する間隔を設定します。

radius-server directed-request

ユーザがシスコのネットワークアクセスサーバ (NAS) にログインして認証用の RADIUS サーバを選択できるようにするには、**radius-server directed-request** コマンドをグローバルコンフィギュレーションモードで使用します。誘導要求機能を無効にするには、このコマンドの **no** を使用します。

```
radius-server directed-request [restricted]
no radius-server directed-request [restricted]
```

構文の説明	restricted	(任意) 指定したサーバが使用できない場合、ユーザがセカンダリサーバに送信されないようにします。
-------	-------------------	--

コマンド デフォルト ユーザはシスコの NAS にログインできないため、認証用の RADIUS サーバを選択します。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **radius-server directed-request** コマンドは、「@」記号より前のユーザ名の部分のみを「@」記号の後に指定したホストに送信します。つまり、このコマンドを有効にすると、設定済みのサーバのいずれにも要求を送信でき、ユーザ名のみが指定したサーバに送信されます。



(注) **server-private** (RADIUS) コマンドを設定してプライベート RADIUS サーバをグループサーバとして使用した場合は、**radius-server directed-request** コマンドを設定することはできません。

次に、RADIUS サーバにメッセージを送信する一連のイベントを示します。

- **radius-server directed-request** コマンドを設定した場合は、次のようになります。
 - 要求が誘導先のサーバに送信されます。同じ IP アドレスを持つサーバが複数ある場合、要求は同じ IP アドレスを持つ最初のサーバにのみ送信されます。
 - 応答を受信しない場合、要求は最初の方式リストに示されているすべてのサーバに送信されます。
 - 最初の方式で応答を受信しなかった場合、要求は方式リストの最後に到達するまで、2 番目の方式リストに示されているすべてのサーバに送信されます。



(注) 誘導先のサーバを選択するには、指定された要求に指定された IP アドレスを持つサーバの方式リスト内の最初のサーバグループを検索します。使用できない場合、グローバルプールの同じ IP アドレスを持つ最初のサーバグループが考慮されます。

- **radius-server directed-request restricted** コマンドを方式リスト内のすべてのサーバグループに対して設定した場合、誘導先のサーバから応答を受信するまで、または方式リストの最後に到達するまで、次のアクションが実行されます。
 - 誘導先のサーバの IP アドレスを持つ最初のサーバを使用して要求が送信されます。
 - 同じ IP アドレスを持つサーバがサーバグループ内に見つからない場合は、誘導先のサーバの IP アドレスを持つグローバルプール内の最初のサーバが使用されます。

radius-server directed-request コマンドを **no radius-server directed-request** コマンドを使用して無効にした場合、文字列全体（「@」記号の前と後ろの両方）がデフォルトの RADIUS サーバに送信されます。ルータは、リスト内の最初のサーバから順にサーバのリストを照会します。文字列全体を送信し、サーバからの最初の応答を受け入れます。

ユーザをユーザ名の一部として識別された RADIUS サーバに制限するには、**radius-server directed-request restricted** コマンドを使用します。

ユーザ要求にサーバ IP アドレスがある場合、誘導先のサーバはその要求をグループに転送する前に特定のサーバに転送します。たとえば、`user@10.0.0.1` などのユーザ要求が誘導先のサーバに送信され、このユーザ要求に指定されている IP アドレスがサーバの IP アドレスの場合、誘導先のサーバはユーザ要求を特定のサーバに転送します。

誘導先のサーバがサーバグループとホストサーバの両方に設定されている場合に設定したサーバ名を持つユーザ要求が誘導先のサーバに送信されると、誘導先のサーバはユーザ要求をサーバグループに転送する前にホストサーバに転送します。たとえば、`user@10.0.0.1` というユーザ要求が誘導先のサーバに送信され、`10.0.0.1` がホストサーバのアドレスである場合、誘導先のサーバはユーザ要求をサーバグループに転送する前に、ホストサーバに転送します。



(注) **no radius-server directed-request restricted** コマンドを入力すると、**restricted** フラグのみが削除され、**directed-request** フラグは保持されます。誘導要求機能を無効にするには、**no radius-server directed-request** コマンドも入力する必要があります。

例

次に、誘導要求機能を設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# radius server rad-1
Device(config-radius-server)# address ipv4 10.1.1.2
Device(config-radius-server)# key dummy123
Device(config-radius-server)# exit
Device(config)# radius-server directed-request
```

関連コマンド

Command	Description
aaa group server	各種のサーバホストを別個のリストと別個の方式にグループ化します。
aaa new-model	AAA アクセスコントロールモデルをイネーブルにします。
server-private (RADIUS)	グループサーバに対するプライベート RADIUS サーバの IP アドレスを設定します。

radius-server domain-stripping

ユーザ名をリモートRADIUSサーバに転送する前にユーザ名からサフィックスをストリッピングするか、またはサフィックスとプレフィックスの両方をストリッピングするようにネットワークアクセスサーバ (NAS) を設定するには、**radius-server domain-stripping** コマンドをグローバル コンフィギュレーション モードで使用します。ストリッピング設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。



- (注) デフォルトの vrf 名が設定されるまでにデフォルトの VRF 名が確実に NULL 値になるように、**ip vrf default** コマンドをグローバル コンフィギュレーション モードで設定してから **radius-server domain-stripping** コマンドを設定する必要があります。

```
radius-server domain-stripping [{ [right-to-left] [prefix-delimiter character [character2 . . . character7]] [delimiter character [character2 . . . character7]] |strip-suffix suffix }] [vrf vrf-name ]
no radius-server domain-stripping [{ [right-to-left] [prefix-delimiter character [character2 . . . character7]] [delimiter character [character2 . . . character7]] |strip-suffix suffix }] [vrf vrf-name ]
```

構文の説明

right-to-left	(任意) 完全なユーザ名を右から左に解析するときに検出された最初のデリミタで NAS がストリッピング設定を適用するように指定します。デフォルトでは、NASは、完全なユーザ名を左から右に解析するときに検出された最初のデリミタでストリッピング設定を適用します。
prefix-delimiter <i>character</i> [<i>character2...character7</i>]	(任意) プレフィックスのストリッピングを有効にし、プレフィックスデリミタとして認識される1つまたは複数の文字を指定します。 <i>character</i> 引数の有効な値は @、/、\$、%、\、#と - です。スペースを挟むことなく複数の文字を入力できます。プレフィックスデリミタとして7文字までを定義できます。これが有効な文字の最大数です。 <i>character</i> 引数の最後の文字または唯一の文字として\を入力する場合は、\\と入力する必要があります。デフォルトでは、プレフィックスデリミタは定義されていません。
delimiter <i>character</i> [<i>character2...character7</i>]	(任意) サフィックスデリミタとして認識される1つまたは複数の文字を指定します。 <i>character</i> 引数の有効な値は @、/、\$、%、\、#と - です。スペースを挟むことなく複数の文字を入力できます。サフィックスデリミタとして最大7文字を定義できます。これが有効な文字の最大数です。 <i>character</i> 引数の最後の文字または唯一の文字として\を入力する場合は、\\と入力する必要があります。デフォルトのサフィックスデリミタは @ 文字です。
strip-suffix <i>suffix</i>	(任意) ユーザ名から削除するサフィックスを指定します。

vrf <i>vrf-name</i>	(任意) ドメインストリッピング設定をバーチャルプライベートネットワーク (VPN) ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスに制限します。 <i>vrf-name</i> 引数は、VRF の名前を指定します。
----------------------------	---

コマンド デフォルト ストリッピングは無効です。完全なユーザ名が RADIUS サーバに送信されます。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン RADIUS サーバにユーザ名を転送する前に、ユーザ名からドメインをストリッピングするように NAS を設定するには、**radius-server domain-stripping** コマンドを使用します。完全なユーザ名が `user1@cisco.com` の場合、**radius-server domain-stripping** コマンドを有効にすると、ユーザ名の「user1」が RADIUS サーバに転送されます。

right-to-left キーワードを使用して、左から右ではなく、右から左へユーザ名のデリミタを解析するように指定します。これにより、デリミタの2つのインスタンスを含む文字列で、いずれのデリミタでもユーザ名をストリッピングできます。たとえば、ユーザ名が `user@cisco.com@cisco.net` の場合、サフィックスは次の2つの方向でストリッピングできます。デフォルトの方向 (左から右) では、ユーザ名の「user」が RADIUS サーバに転送されます。**right-to-left** キーワードを設定すると、ユーザ名の「user@cisco.com」が RADIUS サーバに転送されます。

プレフィックスのストリッピングを有効にし、プレフィックスデリミタとして認識される1つまたは複数の文字を指定するには、**prefix-delimiter** キーワードを使用します。最初に設定した解析される文字がプレフィックスデリミタとして使用され、そのデリミタの前の文字はすべてストリッピングされます。

サフィックスデリミタとして認識される1つまたは複数の文字を指定するには、**delimiter** キーワードを使用します。最初に設定した解析される文字がサフィックスのデリミタとして使用され、そのデリミタの後の文字はすべてストリッピングされます。

ユーザ名からストリッピングする特定のサフィックスを指定するには、**strip-suffix** *suffix* を使用します。たとえば、**radius-server domain-stripping strip-suffix cisco.net** コマンドを設定すると、`username user@cisco.net` がストリッピングされますが、`username user@cisco.com` はストリッピングされません。**radius-server domain-stripping** コマンドの複数のインスタンスを発行することによって、ストリッピング用に複数のサフィックスを設定できます。デフォルトのサフィックスデリミタは @ 文字です。



- (注) **radius-server domain-stripping s trip-suffix suffix** コマンドを発行すると、すべてのドメインからサフィックスをストリッピングする能力が無効になります。フルユーザ名からサフィックスが削除されるのは、サフィックスデリミタとサフィックスの両方が一致した場合のみです。**delimiter** キーワードを使用して別のサフィックスデリミタまたは一連のサフィックスデリミタを指定しない場合は、デフォルトのサフィックスデリミタである @ が使用されます。

指定した VRF のみにドメインストリッピング設定を適用するには、**vrf vrf-name** オプションを使用します。

次に、さまざまなタイプのドメインストリッピング設定間の連携動作を示します。

- **radius-server domain-stripping[right-to-left] [prefix-delimiter character [character2...character7]] [delimiter character [character2...character7]]** コマンドに設定できるインスタンスは1つのみです。
- **vrf vrf-name** に一意の値を使用した **radius-server domain-stripping[right-to-left] [prefix-delimiter character [character2...character7]] [delimiter character [character2...character7]] [vrf vrf-name]** コマンドは、複数のインスタンスを設定できます。
- **radius-server domain-stripping strip-suffix suffix[vrf per-vrf]** コマンドのインスタンスを複数設定することで、グローバルまたはVRFごとのルールセットの一部として複数のサフィックスをストリッピングすることができます。
- 別のデリミタまたは一連のデリミタを指定した場合を除き、任意のバージョンの **radius-server domain-stripping** コマンドを発行すると、そのルールセットにデフォルトのデリミタ文字の @ を使用するサフィックスストリッピングが自動的に有効になります。
- サフィックスごとのストリッピングルールを設定すると、そのルールセットの汎用サフィックスストリッピングが無効になります。設定された1つまたは複数のサフィックスと一致するサフィックスのみがユーザ名からストリッピングされます。

例

次の例では、ルータのユーザ名を右から左へ解析するように設定し、@、\、および \$ を有効なサフィックスデリミタ文字として設定します。完全なユーザ名が `cisco/user@cisco.com$cisco.net` の場合、ユーザ名を右から左へ解析するときに \$ 文字が NAS によって検出される最初の有効なデリミタであるため、ユーザ名の「`cisco/user@cisco.com`」が RADIUS サーバに転送されます。

```
radius-server domain-stripping right-to-left delimiter @\ $
```

次の例は、ルータが、`abc` と名付けられた VRF インスタンスに関連するユーザのみに対して、ユーザ名からドメイン名を削除する設定を示します。デフォルトのサフィックスデリミタである @ は一般的なサフィックスの削除に使用されます。

```
radius-server domain-stripping vrf abc
```

次の例は、/ をプレフィックスデリミタとして使用して、プレフィックスの削除を有効にします。デフォルトのサフィックスデリミタ文字の @ が一般的なサフィックス

の削除に使用されます。完全なユーザ名が `cisco/user@cisco.com` の場合、ユーザ名の「user」が RADIUS サーバに転送されます。

```
radius-server domain-stripping prefix-delimiter /
```

次の例は、プレフィックスの削除を有効にし、/の文字をプレフィックス デリミタとして設定し、#をサフィックスのデリミタとして設定します。完全なユーザ名が `cisco/user@cisco.com#cisco.net` の場合、ユーザ名の「user@cisco.com」が RADIUS サーバに転送されます。

```
radius-server domain-stripping prefix-delimiter / delimiter #
```

次の例は、プレフィックスの削除を有効にし、/の文字をプレフィックス デリミタとして設定し、\$、@、および#をサフィックスのデリミタとして設定し、`cisco.com` のサフィックスのサフィックスごとの削除を設定します。完全なユーザ名が `cisco/user@cisco.com` の場合、ユーザ名の「user」が RADIUS サーバに転送されます。フルユーザ名が `cisco/user@cisco.com#cisco.net` であればユーザ名の「user@cisco.com」が転送されます。

```
radius-server domain-stripping prefix-delimiter / delimiter $@#
radius-server domain-stripping strip-suffix cisco.com
```

次の例では、ルータのユーザ名を右から左へ解析するように設定し、`cisco.com` のサフィックスでユーザ名のサフィックス削除を有効にします。完全なユーザ名が `cisco/user@cisco.net@cisco.com` の場合、ユーザ名の「cisco/user@cisco.net」が RADIUS サーバに転送されます。フルユーザ名が `cisco/user@cisco.com@cisco.net` であれば、このフルユーザ名が転送されます。

```
radius-server domain-stripping right-to-left
radius-server domain-stripping strip-suffix cisco.com
```

次の例は、@をデリミタとして使用して `cisco.com` のサフィックスを削除する一連のグローバルな削除ルールと、`myvrf` という名前の VRF と関連するユーザ名に対する異なった一連の削除ルールを設定します。

```
radius-server domain-stripping strip-suffix cisco.com
!
radius-server domain-stripping prefix-delimiter # vrf myvrf
radius-server domain-stripping strip-suffix cisco.net vrf myvrf
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaa new-model	AAA アクセス コントロール モデルをイネーブルにします。
ip vrf	VRF インスタンスを定義し、VRF コンフィギュレーションモードを開始します。
tacacs-server domain-stripping	ユーザ名を TACACS+ サーバに転送する前にユーザ名からプレフィックスまたはサフィックスをストリッピングするようにルータを設定します。

sak-rekey

定義された MKA ポリシーのセキュリティアソシエーションキー (SAK) のキー再生成間隔を設定するには、MKA ポリシー コンフィギュレーション モードで **sak-rekey** コマンドを使用します。SAK キー再生成タイマーを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

sak-rekey {*interval time-interval* | **on-live-peer-loss**}

no sak-rekey {*interval* | **on-live-peer-loss**}

構文の説明

interval <i>time-interval</i>	SAK キー再生成間隔を秒単位で設定します。 範囲は 30 ~ 65535 で、デフォルトは 0 です。
on-live-peer-loss	ライブメンバーシップからのピア損失。

コマンド デフォルト

SAK キー再生成タイマーは無効になっています。デフォルトは 0 です。

コマンド モード

MKA ポリシー コンフィギュレーション (config-mka-policy)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.8.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、SAK キー再生成間隔を設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mka policy 2
Device(config-mka-policy)# sak-rekey interval 300
```

関連コマンド

Command	Description
mka policy	MKA ポリシーを設定します。
confidentiality-offset	機密性オフセットを設定して MACsec を動作させます。
delay-protection	MKPDU の送信で遅延保護を使用するように MKA を設定します。
include-icv-indicator	MKPDU に ICV インジケータを含めます。
key-server	MKA キーサーバオプションを設定します。
macsec-cipher-suite	SAK を取得するための暗号スイートを設定します。
send-secure-announcements	MKPDU の送信でセキュアなアナウンスを送信するように MKA を設定します。

Command	Description
ssci-based-on-sci	SCI に基づいて SSCI を計算します。
use-updated-eth-header	ICV 計算には更新されたイーサネットヘッダーを使用します。

security level (IPv6 スヌーピング)

適用されるセキュリティのレベルを指定するには、IPv6 スヌーピング ポリシー コンフィギュレーション モードで **security-level** コマンドを使用します。

security level {glean | guard | inspect}

構文の説明	glean	アドレスをメッセージから抽出し、検証を行わずにそれらをバインディング テーブルにインストールします。
	guard	収集と検査の両方を実行します。さらに、信頼できるポートで受信されていない場合、または別のポリシーによって許可されていない場合、RA メッセージおよび DHCP サーバメッセージは拒否されます。
	inspect	メッセージの一貫性と準拠度を検証します。特に、アドレス所有権が強制されます。無効なメッセージはドロップされます。
コマンド デフォルト	デフォルトのセキュリティ レベルは guard です。	
コマンド モード	IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション (config-ipv6-snooping)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、IPv6 スヌーピング ポリシー名を **policy1** と定義し、セキュリティレベルを **inspect** として設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 snooping policy policy1
Device(config-ipv6-snooping)# security-level inspect
Device(config-ipv6-snooping)# end
```

security passthru

IPSec のパススルーを変更するには、**security passthru** コマンドを使用します。ディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
security passthru ip-address  
no security passthru
```

構文の説明	<i>ip-address</i> VPN トンネルの終端となる IPSec ゲートウェイの IP アドレス。				
コマンド デフォルト	なし				
コマンド モード	wlan				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				

次に、IPSec のパススルーを変更する例を示します。

```
Device> enable  
Device# configure terminal  
Device(config)# security passthrough 10.1.1.1
```

send-secure-announcements

MKA が MACsec Key Agreement Protocol Data Unit (MKPDU) でセキュアな通知を送信できるようにするには、MKA ポリシー コンフィギュレーションモードで **send-secure-announcements** コマンドを使用します。このセキュアな通知の送信を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

send-secure-announcements
no send-secure-announcements

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

MKPDU でのセキュアなアナウンスは無効になっています。

コマンド モード

MKA ポリシー コンフィギュレーション (config-mka-policy)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

セキュアなアナウンスは、以前はセキュアでないアナウンスで共有されていた MACsec 暗号スイート機能を再検証します。

例

次に、セキュアなアナウンスの送信を有効にする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mka policy 2
Device(config-mka-policy)# send-secure-announcements
```

関連コマンド

Command	Description
mka policy	MKA ポリシーを設定します。
confidentiality-offset	機密性オフセットを設定して MACsec を動作させます。
delay-protection	MKPDU の送信で遅延保護を使用するように MKA を設定します。
include-icv-indicator	MKPDU に ICV インジケータを含めます。
key-server	MKA キーサーバオプションを設定します。
macsec-cipher-suite	SAK を取得するための暗号スイートを設定します。
sak-rekey	SAK キー再生成間隔を設定します。

Command	Description
ssci-based-on-sci	SCIに基づいてSSCIを計算します。
use-updated-eth-header	ICV計算には更新されたイーサネットヘッダーを使用します。

server-private (RADIUS)

グループサーバに対して、プライベート RADIUS サーバの IP アドレスを設定するには、RADIUS サーバグループ コンフィギュレーションモードで **server-private** コマンドを使用します。関連付けられたプライベートサーバを認証、許可、およびアカウントिंग (AAA) グループサーバから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
server-private ip-address [{auth-port port-number | acct-port port-number}] [non-standard]
[timeout seconds] [retransmit retries] [key string]
no server-private ip-address [{auth-port port-number | acct-port port-number}] [non-standard]
[timeout seconds] [retransmit retries] [key string]
```

構文の説明

<i>ip-address</i>	プライベート RADIUS サーバホストの IP アドレス。
auth-port <i>port-number</i>	(任意) 認証要求に対するユーザ データグラム プロトコル (UDP) 宛先ポート。デフォルト値は 1645 です。
acct-port <i>port-number</i>	(任意) アカウントング要求に対する UDP 宛先ポート。デフォルト値は 1646 です。
non-standard	(任意) RADIUS サーバでベンダー独自の RADIUS 属性を使用。
timeout <i>seconds</i>	(オプション) デバイスが RADIUS サーバの応答を待機し、再送信するまでの時間間隔 (秒単位)。この設定は radius-server timeout コマンドのグローバル値を上書きします。タイムアウト値が指定されていない場合は、グローバル値が使用されます。
retransmit <i>retries</i>	(任意) サーバが応答しない、または応答が遅い場合に RADIUS 要求をサーバに再送信する回数。この設定は radius-server retransmit コマンドのグローバル設定を上書きします。
key <i>string</i>	(任意) デバイスと RADIUS サーバ上で稼働する RADIUS デーモン間で使用される認証および暗号キー。このキーは radius-server key コマンドのグローバル設定を上書きします。キー文字列を指定しない場合、グローバル値が使用されます。 <i>string</i> には、 0 (暗号化されていないキーが続くことを指定)、 6 (Advanced Encryption Scheme (AES) 暗号化キーが続くことを指定) 7 (非公開のキーが続くことを指定) または暗号化されていない (クリアテキスト) サーバキーを指定する行を指定できます。

コマンド デフォルト

server-private パラメータが指定されていない場合は、グローバル コンフィギュレーションが使用されます。グローバル コンフィギュレーションが指定されていない場合は、デフォルト値が使用されます。

コマンド モード

RADIUS サーバグループ コンフィギュレーション (config-sg-radius)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

server-private コマンドを使用して、特定のプライベートサーバと定義済みのサーバグループを関連付けます。Virtual Route Forwarding (VRF) インスタンス間でプライベートアドレスが重複する可能性を防ぐには、プライベートサーバ (プライベートアドレスを持つサーバ) をサーバグループ内で定義し、他のグループには示されないようにします。この場合も、グローバルプール (デフォルトの「radius」サーバグループなど) 内のサーバは、IP アドレスとポート番号を使って参照できます。このように、サーバグループ内のサーバのリストには、グローバル コンフィギュレーションにおけるホストの参照情報とプライベートサーバの定義が含まれます。



(注)

- **radius-server directed-request** コマンドが設定されている場合、**server-private (RADIUS)** コマンドを設定してプライベート RADIUS サーバをグループサーバとして使用することはできません。
- プライベート RADIUS サーバの AAA サーバ統計情報レコードの作成または更新はサポートされていません。プライベート RADIUS サーバが使用されている場合、エラーメッセージとトレースバックが発生しますが、これらのエラーメッセージやトレースバックは AAA RADIUS 機能には影響しません。これらのエラーメッセージとトレースバックを回避するには、プライベート RADIUS サーバの代わりにパブリック RADIUS サーバを設定します。

タイプ 6 AES 暗号化キーを設定するには、**password encryption aes** コマンドを使用します。

例

次に、sg_water RADIUS グループサーバを定義してプライベートサーバを関連付ける例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# aaa group server radius sg_water
Device(config-sg-radius)# server-private 10.1.1.1 timeout 5 retransmit 3 key xyz
Device(config-sg-radius)# server-private 10.2.2.2 timeout 5 retransmit 3 key xyz
Device(config-sg-radius)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaa group server	各種のサーバホストを別個のリストと別個の方式にグループ化します。
aaa new-model	AAA アクセスコントロールモデルをイネーブルにします。
password encryption aes	タイプ 6 の暗号化事前共有キーをイネーブルにします。

コマンド	説明
radius-server host	RADIUS サーバホストを指定します。
radius-server directed-request	ユーザが NAS にログインして認証用の RADIUS サーバを選択できるようにします。

server-private (TACACS+)

グループサーバに対してプライベート TACACS+ サーバの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを設定するには、**server-private** コマンドをサーバグループ コンフィギュレーション モードで使用します。関連付けられたプライベートサーバを認証、許可、およびアカウントिंग (AAA) グループサーバから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
server-private { ipv4-address | ipv6-address | fqdn } [ nat ] [ single-connection ] [ port port-number ] [ timeout seconds ] key [ { 0 | 7 } ] string
no server-private
```

構文の説明

ipv4-address	プライベート TACACS+ サーバホストの IPv4 アドレスです。
ipv6-address	プライベート TACACS+ サーバホストの IPv6 アドレスです。
fqdn	ドメインネームサーバ (DNS) からのアドレス解決のためのプライベート TACACS+ サーバホストの完全修飾ドメイン名 (fqdn)。
nat	(任意) リモートデバイスのポートのネットワークアドレス変換 (NAT) アドレスを指定します。このアドレスは TACACS+ サーバに送信されます。
single-connection	(任意) ルータと TACACS+ サーバ間の単一の TCP 接続を維持します。
timeoutseconds	(任意) サーバ応答のタイムアウト値を指定します。この値を指定すると、このサーバに限り、 tacacs-server timeout コマンドで設定されたグローバルタイムアウト値が上書きされます。
portport-number	(任意) サーバのポート番号を指定します。この設定によって、デフォルトのポート 49 は上書きされます。
key [0 7] string	(任意) 認証と暗号キーを指定します。このキーは TACACS+ デーモンで使用されるキーと一致する必要があります。このキーを指定すると、このサーバに対してグローバル tacacs-server key コマンドで設定されたキーのみが上書きされます。 数字を入力しないか、または 0 を入力した場合は、入力された文字列はプレーンテキストと見なされます。7 を入力すると、入力された文字列は暗号化されたテキストと見なされます。

コマンド デフォルト

server-private パラメータが指定されていない場合は、グローバル コンフィギュレーション が使用されます。グローバル コンフィギュレーション が指定されていない場合は、デフォルト値が使用されます。

コマンド モード

TACACS+ サーバグループ コンフィギュレーション (**config-sg-tacacs+**)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **server-private** コマンドを使用して、特定のプライベートサーバと定義済みのサーバグループを関連付けます。Virtual Route Forwarding (VRF) 間でプライベートアドレスが重複する可能性を防ぐには、プライベートサーバ (プライベートアドレスを持つサーバ) をサーバグループ内で定義し、他のグループには示されないようにします。この場合も、グローバルプール (デフォルトの「TACACS+」サーバグループ) 内のサーバは、IP アドレスとポート番号を使用して参照できます。このように、サーバグループ内のサーバのリストには、グローバルコンフィギュレーションにおけるホストの参照情報とプライベートサーバの定義が含まれます。

次に、tacacs1 TACACS+ グループサーバを定義してプライベートサーバを関連付ける例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# aaa group server tacacs+ tacacs1
Device(config-sg-tacacs+)# server-private 10.1.1.1 port 19 key cisco
Device(config-sg-tacacs+)# exit
Device(config)# ip vrf cisco
Device(config-vrf)# rd 100:1
Device(config-vrf)# exit
Device(config)# interface Loopback0
Device(config-if)# ip address 10.0.0.2 255.0.0.0
Device(config-if)# ip vrf forwarding cisco
```

関連コマンド	コマンド	説明
	aaa group server	各種のサーバホストを別個のリストと別個の方式にグループ化します。
	aaa new-model	AAA アクセス コントロール モデルをイネーブルにします。
	ip tacacs source-interface	すべての発信 TACACS+ パケットに対して、指定されたインターフェイスの IP アドレスを使用します。
	ip vrf forwarding (server-group)	AAA TACACS+ サーバグループの VRF の参照を設定します。

show aaa clients

認証、許可、およびアカウントिंग（AAA）クライアントの統計情報を表示するには、**show aaa clients** コマンドを使用します。

show aaa clients [detailed]

構文の説明

detailed (任意) 詳細なAAAクライアントの統計情報を示します。

コマンドモード

ユーザ EXEC (>)

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

次に、**show aaa clients** コマンドの出力例を示します。

```
Device> enable
Device# show aaa clients

Dropped request packets: 0
```

show aaa command handler

認証、許可、およびアカウントティング（AAA）コマンドハンドラの統計情報を表示するには、**show aaa command handler** コマンドを使用します。

show aaa command handler

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ユーザ EXEC (>)

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、**show aaa command handler** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show aaa command handler
```

```
AAA Command Handler Statistics:
  account-logon: 0, account-logout: 0
  account-query: 0, pod: 0
  service-logon: 0, service-logout: 0
  user-profile-push: 0, session-state-log: 0
  reauthenticate: 0, bounce-host-port: 0
  disable-host-port: 0, update-rbacl: 0
  update-sgt: 0, update-cts-policies: 0
  invalid commands: 0
  async message not sent: 0
```

show aaa dead-criteria

認証、許可、およびアカウントティング (AAA) の `dead-criteria` 検出情報を表示するには、`show aaa dead-criteria` コマンドを特権 EXEC モードで使用します。

```
show aaa dead-criteria {security-protocol ip-address} [auth-port port-number] [acct-port port-number][server-group-name]
```

構文の説明	
<code>security-protocol</code>	指定した AAA サーバのセキュリティプロトコル。現在、サポートされているプロトコルは RADIUS のみです。
<code>ip-address</code>	指定した AAA サーバの IP アドレス。
<code>auth-port</code>	(任意) 指定した RADIUS サーバの認証ポート。
<code>port-number</code>	(任意) 認証ポートの番号。デフォルトは 1645 です (RADIUS サーバの場合)。
<code>acct-port</code>	(任意) 指定した RADIUS サーバのアカウントティングポート。
<code>port-number</code>	(任意) アカウントティングポートの番号。デフォルトは 1646 です (RADIUS サーバの場合)。
<code>server-group-name</code>	(任意) 指定したサーバが関連付けられているサーバグループ。デフォルトは <code>radius</code> です (RADIUS サーバの場合)。

コマンドデフォルト 現在、`auth-port` キーワードの `port-number` 引数と `acct-port` キーワードの `port-number` 引数は、デフォルトでそれぞれ 1645 と 1646 になります。`server-group-name` 引数のデフォルトは `radius` です。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 同じ IP アドレスを持つ複数の RADIUS サーバをデバイスに設定できます。`auth-port` キーワードと `acct-port` キーワードはサーバを区別するために使用されます。指定したサーバグループに関連付けられているサーバの `dead` 検出間隔は、`server-group-name` キーワードを使用して取得できます (RADIUS サーバの `dead` 状態検出間隔と再送信の値は、サーバが属するサーバグループに基づいて設定されます。複数のサーバグループに同じサーバを含めることができます)。

例

次に、IP アドレス 172.19.192.80 の RADIUS サーバに対して `dead-criteria` 検出情報を要求した場合の例を示します。

```
Device# show aaa dead-criteria radius 172.19.192.80 radius

RADIUS Server Dead Criteria:
=====
Server Details:
  Address : 172.19.192.80
  Auth Port : 1645
  Acct Port : 1646
Server Group : radius
Dead Criteria Details:
  Configured Retransmits : 62
  Configured Timeout : 27
  Estimated Outstanding Transactions: 5
  Dead Detect Time : 25s
  Computed Retransmit Tries: 22
  Statistics Gathered Since Last Successful Transaction
=====
Max Computed Outstanding Transactions: 5
Max Computed Dead Detect Time: 25s
Max Computed Retransmits : 22
```

Max Computed Dead Detect Time が表示されます (秒単位)。表示される他のフィールドは説明がなくてもわかります。

関連コマンド

コマンド	説明
debug aaa dead-criteria transactions	デッド条件の AAA トランザクションの値を表示します。
radius-server dead-criteria	RADIUS サーバをデッド状態と指定するための条件のいずれかまたは両方を、指定した定数で適用します。
show aaa server-private	すべてのプライベート RADIUS サーバのステータスを表示します。
show aaa servers	AAA サーバとの間で送受信されたパケットの数に関する情報を表示します。

show aaa local

認証、許可、およびアカウンティング（AAA）ローカル方式オプションを表示するには、**show aaa local** コマンドを使用します。

show aaa local { **netuser** { *name* | **all** } | **statistics** | **user lockout** }

構文の説明		
netuser	AAA ローカル ネットワーク または ゲスト ユーザ データベース を指定します。	
<i>name</i>	ネットワーク ユーザ名。	
all	ネットワーク および ゲスト ユーザ 情報を指定します。	
statistics	ローカル 認証 の統計 情報を表示 します。	
user lockout	AAA ローカル の ロックアウト された ユーザ を指定 します。	
コマンドモード	ユーザ EXEC (>)	
	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、**show aaa local statistics** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show aaa local statistics

Local EAP statistics

EAP Method          Success          Fail
-----
Unknown              0                0
EAP-MD5              0                0
EAP-GTC              0                0
LEAP                 0                0
PEAP                 0                0
EAP-TLS              0                0
EAP-MSCHAPV2        0                0
EAP-FAST             0                0

Requests received from AAA:          0
Responses returned from EAP:        0
Requests dropped (no EAP AVP):      0
Requests dropped (other reasons):   0
Authentication timeouts from EAP:   0

Credential request statistics
Requests sent to backend:            0
```

```
Requests failed (unable to send):      0
Authorization results received

Success:                                0
Fail:                                    0
```

show aaa servers

認証、許可、アカウントिंग（AAA）サーバのMIBによって認識されるすべてのAAAサーバを表示するには、**show aaa servers** コマンドを使用します。

show aaa servers [private | public | [detailed]]

構文の説明	detailed	(任意) AAA サーバの MIB によって認識されるプライベート AAA サーバを表示します。
	public	(任意) AAA サーバの MIB によって認識されるパブリック AAA サーバを表示します。
	detailed	(任意) 詳細な AAA サーバの統計情報を表示します。
コマンドモード	ユーザ EXEC (>)	
	特権 EXEC (>)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	コマンドの出力が更新されました。

例

次に、**show aaa servers** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show aaa servers

Bad authenticators: 0
RADSEC: Packet count since last idletimeout 0,
Send handshake count 0,
Handshake Success 0,
Total Packets Transmitted 0,
Total Packets Received 0,
Total Connection Resets 9,
Connection Reset due to idle timeout 0,
Connection Reset due to No Response 0,
Connection Reset due to Malformed packet 0,
Connection Reset by Peer 0,
```

show aaa sessions

認証、許可、アカウントिंग（AAA）セッションのMIBによって認識されるAAAセッションを表示するには、**show aaa sessions** コマンドを使用します。

show aaa sessions

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ユーザ EXEC (>)

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

次に、**show aaa sessions** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show aaa sessions

Total sessions since last reload: 7
Session Id: 4007
  Unique Id: 4025
  User Name: *not available*
  IP Address: 0.0.0.0
  Idle Time: 0
  CT Call Handle: 0
```

show authentication brief

特定のインターフェイスの認証セッションに関する概要情報を表示するには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show authentication brief** コマンドを使用します。

```
show authentication brief[switch{switch-number|active|standby}{R0}]
```

構文の説明	<i>switch-number</i>	<i>switch-number</i> 変数の有効な値は 1～9 です。
	R0	ルートプロセッサ (RP) スロット 0 に関する情報を表示します。
	active	アクティブ インスタンスを指定します。
	standby	スタンバイ インスタンスを指定します。
コマンドモード	特権 EXEC (#) ユーザ EXEC (>)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、**show authentication brief** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show authentication brief
```

Interface	MAC Address	AuthC	AuthZ	Fg	Uptime
Gi2/0/14	0002.0002.0001	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	281s
Gi2/0/14	0002.0002.0002	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	280s
Gi2/0/14	0002.0002.0003	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	279s
Gi2/0/14	0002.0002.0004	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	278s
Gi2/0/14	0002.0002.0005	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	278s
Gi2/0/14	0002.0002.0006	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	277s
Gi2/0/14	0002.0002.0007	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	276s
Gi2/0/14	0002.0002.0008	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	276s
Gi2/0/14	0002.0002.0009	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	275s
Gi2/0/14	0002.0002.000a	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	275s
Gi2/0/14	0002.0002.000b	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	274s
Gi2/0/14	0002.0002.000c	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	274s
Gi2/0/14	0002.0002.000d	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	273s
Gi2/0/14	0002.0002.000e	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	273s
Gi2/0/14	0002.0002.000f	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	272s
Gi2/0/14	0002.0002.0010	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	272s
Gi2/0/14	0002.0002.0011	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	271s
Gi2/0/14	0002.0002.0012	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	271s
Gi2/0/14	0002.0002.0013	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	270s
Gi2/0/14	0002.0002.0014	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	270s
Gi2/0/14	0002.0002.0015	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	269s

次に、アクティブインスタンスに対する **show authentication brief** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show authentication brief switch active R0
```

Interface	MAC Address	AuthC	AuthZ	Fg	Uptime
Gi2/0/14	0002.0002.0001	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	1s
Gi2/0/14	0002.0002.0002	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	0s
Gi2/0/14	0002.0002.0003	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	299s
Gi2/0/14	0002.0002.0004	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	298s
Gi2/0/14	0002.0002.0005	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	298s
Gi2/0/14	0002.0002.0006	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	297s
Gi2/0/14	0002.0002.0007	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	296s
Gi2/0/14	0002.0002.0008	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	296s
Gi2/0/14	0002.0002.0009	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	295s
Gi2/0/14	0002.0002.000a	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	295s
Gi2/0/14	0002.0002.000b	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	294s
Gi2/0/14	0002.0002.000c	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	294s
Gi2/0/14	0002.0002.000d	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	293s
Gi2/0/14	0002.0002.000e	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	293s
Gi2/0/14	0002.0002.000f	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	292s
Gi2/0/14	0002.0002.0010	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	292s
Gi2/0/14	0002.0002.0011	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	291s
Gi2/0/14	0002.0002.0012	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	291s
Gi2/0/14	0002.0002.0013	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	290s
Gi2/0/14	0002.0002.0014	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	290s
Gi2/0/14	0002.0002.0015	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	289s
Gi2/0/14	0002.0002.0016	m:NA d:OK	AZ: SA-	X	289s

次に、スタンバイインスタンスに対する **show authentication brief** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show authentication brief switch standby R0
```

```
No sessions currently exist
```

次の表で、この出力で表示される重要なフィールドについて説明します。

表 6: **show authentication brief** フィールドの説明

フィールド	説明
Interface	認証インターフェイスのタイプと番号。
MAC アドレス	クライアントの MAC アドレス。
AuthC	認証ステータス。
authz	承認ステータス。

フィールド	説明
FG	<p>現在のステータスを示すフラグ。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• A : ポリシーの適用中（詳細は複数行のステータスを参照）• D : 取り外し待ち• F : 最終の取り外しの進行中• I : IIF ID の割り当て待ち• P : セッションをプッシュ済み• R : ユーザプロファイルの削除中（詳細は複数行のステータスを参照）• U : ユーザプロファイルの適用中（詳細は複数行のステータスを参照）• X : 不明なブロック
Uptime	セッションが起動してからの経過時間。

show authentication history

デバイスで稼働中の認証セッションを表示するには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show authentication history** コマンドを使用します。

show authentication history [**min-uptime** *seconds*]

構文の説明	min-uptime <i>seconds</i> (任意) 最小アップタイム内のセッションを表示します。有効範囲は 1 ~ 4294967295 秒です。
-------	---

コマンドモード	ユーザ EXEC (>) 特権 EXEC (#)
---------	-----------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン デバイスで稼働中の認証セッションを表示するには、**show authentication history** コマンドを使用します。

次に、**show authentication history** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show authentication history

Interface  MAC Address      Method  Domain  Status  Uptime
Gi3/0/2    0021.d864.07c0  dot1x   DATA   Auth    38s

Session count = 1
```


show authentication sessions

現在の認証マネージャセッションに関する情報を表示するには、**show authentication sessions** コマンドを使用します。

```
show authentication sessions [database] [handle handle-id [details]] [interface type number
[details] [mac mac-address [interface type number] [method method-name [interface type number
[details] [session-id session-id [details]]]
```

構文の説明	
database	(任意) セッションデータベースに格納されているデータだけを示します。
handle <i>handle-id</i>	(任意) 認証マネージャ情報を表示する特定のハンドルを指定します。
details	(任意) 詳細情報を表示します。
interface <i>type number</i>	(任意) 認証マネージャ情報を表示する特定のインターフェイスのタイプと番号を指定します。
mac <i>mac-address</i>	(任意) 情報を表示する特定の MAC アドレスを指定します。
method <i>method-name</i>	(任意) 認証マネージャ情報を表示する特定の認証方法を指定します。方式を指定する場合 (dot1x 、 mab 、または webauth)、インターフェイスも指定できます。
session-id <i>session-id</i>	(任意) 認証マネージャ情報を表示する特定のセッションを指定します。

コマンドモード	
	ユーザ EXEC (>)
	特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 現在のすべての認証マネージャセッションに関する情報を表示するには、**show authentication sessions** コマンドを使用します。特定の認証マネージャセッションに関する情報を表示するには、1 つ以上のキーワードを使用します。

このテーブルは、報告された認証セッションで想定される動作状態を示します。

表 7: 認証方式の状態

状態	説明
Not run	このセッションの方式は実行されていません。
Running	このセッションの方式が実行中です。
Failed over	この方式は失敗しました。次の方式が結果を出すことが予期されています。
Success	この方式は、セッションの成功した認証結果を提供しました。
Authc Failed	この方式は、セッションの失敗した認証結果を提供しました。

次の表に、使用できる認証方式を示します。

表 8: 認証方式の状態

状態	説明
dot1x	802.1X
mab	MAC 認証バイパス
webauth	Web 認証

次に、デバイス上のすべての認証セッションを表示する例を示します。

```
Device# show authentication sessions
```

```
Interface  MAC Address      Method  Domain  Status      Session ID
Gi1/0/48   0015.63b0.f676   dot1x   DATA   Authz Success 0A3462B1000000102983C05C
Gi1/0/5    000f.23c4.a401   mab     DATA   Authz Success 0A3462B10000000D24F80B58
Gi1/0/5    0014.bf5d.d26d   dot1x   DATA   Authz Success 0A3462B10000000E29811B94
```

次に、インターフェイス上のすべての認証セッションを表示する例を示します。

```
Device# show authentication sessions interface gigabitethernet2/0/47
```

```
Interface: GigabitEthernet2/0/47
MAC Address: Unknown
IP Address: Unknown
Status: Authz Success
Domain: DATA
Oper host mode: multi-host
Oper control dir: both
Authorized By: Guest Vlan
Vlan Policy: 20
```

```
Session timeout: N/A
Idle timeout: N/A
Common Session ID: 0A3462C8000000000002763C
Acct Session ID: 0x00000002
Handle: 0x25000000
Runnable methods list:
Method State
mab Failed over
dot1x Failed over
-----
Interface: GigabitEthernet2/0/47
MAC Address: 0005.5e7c.da05
IP Address: Unknown
User-Name: 00055e7cda05
Status: Authz Success
Domain: VOICE
Oper host mode: multi-domain
Oper control dir: both
Authorized By: Authentication Server
Session timeout: N/A
Idle timeout: N/A
Common Session ID: 0A3462C80000000010002A238
Acct Session ID: 0x00000003
Handle: 0x91000001
Runnable methods list:
Method State
mab Authc Success
dot1x Not run
```

show cisp

指定されたインターフェイスの Client Information Signaling Protocol (CISP) 情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show cisp** コマンドを使用します。

show cisp {[**clients** | **interface** *interface-id*] | **registrations** | **summary**}

構文の説明

clients	(任意) CISP クライアントの詳細を表示します。
interface <i>interface-id</i>	(任意) 指定されたインターフェイスの CISP 情報を表 トとポート チャネルが含まれます。
registrations	CISP の登録情報を表示します。
summary	(任意) CISP のサマリー情報を表示します。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されまし た。

次に、**show cisp interface** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show cisp interface fastethernet 0/1/1
CISP not enabled on specified interface
```

次に、**show cisp registration** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show cisp registrations
Interface(s) with CISP registered user(s):
-----
Fa1/0/13
Auth Mgr (Authenticator)
Gi2/0/1
Auth Mgr (Authenticator)
Gi2/0/2
Auth Mgr (Authenticator)
Gi2/0/3
Auth Mgr (Authenticator)
Gi2/0/5
Auth Mgr (Authenticator)
Gi2/0/9
Auth Mgr (Authenticator)
Gi2/0/11
Auth Mgr (Authenticator)
Gi2/0/13
Auth Mgr (Authenticator)
```

```
Gi3/0/3  
Gi3/0/5  
Gi3/0/23
```

関連コマンド

コマンド	説明
cisp enable	CISP をイネーブルにします。
dot1x credentials <i>profile</i>	プロファイルをサブリカントデバイスに

show device-tracking capture-policy

システムがハードウェア（転送層）にプッシュするルールを表示するには、特権EXECモードで **show device-tracking capture-policy** コマンドを入力します。プッシュされるルールによって、追加アクションのためにSISFにパントされるパケットが決まります。それらのルールは、インターフェイスまたは VLAN に適用されるポリシーが変換されたものです。

show device-tracking capture-policy [**interface** *interface_type_no* | **vlan** *vlan_id*]

構文の説明

interface <i>interface_type_no</i>	指定したインターフェイスのメッセージキャプチャポリシー情報を表示します。インターフェイスのタイプと番号を入力します。 疑問符 (?) のオンラインヘルプ機能を使用して、デバイスのインターフェイスのタイプを表示します。
vlan <i>vlan_id</i>	指定した VLAN ID のメッセージキャプチャポリシー情報を表示します。有効な値の範囲は 1 ~ 4095 です。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドの出力は、テクニカルサポートチームがトラブルシューティングに使用します。

例

次に、**show device-tracking capture-policy** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show device-tracking capture-policy interface tengigabitethernet1/0/1

HW Target Te1/0/1 HW policy signature 0001DF9F policies#:1 rules 14 sig 0001DF9F
SW policy sisf-01 feature Device-tracking - Active

Rule DHCP4 CLIENT Protocol UDP mask 00000400 action PUNT match1 0 match2 67#feat:1
    feature Device-tracking
    Rule DHCP4 SERVER SOURCE Protocol UDP mask 00001000 action PUNT match1 0 match2
68#feat:1
    feature Device-tracking
    Rule DHCP4 SERVER Protocol UDP mask 00000800 action PUNT match1 67 match2 0#feat:1
    feature Device-tracking
    Rule ARP Protocol IPV4 mask 00004000 action PUNT match1 0 match2 0#feat:1
    feature Device-tracking
    Rule DHCP SERVER SOURCE Protocol UDP mask 00000200 action PUNT match1 0 match2
546#feat:1
    feature Device-tracking
    Rule DHCP CLIENT Protocol UDP mask 00000080 action PUNT match1 0 match2 547#feat:1
```

```
feature Device-tracking
Rule DHCP SERVER Protocol UDP mask 00000100 action PUNT match1 547 match2 0#feat:1

feature Device-tracking
Rule RS Protocol ICMPV6 mask 00000004 action PUNT match1 133 match2 0#feat:1
feature Device-tracking
Rule RA Protocol ICMPV6 mask 00000008 action PUNT match1 134 match2 0#feat:1
feature Device-tracking
Rule NS Protocol ICMPV6 mask 00000001 action PUNT match1 135 match2 0#feat:1
feature Device-tracking
Rule NA Protocol ICMPV6 mask 00000002 action PUNT match1 136 match2 0#feat:1
feature Device-tracking
Rule REDIR Protocol ICMPV6 mask 00000010 action PUNT match1 137 match2 0#feat:1
feature Device-tracking
Rule DAR Protocol ICMPV6 mask 00008000 action PUNT match1 157 match2 0#feat:1
feature Device-tracking
Rule DAC Protocol ICMPV6 mask 00010000 action PUNT match1 158 match2 0#feat:1
feature Device-tracking
```

show device-tracking counters

インターフェイスまたはVLAN、あるいはその両方で受信したブロードキャスト、マルチキャスト、ブリッジド、ユニキャスト、プローブ、ドロップされたデバイストラッキングメッセージ、および障害の数に関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show device-tracking counters** コマンドを入力します。該当する場合、メッセージはプロトコル別に分類されます。プロトコルのリストには、Address Resolution Protocol (ARP)、Neighbor Discovery Protocol (NDP)、DHCPv6、DHCPv4、Address Collision Detection (ACD)、および重複アドレス検出 (DAD) が含まれます。

show device-tracking counters [**all** | **interface** *interface_type_no* | **vlan** *vlan_id*]

構文の説明

all	ポリシーが適用されているデバイス上のすべてのインターフェイスと VLAN の情報を表示します。
interface <i>interface_type_no</i>	指定されたインターフェイスの情報を表示します。インターフェイスのタイプと番号を入力します。 疑問符 (?) のオンラインヘルプ機能を使用して、デバイスのインターフェイスのタイプを表示します。
vlan <i>vlan_id</i>	指定した VLAN ID の情報を表示します。指定できる範囲は 1 ~ 4095 です。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show device-tracking counters コマンドを入力するときは、次のいずれかのキーワード、つまり、**all**、**interface** *interface_type_no*、または **vlan** *vlan_id* を入力する必要があります。

ポリシーが適用されていないインターフェイスまたは VLAN を指定すると、次のメッセージが表示されます。% no ipv6 snooping policy attached on <interface number or VLAN ID>

例

次に、**show device-tracking counters** コマンドの出力例を示します。特定の VLAN (VLAN 10) に関する情報がここに表示されます。

```
Device# show device-tracking counters vlan 10
Received messages on vlan 10 :
Protocol      Protocol message
NDP           RA[2479] NS[1757] NA[2794]
DHCPv6
ARP           REP[878]
DHCPv4
```



```

ACD&DAD          --[3]

Received Broadcast/Multicast messages on vlan 10  :
Protocol          Protocol message
NDP               RA[2479] NS[3] NA[5]
DHCPv6
ARP               REP[1]
DHCPv4

Bridged messages from vlan 10  :
Protocol          Protocol message
NDP               RA[1238] NS[1915] NA[878]
DHCPv6
ARP               REQ[877]
DHCPv4
ACD&DAD          --[1]

Broadcast/Multicast converted to unicast messages from vlan 10  :
Protocol          Protocol message
NDP
DHCPv6
ARP
DHCPv4
ACD&DAD

Probe message on vlan 10  :
Type              Protocol message
PROBE_SEND        NS[1037] REQ[877]
PROBE_REPLY       NA[1037] REP[877]

Limited Broadcast to Local message on vlan 10  :
Type              Protocol message
NDP
DHCPv6
ARP
DHCPv4

Dropped messages on vlan 10  :
Feature           Protocol Msg [Total dropped]
Device-tracking:  NDP         RA  [1241]
                  reason: Packet not authorized on port [1241]

                  NS  [2]
                  reason: Silent drop [2]

                  NA  [1039]
                  reason: Silent drop [1037]
                  reason: Packet accepted but not forwarded [2]

                  ARP  REP [878]
                  reason: Silent drop [877]
                  reason: Packet accepted but not forwarded [1]

ACD&DAD:          --          --  [2]

Faults on vlan 10  :

```

show device-tracking database

バインディング テーブル データベースの詳細を表示するには、特権 EXEC モードで **show device-tracking database** コマンドを入力します。

```
show device-tracking database [ address { hostname_address | all } [ interface interface_type_no ] [ vlnid vlan ] [ details ] | details | interface interface_type_no [ details ] [ vlnid vlan ] | mac [ 48_bit_hw_add ] [ details ] [ interface interface_type_no ] [ vlnid vlan ] | prefix [ prefix_address | all ] [ details ] [ interface interface_type_no ] | vlnid vlnid [ details ] ]
```

構文の説明

address {hostname_address all}	特定の IP アドレスまたはすべてのアドレスのバインディングテーブル情報を表示します。
interface interface_type_no	指定されたインターフェイスのバインディングテーブル情報を表示します。インターフェイスのタイプと番号を入力します。 疑問符 (?) のオンラインヘルプ機能を使用して、デバイスのインターフェイスのタイプを表示します。
vlnid vlan	指定した VLAN ID のバインディングテーブル情報を表示します。有効な値の範囲は 1 ~ 4095 です。
details	詳細情報を表示します。
mac	指定した MAC アドレスのバインディングテーブル情報を表示します。
48_bit_hw_add	48 ビットのハードウェアアドレスを入力します。
prefix	指定した IPv6 プレフィックスのバインディングテーブル情報を表示します。
prefix_address	IPv6 プレフィックスを入力します。
all	使用可能なすべての IPv6 プレフィックスのバインディングテーブル情報を表示します。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、**show device-tracking database details** コマンドの出力例を示します。添付の表に、表示される重要なフィールドの説明を示します。

Device# show device-tracking database details

Binding table configuration:

```
-----
max/box   : no limit
max/vlan  : no limit
max/port  : no limit
max/mac   : no limit
```

Binding table current counters:

```
-----
dynamic   : 5
local     : 1
total     : 5
```

Binding table counters by state:

```
-----
REACHABLE : 5
DOWN      : 1
total     : 6
```

Codes: L - Local, S - Static, ND - Neighbor Discovery, ARP - Address Resolution Protocol, DH4 - IPv4 DHCP, DH6 - IPv6 DHCP, PKT - Other Packet, API - API created

Preflevel flags (prlvl):

```
0001:MAC and LLA match      0002:Orig trunk           0004:Orig access
0008:Orig trusted trunk    0010:Orig trusted access  0020:DHCP assigned
0040:Cga authenticated     0080:Cert authenticated   0100:Statically assigned
```

	Network Layer Address	Link Layer Address	Interface	mode	vlan(prim)	prlvl
age	state	Time left	Filter	In Crimson	Client ID	Session ID
Policy (feature)						
ARP 192.0.9.29	6mn REACHABLE	331 s	001b.4411.3ab7(S)	no	yes	Tel1/0/4 trunk 200 (200) 0003 (unspecified)
sisf-01 (Device-tracking)						
ARP 192.0.9.28	6mn REACHABLE	313 s	001b.4411.3ab7(S)	no	yes	Tel1/0/4 trunk 200 (200) 0003 (unspecified)
sisf-01 (Device-tracking)						
ARP 192.0.9.27	6mn REACHABLE	323 s	001b.4411.3ab7(S)	no	yes	Tel1/0/4 trunk 200 (200) 0003 (unspecified)
sisf-01 (Device-tracking)						
ARP 192.0.9.26	6mn REACHABLE	311 s	001b.4411.3ab7(S)	no	yes	Tel1/0/4 trunk 200 (200) 0003 (unspecified)
sisf-01 (Device-tracking)						
ARP 192.0.9.25	6mn REACHABLE	313 s	001b.4411.3ab7(S)	no	yes	Tel1/0/4 trunk 200 (200) 0003 (unspecified)
sisf-01 (Device-tracking)						
L 192.168.0.1	6mn DOWN		00a5.bf9d.0462(D)	no	yes	Vl200 svi 200 (200) 0100 (unspecified)
sisf-01 (sisf_local)						

表 9: show device-tracking database details のフィールドの説明

フィールド	説明
Binding table configuration: <ul style="list-style-type: none"> • max/box • max/vlan • max/port • max/mac 	バインディングテーブルの設定を表示します。値は、グローバル コンフィギュレーション モードで device-tracking binding コマンドを使用して設定された内容に対応します。 <ul style="list-style-type: none"> • max/box : ここに表示される値は、max-entries no_of_entries キーワードの設定値に対応します。 • max/vlan : ここに表示される値は、vlan-limit no_of_entries キーワードの設定値に対応します。 • max/port : ここに表示される値は、port-limit no_of_entries キーワードの設定値に対応します。 • max/mac : ここに表示される値は、mac-limit no_of_entries キーワードの設定値に対応します。
Binding table current counters: <ul style="list-style-type: none"> • dynamic • local • total 	テーブルのエントリ数を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • dynamic : ダイナミックエントリは、バインディングテーブルに動的にデータを取り込む学習イベントによって作成されます。 • local : ローカルエントリは、デバイスで SVI を設定すると自動的に作成されます。 SISF でローカルエントリが使用される方法の 1 つは、ポーリングのコンテキストです。ポーリングがイネーブルになっている場合、SVI アドレスは ARP プロブの送信元アドレスとして使用されます。 • total : total は、ダイナミック、ローカル、およびスタティック バインディング エントリの合計です。
Binding table counters by state:	各状態のエントリ数を表示します。状態は、REACHABLE、STALE、DOWN のいずれかです。

フィールド	説明
Codes	<p>学習イベントを表すために使用される略語を明確にします。</p> <p>バインディングエントリの最初の列には、そのバインディングエントリの作成につながった学習イベントに関する省略コードが使用されています。</p>
Preflevel flags (prlvl)	<p>プリファレンスレベルの番号コードのリストと、バインディングテーブルの prlvl 列の番号コードの意味の説明。</p> <p>コードは大まかな分類を示しており、複数のコードを1つのエントリに適用できます。prlvl列に表示されるのは、番号コードの合計であり、対応するプリファレンスレベルを示します。</p> <p>たとえば、アクセスインターフェイス（プリファレンスコード：0004）から ARP エントリ（プリファレンスコード：0001）を学習した場合、prlvl列に表示される値は「0005」となります。</p> <p>1が最低のプリファレンスレベルで、100が最高です。</p> <p>コリジョンが発生した場合、プリファレンスの高いバインディングエントリが優先されます。たとえば、同じエントリが2つの異なるインターフェイスで確認されている場合、prlvl列の値によって、保持されるエントリが決まります。</p>
Network Layer Address	パケットを受信したホストの IP アドレス。
Link Layer Address	ホストの MAC アドレス。
Mode	次のいずれかの値を表示します。「invalid」、「unsupp」、「access」、「trunk」、「vpc」、「svi」、「virtual」、「pseudowire」、「unkn」、「bdi」、「pseudoport」。
vlan(prim)	ホストの VLAN ID。

フィールド	説明
prlvl	<p>1 ～ 100 の値が表示されます。1 が最も低いプリファレンスレベル、100 が最も高いプリファレンスレベルを示します。</p> <p>ここに表示される値の意味については、前述の Preflevel flag を参照してください。</p>
age	<p>エントリが最後に更新されてからのエントリの合計経過時間（秒（s）または分（mn）単位）。更新（ホストからサインオブライフ）されると、この値はリセットされます。</p>
state	<p>エントリの現在の状態。安定状態または遷移状態のいずれかです。</p> <p>安定状態の値は、REACHABLE、DOWN、および STALE です。</p> <p>遷移状態の値は、VERIFY、INCOMPLETE、および TENTATIVE です。</p>
Time left	<p>現在の状態における次のアクションまでの残り時間を表示します。</p>
In Crimson	<p>エントリが別のデータベースに追加されているかどうかを示す yes または no の値。この情報は、Cisco DNA Center などの他のアプリケーションによって使用されます。</p> <p>通常、バインディングテーブルにあるすべてのエントリもこのデータベースに追加されます。</p> <p>この情報は、テクニカルサポートチームがトラブルシューティングと問題の診断に使用します。</p>
Client ID	<p>このフィールドは、Cisco Software-Defined Access (SDA) 展開の仮想マシン (VM) にのみ適用されます。</p> <p>これは、ホストデバイスが Non-promiscuous Network Interface (NIC) を備えたワイヤレスクライアントである、ブリッジネットワーキングモードの VM の実際の MAC アドレスを指します。</p>

フィールド	説明
Session ID	<p>このフィールドは、SDA 展開の VM にのみ適用されます。</p> <p>これは、ブリッジネットワークモードの VM のアクセスセッション ID を指します。各セッション ID は、クライアント ID に関連付けられています。SISF はこの関連付けを維持し、VM が SDA セットアップでファブリックエッジ間をローミングまたは移動するときに転送します。</p>
Policy (feature)	<p>インターフェイスまたは VLAN に適用されているポリシーの名前を表示します。</p> <p>表示される「(機能)」は常に「デバイストラッキング」です。これは、SISF ベースのデバイストラッキングだけがバインディングエントリの作成をサポートしているためです。</p>

show device-tracking events

SISF バインディングテーブル関連イベントを表示するには、特権 EXEC モードで **show device-tracking events** コマンドを入力します。表示されるイベントのタイプには、バインディングテーブルのエントリの作成と、エントリに対するすべての更新が含まれます。更新は、エントリの状態の変更や、エントリに関する MAC、VLAN、またはインターフェイス情報の変更である場合があります。

show device-tracking events

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

SISF バインディング テーブル イベントが表示されます。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドの出力は、テクニカルサポートチームがトラブルシューティングに使用します。

例

次に、**show device-tracking events** コマンドの出力例を示します。ログに記録されるバインディング テーブル イベントの種類を示しています。

```
Device# show device-tracking events
[Wed Mar 23 19:08:33.000] SSID 0 FSM Feature Table running for event ACTIVE_REGISTER
in state CREATING
[Wed Mar 23 19:08:33.000] SSID 0 Transition from CREATING to READY upon event
ACTIVE_REGISTER
[Wed Mar 23 19:08:33.000] SSID 1 FSM Feature Table running for event ACTIVE_REGISTER
in state CREATING
[Wed Mar 23 19:08:33.000] SSID 1 Transition from CREATING to READY upon event
ACTIVE_REGISTER
[Wed Mar 23 19:09:25.000] SSID 0 FSM sisf_mac_fsm running for event MAC_TENTV in state
MAC-CREATING
[Wed Mar 23 19:09:25.000] SSID 0 Transition from MAC-CREATING to MAC-TENTATIVE upon
event MAC_TENTV
[Wed Mar 23 19:09:25.000] SSID 1 Created Entry origin IPv4 ARP MAC 00a5.bf9c.e051 IPV4
10.0.0.1
[Wed Mar 23 19:09:25.000] SSID 0 FSM sisf_mac_fsm running for event MAC_VERIFIED in
state MAC-TENTATIVE
[Wed Mar 23 19:09:25.000] SSID 0 Transition from MAC-TENTATIVE to MAC-REACHABLE upon
event MAC_VERIFIED
[Wed Mar 23 19:09:25.000] SSID 1 FSM Binding table running for event VALIDATE_LLA in
state CREATING
[Wed Mar 23 19:09:25.000] SSID 1 FSM Binding table running for event SET_TENTATIVE in
state CREATING
[Wed Mar 23 19:09:25.000] SSID 1 Transition from CREATING to TENTATIVE upon event
SET_TENTATIVE
```



```
[Wed Mar 23 19:09:25.000] SSID 1 Entry State changed origin IPv4 ARP MAC 00a5.bf9c.e051
IPV4 10.0.0.1
[Wed Mar 23 20:07:27.000] SSID 0 FSM sisf_mac_fsm running for event MAC_DELETE_NOS in
state MAC-REACHABLE
[Wed Mar 23 20:07:27.000] SSID 0 Transition from MAC-REACHABLE to MAC-NONE upon event
MAC_DELETE_NOS
[Wed Mar 23 20:07:27.000] SSID 1 Transition from REACHABLE to NONE upon event DELETE
```

show device-tracking features

イネーブルになっているデバイストラッキング機能を表示するには、特権 EXEC モードで **show device-tracking features** コマンドを入力します。「機能」には、SISF ベースのデバイストラッキング、および SISF を使用する IPv6 RA ガード、IPv6 DHCP ガード、レイヤ 2 DHCP リレーなどのセキュリティ機能が含まれます。

show device-tracking features

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、**show device-tracking features** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show device-tracking features
Feature name  priority state
Device-tracking  128  READY
Source guard   32   READY
```

show device-tracking messages

デバイストラッキング関連のアクティビティのリストを表示するには、特権 EXEC モードで **show device-tracking messages** コマンドを入力します。

show device-tracking messages [**detailed no_of_messages**]

構文の説明	detailed no_of_messages より詳細な形式のデバイストラッキングメッセージのリストを表示します。1～255の値を入力して、詳細形式で表示する必要があるメッセージの数を指定します。
-------	--

コマンドモード	特権 EXEC (#)
---------	-------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、**show device-tracking messages** コマンドの出力例を示します。出力の要約バージョンと詳細バージョンが表示されます。

```
Device# show device-tracking messages
[Wed Mar 23 19:09:25.000] VLAN 1, From Te1/0/2 MAC 00a5.bf9c.e051: ARP::REP, 10.0.0.1,

[Wed Mar 23 20:03:22.000] VLAN 1, From Te1/0/2 MAC 00a5.bf9c.e051: ARP::REP, 10.0.0.1,
```

```
Device# show device-tracking messages detailed 255
[Wed Mar 23 19:09:25.000] VLAN 1, From Te1/0/2 seclvl [guard], MAC 00a5.bf9c.e051:
ARP::REP,
  1 addresses advertised:
    IPv6 addr: 10.0.0.1,

[Wed Mar 23 20:03:22.000] VLAN 1, From Te1/0/2 seclvl [guard], MAC 00a5.bf9c.e051:
ARP::REP,
  1 addresses advertised:
    IPv6 addr: 10.0.0.1,
```

show device-tracking policies

デバイスのすべてのデバイストラッキングポリシーを表示するには、特権EXECモードで **show device-tracking policies** コマンドを入力します。

show device-tracking policies [**details** | **interface** *interface_type_no* [**details**] | **vlan** *vlanid*]

構文の説明

details	デバイス上のすべてのデバイストラッキングポリシーのポリシーターゲットとポリシーパラメータに関する情報を表示します。
interface <i>interface_type_no</i>	指定したインターフェイスに適用されているすべてのポリシーを表示します。インターフェイスのタイプと番号を入力します。 疑問符 (?) のオンラインヘルプ機能を使用して、デバイスのインターフェイスのタイプを表示します。
vlan <i>vlanid</i>	指定した VLAN に適用されているすべてのポリシーを表示します。有効な値の範囲は 1 ~ 4095 です。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、**details** キーワードを指定した場合の **show device-tracking policies** コマンドの出力例を示します。デバイスにポリシーが 1 つしかないこと、およびポリシーが適用されるターゲットとポリシーパラメータが示されています。

```
Device# show device-tracking policies details

Target          Type Policy          Feature          Target range
Tel/0/1         PORT  sisf-01         Device-tracking  vlan all

Device-tracking policy sisf-01 configuration:
 security-level guard
 device-role node
 gleaning from Neighbor Discovery
 gleaning from DHCP6
 gleaning from ARP
 gleaning from DHCP4
 NOT gleaning from protocol unkn
 tracking enable
Policy sisf-01 is applied on the following targets:
Target          Type Policy          Feature          Target range
Tel/0/1         PORT  sisf-01         Device-tracking  vlan all
```

show device-tracking policy

特定のポリシーに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show device-tracking policy** コマンドを入力します。表示される情報には、ポリシーが適用されるターゲットのリスト、およびポリシーパラメータが含まれます。

show device-tracking policy *policy_name*

構文の説明

policy_name ポリシーの名前を入力します。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、**show device-tracking policy** コマンドの出力例を示します。ポリシー `sisf-01` の詳細が表示されます。

```
Device# show device-tracking policy sif-01
Device-tracking policy sif-01 configuration:
  security-level guard
  device-role node
  gleaning from Neighbor Discovery
  gleaning from DHCP6
  gleaning from ARP
  gleaning from DHCP4
  NOT gleaning from protocol unkn
  tracking enable
Policy sif-01 is applied on the following targets:
Target          Type  Policy          Feature          Target range
Tel1/0/1        PORT  sif-01          Device-tracking  vlan all
```

show dot1x

デバイスまたは指定されたポートの IEEE 802.1X 統計情報、管理ステータス、および動作ステータスを表示するには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show dot1x** コマンドを使用します。

show dot1x [**all** [**count** | **details** | **statistics** | **summary**]] [**interface type number** [**details** | **statistics**]] [**statistics**]

構文の説明		
all	(任意) すべてのインターフェイスの IEEE 802.1X 情報を表示します。	
count	(任意) 許可されたクライアントと無許可のクライアントの総数を表示します。	
details	(任意) IEEE 802.1X インターフェイスの詳細を表示します。	
statistics	(任意) すべてのインターフェイスの IEEE 802.1X 統計情報を表示します。	
summary	(任意) すべてのインターフェイスの IEEE 802.1X サマリー情報を表示します。	
interface type number	(任意) 指定したポートの IEEE 802.1X ステータスを表示します。	

コマンドモード	
ユーザ EXEC (>)	
特権 EXEC (#)	

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、**show dot1x all** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show dot1x all
Sysauthcontrol           Enabled
Dot1x Protocol Version   3
```

次に、**show dot1x all count** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show dot1x all count
```

```
Number of Dot1x sessions
-----
Authorized Clients      = 0
Unauthorized Clients   = 0
Total No of Client     = 0
```

次に、**show dot1x all statistics** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show dot1x statistics

Dot1x Global Statistics for
-----
RxStart = 0      RxLogoff = 0      RxResp = 0      RxRespID = 0
RxReq = 0        RxInvalid = 0    RxLenErr = 0
RxTotal = 0

TxStart = 0      TxLogoff = 0      TxResp = 0
TxReq = 0        ReTxReq = 0      ReTxReqFail = 0
TxReqID = 0      ReTxReqID = 0    ReTxReqIDFail = 0
TxTotal = 0
```

show eap pac peer

拡張可能認証プロトコル（EAP）のセキュアトンネリングを介したフレキシブル認証（FAST）ピアの格納済み Protected Access Credential（PAC）を表示するには、特権 EXEC モードで **show eap pac peer** コマンドを使用します。

show eap pac peer

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC（#）

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、**show eap pac peers** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show eap pac peers
No PACs stored
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear eap sessions	デバイスまたは指定されたポートのEAPのセッションをクリアします。

show ip access-lists

現在のすべての IP アクセスリストの内容を表示するには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show ip access-lists** コマンドを使用します。

```
show ip access-lists [{ access-list-number access-list-number-expanded-range access-list-name |
dynamic [dynamic-access-list-name] | interface name number [{ in | out }]]
```

構文の説明	
<i>access-list-number</i>	(任意) 表示する IP アクセスリストの数です。
<i>access-list-number-expanded-range</i>	(任意) 表示する IP アクセスリストの拡張範囲です。
<i>access-list-name</i>	(任意) 表示する IP アクセスリストの名前です。
dynamic <i>dynamic-access-list-name</i>	(任意) 指定されたダイナミック IP アクセスリストを表示します。
interface <i>name number</i>	(任意) 指定されたインターフェイスのアクセスリストを表示します。
in	(任意) インターフェイスの入力統計情報を表示します。
out	(任意) インターフェイスの出力統計情報を表示します。



(注) OGACL の統計情報はサポートされていません

コマンドデフォルト 標準の IP アクセスリストおよび拡張 IP アクセスリストがすべて表示されます。

コマンドモード ユーザ EXEC (>)
特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **show ip access-lists** コマンドの出力は、IP 固有のもの以外は **show access-lists** コマンドの出力と同じです。また、特定のアクセスリストを指定できます。

show ip access-lists interface コマンドの出力には、dACL フィルタ ID や ACL フィルタ ID は表示されません。これは、物理インターフェイスではなく、各認証セッションのマルチドメイン認証によって作成された仮想ポートに ACL が接続されるためです。dACL フィルタ ID や ACL フィルタ ID を表示するには、**show ip access-lists access-list-name** コマンドを使用します。

access-list-name は、**show access-session interface interface-name detail** コマンドの出力から取得する必要があります。*access-list-name* では大文字と小文字が区別されます。

例

次に、すべてのアクセスリストを要求した場合の **show ip access-lists** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show ip access-lists

Extended IP access list 101
  deny udp any any eq nntp
  permit tcp any any
  permit udp any any eq tftp
  permit icmp any any
  permit udp any any eq domain
Role-based IP access list rl
  10 permit tcp dst eq telnet
  20 permit udp
FQDN IP access list facl
  10 permit ip host 10.1.1.1 host dynamic www.google.com
  20 permit tcp 10.10.0.0 0.255.255.255 eq ftp host dynamic www.cisco.com log
  30 permit udp host dynamic www.youtube.com any
  40 permit ip 10.3.4.0 0.0.0.255 any
Extended Resolved IP access list facl
  200000 permit tcp 10.0.0.0 0.255.255.255 eq ftp host 10.10.10.1 log
  200001 permit tcp 10.0.0.0 0.255.255.255 eq ftp host 10.10.10.2 log
  300000 permit udp host dynamic 10.11.11.11 any
  300001 permit udp host dynamic 10.11.11.12 any
  400000 permit ip 10.3.4.0 0.0.0.255 any
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 10: *show ip access-lists* フィールドの説明

フィールド	Description
Extended IP access list	拡張 IP アクセスリスト名/番号。
Role-based IP access list	ルールベースの IP アクセスリスト名。
FQDN IP access list	FQDN IP アクセスリスト名。
Extended Resolved IP access list	拡張された解決済みの IP アクセスリスト名。
deny	拒否するパケット。
udp	ユーザ データグラム プロトコル。
any	送信元ホストまたは宛先ホスト。
eq	特定のポート番号のパケット。
nntp	ネットワーク ニュース トランスポート プロトコル。
permit	転送するパケット。

フィールド	Description
dynamic	ドメイン名を動的に解決します。
tcp	伝送制御プロトコル。
tftp	Trivial File Transfer Protocol。
icmp	Internet Control Message Protocol (インターネット制御メッセージプロトコル)。
ドメイン	ドメインネームサービス。

次に、特定のアクセスリストの名前を要求した場合の **show ip access-lists** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show ip access-lists Internetfilter

Extended IP access list Internetfilter
  permit tcp any 192.0.2.0 255.255.255.255 eq telnet
  deny tcp any any
  deny udp any 192.0.2.0 255.255.255.255 lt 1024
  deny ip any any log
```

次に、**show ip access-lists** コマンドで **dynamic** キーワードを使用した場合の出力例を示します。

```
Device# show ip access-lists dynamic CM_SF#1

Extended IP access list CM_SF#1
  10 permit udp any any eq 5060 (650 matches)
  20 permit tcp any any eq 5060
  30 permit udp any any dscp ef (806184 matches)
```

関連コマンド

Command	Description
deny	パケットを拒否する名前付き IP アクセスリストまたは OGACL の条件を設定します。
ip access-group	ACL または OGACL をインターフェイスまたはサービス ポリシーマップに適用します。
ip access-list	IP アクセスリストまたは OGACL を名前または番号で定義します。
object-group network	OGACL で使用するネットワーク オブジェクト グループを定義します。
object-group service	OGACL で使用するサービスオブジェクトグループを定義します。
permit	パケットを許可する名前付き IP アクセスリストまたは OGACL の条件を設定します。

Command	Description
show object-group	設定されているオブジェクトグループに関する情報を表示します。
show run interfaces cable	ケーブルモデムの統計情報を表示します。

show ip dhcp snooping statistics

DHCP スヌーピング統計情報を概要形式または詳細形式で表示するには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show ip dhcp snooping statistics** コマンドを使用します。

show ip dhcp snooping statistics [detail]

構文の説明	detail (任意) 詳細な統計情報を表示します。	
コマンドモード	ユーザ EXEC (>) 特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	デバイススタックでは、すべての統計情報がスタックのアクティブスイッチで生成されます。新しいアクティブデバイスが選出された場合、統計カウンタはリセットされます。	

次に、**show ip dhcp snooping statistics** コマンドの出力例を示します。

```
Device> show ip dhcp snooping statistics

Packets Forwarded                = 0
Packets Dropped                  = 0
Packets Dropped From untrusted ports = 0
```

次に、**show ip dhcp snooping statistics detail** コマンドの出力例を示します。

```
Device> show ip dhcp snooping statistics detail

Packets Processed by DHCP Snooping          = 0
Packets Dropped Because
  IDB not known                             = 0
  Queue full                                = 0
  Interface is in errdisabled                = 0
  Rate limit exceeded                       = 0
  Received on untrusted ports                = 0
  Nonzero giaddr                             = 0
  Source mac not equal to chaddr             = 0
  Binding mismatch                           = 0
  Insertion of opt82 fail                    = 0
  Interface Down                             = 0
  Unknown output interface                   = 0
  Reply output port equal to input port      = 0
  Packet denied by platform                  = 0
```

次の表に、DHCP スヌーピング統計情報およびその説明を示します。

表 11: DHCP スヌーピング統計情報

DHCP スヌーピング統計情報	説明
Packets Processed by DHCP Snooping	転送されたパケットおよびドロップされたパケットも含めて、DHCP スヌーピングによって処理されたパケットの合計数。
Packets Dropped Because IDB not known	パケットの入力インターフェイスを判断できないエラーの数。
Queue full	パケットの処理に使用される内部キューが満杯であるエラーの数。非常に高いレートでDHCPパケットを受信し、入力ポートでレート制限がイネーブルになっていない場合、このエラーが発生することがあります。
Interface is in errdisabled	errdisable としてマークされたポートでパケットを受信した回数。これが発生する可能性があるのは、ポートが errdisable ステートである場合にパケットが処理キューに入り、そのパケットが後で処理される場合です。
Rate limit exceeded	ポートで設定されているレート制限を超えて、インターフェイスが errdisable ステートになった回数。
Received on untrusted ports	信頼できないポートで DHCP サーバパケット (OFFER、ACK、NAK、LEASEQUERY のいずれか) を受信してドロップした回数。
Nonzero giaddr	信頼できないポートで受信した DHCP パケットのリレーエージェントアドレスフィールド (giaddr) がゼロ以外だった回数。または no ip dhcp snooping information option allow-untrusted グローバル コンフィギュレーション コマンドを設定しておらず、信頼できないポートで受信したパケットにオプション 82 データが含まれていた回数。
Source mac not equal to chaddr	DHCP パケットのクライアント MAC アドレス フィールド (chaddr) がパケットの送信元 MAC アドレスと一致せず、 ip dhcp snooping verify mac-address グローバル コンフィギュレーション コマンドが設定されている回数。

DHCP スヌーピング統計情報	説明
Binding mismatch	MACアドレスとVLANのペアのバインディングになっているポートとは異なるポートで、RELEASEパケットまたはDECLINEパケットを受信した回数。これは、誰かが本来のクライアントをスプーフィングしようとしている可能性があることを示しますが、クライアントがデバイスの別のポートに移動してRELEASEまたはDECLINEを実行したことを表すこともあります。MACアドレスは、イーサネットヘッダーの送信元MACアドレスではなく、DHCPパケットのchaddrフィールドから採用されます。
Insertion of opt82 fail	パケットへのオプション82挿入がエラーになった回数。オプション82データを含むパケットがインターネットの単一物理パケットのサイズを超えた場合、挿入はエラーになることがあります。
Interface Down	パケットがDHCPリレーエージェントへの応答であるが、リレーエージェントのSVIインターフェイスがダウンしている回数。DHCPサーバへのクライアント要求の送信と応答の受信の間でSVIがダウンした場合に発生するエラーですが、めったに発生しません。
Unknown output interface	オプション82データまたはMACアドレステーブルのルックアップのいずれかで、DHCP応答パケットの出力インターフェイスを判断できなかった回数。パケットはドロップされます。オプション82が使用されておらず、クライアントMACアドレスが期限切れになった場合に発生することがあります。ポートセキュリティオプションでIPSGがイネーブルであり、オプション82がイネーブルでない場合、クライアントのMACアドレスは学習されず、応答パケットはドロップされます。
Reply output port equal to input port	DHCP応答パケットの出力ポートが入力ポートと同じであり、ループの可能性の原因となった回数。ネットワークの設定の誤り、またはポートの信頼設定の誤用の可能性を示します。
Packet denied by platform	プラットフォーム固有のレジストリによってパケットが拒否された回数。

show radius server-group

RADIUS サーバグループのプロパティを表示するには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show radius server-group** コマンドを使用します。

show radius server-group {*name* | **all**}

構文の説明

name サーバグループの名前。サーバグループの名前の指定に使用する文字列は、**the aaa group server radius** コマンドを使用して定義する必要があります。

all すべてのサーバグループのプロパティを表示します。

コマンドモード

ユーザ EXEC (>)

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

aaa group server radius コマンドで定義したサーバグループを表示するには、**show radius server-group** コマンドを使用します。

次に、**show radius server-group all** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show radius server-group all

Server group radius
  Sharecount = 1  sg_unconfigured = FALSE
  Type = standard  Memlocks = 1
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 12: **show radius server-groups** コマンドのフィールドの説明

フィールド	説明
Server group	サーバグループの名前。
Sharecount	このサーバグループを共有している方式リストの数。たとえば、1つの方式リストが特定のサーバグループを使用する場合、sharecountは1です。2つの方式リストが同じサーバグループを使用する場合、sharecountは2です。
sg_unconfigured	サーバグループが設定解除されました。

フィールド	説明
Type	タイプは、standard または nonstandard のいずれかです。タイプはグループ内のサーバが非標準の属性を受け入れるかどうかを示します。グループ内のすべてのサーバに非標準のオプションが設定されている場合、タイプは「nonstandard」と表示されます。
Memlocks	メモリ内にあるサーバグループ構造の内部参照の数。この数は、このサーバグループへの参照を保持している内部データ構造パケットまたはトランザクションがいくつあるかを表します。Memlocksはメモリ管理のために内部的に使用されます。

show storm-control

デバイスまたは指定のインターフェイス上で、ブロードキャスト、マルチキャストまたはユニキャストストーム制御の設定を表示する、またはストーム制御の履歴を表示するには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show storm-control** コマンドを使用します。

show storm-control [*interface-id*] [**broadcast** | **multicast** | **unicast**]

構文の説明

<i>interface-id</i>	(任意) 物理ポートのインターフェイス ID (タイプ、スタック構成可能なデバイスのスタックメンバ、モジュール、ポート番号を含む)。
broadcast	(任意) ブロードキャストストームのしきい値設定を表示します。
multicast	(任意) マルチキャストストームのしきい値設定を表示します。
unicast	(任意) ユニキャストストームのしきい値設定を表示します。

コマンドモード

ユーザ EXEC (>)
特権 EXEC (>)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

インターフェイス ID を入力すると、指定されたインターフェイスのストーム制御しきい値が表示されます。インターフェイス ID を入力しない場合、デバイス上のすべてのポートに対して 1 つのトラフィックタイプの設定が表示されます。トラフィックタイプを入力しない場合は、ブロードキャストストーム制御の設定が表示されます。

次に、キーワードを入力しない場合の **show storm-control** コマンドの出力例の一部を示します。トラフィックタイプのキーワードが入力されていないため、ブロードキャストストーム制御の設定が表示されます。

Device> **show storm-control**

```
Interface Filter State Upper Lower Current
-----
Gil/0/1 Forwarding 20 pps 10 pps 5 pps
Gil/0/2 Forwarding 50.00% 40.00% 0.00%
<output truncated>
```

次に、指定したインターフェイスについての **show storm-control** コマンドの出力例を示します。トラフィックタイプのキーワードが入力されていないため、ブロードキャストストーム制御の設定が表示されます。

```
Device> show storm-control gigabitethernet 1/0/1
```

```
Interface Filter State Upper Lower Current
-----
Gi1/0/1 Forwarding 20 pps 10 pps 5 pps
```

次の表に、show storm-control の出力に表示されるフィールドの説明を示します。

表 13: show storm-control のフィールドの説明

フィールド	説明
Interface	インターフェイスの ID を表示します。
Filter State	フィルタのステータスを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • blocking : ストーム制御はイネーブルであり、ストームが発生しています。 • forwarding : ストーム制御はイネーブルであり、ストームは発生していません。 • Inactive : ストーム制御はディセーブルです。
Upper	上限抑制レベルを利用可能な全帯域幅のパーセンテージとして、毎秒のパケット数または毎秒のビット数で表示します。
Lower	下限抑制レベルを利用可能な全帯域幅のパーセンテージとして、毎秒のパケット数または毎秒のビット数で表示します。
Current	ブロードキャストトラフィックまたは指定されたトラフィックタイプ（ブロードキャスト、マルチキャスト、ユニキャスト）の帯域幅の使用状況を、利用可能な全帯域幅のパーセンテージで表示します。このフィールドは、ストーム制御がイネーブルの場合だけ有効です。

show tech-support acl

テクニカルサポートに使用するアクセスコントロールリスト (ACL) 関連の情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show tech-support acl** コマンドを使用します。

show tech-support acl

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	

使用上のガイドライン

show tech-support acl コマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、ローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモートファイルシステムで、この出力を外部ファイルにリダイレクトします（たとえば、**show tech-support acl | redirect flash:show_tech_acl.txt**）。

このコマンドの出力には次のコマンドが表示されます。



- (注) スタック可能なプラットフォームでは、これらのコマンドはスタック内のすべてのスイッチで実行されます。Catalyst 9400 シリーズスイッチなどのモジュール型のプラットフォームでは、これらのコマンドはアクティブスイッチでのみ実行されます。



- (注) 次のコマンドのリストは、出力で使用可能なコマンドの例です。これらはプラットフォームによって異なる場合があります。

- **show clock**
- **show version**
- **show running-config**
- **show module**
- **show interface**
- **show access-lists**
- **show logging**
- **show platform software fed switch *switch-number* acl counters hardware**

- **show platform software fed switch *switch-number* ifm mapping**
- **show platform hardware fed switch *switch-number* fwd-asic drops exceptions**
- **show platform software fed switch *switch-number* acl info**
- **show platform software fed switch *switch-number* acl**
- **show platform software fed switch *switch-number* acl usage**
- **show platform software fed switch *switch-number* acl policy intftype all cam**
- **show platform software fed switch *switch-number* acl cam brief**
- **show platform software fed switch *switch-number* acl policy intftype all vcu**
- **show platform hardware fed switch *switch-number* acl resource usage**
- **show platform hardware fed switch *switch-number* fwd-asic resource tcam table acl**
- **show platform hardware fed switch *switch-number* fwd-asic resource tcam utilization**
- **show platform software fed switch *switch-number* acl counters hardware**
- **show platform software classification switch *switch-number* all F0 class-group-manager class-group**
- **show platform software process database forwarding-manager switch *switch-number* R0 summary**
- **show platform software process database forwarding-manager switch *switch-number* F0 summary**
- **show platform software object-manager switch *switch-number* F0 pending-ack-update**
- **show platform software object-manager switch *switch-number* F0 pending-issue-update**
- **show platform software object-manager switch *switch-number* F0 error-object**
- **show platform software peer forwarding-manager switch *switch-number* F0**
- **show platform software access-list switch *switch-number* f0 statistics**
- **show platform software access-list switch *switch-number* r0 statistics**
- **show platform software trace message fed switch *switch-number***
- **show platform software trace message forwarding-manager switch *switch-number* F0**
- **show platform software trace message forwarding-manager switch R0 *switch-number* R0**

例

次に、**show tech-support acl** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show tech-support acl
.
.
.
----- show platform software fed switch 1 acl cam brief -----

Printing entries for region ACL_CONTROL (143) type 6 asic 0
=====
TAQ-4 Index-0 (A:0,C:0) Valid StartF-1 StartA-1 SkipF-0 SkipA-0
```

Output IPv4 VACL

VCU Result: Not In-Use

L3 Length: 0000, L3 Protocol: 17 (UDP), L3 Tos: 00

Source Address/Mask

0.0.0.0/0.0.0.0

Destination Address/Mask

0.0.0.0/0.0.0.0

Router MAC: Disabled, Not First Fragment: Disabled, Small Offset: Disabled

L4 Source Port/Mask L4 Destination Port/Mask
0x0044 (68)/0xffff 0x0043 (67)/0xffff

TCP Flags: 0x00 (NOT SET)

ACTIONS: Forward L3, Forward L2, Logging Disabled

ACL Priority: 2 (15 is Highest Priority)

TAQ-4 Index-1 (A:0,C:0) Valid StartF-0 StartA-0 SkipF-0 SkipA-0
Output IPv4 VACL

VCU Result: Not In-Use

L3 Length: 0000, L3 Protocol: 17 (UDP), L3 Tos: 00

Source Address/Mask

0.0.0.0/0.0.0.0

Destination Address/Mask

0.0.0.0/0.0.0.0

Router MAC: Disabled, Not First Fragment: Disabled, Small Offset: Disabled

L4 Source Port/Mask L4 Destination Port/Mask
0x0043 (67)/0xffff 0x0044 (68)/0xffff

TCP Flags: 0x00 (NOT SET)

ACTIONS: Forward L3, Forward L2, Logging Disabled

ACL Priority: 2 (15 is Highest Priority)

TAQ-4 Index-2 (A:0,C:0) Valid StartF-0 StartA-0 SkipF-0 SkipA-0
Output IPv4 VACL

VCU Result: Not In-Use

L3 Length: 0000, L3 Protocol: 17 (UDP), L3 Tos: 00

Source Address/Mask

0.0.0.0/0.0.0.0

Destination Address/Mask

0.0.0.0/0.0.0.0

Router MAC: Disabled, Not First Fragment: Disabled, Small Offset: Disabled

L4 Source Port/Mask L4 Destination Port/Mask
0x0043 (67)/0xffff 0x0043 (67)/0xffff

TCP Flags: 0x00 (NOT SET)

```
ACTIONS: Forward L3, Forward L2, Logging Disabled
ACL Priority: 2 (15 is Highest Priority)

-----
TAQ-4 Index-3 (A:0,C:0) Valid StartF-0 StartA-0 SkipF-0 SkipA-0
Input IPv4 PACL

VCU Result: Not In-Use

L3 Length: 0000, L3 Protocol: 00 (HOPOPT), L3 Tos: 00

Source Address/Mask
0.0.0.0/0.0.0.0
Destination Address/Mask
0.0.0.0/0.0.0.0

Router MAC: Disabled, Not First Fragment: Disabled, Small Offset: Disabled

L4 Source Port/Mask   L4 Destination Port/Mask
0x0000 (0)/0x0000    0x0000 (0)/0x0000

TCP Flags: 0x00 ( NOT SET )

ACTIONS: Drop L3, Drop L2, Logging Disabled
ACL Priority: 2 (15 is Highest Priority)

-----
TAQ-4 Index-4 (A:0,C:0) Valid StartF-0 StartA-0 SkipF-0 SkipA-0
Output IPv4 PACL

VCU Result: Not In-Use

L3 Length: 0000, L3 Protocol: 00 (HOPOPT), L3 Tos: 00

Source Address/Mask
0.0.0.0/0.0.0.0
Destination Address/Mask
0.0.0.0/0.0.0.0

Router MAC: Disabled, Not First Fragment: Disabled, Small Offset: Disabled

L4 Source Port/Mask   L4 Destination Port/Mask
0x0000 (0)/0x0000    0x0000 (0)/0x0000

TCP Flags: 0x00 ( NOT SET )

ACTIONS: Drop L3, Drop L2, Logging Disabled
ACL Priority: 2 (15 is Highest Priority)

-----
TAQ-4 Index-5 (A:0,C:0) Valid StartF-0 StartA-0 SkipF-0 SkipA-0
Output MAC PACL

VLAN ID/MASK : 0x000 (000)/0x000

Source MAC/Mask : 0000.0000.0000/0000.0000.0000

Destination MAC/Mask : 0000.0000.0000/0000.0000.0000

isSnap: Disabled, isLLC: Disabled

ACTIONS: Drop L3, Drop L2, Logging Disabled
ACL Priority: 2 (15 is Highest Priority)
```

・
・
・

出力フィールドの意味は自明です。

show tech-support identity

テクニカルサポートに使用するアイデンティティ/802.1X 関連の情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show tech-support identity** コマンドを使用します。

show tech-support identity mac *mac-address* **interface** *interface-name*

構文の説明	mac <i>mac-address</i>	クライアント MAC アドレスに関する情報を表示します。
	interface <i>interface-name</i>	クライアントインターフェイスに関する情報を表示します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	このコマンドが導入されました。
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	

使用上のガイドライン **show tech-support platform** コマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、ローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモートファイルシステムで、この出力を外部ファイルにリダイレクトします（たとえば、**show tech-support identity mac** *mac-address* **interface** *interface-name* | **redirect flash:filename**）。

このコマンドの出力には次のコマンドが表示されます。

- **show clock**
- **show module**
- **show version**
- **show switch**
- **show redundancy**
- **show dot1x statistics**
- **show ip access-lists**
- **show interface**
- **show ip interface brief**
- **show vlan brief**
- **show running-config**
- **show logging**
- **show interface controller**

- show platform authentication sbinfo interface
- show platform host-access-table
- show platform pm port-data
- show spanning-tree interface
- show access-session mac detail
- show platform authentication session mac
- show device-tracking database mac details
- show mac address-table address
- show access-session event-logging mac
- show authentication sessions mac details R0
- show ip admission cache R0
- show platform software wired-client R0
- show platform software wired-client F0
- show platform software process database forwarding-manager R0 summary
- show platform software process database forwarding-manager F0 summary
- show platform software object-manager F0 pending-ack-update
- show platform software object-manager F0 pending-issue-update
- show platform software object-manager F0 error-object
- show platform software peer forwarding-manager R0
- show platform software peer forwarding-manager F0
- show platform software VP R0 summary
- show platform software VP F0 summary
- show platform software fed punt cpuq
- show platform software fed punt cause summary
- show platform software fed inject cause summary
- show platform hardware fed fwd-asic drops exceptions
- show platform hardware fed fwd-asic resource tcam table acl
- show platform software fed acl counter hardware
- show platform software fed matm macTable
- show platform software fed ifm mappings
- show platform software trace message fed reverse
- show platform software trace message forwarding-manager R0 reverse

- show platform software trace message forwarding-manager F0 reverse
- show platform software trace message smd R0 reverse
- show authentication sessions mac details
- show platform software wired-client
- show platform software process database forwarding-manager summary
- show platform software object-manager pending-ack-update
- show platform software object-manager pending-issue-update
- show platform software object-manager error-object
- show platform software peer forwarding-manager
- show platform software VP summary
- show platform software trace message forwarding-manager reverse
- show ip admission cache
- show platform software trace message smd reverse
- show platform software fed punt cpuq
- show platform software fed punt cause summary
- show platform software fed inject cause summary
- show platform hardware fed fwd-asic drops exceptions
- show platform hardware fed fwd-asic resource tcam table acl
- show platform software fed acl counter hardware
- show platform software fed matm macTable
- show platform software fed ifm mappings
- show platform software trace message fed reverse

例

次に、**show tech-support identity** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show tech-support identity mac 0000.0001.0003 interface gigabitethernet1/0/1
```

```
.
.
.
```

```
----- show platform software peer forwarding-manager R0 -----
```

```
IOSD Connection Information:
```

```
MQIPC (reader) Connection State: Connected, Read-selected
Connections: 1, Failures: 22
3897 packet received (0 dropped), 466929 bytes
Read attempts: 2352, Yields: 0
BIPC Connection state: Connected, Ready
Accepted: 1, Rejected: 0, Closed: 0, Backpressures: 0
36 packets sent, 2808 bytes
```

SMD Connection Information:

```
MQIPC (reader) Connection State: Connected, Read-selected
Connections: 1, Failures: 30
0 packet received (0 dropped), 0 bytes
Read attempts: 1, Yields: 0
MQIPC (writer) Connection State: Connected, Ready
Connections: 1, Failures: 0, Backpressures: 0
0 packet sent, 0 bytes
```

FP Peers Information:

```
Slot: 0
Peer state: connected
OM ID: 0, Download attempts: 638
Complete: 638, Yields: 0, Spurious: 0
IPC Back-Pressure: 0, IPC-Log Back-Pressure: 0
Back-Pressure asserted for IPC: 0, IPC-Log: 1
Number of FP FMAN peer connection expected: 7
Number of FP FMAN online msg received: 1
IPC state: unknown

Config IPC Context:
State: Connected, Read-selected
BIPC Handle: 0xdf3d48e8, BIPC FD: 36, Peer Context: 0xdf3e7158
Tx Packets: 688, Messages: 2392, ACKs: 36
Rx Packets: 37, Bytes: 2068

IPC Log:
Peer name: fman-log-bay0-peer0
Flags: Recovery-Complete
Send Seq: 36, Recv Seq: 36, Msgs Sent: 0, Msgs Recovered: 0

Upstream FMRP IPC Context:
State: Connected, Read-selected
BIPC Handle: 0xdf3e7308, BIPC FD: 37, Peer Context: 0xdf3e7158
TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 0, Bytes: 0

Upstream FMRP-IOSd IPC Context:
State: Connected, Read-selected
BIPC Handle: 0xdf3f9c38, BIPC FD: 38, Peer Context: 0xdf3e7158
TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 37, Bytes: 2864
Rx ACK Requests: 1, Tx ACK Responses: 1

Upstream FMRP-SMD IPC Context:
State: Connected, Read-selected
BIPC Handle: 0xdf40c568, BIPC FD: 39, Peer Context: 0xdf3e7158
TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 0, Bytes: 0
Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

Upstream FMRP-WNCD_0 IPC Context:
State: Connected
BIPC Handle: 0xdf4317c8, BIPC FD: 41, Peer Context: 0xdf3e7158
TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 0, Bytes: 0
Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

Upstream FMRP-WNCMGRD IPC Context:
State: Connected
BIPC Handle: 0xdf41ee98, BIPC FD: 40, Peer Context: 0xdf3e7158
```

```
TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 0, Bytes: 0
Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

Upstream FMRP-MOBILITYD IPC Context:
  State: Connected
  BIPC Handle: 0xdf4440f8, BIPC FD: 42, Peer Context: 0xdf3e7158
  TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
  Rx Packets: 0, Bytes: 0
  Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

Slot: 1
Peer state: connected
  OM ID: 1, Download attempts: 1
  Complete: 1, Yields: 0, Spurious: 0
  IPC Back-Pressure: 0, IPC-Log Back-Pressure: 0
  Back-Pressure asserted for IPC: 0, IPC-Log: 0
  Number of FP FMAN peer connection expected: 7
  Number of FP FMAN online msg received: 1
  IPC state: unknown

Config IPC Context:
  State: Connected, Read-selected
  BIPC Handle: 0xdf45e4d8, BIPC FD: 48, Peer Context: 0xdf470e18
  Tx Packets: 20, Messages: 704, ACKs: 1
  Rx Packets: 2, Bytes: 108

IPC Log:
  Peer name: fman-log-bay0-peer1
  Flags: Recovery-Complete
  Send Seq: 1, Recv Seq: 1, Msgs Sent: 0, Msgs Recovered: 0

Upstream FMRP IPC Context:
  State: Connected, Read-selected
  BIPC Handle: 0xdf470fc8, BIPC FD: 49, Peer Context: 0xdf470e18
  TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
  Rx Packets: 0, Bytes: 0

Upstream FMRP-IOSd IPC Context:
  State: Connected, Read-selected
  BIPC Handle: 0xdf4838f8, BIPC FD: 50, Peer Context: 0xdf470e18
  TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
  Rx Packets: 0, Bytes: 0
  Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

Upstream FMRP-SMD IPC Context:
  State: Connected, Read-selected
  BIPC Handle: 0xdf496228, BIPC FD: 51, Peer Context: 0xdf470e18
  TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
  Rx Packets: 0, Bytes: 0
  Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

Upstream FMRP-WNCD_0 IPC Context:
  State: Connected
  BIPC Handle: 0xdf4bb488, BIPC FD: 53, Peer Context: 0xdf470e18
  TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
  Rx Packets: 0, Bytes: 0
  Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

Upstream FMRP-WNCMGRD IPC Context:
  State: Connected
  BIPC Handle: 0xdf4a8b58, BIPC FD: 52, Peer Context: 0xdf470e18
  TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
  Rx Packets: 0, Bytes: 0
```

Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

Upstream FMRP-MOBILITYD IPC Context:
 State: Connected
 BIPC Handle: 0xdf4cddb8, BIPC FD: 54, Peer Context: 0xdf470e18
 TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
 Rx Packets: 0, Bytes: 0
 Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

----- show platform software peer forwarding-manager R0 -----

IOSD Connection Information:

MQIPC (reader) Connection State: Connected, Read-selected
 Connections: 1, Failures: 22
 3897 packet received (0 dropped), 466929 bytes
 Read attempts: 2352, Yields: 0
 BIPC Connection state: Connected, Ready
 Accepted: 1, Rejected: 0, Closed: 0, Backpressures: 0
 36 packets sent, 2808 bytes

SMD Connection Information:

MQIPC (reader) Connection State: Connected, Read-selected
 Connections: 1, Failures: 30
 0 packet received (0 dropped), 0 bytes
 Read attempts: 1, Yields: 0
 MQIPC (writer) Connection State: Connected, Ready
 Connections: 1, Failures: 0, Backpressures: 0
 0 packet sent, 0 bytes

FP Peers Information:

Slot: 0
 Peer state: connected
 OM ID: 0, Download attempts: 638
 Complete: 638, Yields: 0, Spurious: 0
 IPC Back-Pressure: 0, IPC-Log Back-Pressure: 0
 Back-Pressure asserted for IPC: 0, IPC-Log: 1
 Number of FP FMAN peer connection expected: 7
 Number of FP FMAN online msg received: 1
 IPC state: unknown

Config IPC Context:

State: Connected, Read-selected
 BIPC Handle: 0xdf3d48e8, BIPC FD: 36, Peer Context: 0xdf3e7158
 Tx Packets: 688, Messages: 2392, ACKs: 36
 Rx Packets: 37, Bytes: 2068

IPC Log:

Peer name: fman-log-bay0-peer0
 Flags: Recovery-Complete
 Send Seq: 36, Recv Seq: 36, Msgs Sent: 0, Msgs Recovered: 0

Upstream FMRP IPC Context:

State: Connected, Read-selected
 BIPC Handle: 0xdf3e7308, BIPC FD: 37, Peer Context: 0xdf3e7158
 TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
 Rx Packets: 0, Bytes: 0

Upstream FMRP-IOSd IPC Context:

```
State: Connected, Read-selected
BIPC Handle: 0xdf3f9c38, BIPC FD: 38, Peer Context: 0xdf3e7158
TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 37, Bytes: 2864
Rx ACK Requests: 1, Tx ACK Responses: 1

Upstream FMRP-SMD IPC Context:
State: Connected, Read-selected
BIPC Handle: 0xdf40c568, BIPC FD: 39, Peer Context: 0xdf3e7158
TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 0, Bytes: 0
Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

Upstream FMRP-WNCD_0 IPC Context:
State: Connected
BIPC Handle: 0xdf4317c8, BIPC FD: 41, Peer Context: 0xdf3e7158
TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 0, Bytes: 0
Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

Upstream FMRP-WNCMGRD IPC Context:
State: Connected
BIPC Handle: 0xdf41ee98, BIPC FD: 40, Peer Context: 0xdf3e7158
TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 0, Bytes: 0
Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

Upstream FMRP-MOBILITYD IPC Context:
State: Connected
BIPC Handle: 0xdf4440f8, BIPC FD: 42, Peer Context: 0xdf3e7158
TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 0, Bytes: 0
Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

Slot: 1
Peer state: connected
OM ID: 1, Download attempts: 1
Complete: 1, Yields: 0, Spurious: 0
IPC Back-Pressure: 0, IPC-Log Back-Pressure: 0
Back-Pressure asserted for IPC: 0, IPC-Log: 0
Number of FP FMAN peer connection expected: 7
Number of FP FMAN online msg received: 1
IPC state: unknown

Config IPC Context:
State: Connected, Read-selected
BIPC Handle: 0xdf45e4d8, BIPC FD: 48, Peer Context: 0xdf470e18
Tx Packets: 20, Messages: 704, ACKs: 1
Rx Packets: 2, Bytes: 108

IPC Log:
Peer name: fman-log-bay0-peer1
Flags: Recovery-Complete
Send Seq: 1, Recv Seq: 1, Msgs Sent: 0, Msgs Recovered: 0

Upstream FMRP IPC Context:
State: Connected, Read-selected
BIPC Handle: 0xdf470fc8, BIPC FD: 49, Peer Context: 0xdf470e18
TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 0, Bytes: 0

Upstream FMRP-IOSd IPC Context:
State: Connected, Read-selected
BIPC Handle: 0xdf4838f8, BIPC FD: 50, Peer Context: 0xdf470e18
```

```

TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 0, Bytes: 0
Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

```

```

Upstream FMRP-SMD IPC Context:
State: Connected, Read-selected
BIPC Handle: 0xdf496228, BIPC FD: 51, Peer Context: 0xdf470e18
TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 0, Bytes: 0
Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

```

```

Upstream FMRP-WNCD_0 IPC Context:
State: Connected
BIPC Handle: 0xdf4bb488, BIPC FD: 53, Peer Context: 0xdf470e18
TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 0, Bytes: 0
Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

```

```

Upstream FMRP-WNCMGRD IPC Context:
State: Connected
BIPC Handle: 0xdf4a8b58, BIPC FD: 52, Peer Context: 0xdf470e18
TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 0, Bytes: 0
Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

```

```

Upstream FMRP-MOBILITYD IPC Context:
State: Connected
BIPC Handle: 0xdf4cddb8, BIPC FD: 54, Peer Context: 0xdf470e18
TX Packets: 0, Bytes: 0, Drops: 0
Rx Packets: 0, Bytes: 0
Rx ACK Requests: 0, Tx ACK Responses: 0

```

```

----- show platform software VP R0 summary -----

```

Forwarding Manager Vlan Port Information

Vlan	Intf-ID	Stp-state
1	7	Forwarding
1	9	Forwarding
1	17	Forwarding
1	27	Forwarding
1	28	Forwarding
1	29	Forwarding
1	30	Forwarding
1	31	Forwarding
1	40	Forwarding
1	41	Forwarding

Forwarding Manager Vlan Port Information

Vlan	Intf-ID	Stp-state
1	49	Forwarding
1	51	Forwarding
1	63	Forwarding
1	72	Forwarding
1	73	Forwarding
1	74	Forwarding


```
----- show platform software VP R0 summary -----
```

```
Forwarding Manager Vlan Port Information
```

Vlan	Intf-ID	Stp-state
1	7	Forwarding
1	9	Forwarding
1	17	Forwarding
1	27	Forwarding
1	28	Forwarding
1	29	Forwarding
1	30	Forwarding
1	31	Forwarding
1	40	Forwarding
1	41	Forwarding

```
Forwarding Manager Vlan Port Information
```

Vlan	Intf-ID	Stp-state
1	49	Forwarding
1	51	Forwarding
1	63	Forwarding
1	72	Forwarding
1	73	Forwarding
1	74	Forwarding

```
.  
. .  
.
```

show vlan access-map

特定の VLAN アクセス マップまたはすべての VLAN アクセス マップに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show vlan access-map** コマンドを使用します。

show vlan access-map [*map-name*]

構文の説明	<i>map-name</i> (任意) 特定の VLAN アクセスマップ名。
-------	---

コマンドモード	特権 EXEC (#)
---------	-------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、**show vlan access-map** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show vlan access-map

Vlan access-map "vmap4" 10
  Match clauses:
    ip address: a12
  Action:
    forward
Vlan access-map "vmap4" 20
  Match clauses:
    ip address: a12
  Action:
    forward
```

show vlan filter

すべての VLAN フィルタ、または特定の VLAN または VLAN アクセス マップに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show vlan filter** コマンドを使用します。

```
show vlan filter {access-map name | vlan vlan-id}
```

構文の説明

access-map name (任意) 指定された VLAN アクセス マップのフィルタリング情報を表示します。

vlan vlan-id (任意) 指定された VLAN のフィルタリング情報を表示します。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

例

次に、**show vlan filter** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show vlan filter
```

```
VLAN Map map_1 is filtering VLANs:  
 20-22
```

show vlan group

VLAN グループにマッピングされている VLAN を表示するには、特権 EXEC モードで **show vlan group** コマンドを使用します。

```
show vlan group [{group-name vlan-group-name [user_count]}]
```

構文の説明

group-name *vlan-group-name* (任意) 指定した VLAN グループにマッピングされている VLAN を表示します。

user_count (任意) 特定の VLAN グループにマッピングされている各 VLAN のユーザ数を表示します。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show vlan group コマンドは既存の VLAN グループを表示し、各 VLAN グループのメンバである VLAN および VLAN の範囲を示します。**group-name** キーワードを入力すると、指定した VLAN グループのメンバのみが表示されます。

例

次の例では、特定の VLAN グループのメンバを表示する方法を示します。

```
Device# show vlan group group-name group2
vlan group group1 :40-45
```

次に、グループ内の各 VLAN のユーザ数を表示する例を示します。

```
Device# show vlan group group-name group2 user_count
```

```
VLAN      : Count
-----
40         : 5
41         : 8
42         : 12
43         : 2
44         : 9
45         : 0
```

ssci-based-on-sci

Secure Channel Identifier (SCI) 値に基づいて Short Secure Channel Identifier (SSCI) 値を計算するには、MKA ポリシー コンフィギュレーション モードで **ssci-based-on-sci** コマンドを使用します。SCI に基づく SSCI 計算を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ssci-based-on-sci
no ssci-based-on-sci

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

SCI 値に基づく SSCI 値の計算は無効になっています。

コマンド モード

MKA ポリシー コンフィギュレーション (config-mka-policy)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.3	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

SCI 値が高いほど、SSCI 値は低くなります。

例

次に、SCI に基づく SSCI 計算を有効にする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mka policy 2
Device(config-mka-policy)# ssci-based-on-sci
```

関連コマンド

Command	Description
mka policy	MKA ポリシーを設定します。
confidentiality-offset	機密性オフセットを設定して MACsec を動作させます。
delay-protection	MKPDU の送信で遅延保護を使用するように MKA を設定します。
include-icv-indicator	MKPDU に ICV インジケータを含めます。
key-server	MKA キーサーバオプションを設定します。
macsec-cipher-suite	SAK を取得するための暗号スイートを設定します。
sak-rekey	SAK キー再生成間隔を設定します。
send-secure-announcements	MKPDU の送信でセキュアなアナウンスを送信するように MKA を設定します。

Command	Description
use-updated-eth-header	ICV 計算には更新されたイーサネットヘッダーを使用します。

storm-control

ブロードキャスト、マルチキャスト、またはユニキャストストーム制御をイネーブルにして、インターフェイスのしきい値レベルを設定するには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで **storm-control** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
storm-control {action {shutdown | trap} | {broadcast | multicast | unicast | unknown-unicast}
level {level [level-low] | bps bps [bps-low] | pps pps [pps-low]}}
no storm-control {action {shutdown | trap} | {broadcast | multicast | unicast | unknown-unicast}
level}
```

構文の説明

action	ポートでストームが発生した場合に実行されるアクションを指定します。デフォルトアクションは、トラフィックをフィルタリングし、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) トラップを送信しません。
shutdown	ストームの間、ポートをディセーブルにします。
trap	ストームが発生した場合に SNMP トラップを送信します。
broadcast	インターフェイス上でブロードキャストストーム制御をイネーブルにします。
multicast	インターフェイス上でマルチキャストストーム制御をイネーブルにします。
unicast	インターフェイス上でユニキャストストーム制御をイネーブルにします。
unknown-unicast	インターフェイス上で不明なユニキャストストーム制御をイネーブルにします。
level	上限および下限抑制レベルをポートの全帯域幅の割合で指定します。
<i>level</i>	上限抑制レベル (小数点以下第2位まで)。指定できる範囲は0.00～100.00です。指定した <i>level</i> の値に達した場合、ストームパケットのフラッディングをブロックします。
<i>level-low</i>	(任意) 下限抑制レベル (小数点以下第2位まで)。指定できる範囲は0.00～100.00です。この値は上限抑制値より小さいか、または等しくなければなりません。下限抑制レベルを設定しない場合、上限抑制レベルの値に設定されます。
level bps	上限および下限抑制レベルを、ポートで受信するトラフィックの速度 (ビット/秒) で指定します。

<i>bps</i>	<p>上限抑制レベル（小数点以下第 1 位まで）。指定できる範囲は 0.0 ～ 10000000000.0 です。指定した <i>bps</i> の値に達した場合、ストーム パケットのフラッシングをブロックします。</p> <p>大きい数値のしきい値には、k、m、g などのメトリック サフィクスを使用できます。</p>
<i>bps-low</i>	<p>（任意）下限抑制レベル（小数点以下第 1 位まで）。指定できる範囲は 0.0 ～ 10000000000.0 です。この値は上限抑制値に等しいか、または小さくなければなりません。</p> <p>大きい数値のしきい値には、k、m、g などのメトリック サフィクスを使用できます。</p>
level pps	<p>上限および下限抑制レベルを、ポートで受信するトラフィックの速度（パケット/秒）で指定します。</p>
<i>pps</i>	<p>上限抑制レベル（小数点以下第 1 位まで）。指定できる範囲は 0.0 ～ 10000000000.0 です。指定した <i>pps</i> の値に達した場合、ストーム パケットのフラッシングをブロックします。</p> <p>大きい数値のしきい値には、k、m、g などのメトリック サフィクスを使用できます。</p>
<i>pps-low</i>	<p>（任意）下限抑制レベル（小数点以下第 1 位まで）。指定できる範囲は 0.0 ～ 10000000000.0 です。この値は上限抑制値に等しいか、または小さくなければなりません。</p> <p>大きい数値のしきい値には、k、m、g などのメトリック サフィクスを使用できます。</p>

コマンド デフォルト ブロードキャスト、マルチキャスト、およびユニキャストストーム制御はディセーブルです。デフォルトアクションは、トラフィックをフィルタリングし、SNMP トラップを送信しません。

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	このコマンドが変更されました。 unknown-unicast キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン ストーム制御抑制レベルは、ポートの全帯域幅の割合、またはトラフィックを受信する速度（1 秒あたりのパケット数、または 1 秒あたりのビット数）で入力できます。

全帯域幅の割合で指定した場合、100%の抑制値は、指定したトラフィック タイプに制限が設定されていないことを意味します。level 0 0 の値は、ポート上のすべてのブロードキャスト、マルチキャスト、またはユニキャストトラフィックをブロックします。ストーム制御は、上限抑制レベルが 100% 未満の場合にだけイネーブルになります。他のストーム制御設定が指定されていない場合、デフォルトアクションは、ストームの原因となっているトラフィックをフィルタリングし、SNMP トラップを送信しません。



- (注) マルチキャストトラフィックのストーム制御しきい値に達した場合、ブリッジプロトコルデータ ユニット (BPDU) および Cisco Discovery Protocol (CDP) フレームなどの制御トラフィック以外のマルチキャストトラフィックはすべてブロックされます。ただし、デバイスでは Open Shortest Path First (OSPF) などのルーティングアップデートと正規のマルチキャストデータトラフィックは区別されないため、両方のトラフィックタイプがブロックされます。

trap および **shutdown** オプションは、互いに独立しています。

パケットストームが検出されたときにシャットダウンを行う (ストームの間、ポートが **error-disabled** になる) ようにアクションを設定する場合、インターフェイスをこのステートから解除するには **no shutdown** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用する必要があります。 **shutdown** アクションを指定しない場合、アクションを **trap** (ストーム検出時にデバイスがトラップを生成する) に指定してください。

ストームが発生し、実行されるアクションがトラフィックのフィルタリングである場合、下限抑制レベルが指定されていないと、トラフィックレートが上限抑制レベルより低くなるまでデバイスはすべてのトラフィックをブロックします。下限抑制レベルが指定されている場合、トラフィックレートがこのレベルより低くなるまでデバイスはトラフィックをブロックします。



- (注) ストーム制御は、物理インターフェイスでサポートされています。また、EtherChannel でもストーム制御を設定できます。ストーム制御を EtherChannel で設定する場合、ストーム制御設定は EtherChannel 物理インターフェイスに伝播します。

ブロードキャストストームが発生し、実行されるアクションがトラフィックのフィルタである場合、デバイスはブロードキャストトラフィックだけをブロックします。

詳細については、このリリースに対応するソフトウェア コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

次の例では、75.5% の上限抑制レベルでブロードキャスト ストーム制御をイネーブルにする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 1/0/1
Device(config-if)# storm-control broadcast level 75.5
Device(config-if)# end
```

次の例では、87%の上限抑制レベルと65%の下限抑制レベルのポートでユニキャストストーム制御をイネーブルにする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 1/0/1
Device(config-if)# storm-control unicast level 87 65
Device(config-if)# end
```

次の例では、2000 パケット/秒の上限抑制レベルと 1000 パケット/秒の下限抑制レベルのポートでマルチキャストストーム制御をイネーブルにする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 1/0/1
Device(config-if)# storm-control multicast level pps 2k 1k
Device(config-if)# end
```

次の例では、ポートで **shutdown** アクションをイネーブルにする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 1/0/1
Device(config-if)# storm-control action shutdown
Device(config-if)# end
```

設定を確認するには、**show storm-control** コマンドを入力します。

switchport port-security aging

セキュアアドレスエントリのエージングタイムおよびタイプを設定する、または特定のポートのセキュアアドレスのエージング動作を変更するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **switchport port-security aging** コマンドを使用します。ポートセキュリティ エージングをディセーブルにする、またはパラメータをデフォルトの状態に設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport port-security aging {static|time time|type {absolute|inactivity}}
no switchport port-security aging {static|time|type}
```

構文の説明

static	このポートに静的に設定されたセキュアアドレスのエージングをイネーブルにします。
time <i>time</i>	このポートのエージングタイムを指定します。指定できる範囲は0～1440分です。 <i>time</i> が 0 の場合、このポートのエージングはディセーブルです。
type	エージング タイプを設定します。
absolute	absolute エージングタイプを設定します。このポートのすべてのセキュアアドレスは、指定された時間（分）が経過した後に期限切れとなり、セキュアアドレス リストから削除されます。
inactivity	inactivity エージングタイプを設定します。指定された時間内にセキュア送信元アドレスからのデータ トラフィックがない場合だけ、このポートのセキュア アドレスが期限切れになります。

コマンド デフォルト

ポート セキュリティ エージング機能はディセーブルです。デフォルトの時間は 0 分です。
デフォルトのエージング タイプは **absolute** です。
デフォルトのスタティック エージング動作はディセーブルです。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

特定のポートのセキュアアドレス エージングをイネーブルにするには、ポート エージング タイムを 0 以外の値に設定します。

特定のセキュアアドレスに時間を限定してアクセスできるようにするには、エージングタイプを **absolute** に設定します。エージング タイムの期限が切れると、セキュア アドレスが削除されます。

継続的にアクセスできるセキュアアドレス数を制限するには、エージングタイプを **inactivity** に設定します。このようにすると、非アクティブになったセキュアアドレスが削除され、他のアドレスがセキュアになることができます。

セキュアアドレスへのアクセス制限を解除するには、セキュアアドレスとして設定し、**no switchport port-security aging static** インターフェイスコンフィギュレーションコマンドを使用して、静的に設定されたセキュアアドレスのエージングをディセーブルにします。

次の例では、ポートのすべてのセキュアアドレスに対して、エージングタイプを **absolute**、エージングタイムを2時間に設定します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# switchport port-security aging time 120
Device(config-if)# end
```

次の例では、ポートに設定されたセキュアアドレスに対して、エージングタイプを **inactivity**、エージングタイムを2分に設定します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/2
Device(config-if)# switchport port-security aging time 2
Device(config-if)# switchport port-security aging type inactivity
Device(config-if)# switchport port-security aging static
Device(config-if)# end
```

次の例では、設定されたセキュアアドレスのエージングをディセーブルにする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/2
Device(config-if)# no switchport port-security aging static
Device(config-if)# end
```

switchport port-security mac-address

セキュア MAC アドレスまたはスティッキ MAC アドレスラーニングを設定するには、**switchport port-security mac-address** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport port-security mac-address {mac-address [{vlan {vlan-id {access | voice}}}] | sticky
[{mac-address | vlan {vlan-id {access | voice}}]}]
no switchport port-security mac-address {mac-address [{vlan {vlan-id {access | voice}}}] |
sticky [{mac-address | vlan {vlan-id {access | voice}}]}]
```

構文の説明

mac-address	48 ビット MAC アドレスの入力によって指定するインターフェイスのセキュア MAC アドレス。設定された最大数まで、セキュア MAC アドレスを追加できます。
vlan vlan-id	(任意) トランク ポート上でだけ、VLAN ID および MAC アドレスを指定します。VLAN ID を指定しない場合は、ネイティブ VLAN が使用されます。
vlan access	(任意) アクセス ポートでだけ、VLAN をアクセス VLAN として指定します。
vlan voice	(任意) アクセス ポートでだけ、VLAN を音声 VLAN として指定します。 (注) voice キーワードは、音声 VLAN がポートに設定されていて、さらにそのポートがアクセス VLAN でない場合のみ有効です。
sticky	スティッキ ラーニングのインターフェイスをイネーブルにします。スティッキ ラーニングをイネーブルにすると、インターフェイスは動的に学習したすべてのセキュア MAC アドレスを実行コンフィギュレーションに追加して、これらのアドレスをスティッキ セキュア MAC アドレスに変換します。
mac-address	(任意) スティッキ セキュア MAC アドレスを指定する MAC アドレス。

コマンド デフォルト

セキュア MAC アドレスは設定されていません。
スティッキ ラーニングはディセーブルです。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

セキュア ポートに関する制限事項は、次のとおりです。

- セキュア ポートはアクセス ポートまたはトランク ポートにすることはできますが、ダイナミック アクセス ポートには設定できません。

- セキュアポートはルーテッドポートにはできません。
- セキュアポートは保護ポートにはできません。
- セキュアポートをスイッチドポートアナライザ (SPAN) の宛先ポートにすることはできません。
- セキュアポートをギガビットまたは 10 ギガビット EtherChannel ポートグループに含めることはできません。
- 音声 VLAN では、スタティックセキュアまたはスティッキーセキュア MAC アドレスを設定できません。
- 音声 VLAN が設定されたインターフェイス上でポートセキュリティをイネーブルにする場合は、ポートの最大セキュアアドレス許容数を 2 に設定します。ポートを Cisco IP Phone に接続する場合は、IP Phone に MAC アドレスが 1 つ必要です。Cisco IP Phone のアドレスは音声 VLAN 上で学習されますが、アクセス VLAN 上では学習されません。1 台の PC を Cisco IP Phone に接続する場合は、MAC アドレスの追加は必要ありません。2 台以上の PC を Cisco IP Phone に接続する場合は、各 PC に 1 つ、さらに Cisco IP Phone に 1 つ割り当てるよう十分なセキュアアドレスを設定する必要があります。
- 音声 VLAN はアクセスポート上でだけサポートされます。トランクポート上ではサポートされません。

スティッキーセキュア MAC アドレスには、次の特性があります。

- **switchport port-security mac-address sticky** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、インターフェイス上でスティッキーラーニングをイネーブルにした場合、インターフェイスはすべてのダイナミックセキュア MAC アドレス (スティッキーラーニングがイネーブルになる前に動的に学習されたアドレスを含む) を、スティッキーセキュア MAC アドレスに変換し、すべてのスティッキーセキュア MAC アドレスを実行コンフィギュレーションに追加します。
- **no switchport port-security mac-address sticky** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、スティッキーラーニングをディセーブルする場合、または実行コンフィギュレーションを削除する場合は、スティッキーセキュア MAC アドレスは実行コンフィギュレーションの一部に残りますが、アドレステーブルからは削除されます。削除されたアドレスはダイナミックに再設定することができ、ダイナミックアドレスとしてアドレステーブルに追加されます。
- **switchport port-security mac-address sticky mac-address** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、スティッキーセキュア MAC アドレスを設定する場合、これらのアドレスはアドレステーブルおよび実行コンフィギュレーションに追加されます。ポートセキュリティがディセーブルの場合、スティッキーセキュア MAC アドレスは実行コンフィギュレーションに残ります。
- スティッキーセキュア MAC アドレスがコンフィギュレーションファイルに保存されていると、デバイスの再起動時、またはインターフェイスのシャットダウン時に、インターフェイスはこれらのアドレスを再学習しなくて済みます。スティッキーセキュアアドレスを保存しない場合、アドレスは失われます。スティッキーラーニングがディセーブルの場合

合、スティッキセキュア MAC アドレスはダイナミックセキュアアドレスに変換され、実行コンフィギュレーションから削除されます。

- スティックラーニングをディセーブルにして、**switchport port-security mac-address sticky mac-address** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力した場合、エラーメッセージが表示され、スティッキセキュア MAC アドレスは実行コンフィギュレーションに追加されません。

設定を確認するには、**show port-security** コマンドを使用します。

次の例では、ポートでセキュア MAC アドレスと VLAN ID を設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 2/0/2
Device(config-if)# switchport mode trunk
Device(config-if)# switchport port-security
Device(config-if)# switchport port-security mac-address 1000.2000.3000 vlan 3
Device(config-if)# end
```

次の例では、スティッキラーニングをイネーブルにして、ポート上で2つのスティッキセキュア MAC アドレスを入力する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 2/0/2
Device(config-if)# switchport port-security mac-address sticky
Device(config-if)# switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.4141
Device(config-if)# switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.000f
Device(config-if)# end
```

switchport port-security maximum

セキュア MAC アドレスの最大数を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **switchport port-security maximum** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport port-security maximum value [vlan [{vlan-list} | [{access | voice}]]]
no switchport port-security maximum value [vlan [{vlan-list} | [{access | voice}]]]
```

構文の説明

value インターフェイスのセキュア MAC アドレスの最大数を設定します。
デフォルトの設定は 1 秒です。

vlan (任意) トランク ポートの場合、VLAN ごとまたは一定範囲の VLAN のセキュア MAC アドレスの最大数を設定します。**vlan** キーワードが入力されていない場合、デフォルト値が使用されます。

vlan-list (任意) カンマで区切られた VLAN の範囲またはハイフンで区切られた一連の VLAN。VLAN を指定しない場合、VLAN ごとの最大値が使用されます。

access (任意) アクセス ポートでだけ、VLAN をアクセス VLAN として指定します。

voice (任意) アクセス ポートでだけ、VLAN を音声 VLAN として指定します。

(注) **voice** キーワードは、音声 VLAN がポートに設定されていて、さらにそのポートがアクセス VLAN でない場合のみ有効です。

コマンド デフォルト

ポートセキュリティをイネーブルにしてキーワードを入力しない場合、デフォルトのセキュア MAC アドレスの最大数は 1 です。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバイスに設定できるセキュア MAC アドレスの最大数は、システムで許可されている MAC アドレスの最大数によって決まります。この数字はアクティブな Switch Database Management (SDM) テンプレートによって決められます。**sdm prefer** コマンドを参照してください。この数字は、インターフェイスで設定された他のレイヤ 2 機能やその他のセキュア MAC アドレスなど、利用可能な MAC アドレスの合計数を示します。

セキュア ポートに関する制限事項は、次のとおりです。

- セキュア ポートはアクセス ポートまたはトランク ポートにすることができますが、ダイナミック アクセス ポートには設定できません。

- セキュアポートはルーテッドポートにはできません。
- セキュアポートは保護ポートにはできません。
- セキュアポートをスイッチドポートアナライザ (SPAN) の宛先ポートにすることはできません。
- セキュアポートをギガビットまたは 10 ギガビット EtherChannel ポート グループに含めることはできません。
- 音声 VLAN が設定されたインターフェイス上でポートセキュリティをイネーブルにする場合は、ポートの最大セキュアアドレス許容数を 2 に設定します。ポートを Cisco IP Phone に接続する場合は、IP Phone に MAC アドレスが 1 つ必要です。Cisco IP Phone のアドレスは音声 VLAN 上で学習されますが、アクセス VLAN 上では学習されません。1 台の PC を Cisco IP Phone に接続する場合は、MAC アドレスの追加は必要ありません。2 台以上の PC を Cisco IP Phone に接続する場合は、各 PC に 1 つ、さらに Cisco IP Phone に 1 つ割り当てるよう十分なセキュアアドレスを設定する必要があります。

音声 VLAN はアクセスポート上でだけサポートされます。トランクポート上ではサポートされません。

- インターフェイスのセキュアアドレスの最大値を入力する場合、新しい値が前回の値より大きいと、新しい値によって前回の設定値が上書きされます。新しい値が前回の値より小さく、インターフェイスで設定されているセキュアアドレス数が新しい値より大きい場合、コマンドは拒否されます。

アドレスの最大数を 1 に設定し、接続されたデバイスの MAC アドレスを設定すると、確実にデバイスがポートの帯域幅を完全に使用できます。

インターフェイスのセキュアアドレスの最大値を入力すると、次の事象が発生します。

- 新しい値が前回の値より大きい場合、新しい値によって前回の設定値が上書きされます。
- 新しい値が前回の値より小さく、インターフェイスで設定されているセキュアアドレス数が新しい値より大きい場合、コマンドは拒否されます。

設定を確認するには、**show port-security** コマンドを使用します。

次の例では、ポートでポートセキュリティをイネーブルにし、セキュアアドレスの最大数を 5 に設定する方法を示します。違反モードはデフォルトで、セキュア MAC アドレスは設定されていません。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 2/0/2
Device(config-if)# switchport mode access
Device(config-if)# switchport port-security
Device(config-if)# switchport port-security maximum 5
Device(config-if)# end
```

switchport port-security violation

セキュア MAC アドレスの違反モード、またはポートセキュリティに違反した場合に実行するアクションを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **switchport port-security violation** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport port-security violation {protect|restrict|shutdown|shutdown vlan}
no switchport port-security violation {protect|restrict|shutdown|shutdown vlan}
```

構文の説明

protect	セキュリティ違反保護モードを設定します。
restrict	セキュリティ違反制限モードを設定します。
shutdown	セキュリティ違反シャットダウンモードを設定します。
shutdown vlan	VLAN ごとのシャットダウンにセキュリティ違反モードを設定します。

コマンド デフォルト

デフォルトの違反モードは **shutdown** です。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

セキュリティ違反保護モードでは、ポートのセキュア MAC アドレス数がポートで許可されている最大数に到達した場合、不明な送信元アドレスの packets はドロップされます。ドロップすることでセキュア MAC アドレス数を上限よりも少なくするか、許容できるアドレスの最大数を増やさない限り、この状態が続きます。セキュリティ違反が起こっても、ユーザには通知されません。



- (注) トランク ポート上に保護モードを設定することは推奨できません。保護モードでは、ポートが最大数に達していなくても VLAN が保護モードの最大数に達すると、ラーニングがディセーブルになります。

セキュリティ違反制限モードでは、セキュア MAC アドレス数がポートで許可されている最大数に到達した場合、不明な送信元アドレスの packets はドロップされます。セキュア MAC アドレス数を上限よりも少なくするか、許容できるアドレスの最大数を増やさない限り、この状態が続きます。SNMP トラップが送信されます。Syslog メッセージがロギングされ、違反カウンタが増加します。

セキュリティ違反シャットダウンモードでは、違反が発生し、ポートのLEDがオフになると、インターフェイスが **errdisable** になります。SNMP トラップが送信されます。Syslog メッセージがロギングされ、違反カウンタが増加します。セキュア ポートが **errdisable** ステートの場合には、**errdisable recovery cause psecure-violation** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力してこのステートを解除するか、**shutdown** および **no shutdown** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力して手動で再びイネーブルにできます。

セキュリティ違反モードが VLAN ごとのシャットダウンに設定されると、違反が発生した VLAN のみが **errdisable** になります。

セキュア ポートに関する制限事項は、次のとおりです。

- セキュア ポートはアクセス ポートまたはトランク ポートにすることができますが、ダイナミック アクセス ポートには設定できません。
- セキュア ポートはルーテッド ポートにはできません。
- セキュア ポートは保護ポートにはできません。
- セキュア ポートをスイッチド ポート アナライザ (SPAN) の宛先ポートにすることはできません。
- セキュア ポートをギガビットまたは 10 ギガビット EtherChannel ポート グループに含めることはできません。

セキュア MAC アドレスの最大値がアドレス テーブルに存在し、アドレス テーブルに存在しない MAC アドレスを持つステーションがインターフェイスにアクセスしようとした場合、または別のセキュア ポートのセキュア MAC アドレスとして設定された MAC アドレスを持つステーションがインターフェイスにアクセスしようとした場合に、セキュリティ違反が起こります。

セキュアポートが **errdisable** ステートの場合には、**errdisable recovery cause psecure-violation** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力して、このステートから回復させることができます。**shutdown** および **no shutdown** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力するか、**clear errdisable interface** 特権 EXEC コマンドを使用して、ポートを手動で再びイネーブルにすることができます。

設定を確認するには、**show port-security** 特権 EXEC コマンドを使用します。

次の例では、MAC セキュリティ違反が発生した場合に VLAN のみをシャットダウンするようポートを設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet2/0/2
Device(config)# switchport port-security violation shutdown vlan
Device(config)# exit
```

tacacs server

IPv6 または IPv4 用に TACACS+ サーバを設定し、TACACS+ サーバ コンフィギュレーション モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **tacacs server** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

tacacs server *name*
no tacacs server

構文の説明	<i>name</i> プライベート TACACS+サーバホストの名前。
-------	--------------------------------------

コマンド デフォルト TACACS+ サーバは構成されていません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **tacacs server** コマンドは、*name* 引数を使用して TACACS サーバを設定し、TACACS+ サーバ コンフィギュレーションモードを開始します。設定が完了し、TACACS+サーバコンフィギュレーションモードを終了すると、設定が適用されます。

例

次の例は、名前 `server1` を使用して TACACS サーバを設定し、さらに設定を行うために TACACS+ サーバ コンフィギュレーションモードを開始する方法を示しています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# tacacs server server1
Device(config-server-tacacs)# end
```

関連コマンド	Command	Description
	address ipv6 (TACACS+)	TACACS+ サーバの IPv6 アドレスを設定します。
	key (TACACS+)	TACACS+ サーバでサーバ単位の暗号キーを設定します。
	port (TACACS+)	TACACS+ 接続に使用する TCP ポートを指定します。
	send-nat-address (TACACS+)	クライアントの NAT 後のアドレスを TACACS+ サーバに送信します。
	single-connection (TACACS+)	単一の TCP 接続を使用してすべての TACACS パケットを同じサーバに送信できるようにします。

Command	Description
timeout(TACACS+)	指定された TACACS サーバからの応答を待機する時間を設定します。

tls

Transport Layer Security (TLS) のパラメータを設定するには、RADIUS サーバ コンフィギュレーションモードで **tls** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
tls [{ connectiontimeout connection-timeout-value | idletimeout idle-timeout-value | [{ ip | ipv6 } ]
{ radius source-interface interface-name | vrf forwarding forwarding-table-name } |
match-server-identity { email-address email-address | hostname hostname | ip-address ip-address
} | port port-number | retries number-of-connection-retries | trustpoint { client trustpoint name |
server trustpoint name } }
```

no **tls**

構文の説明

connectiontimeout <i>connection-timeout-value</i>	(任意) DTLS 接続タイムアウト値を設定します。
idletimeout <i>idle-timeout-value</i>	(任意) DTLS アイドルタイムアウト値を設定します。
[ip ipv6] { radius source-interface <i>interface-name</i> vrf forwarding <i>forwarding-table-name</i> }	(任意) IP または IPv6 送信元パラメータを設定します。
match-server-identity { email-address <i>email-address</i> hostname <i>host-name</i> ip-address <i>ip-address</i> }	RadSec 認定検証パラメータを設定します。
port <i>port-number</i>	(任意) DTLS ポート番号を設定します。
retries <i>number-of-connection-retries</i>	(任意) DTLS接続再試行の回数を設定します。
trustpoint { client <i>trustpoint name</i> server <i>trustpoint name</i> }	(任意) クライアントとサーバに DTLS トラストポイントを設定します。

コマンド デフォルト

- TLS 接続タイムアウトのデフォルト値は 5 秒です。
- TLS アイドルタイムアウトのデフォルト値は 60 秒です。
- デフォルトの TLS ポート番号は 2083 です。
- TLS 接続再試行回数のデフォルト値は 5 です。

コマンド モード

RADIUS サーバ コンフィギュレーションモード (config-radius-server)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	match-server-identity キーワードが導入されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.1.1	ipv6 キーワードが導入されました。

使用上のガイドライン

認証、許可、およびアカウンティング（AAA）サーバグループでは、すべてで同じサーバタイプを使用し、TLSのみかDatagram Transport Layer Security（DTLS）のみにすることを推奨します。

例

次に、TLS アイドルタイムアウト値を 5 秒に設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# radius server R1
Device(config-radius-server)# tls idletimeout 5
Device(config-radius-server)# end
```

関連コマンド

Command	Description
show aaa servers	TLS サーバに関連する情報を表示します。
clear aaa counters servers radius	RADIUS TLS 固有の統計情報をクリアします。
debug radius radsec	RADIUS TLS 固有のデバッグを有効にします。

tracking (IPv6 スヌーピング)

ポートでデフォルトのトラッキングポリシーを上書きするには、IPv6 スヌーピング ポリシー コンフィギュレーション モードで **tracking** コマンドを使用します。

```
tracking {enable [reachable-lifetime {value | infinite}] | disable [stale-lifetime {value | infinite}]}
```

構文の説明

enable	トラッキングをイネーブルにします。
reachable-lifetime	<p>(任意) 到達可能という証明がない状態で、到達可能なエントリが直接的または間接的に到達可能であると判断される最大時間を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • reachable-lifetime キーワードを使用できるのは、enable キーワードが指定されている場合のみです。 • reachable-lifetime キーワードを使用すると、ipv6 neighbor binding reachable-lifetime コマンドで設定されたグローバルな到達可能ライフタイムが上書きされます。
<i>value</i>	秒単位のライフタイム値。指定できる範囲は 1 ~ 86400 で、デフォルトは 300 です。
infinite	エントリを無限に到達可能状態またはステイル状態に維持します。
disable	トラッキングをディセーブルにします。
stale-lifetime	<p>(任意) 時間エントリをステイル状態に維持します。これによりグローバルの stale-lifetime 設定が上書きされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ステイル ライフタイムは 86,400 秒です。 • stale-lifetime キーワードを使用できるのは、disable キーワードが指定されている場合のみです。 • stale-lifetime キーワードを使用すると、ipv6 neighbor binding stale-lifetime コマンドで設定されたグローバルなステイルライフタイムが上書きされます。

コマンド デフォルト 時間のエントリは到達可能な状態に維持されます。

コマンド モード IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション (config-ipv6-snooping)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **tracking** コマンドは、このポリシーが適用されるポート上で **ipv6 neighbor tracking** コマンドによって設定されたデフォルトのトラッキングポリシーに優先します。この機能は、たとえば、エントリーを追跡しないが、バインディングテーブルにエントリーを残して盗難を防止する場合などに、信頼できるポート上で有用です。

reachable-lifetime キーワードは、到達可能という証明がない状態で、あるエントリーがトラッキングにより直接的に、または IPv6 スヌーピングにより間接的に到達可能であると判断される最大時間を示します。**reachable-lifetime** 値に到達すると、エントリーはステイル状態に移行します。**tracking** コマンドで **reachable-lifetime** キーワードを使用すると、**ipv6 neighbor binding reachable-lifetime** コマンドで設定されたグローバルな到達可能ライフタイムが上書きされます。

stale-lifetime キーワードは、エントリーが削除されるか、直接または間接的に到達可能であると証明される前にテーブルに保持される最大時間です。**tracking** コマンドで **reachable-lifetime** キーワードを使用すると、**ipv6 neighbor binding stale-lifetime** コマンドで設定されたグローバルなステイルライフタイムが上書きされます。

次に、IPv6 スヌーピングポリシー名を **policy1** と定義し、エントリーを信頼できるポート上で無限にバインディングテーブルに保存するように設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 snooping policy policy1
Device(config-ipv6-snooping)# tracking disable stale-lifetime infinite
Device(config-ipv6-snooping)# end
```

trusted-port

あるポートを信頼できるポートとして設定するには、IPv6 スヌーピング ポリシー モードまたは ND インスペクション ポリシー コンフィギュレーション モードで **trusted-port** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

trusted-port
no trusted-port

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

どのポートも信頼されていません。

コマンド モード

ND インスペクション ポリシー コンフィギュレーション (config-nd-inspection)

IPv6 スヌーピング コンフィギュレーション (config-ipv6-snooping)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

trusted-port コマンドをイネーブルにすると、メッセージがこのポリシーを持つポートで受信された場合、限定的に実行されるか、まったく実行されません。ただし、アドレススプーフィングから保護するために、メッセージは伝送するバインディング情報の使用によってバインディングテーブルを維持できるように分析されます。これらのポートで検出されたバインディングは、信頼できるものとして設定されていないポートから受信したバインディングよりも信頼性が高いものと見なされます。

次に、NDP ポリシー名を `policy1` と定義し、ポートを信頼するように設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 nd inspection policy1
Device(config-nd-inspection)# trusted-port
Device(config-nd-inspection)# end
```

次に、IPv6 スヌーピングポリシー名を `policy1` と定義し、ポートを信頼するように設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 snooping policy policy1
Device(config-ipv6-snooping)# trusted-port
Device(config-ipv6-snooping)# end
```

use-updated-eth-header

整合性チェック値（ICV）の計算のために MACsec Key Agreement Protocol Data Unit（MKPDU）の更新されたイーサネットヘッダーを含むデバイスとデバイス上の任意のポートの間の相互運用性を有効にするには、MKA ポリシー コンフィギュレーション モードで **ssci-based-on-sci** コマンドを使用します。ICV 計算のために MKPDU の更新されたイーサネットヘッダーを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

use-updated-eth-header
no use-updated-eth-header

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ICV 計算のためのイーサネットヘッダーは無効になっています。

コマンド モード

MKA ポリシー コンフィギュレーション (config-mka-policy)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

更新されたイーサネットヘッダーは非標準です。このオプションを有効にすると、デバイス間の MACsec Key Agreement（MKA）セッションを設定できます。

例

次に、ICV 計算のために MKPDU の更新されたイーサネットヘッダーを有効にする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# mka policy 2
Device(config-mka-policy)# use-updated-eth-header
```

関連コマンド

Command	Description
mka policy	MKA ポリシーを設定します。
confidentiality-offset	機密性オフセットを設定して MACsec を動作させます。
delay-protection	MKPDU の送信で遅延保護を使用するように MKA を設定します。
include-icv-indicator	MKPDU に ICV インジケータを含めます。
key-server	MKA キーサーバオプションを設定します。
macsec-cipher-suite	SAK を取得するための暗号スイートを設定します。
sak-rekey	SAK キー再生成間隔を設定します。

Command	Description
<code>send-secure-announcements</code>	MKPDU の送信でセキュアなアナウンスを送信するように MKA を設定します。
<code>ssci-based-on-sci</code>	SCI に基づいて SSCI を計算します。

username

ユーザ名ベースの認証システムを確立するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **username** コマンドを使用します。確立されたユーザ名ベースの認証を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
username name [aaa attribute list aaa-list-name]
username name[access-class access-list-number]
username name[algorithm-type {md5 | scrypt | sha256}]
username name[autocommand command]
username name[callback-dialstring telephone-number]
username name[callback-line [tty]line-number [ending-line-number]]
username name[callback-rotary rotary-group-number]
username name[common-criteria-policy policy-name]
username name[dnis]
username name[mac]
username name[nocallback-verify]
username name[noescape]
username name[nohangup]
username name[{nopassword | password password | password encryption-type encrypted-password}]
username name[one-time {password {0 | 6 | 7 [password]} | secret {0 | 5 | 8 | 9 [password]}}]
username name[password secret]
username name[privilege level]
username name[secret {0 | 5 [password]}]
username name[serial-number]
username name[user-maxlinks number]
username name[view view-name]
no username name
```

構文の説明

<i>name</i>	ホスト名、サーバ名、ユーザ ID、またはコマンド名。 <i>name</i> 引数には 1 つの単語だけ使用できます。空白や引用符は使用できません。
aaa attribute list <i>aaa-list-name</i>	(任意) 指定した認証、許可、およびアカウントिंग (AAA) 方式リストを使用します。
access-class <i>access-list-number</i>	(任意) ライン コンフィギュレーション モードで使用可能な access-class コマンドで指定されたアクセスリストをオーバーライドする発信アクセスリストを指定します。これはユーザのセッションで使用されます。

algorithm-type	<p>(任意) ユーザのプレーンテキストのシークレットをハッシュするために使用するアルゴリズムを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • md5 : MD5 アルゴリズムを使用してパスワードをエンコードします。 • scrypt : SCRYPT ハッシュアルゴリズムを使用してパスワードをエンコードします。 • sha256 : PBKDF2 ハッシュアルゴリズムを使用してパスワードをエンコードします。
autocommand <i>command</i>	<p>(任意) 指定した autocommand コマンドがユーザのログイン後に自動的に発行されるようにします。指定した autocommand コマンドが完了するとセッションが終了します。このコマンドは任意の長さに行にすることができ、途中にスペースを含めることもできるため、autocommand キーワードを使用するコマンドは行の最後のオプションにする必要があります。</p>
callback-dialstring <i>telephone-number</i>	<p>(任意) データ回線終端装置 (DCE) デバイスに渡す電話番号を指定できます (非同期コールバックの場合のみ)。</p>
callback-line <i>line-number</i>	<p>(任意) 特定のユーザ名をコールバックに対して有効にする端末回線 (または連続したグループの最初の回線) の相対番号を指定します (非同期コールバックの場合のみ)。番号はゼロから始まります。</p>
<i>ending-line-number</i>	<p>(任意) 特定のユーザ名をコールバックに対して有効にする連続したグループの最後の回線の相対番号。キーワード (tty など) を省略した場合、line-number および ending-line-number は相対回線番号ではなく絶対回線番号となります。</p>
tty	<p>(任意) 標準の非同期回線を指定します (非同期コールバックの場合のみ)。</p>
callback-rotary <i>rotary-group-number</i>	<p>(任意) 特定のユーザ名をコールバックに対して有効にするロータリーグループ番号を指定できます (非同期コールバックの場合のみ)。ロータリーグループで次に使用可能な回線が選択されます。範囲は 1 ~ 100 です。</p>
common-criteria-policy	<p>(任意) コモンクライテリアポリシーの名前を指定します。</p>
dnis	<p>(任意) 着信番号識別サービス (DNIS) から取得された場合にパスワードを不要にします。</p>
mac	<p>(任意) MAC アドレスをローカルで実行される MAC フィルタリングのユーザ名として使用できるようにします。</p>
nocallback-verify	<p>(任意) 指定した回線の EXEC コールバックに認証が不要であることを指定します。</p>

noescape	(任意) ユーザが接続されているホストでエスケープ文字を使用できないようにします。
nohangup	(任意) 自動コマンド (autocommand キーワードを使用して設定) の実行後に Cisco IOS ソフトウェアでユーザを切断しないようにします。ユーザには、代わりに別のユーザ EXEC プロンプトが表示されます。
nopassword	(任意) ユーザがログインする際のパスワードを不要にします。通常、このキーワードは autocommand キーワードを使用する場合に組み合わせて使用すると役立ちます。
password	(任意) <i>name</i> 引数にアクセスするためのパスワードを指定します。パスワードは 1 ~ 25 文字で、埋め込みスペースを使用でき、 username コマンドの最後のオプションとして指定します。
<i>password</i>	ユーザが入力するパスワード。
<i>encryption-type</i>	password の直後のテキストが暗号化されるかどうか、および暗号化される場合は使用される暗号化タイプを定義する 1 桁の数字。定義されている暗号化タイプは、0 (password の直後のテキストは暗号化されない) および 6 と 7 (テキストはシスコが定義した暗号化アルゴリズムを使用して暗号化される) です。
<i>encrypted-password</i>	ユーザが入力する暗号化パスワード。
one-time	(任意) ユーザ名とパスワードが 1 回だけ有効であることを指定します。この設定は、デフォルトのクレデンシャルがユーザ設定に残らないようにするために使用されます。 <ul style="list-style-type: none">• 0 : 暗号化されていないパスワードまたはシークレット (設定に依存) が続くことを指定します。• 6 : 暗号化パスワードが続くことを指定します。• 7 : 非表示のパスワードが続くことを指定します。• 5 : MD5 でハッシュされたシークレットが続くことを指定します。• 8 : PBKDF2 でハッシュされたシークレットが続くことを指定します。• 9 : SCRYPT でハッシュされたシークレットが続くことを指定します。
secret	(任意) ユーザのシークレットを指定します。

secret	チャレンジハンドシェイク認証プロトコル (CHAP) 認証に使用します。ローカルデバイスまたはリモートデバイスのシークレットを指定します。シークレットはローカルデバイスに暗号化されて格納されます。最大11文字のASCII文字からなる任意の文字列で構成できます。指定できるユーザ名とパスワードの組み合わせの数に制限はないため、任意の数のリモートデバイスを認証できます。
privilege privilege-level	(任意) ユーザの特権レベルを設定します。範囲: 1 ~ 15。
serial-number	(任意) シリアル番号を指定します。
user-maxlinks number	(任意) ユーザに許可されるインバウンドリンクの最大数を指定します。
view view-name	(任意) parser view コマンドで指定された CLI ビュー名をローカル AAA データベースに関連付けます (CLI ビューの場合のみ)。

コマンド デフォルト

ユーザ名に基づく認証システムは確立されません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

変更

この
した。

使用上のガイドライン

username コマンドは、ログインだけを目的としてユーザ名、パスワード、またはその両方の認証を行います。

複数の **username** コマンドを使用して、単一ユーザのオプションを指定できます。

ローカルデバイスと通信を行う、認証が必要になるリモートシステムごとに、ユーザ名のエントリを追加します。リモートデバイスには、ローカルデバイスのユーザ名のエントリが必要です。このエントリは、そのリモートデバイスに対応するローカルデバイスのエントリと同じパスワードにする必要があります。

このコマンドは、特殊な取り扱いが必要なユーザ名を定義する場合に便利です。たとえば、このコマンドを使用すると、パスワードが不要で、ユーザを汎用の情報サービスに接続する *info* ユーザ名を定義できます。

username コマンドは、CHAP の設定の一部として必要です。ローカルデバイスが認証を必要とするリモートシステムごとにユーザ名のエントリを追加します。

ローカルデバイスをリモートのCHAPチャレンジに回答できるようにするには、一方の **username name** エントリを他方のデバイスにすでに割り当てられている **hostname** エントリと同じにする必要があります。権限レベル1のユーザが上位の権限レベルを開始する状況を回避するには、ユーザ単位の権限レベルを1以外に設定します (たとえば0または2 ~ 15)。ユーザ単位の権限レベルは仮想端末の権限レベルよりも優先されます。

CLI ビューと合法的傍受ビュー

CLI ビューと合法的傍受ビューは、どちらも特定のコマンドと設定情報へのアクセスを制限します。合法的傍受ビューを使用すれば、ユーザは、コールとユーザに関する情報を保存する SNMP コマンドの特別なセットである TAP-MIB 内に保持された合法的傍受コマンドへのアクセスを保護できます。

lawful-intercept キーワードを使用して指定されたユーザは、他の権限レベルまたはビュー名が明示的に指定されていない場合、デフォルトで合法的傍受ビューになります。

secret 引数に値が指定されていない場合、**debug serial-interface** コマンドが有効になっていると、リンクの確立時にエラーが表示され、CHAP チャレンジは実装されません。CHAP デバッグ情報は、**debug ppp negotiation**、**debug serial-interface**、および **debug serial-packet** コマンドを使用して確認できます。

例

次に、ログインプロンプトで入力できる UNIX の **who** コマンドに似た、デバイスの現在のユーザを一覧表示するサービスを実装する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# username who nopassword nohangup autocommand show users
```

次に、パスワードを使用する必要がない情報サービスを実装する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# username info nopassword noescape autocommand telnet nic.ddn.mil
```

次に、すべての TACACS+ サーバが切断された場合でも機能する ID を実装する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# username superuser password superpassword
```

次に、`server_1` のシリアルインターフェイス 0 で CHAP を有効にする例を示します。`server_r` という名前のリモートサーバのパスワードも定義しています。

```
hostname server_1
username server_r password theirsystem
interface serial 0
 encapsulation ppp
 ppp authentication chap
```

次に、暗号化されたパスワードを表示する **show running-config** コマンドの出力例を示します。

```
hostname server_1
username server_r password 7 121F0A18
interface serial 0
 encapsulation ppp
 ppp authentication chap
```

次に、権限レベル 1 のユーザによる 1 よりも高い権限レベルへのアクセスを拒否する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# username user privilege 0 password 0 cisco
Device(config)# username user2 privilege 2 password 0 cisco
```

次に、user2 のユーザ名ベースの認証を削除する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# no username user2
```

関連コマンド

Command	Description
debug ppp negotiation	PPP の始動時に、PPP オプションをネゴシエートするパケットを表示します。
debug serial-interface	シリアル接続の障害に関する情報を表示します。
debug serial-packet	debug serial interface コマンドを使用して取得できる情報。ルインターフェイスのデバッグ情報を表示します。

vlan access-map

VLAN パケットフィルタリング用の VLAN マップエントリを作成または修正し、VLAN アクセスマップコンフィギュレーションモードに変更するには、デバイス上でグローバルコンフィギュレーションモードで **vlan access-map** コマンドを使用します。VLAN マップエントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```

vlan access-map name [number]
no vlan access-map name [number]

```

構文の説明

name VLAN マップ名

number (任意) 作成または変更するマップエントリのシーケンス番号 (0 ~ 65535)。VLAN マップを作成する際にシーケンス番号を指定しない場合、番号は自動的に割り当てられ、10から開始して10ずつ増加します。この番号は、VLAN アクセスマップエントリに挿入するか、または VLAN アクセスマップエントリから削除する順番です。

コマンドデフォルト

VLAN に適用する VLAN マップエントリまたは VLAN マップはありません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

グローバル コンフィギュレーションモードでは、このコマンドは VLAN マップを作成または修正します。このエントリは、モードを VLAN アクセスマップコンフィギュレーションに変更します。**match** アクセスマップコンフィギュレーションコマンドを使用して、照合する IP または非 IP トラフィックのアクセスリストを指定できます。また、**action** コマンドを使用して、この照合によりパケットを転送またはドロップするかどうかを設定します。

VLAN アクセスマップコンフィギュレーションモードでは、次のコマンドが利用できます。

- **action** : 実行するアクションを設定します (転送またはドロップ)。
- **default** : コマンドをデフォルト値に設定します。
- **exit** : VLAN アクセスマップコンフィギュレーションモードを終了します。
- **match** : 照合する値を設定します (IP アドレスまたは MAC アドレス)。
- **no** : コマンドを無効にするか、デフォルト値を設定します。

エントリ番号 (シーケンス番号) を指定しない場合、マップの最後に追加されます。

VLAN ごとに VLAN マップは 1 つだけ設定できます。VLAN マップは、VLAN でパケットを受信すると適用されます。

シーケンス番号を指定して **no vlan access-map name [number]** コマンドを使用すると、エントリーを個別に削除できます。

VLAN マップを1つまたは複数の VLAN に適用するには、**vlan filter** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

例

次の例では、**vac1** という名の VLAN マップを作成し、一致条件とアクションをその VLAN マップに適用する方法を示します。他のエントリーがマップに存在しない場合、これはエントリー 10 になります。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# vlan access-map vac1
Device(config-access-map)# match ip address acl1
Device(config-access-map)# action forward
Device(config-access-map)# end
```

次の例では、VLAN マップ **vac1** を削除する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# no vlan access-map vac1
Device(config)# exit
```

vlan dot1Q tag native

トランクポートのネイティブ VLAN で dot1q (IEEE 802.1Q) のタグリングを有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **vlan dot1Q tag native** コマンドを使用します。

この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

vlan dot1Q tag native
no vlan dot1Q tag native

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

通常は、ネイティブ VLAN ID で 802.1Q トランクを設定します。これによって、その VLAN 上のすべてのパケットからタグリングが取り除かれます。

ネイティブ VLAN でのタグリングを維持し、タグなしトラフィックをドロップするには、**vlan dot1q tag native** コマンドを使用します。デバイスによって、ネイティブ VLAN で受信したトラフィックがタグ付けされ、802.1Q タグが付けられたフレームのみが許可され、ネイティブ VLAN のタグなしトラフィックを含むすべてのタグなしトラフィックはドロップされます。

vlan dot1q tag native コマンドがイネーブルになっていても、トランクポートのネイティブ VLAN では、制御トラフィックはタグなしとして引き続き許可されます。



- (注) **dot1q tag vlan native** コマンドがグローバルレベルで設定されている場合、トランクポートでの dot1x 再認証は失敗します。

次に、デバイスのすべてのトランクポートでネイティブ VLAN の dot1q (IEEE 802.1Q) タグリングを有効にする例を示します。

```
Device(config)# vlan dot1q tag native
Device(config)#
```

関連コマンド

Command	Description
show vlan dot1q tag native	ネイティブ VLAN のタグリングのステータスを表示します。

vlan filter

VLAN マップを1つまたは複数の VLAN に適用するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **vlan filter** コマンドを使用します。マップを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
vlan filter mapname vlan-list {list|all}
no vlan filter mapname vlan-list {list|all}
```

構文の説明

mapname VLAN マップ エントリ名

vlan-list マップを適用する VLAN を指定します。

リスト **tt**、**uu-vv**、**xx**、および **yy-zz** 形式での1つまたは複数の VLAN リスト。カンマとダッシュの前後のスペースは任意です。指定できる範囲は1～4094です。

all マップをすべての VLAN に追加します。

コマンド デフォルト

VLAN フィルタはありません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

パケットを誤って過剰にドロップし、設定プロセスの途中で接続が無効になることがないように、VLAN アクセス マップを完全に定義してから VLAN に適用することを推奨します。

例

次の例では、VLAN マップ エントリ **map1** を VLAN 20 および 30 に適用します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# vlan filter map1 vlan-list 20, 30
Device(config)# exit
```

次の例では、VLAN マップ エントリ **map1** を VLAN 20 から削除する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# no vlan filter map1 vlan-list 20
Device(config)# exit
```

設定を確認するには、**show vlan filter** コマンドを入力します。

vlan group

VLAN グループを作成または変更するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **vlan group** コマンドを使用します。VLAN グループから VLAN リストを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```

vlan group group-name vlan-list vlan-list
no vlan group group-name vlan-list vlan-list

```

構文の説明	<p><i>group-name</i> VLAN グループの名前。名前は最大 32 文字で、文字から始める必要があります。</p>				
	<p>vlan-list <i>vlan-list</i> VLAN グループに追加される 1 つ以上の VLAN を指定します。<i>vlan-list</i> 回数には単一の VLAN ID、VLAN ID のリスト、または VLAN ID の範囲を指定できます。複数のエントリはハイフン (-) またはカンマ (,) で区切ります。</p>				
コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション (config)				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="409 938 953 1003">リリース</th> <th data-bbox="953 938 1536 1003">変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="409 1003 953 1064">Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td> <td data-bbox="953 1003 1536 1064">このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				

使用上のガイドライン 指定された VLAN グループが存在しない場合、**vlan group** コマンドはグループを作成し、指定された VLAN リストをそのグループにマッピングします。指定された VLAN グループが存在する場合は、指定された VLAN リストがそのグループにマッピングされます。

vlan group コマンドの **no** 形式を使用すると、指定された VLAN リストが VLAN グループから削除されます。VLAN グループから最後の VLAN を削除すると、その VLAN グループは削除されます。

最大 100 の VLAN グループを設定でき、1 つの VLAN グループに最大 4094 の VLAN をマッピングできます。

例

次に、VLAN 7～9 と 11 を VLAN グループにマッピングする例を示します。

```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# vlan group group1 vlan-list 7-9,11
Device(config)# exit

```

次の例では、VLAN グループから VLAN 7 を削除する方法を示します。

```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# no vlan group group1 vlan-list 7
Device(config)# exit

```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。